K－514

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第17集

米沢市万世町桑山団地造成地内

埋蔵文化財調査報告書

第Ⅲ集

大清水遺跡

米沢市教育委員会

米沢市万世町桑山団地造成地内

埋蔵文化財調査報告書

第 Ⅲ 集

大 清 水 遺 跡

昭和61年３月

米 沢 市 教 育 委 員 会

序　　文

八幡原工業団地造成に伴なって，万世町桑山地区に住宅団地の造成計画が進み，昭和55年から昭和58年までに，桑山遺跡群の発掘調査を実施し，このたび完了しました。

これまで，Ⅰ集（水神前，柿の木，二夕俣Ｂ），Ⅱ集（二夕俣Ａ，八幡堂）と報告書を刊行いたしましたが，このたびⅢ集として桑山№３「大清水」遺跡の報告書を発刊するはこびとなりました。

この大清水遺跡は年代的にも縄文早期から古墳時代へと連なる一大複合遺跡で，竪穴住居跡や堀立建物跡など多数の遺構が検出されました。その住居跡のほとんどが火災によって消滅したと推測される痕跡があり，生活用具の配置等によって当時の生活様式が解明されるものと思います。

現在，本市には383ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており，その中でも特に梓川流域における遺跡が数多くあり遺物もたくさん発掘されております。

４ヶ年に亘る調査と，報告書を作成するにあたり，㈶米沢市開発公社，山形県教育委員会文化課，地元関係者，諸先生方に絶大なるご指導ご協力を賜わり厚くお礼申しあげますと共にこの報告書が考古学研究の一助となることを期待してやみません。

昭和61年３月

米沢市教育委員会

教育長　北目二郎

例　　言

1．本報告書は米沢市万世町桑山団地造成地内の埋蔵文化財にかかる緊急発掘調査報告書であり，昭和55年７月18日～昭和55年10月30日まで実施した八幡原№３（大清水）遺跡第Ⅰ次調査と昭和58年９月19日～同年10月31日に実施した第Ⅱ次調査をまとめた報告書第Ⅲ集である。

2．発掘調査は、財団法人米沢市開発公社の委託を受け、米沢市教育委員会が主体となり桑山遺跡特別調査委員会（下平才次委員長）の意向に沿って実施したものである。

3．調査体制は次の通りである。

第Ⅰ次調査

調査総括　山口和雄　米沢市教育委員会社会教育課長

調査主任　手塚　孝　調査担当者

同副主任　菊地政信，西村栄一

調査協力　柏倉亮吉，加藤　稔，川崎利夫，桑原滋郎，佐々木洋治，佐藤鎮雄，
佐藤正四郎，田中則和，青木敏雄，山口博之，秦　昭繁
山形県教育庁文化課　財団法人米沢市開発公社

作 業 員　遠藤重男，鈴木芳徳，本田利雄，佐藤庄作，手塚武雄，我妻正寿，我妻　勇
原　三郎，須賀寿広，縮　長男，本間宮之助，田畑喜雄，佐藤庄吉，小方数馬
伊藤清美，坂野義博，皆川清助，沢根忠夫，浜田この，鈴木こう，黒田かつよ
近野きよ，斎藤トク，渡辺ゆり子，石黒良子，我妻徳枝，高橋幸子，伊藤　幸
梅津てるよ，梅津佐世子，金子かのゑ，遠藤きち子，我妻八子，星野たか子
鈴木とよ，佐藤ふみ子，宍戸豊子，松沢とよ子，渡部捷子，渡部アサノ
渡部富子，鈴木タミ子，高橋イセオ，沢根えい子，本間しげ，高橋おえ子
我妻かつよ，遠藤とみ，後藤たつの，鈴木和子，石黒宮子，遠藤サダエ
大友洋子

事 務 局　星　忠平，金子正廣，神野直子

第Ⅱ次調査

調査総括　黒田信介　米沢市教育委員会社会教育課長

調査主任　手塚　孝，調査担当者

同副主任　菊地政信

調査補助員　小松佳子，樋口真紀，富樫祥子，門脇耕一，高橋亜貴子，中島正己，岩見和泰

調査協力　山形県教育庁文化課，財団法人米沢市開発公社，米沢市シルバー人材センター，まんぎり会

作 業 員　伊藤清美，佐藤庄作，我妻信雄，本田利雄，後藤貞雄，我妻益男，原　三郎
伊藤安太郎，佐藤栄太郎，沼田　潔，佐藤弘始，青柳正司，高橋虎蔵
我妻徳枝，我妻とし子，沢根えい子，斎藤トク，佐藤みよし，広川幸子
布施三重子

事務局長　引地孝忠

事 務 局　木村琢美，金子正廣

4．本報告書で使用した記号は，ＨＹ－竪穴住居跡，ＳＫ－土壙（第Ⅰ次調査），ＤＹ－土壙（第Ⅱ次調査），ＯＹ－墓壙，ＴＹ－柱穴，ＸＹ－自然遺構，ＢＹ－掘立柱建物跡，ＳＤ－溝状遺構，Ｐ－小ピット，$\begin{matrix}RP\\AZ\end{matrix}$—土器，$\begin{matrix}RQ\\BZ\end{matrix}$—石器とし，その他の記号は「米沢市埋蔵文化財調査報告書第15集」『上浅川遺跡第３次調査報告書』を参照している。

5．挿図縮尺は，遺構を40分の１，60分の１，400分の１，写真図版の遺構，土器２分の１，石器１分の１，1.5分の１，完形土器に関してはすべて不同である。挿図中の主軸方向は磁北に統一した。その他各図別にスケールを示している。

6．遺構の図化は，「米沢市埋蔵文化財調査報告書第８集」『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第Ⅱ集』を参考にしている。

7．本報告書の作成は，手塚　孝，菊地政信，村山正市が担当・執筆した。挿図・図版等の作成については，梅津幸保，竹田雅之，我妻重義，角屋由美子，来次典子，町田恵美子，我妻徳枝，原　三郎の社会教育課文化係全職員の協力を得た。編集は手塚・村山が担当し，責任校正は，梅津，竹田，我妻が担当した。

本　文　目　次

序　文
例　文
目　次
Ⅰ　遺跡の概要……1
Ⅱ　調査の経過……2
Ⅲ　遺構の概要……3
　第Ⅰ次調査の遺構……3
　第Ⅱ次調査の遺構……6
Ⅳ　遺　物……9
　第Ⅰ次調査　図版説明『土器』……9
　第Ⅰ次調査　図版説明『石器』……13
　第Ⅱ次調査　図版説明『土器』……16
　第Ⅱ次調査　図版説明『石器』……19
Ⅴ　まとめ……20
〈参考文献〉……21

挿　図　目　次

第１図　桑山遺跡群グリット配図……22
第２図　桑山遺跡群における古墳前期の集落全容図……23
第３図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査遺構全体図……25
第４図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ１平面図……27
第５図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ２平面図……28
第６図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ３平面図……29
第７図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ４平面図……30
第８図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ５平面図……31
第９図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ６平面図……32
第10図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ８平面図……33
第11図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＢＹ１平面図……34
第12図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査穴窯平面図……35

第13図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査遺構全体図……36
第14図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ９平面図……37
第15図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ15平面図……38
第16図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ16・ＤＹ19平面図……39
第17図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ17平面図……40
第18図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ18平面図……41
第19図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ20平面図……42
第20図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ３平面図……43
第21図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ４平面図……44
第22図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ５平面図……45
第23図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ６・ＸＹ８平面図……46
第24図　八幡原No３遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ７平面図……47

図　版　目　次

第１図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(1)（ＨＹ８全景・ＨＹ６全景）
第２図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(2)（ＨＹ６立石近景状況・ＨＹ６全景）
第３図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(3)（ＨＹ２プラン確認状況・ＨＹ２全景）
第４図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(4)（ＨＹ３発掘状況・ＨＹ３複式炉全景）
第５図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(5)（ＨＹ２・３全景・ＨＹ２全景）
第６図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(6)（ＨＹ４セクション状況・ＨＹ４全景）
第７図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(7)（ＨＹ５セクション状況・ＢＹ１全景）
第８図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(8)（土壙群全景・畠跡全景）
第９図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(9)（第１焼性遺構セクシヨン状況・第２焼成遺構全景）
第10図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(10)（ＨＹ１遺物出土状況・ＨＹ１全景）
第11図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(11)（ＳＫ４プラン確認状況・ＳＫ11セクション状況）
第12図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(12)（ＳＫ１セクション状況・ＳＫ１完掘状況）
第13図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(13)（ＳＫ18セクション状況・ＳＫ18完掘状況）
第14図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(14)（ＳＫ35セクション状況・ＳＫ35完掘状況）
第15図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(15)（ＳＫ31，40セクション状況・ＳＫ31，40完掘状況）
第16図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(16)（ＳＫ39，38セクション状況・ＳＫ39，38完掘状況）
第17図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘(17)（ＳＫ50セクション状況・ＳＫ50完掘状況）

第18図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘⑱（ＳＫ24セクション状況・ＳＫ25セクション状況）
第19図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘⑲（ＳＫ27セクション状況・ＳＫ37セクション状況）
第20図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘⑳（ＳＫ40セクション状況・ＳＫ51セクション状況）
第21図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉑（ＳＫ17完掘状況・ＳＫ21完掘状況）
第22図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉒（ＳＫ50セクション・ＳＫ21セクション状況）
第23図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉓（ＳＫ23完掘状況・ＳＫ26完掘状況）
第24図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉔（ＳＫ28完掘状況・ＳＫ33完掘状況）
第25図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉕（ＳＫ36完掘状況・ＳＫ52完掘状況）
第26図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉖（ＳＫ51完掘状況・ＳＫ55完掘状況）
第27図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉗（ＳＫ55，54完掘状況・ＳＫ57完掘状況）
第28図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉘（ＳＫ55，58完掘状況・ＳＫ59完掘状況）
第29図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉙（ＳＫ60完掘状況・ＳＫ61完掘状況）
第30図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉚（ＳＫ62完掘状況・ＳＫ64完掘状況）
第31図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉛（ＳＫ30遺物出土状況・ＳＫ60遺物出土状況）
第32図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉜（磨製石斧出土状況・有舌先頭器出土状況）
第33図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉝（完形土器出土状況その１・完形土器出土状況その２）
第34図版八幡原No３第Ⅰ次調査の発掘㉞（ＨＹ１遺物出土状況その１・ＨＹ１遺物出土状況その２）
第35図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(1)
第36図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(2)
第37図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(3)
第38図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(4)
第39図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(5)
第40図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(6)
第41図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(7)
第42図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(8)
第43図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器(9)
第44図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器⑩
第45図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器⑪
第46図版八幡原No３第Ⅰ次調査の土器⑫

第47図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(13)
第48図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(14)
第49図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(15)
第50図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(16)
第51図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(17)
第52図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(18)
第53図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(19)
第54図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(20)
第55図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(21)
第56図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(22)
第57図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(23)
第58図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(24)
第59図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(25)
第60図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(26)
第61図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(27)
第62図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(28)
第63図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(29)
第64図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(30)
第65図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(31)
第66図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(32)
第67図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(33)
第68図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(34)
第69図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(35)
第70図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の土器(36)
第71図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(1)
第72図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(2)
第73図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(3)
第74図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(4)
第75図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(5)
第76図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(6)
第77図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(7)

第78図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(8)
第79図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(9)
第80図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(10)
第81図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(11)
第82図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(12)
第83図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(13)
第84図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(14)
第85図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(15)
第86図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(16)
第87図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(17)
第88図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(18)
第89図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(19)
第90図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(20)
第91図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(21)
第92図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(22)
第93図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(23)
第94図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(24)
第95図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(25)
第96図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(26)
第97図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(27)
第98図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(28)
第99図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(29)
第100図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(30)
第101図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(31)
第102図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(32)
第103図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(33)
第104図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(34)
第105図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(35)
第106図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(36)
第107図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(37)
第108図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(38)

第109図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(39)
第110図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(40)
第111図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(41)
第112図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(42)
第113図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(43)
第114図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(44)
第115図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(45)
第116図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(46)
第117図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(47)
第118図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(48)
第119図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(49)
第120図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(50)
第121図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(51)
第122図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(52)
第123図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(53)
第124図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(54)
第125図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(55)
第126図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(56)
第127図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(57)
第128図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(58)
第129図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(59)
第130図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(60)
第131図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(61)
第132図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(62)
第133図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(63)
第134図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(64)
第135図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(65)
第136図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(66)
第137図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(67)
第138図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(68)
第139図版八幡原No 3 第Ⅰ次調査の石器(69)

第140図版八幡原No３第Ⅰ次調査の石器(70)
第141図版八幡原No３第Ⅰ次調査の石器(71)
第142図版八幡原No３第Ⅰ次調査の石器(72)
第143図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(1)（ＨＹ15全景・ＨＹ18全景）
第144図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(2)（ＨＹ17全景・ＨＹ20全景）
第145図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(3)（遺構全景・ＨＹ６全景・ＨＹ17全景）
第146図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(4)（ＸＹ８，ＨＹ６全景・ＨＹ２全景）
第147図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(5)（ＨＹ３プラン確認状況・ＨＹ３全景）
第148図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(6)（ＨＹ４プラン確認状況・ＨＹ４遺物出土状況）
第149図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(7)（ＨＹ５プラン確認状況・ＨＹ５全景）
第150図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(8)（ＨＹ６遺物出土状況・ＸＹ８セクション状況）
第151図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(9)（ＨＹ６全景・ＨＹ６炭化トチの実出土状況）
第152図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(10)（ＨＹ７全景・ＨＹ７遺物出土状況）
第153図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(11)（ＨＹ７柱穴セクション状況その１・ＨＹ７柱穴セクション状況その２）
第154図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(12)（ＤＹ10セクション状況・ＤＹ10完掘状況）
第155図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(13)（ＤＹ14セクション状況・ＤＹ14完掘状況）
第156図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(14)（ＤＹ21セクション状況・ＤＹ21完掘状況）
第157図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(15)（ＤＹ14遺物出土状況・ＫＹ12遺物出土状況）
第158図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(16)（石匙出土状況・石製釣針出土状況）
第159図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(17)（ＨＹ７遺物出土状況・ＨＹ５遺物出土状況）
第160図版八幡原No３第Ⅱ次調査の発掘(18)（ＤＹ25遺物出土状況・ＤＹ11遺物出土状況）
第161図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(1)
第162図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(2)
第163図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(3)
第164図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(4)
第165図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(5)
第166図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(6)
第167図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(7)
第168図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(8)
第169図版八幡原No３第Ⅱ次調査の土器(9)

第170図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(10)

第171図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(11)

第172図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(12)

第173図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(13)

第174図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(14)

第175図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の土器(15)

第176図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の石器(1)

第177図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の石器(2)

第178図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の石器(3)

第179図版八幡原No 3 第Ⅱ次調査の石器(4)

Ⅰ　遺跡の概要

米沢市内には約383ヶ所の遺跡が，河川によって形成された扇状地，河岸段丘，自然堤防上に分布し，各河川の流域別に，梓川流域，羽黒川流域，鬼面川流域，大樽川流域，綱木川流域など９河川の周辺に分布することから河川流域周辺の遺跡群として把握することができる。

桑山団地造成地内の遺跡群は，米沢市東南部の丘陵に源を発す梓川によって形成された扇状地である。水源にあたる栗子丘陵の駒ヶ岳（標高1,061ｍ）から源を発し，西流する。扇央部に当る桑山・八幡原周辺には，約44ヶ所の遺跡群が点在する。これら八幡原周辺の遺跡群は，手塚孝・秦昭繁氏らによって昭和40年頃から発見されたものであった。

その後，八幡原中核工業団地に伴い県教育庁文化課が主体となって分布調査をしている。分布調査の区域は，工業団地造成地内のみならず，万世町桑山・金谷・堂森・牛森など約800haを対象に行ない，５ヶ所の遺跡群に集約し，この内，No１～No10は桑山遺跡群として把握している。

本遺跡は，米沢市万世町桑山字柿の木に所在し，標高262.5ｍを測る。隣接してNo２水神前遺跡，No４柿の木遺跡などが分布する。調査前の地目現状は，果樹園・畑作を主体とする畑地である。No２水神前遺跡からは縄文早期末～前期初頭の竪穴住居跡２棟，土壙１基他などが検出されNo４柿の木遺跡からは縄文早期中葉～後期初頭，古墳時代前期の竪穴住居跡１棟，畠状遺構，溝状遺構，穴窯状遺構７基と54基からなる環状遺構などが検出された。特に環状遺構は南北９間，と掘立状に１条に配列していることから注目を受けている。

この桑山周辺は，昭和52年に住宅団地造成が計画され，昭和55年に桑山第Ⅰ期の宅地造成工事が開始された。昭和56年以降第Ⅱ期・第Ⅲ期と計画されていった。その内，Ⅱ・Ⅲ期の造成地内には，八幡原No２・３・４・５・６・９の重要な遺跡が分布していることから，工事に先立ち試掘調査を実施した結果，総面積135,000㎡に及ぶ広大な面積を有することが判明し，本遺跡付近は縄文中期，古墳前期の集落が存在する可能性が認められた。

昭和55年はNo２・４・５・６・３遺跡の１次調査，昭和56年はNo９を調査し，昭和58年のNo３の本遺跡の調査をもって桑山遺跡群の全遺跡の調査を終了することができた。その中で，No９八幡堂遺跡からは，南小泉式併行の古式土師器を伴う５世紀代の方形周溝墓が５基，No４の畠跡をはじめ，桑山遺跡群全体を把握するまでに至った。

本遺跡のⅠ次・Ⅱ次のⅡ回に亘る調査によって，縄文早期の竪穴住居跡７棟，縄文中期の竪穴住居跡５棟，掘立建物跡１棟，古墳前期の竪穴住居跡６棟，方形周溝墓１基，縄文時代の畠跡など多くの遺構が検出され，桑山遺跡群の中核をなしていたことが明確になったとと

もに，居住生活，農耕，祭祀，墓制などからなる集落構成のプロセスを全体的に把握することができたといえよう。このように，多くの貴重な成果を得，終了に至った。

Ⅱ　調査の経過

第１次調査

昭和55年４月10日から重要遺跡と推測される八幡原№３・４・５・９を主に約350の試掘グリットを設し，のべ５日間を要した。その結果，遺跡の総面積が予想以上に広大することが判り，№２を除く各遺跡は一遺跡として内包され，約125,000㎡以上に亘る大規模な遺跡であることが明らかとなった。

上記の調査成果を基礎として，グリッド設定は磁北軸を基準線に南北450ｍ，東西450ｍの方眼を配した。

八幡原№３大清水遺跡の第Ⅰ次調査は，昭和55年７月18日から調査を開始し，10月12日には調査区全域の精査がほぼ完了し，13日から図面作成を行ない，30日には現地調査の全日程を終了した。遺跡の調査のあたり，35～77－120～150グリッドを８ｍ×８ｍの調査グリッドに細分し，八幡原№４柿の木遺跡で検出された河川を北側のグリッド末端とした。

最終的には，調査面積4,500㎡，精査面積3,700㎡であった。

第Ⅱ次調査

第Ⅱ次調査は，第Ⅲ期桑山団地造成が拡張されるにあたり実施したものである。調査開始は，耕作物や土地買収の都合上，昭和58年９月20日となった。当初予定した３ヶ月間の調査期間を基本として進めると９月未頃からは日照時間の短いことや，寒さからの作業ロスが生じてくることをかんがみ，表土剝離を中心とする作業については全て重機を用いることとし，作業員も増員して，調査期間を1.5ヶ月に短縮する方法を取るように計画を修正した。

調査区においては，第Ⅰ次調査の８ｍ×８ｍグリッドを基本とし，０－100～150の南北軸を基本主軸ラインとして設定した。調査区の地目現状は北からホップ畑，畑，水田となっており，水田はことに耕作物の刈取りが終了した後に行なわざるを得ないことから，ホップ畑，畑を中心に進めることになった。９月20日から９月22日までは，主に重機による表土剝離と作業員による面整理作業を，23日からは全体的に面整理作業を行ないながら，29日からは水田の稲刈り完了にともない，南側の水田に関しても表土剝離をなう。10月13日から遺構の分布密度の状況や遺跡全体の層位，遺物の分布が集中する箇所を順次精査および遺構掘り下げを行ない，10月後半から図面作成作業に入り，ほぼ予定していた1.5ヶ月間，10月30日に全調査を終了することができた。

最終的には，調査面積6,000㎡，精査面積4,750㎡であった。

第Ⅰ次調査　昭和55年７月18日～10月30日　延103日間

調査面積4,500㎡　　精査面積3,700㎡

第Ⅱ次調査　昭和58年９月20日～10月30日　延40日間

調査面積6,000㎡　　精査面積4,750㎡

Ⅲ　遺構の概要

昭和55年のⅠ次調査，昭和58年のⅡ次調査で検出された遺構は竪穴住居跡19棟を含めた計173基が確認されている。この中で注目されるのは縄文分期と中期，古墳前期～中期の集落跡の検出であり，縄文中期と古墳時代の集落跡はほぼ全体を把握できた。ここではこの点を考慮しながらⅠ次，Ⅱ次調査と区分して説明を加えたい。

第Ⅰ次調査の遺構〔第３図～第11図〕・〔第１図版～第34図版〕

第Ⅰ次調査の遺構は総数132基を数える。年代的には縄文中期葉期に属する遺構が126基で最も多く，次いで古墳時代前期～中期の遺構が５基，縄文早期中葉１基となる。遺構の性格を年代順に列挙すると次の様になる。

1）	縄文早期竪穴住居跡	１棟
2）	縄文中期竪穴住居跡	５棟
3）	縄文中期建物跡	１棟
4）	縄文中期土器埋納遺構	３基
5）	縄文中期Ｔピット	２基
6）	縄文中期土壙群	59基
7）	縄文中期不明小ピット	42基
8）	縄文中期焼性遺構	３基
9）	縄文中期畠跡	１基
10）	縄文中期構状遺構	３基
11）	古墳前期竪穴住居	１棟
12）	古墳前期倉庫跡	１棟
13）	古墳前期～中期土壙	１基
14）	古墳中期溝状遺構	１基
15）	古墳前期方形周溝墓	１基
16）	中世穴窯	７基

17）中世溝状遺構　　1基

以上の通りとなる。ここでは簡単に代表的な遺構を中心として述べている。

1）縄文早期の竪穴住居跡（第10図）

長径464cm，短径392cmの不整円形プランを示す竪穴住居跡1棟が検出された。壁は崩れている部分も認められたが平均35cmの深さを有し，中央に住居跡が廃絶した後に納入したと考えられる河原の集石が認められた。柱穴は壁柱穴で壁下に4～8cm位の柱穴が存在する。遺物はすべて破片であり，15点検出し，これらは田戸上層式に併行するものである。ＨＹ８

2）縄文中期の竪穴住居跡（第5図～第10図）

縄文中期の竪穴住居跡は5棟検出されており，形態的な特徴から次の3グループに分けられる。最初のグループは複式炉をもう竪穴住居跡であり，長径471cmのＨＹ３，長径414cm，短径402cm，南側に祭壇を有するＨＹ２の二棟が認められた。両者とも壁下に周溝を配するのが特徴的であり，ほぼ円形プランを示す。炉は土器を埋設した土器埋設石組複式炉に分類されるが，ＨＹ２に関しては石組部に礫を設置せず，変った形態と言えよう。

次のグループは隅丸方形プランを示す小規模な住居跡で，壁下に不整の柱穴を3本有する。炉は存在しなく，長径276cm，短径244cmをなす。ＨＹ４

最後のグループの楕円形プランを示す住居跡であり，壁が2段を有し，2段目に前に述べた早期の様な壁柱穴を密に配するのが特徴となる。大きさはＨＹ６が長径355cmで北側の壁下に直立した石棒が存在する。ＨＹ５は長径302cmと小規模となる。炉はＨＹ６に複式炉状の落ち込みとして検出されている。以前は複式炉を有していたのかも知れない。現在この種の竪穴住居跡は他に類をみなく，性格的な意味も含めて注目する必要があろう。

3）縄文中期の掘立建物跡（第11図）

柱穴8基を用いて構築したもので，長径670cm，短径250cmを有する。柱穴は切り合いを示すものが含まれていることから二次的な建て替が行なわれたと推測される。炉は中央に土壙状の落ち込みとして認められた。同じ様な例は米沢市法将寺遺跡にある。

4）縄文中期の土器埋納遺構

ＨＹ３の竪穴住居跡の南側と東側より3基検出された。いずれも深鉢形土器を直立した状況で埋納している。

5）縄文中期のＴピット

2基検出されている。長径2ｍ位の溝状を深さ130cmの袋状に掘り凹めたものである。埋土は自然堆積状況を示していた。

6）縄文中期の土壙群

土壙は集落の全体に３ヶ所のブロックとして集結している。一つはＨＹ２，ＨＹ３の西側に位置するもので，８基Ａ土壙群としょう。二つ目はＡ土壙群より南に15ｍ程離れて集結するもので12基，Ｃ土壙群としよう。最後はＨＹ６の竪穴住居跡を中心に集結するもので20基集結する。Ｂ土壙群としよう。これらは大半が円形プランを示し，袋状を有するものが中心となるが，浅くボール状を示すものも含まれる。大きさは40～150㎝，深さ15～70㎝で，埋土はＳＫ29を除くすべてが自然堆積状況を呈していた。

８）縄文中期の焼性遺構

４基検出され，ｂ土壙群の東側に位置するＳＹ１，ＳＹ２は竪穴状を示し，ＳＹ１は不整の長径６ｍ，短径３ｍ，ＳＹ２は楕円形状プランをなし，長径5.8ｍ，短径５ｍを示す。壁の深さは19～40㎝としっかりしており，内部には多量の焼土と木炭粒，二次焼性をうけた土器片数十点が認められていた。この種の遺構は長井市長者屋敷遺跡にも１基認められており，土器を焼く際に使用されたものであろう。他の２基はＨＹ３の東側に１ｍ位の痕跡として存在する。

９）縄文中期の畠跡

この表現はかならずしも正しくはない。南北に三角状に配した溝状が，12本で構成される。溝内には明らかに打製石斧と考えられる掘り込み痕が認められ，小量の木炭が検出された。この状況では不明遺構とするのが妥当かも知れないが，調査団一同の考え方として，縄文時代の畠跡とする方向にあることもあって，畠跡としておこう。

10）古墳前期の竪穴住居跡（第４図）

長径445㎝，短径387㎝の隅丸方形プランを呈する竪穴住居跡である。この竪穴住居跡は第Ⅱ次調査の住居跡とも強く関連するもので，火災によって焼失したものである。土器は，15点の完形土器が床面に沿って認められ，編年的には塩釜式と南小泉Ⅱ式が共存する形となるが，Ⅱ次調査を考慮すると最周的に機態していた時期は南小泉Ⅱ式となろう。

12）古墳前期の倉庫

１間，１間の倉庫跡で，１間を330㎝としている。柱穴は40～45㎝で，30㎝位の柱痕積を残している。

15）古墳前期の方形周溝墓

溝の北側が河原状の大溝に接しているので南側半部だけ検出した。一辺５ｍ位と推測される。溝幅は40～65㎝で南溝底面から第52図版の土師器甕１点が出土している。

16）中世穴窯（第12図）

ほぼ南北にのびるＳＤ３の溝を利用して７基の地下式穴窯が認められている。遺物はまっ

たく認められず，窯体自身も強火の影響もないことから炭焼窯と考えておきたい。大きさはＳＱ１が長軸７ｍ，幅155cmと最も大きく，他は４～６ｍとなる。天井部の高さは60～90cm位を測る。

遺物の概要

遺構を中心にして約8,500点が検出されている。ここでは写真図版を中心に説明を加えよう。

第Ⅱ次調査の遺構

１）遺構の概要

表土が比較的深いことをもあって遺構の状況は顕著に把握することが可能であった。遺構確認面は第２層（暗黒褐色土）の範疇にあり，上層には古墳時代前期，やや下面に縄文前期末とこれまでにもみられた桑山遺跡群の各遺跡と同様に確認面が接近し，最終的には同一レベルでの検出となったが基本的には縄文前期の遺構が２cm～５cm下層で認められる。ここでは縄文前期と古墳の二者に分けて説明を加えたい。なお出土遺物，年代については別項の図版説明，住居跡の詳細は挿図を参照願う。年代別の遺構を列挙すると次の様になる。

縄文前期竪穴住居跡	６棟	ＨＹ９・15・16・17・18・20
縄文前期ピット群	12基	ＨＹ17付近
古墳前期竪穴住居跡	５棟	ＨＹ３～７
古墳前期土壙	６基	ＤＹ10，11，13，14，19，21
古墳前期溝状遺構	１基	ＫＹ12
風倒木壙	５基	ＸＹ８，22～25
近世墓壙	２基	ＯＹ１，２

２）縄文前期の遺構　第14～19図

竪穴住居跡は平面プランが楕円形状及び円形プランを示すものが多く，長径6.6ｍ短径4.3ｍのＨＹ９が最大規模で前者の代表となり，次にＨＹ17が長径5.3ｍ，短径4.2ｍ，ＨＹ18が長径4.7ｍ，ＨＹ20が4.6ｍの４棟が楕円形プランをもつ。円形プランを有するものとしてＨＹ16の長径4.9ｍ，ＨＹ15の長径4.3ｍの２棟がみられるものの基本的には楕円形プランが縄文前期末の特徴といえそうである。

住居跡の壁はなだらかに立ち上がるのが多く，柱穴は３～７本位を壁下に置き，それぞれ15～30cm位を計る。炉は本遺跡では存在するものはなく，注目される。遺物としては床面を中心に２～４個体部の一括土器が認められたが復元できたのはＨＹ18，22出土の２点だけであった。次に各住居について述べる。

ＨＹ９，第14図

南北方向に長軸を有し東西4.17ｍ，南北6.28ｍを計る。柱穴は10㎝～15㎝を12本配し壁の深さは20㎝ある。覆土は４枚であり，かたくしまっている。床面は南から北へ若干傾斜している。

ＨＹ15，第15図

今回の調査区では最も小規模な竪穴住居跡であり東西に長軸を有し4.38ｍ，南北3.64ｍを計る。壁は直角的に立上り深さは20㎝ある。住居跡中央部をホップ畑の棚によってこわされている。柱穴は５本認められ平均した径を有し，深さは15～20㎝で住居跡内側に傾斜している。

ＨＹ16，第16図

西北部の一部が古墳時代の土壙ＤＹ19によって切られている。壁はゆるやかな立上りを示しＨＹ９と同様な小規模な柱穴を７本配す。大きな東西3.72ｍ，南北5.0ｍ計る。

ＨＹ17，第17図

きれいなタマゴ形を有す平面プランであり東西4.23ｍ，南北5.65ｍある。住居跡内には３本の柱穴が認められた。なおＨＹ17を取り囲むようにして存在するピット群もＨＹ17に関連があると考えてたい。

ＨＹ18，第18図

北側に土壙を有す住居跡であり，東西4.38ｍ，南北4.7ｍを有す。柱穴は６本認められＨＹ９，15，16，20にくらべて，ＨＹ17，18はやや大きい形状を持つ。覆土には東側から流れこんだ少礫が混入し床面をおおっていた。図に示した土器が出土している。

ＨＹ20，第19図

調査区の西南コーナ部付近より確認された住居跡であり，西側はすでに道路として利用されていたことから発掘できなかった。ＨＹ18と同様に覆土には少礫が混入していた。柱穴は壁下にそって６本，中央に１本確認できた。

３）古墳時代の遺構　第20図～第24図

ＨＹ３，第20図

平面形状は方形で東西3,76ｍ，南北3.49ｍ，深さは３㎝と浅い。柱穴はＴＹ111，ＴＹ112の２本と壁下には42本の壁柱穴が認められた。覆土には焼土を含み，床面は平坦であり粘土を貼付したいわゆる貼り床ではない。

ＨＹ４，第21図

東西4.55ｍ，南北4.24ｍ，深さ６㎝の方形を有す。主柱穴は１本で径は50㎝あり，壁柱穴

は34本認められた。ＨＹ３同様の床面形態を持つ。

ＨＹ５，第22図

東西3.22ｍ，南北3.58ｍ，深さ７㎝の方形で，主柱穴ＴＹ105，ＴＹ110の２本と壁柱穴31本を有す。古墳時代前期の住居群ではＨＹ５だけが覆土に焼土が混入していない。床面はＨＹ３，４と同様である。

ＨＹ６，第23図

ＸＹ８（風倒木壙）によって西側がこわされた住居跡である。大きさは東西4.26ｍ，南北5.35ｍ，深さは６㎝あり，貼り床の床面を持つ。主柱穴は４本ＴＹ101～ＴＹ103を有し，北東部にだけ４本の壁柱穴が認められた。床面からはトチの実の炭化物が検出された事からＸＹ８はトチの実が取れる時期にあたる10月ごろに推定されよう。またＨＹ６を境として西側の住居群に焼土が混入している事実はＨＹ６を火元と断定したい。付け加えておくとこの焼土はNo３，No４，No５でも確認されている。

ＨＹ７，第24図

本遺跡の調査区では最大規模を有す竪穴住居跡であり，ＤＹ10，11，13，14，21，ＫＹ12に囲まれて存在する特異な形態を呈す。住居跡は東西5.93ｍ，南北5.35ｍ，深さ19㎝と深い。床面は粘土によって貼付され，南東部に祭壇を持つ。柱はＴＹ101～104の主柱穴４本と壁柱穴51が認められた。またＨＹ６と同様な床周溝が配置されている。

住居跡を取り囲む土壙を以下に示す。(時計回りに)

遺構名	大きさ	深さ	平面形状	底面形態
ＤＹ13	2.38×1.31ｍ	21㎝	楕円形	柱穴三本を横一列に有す。
ＫＹ12	長さ５ｍ×幅89ｍ	12㎝	溝状	柱穴も本を横一列に有す。
ＤＹ14	1.53ｍ	15㎝	円形	柱穴三本を三角形に有す。
ＤＹ11	1.68ｍ×1.23ｍ	15㎝	楕円形	柱穴二本を横例に有す。
ＤＹ10	2.23ｍ×1.79ｍ	21㎝	楕円形	柱穴三本を横一列に有す。
ＤＹ21	1.74ｍ×1.97ｍ	21㎝	楕円形	柱穴二本を横に有す。

上記に示した以外の古墳時代前期に位置する土壙としてはＨＹ16と重複するＤＹ19がある。性格としてはＨＹ７と同様に祭祀用として構築されたものである。

４）近世の遺構

第13図のＤＹ12があり，プランは楕円形状を有し覆土は人工堆積によることから墓壙との見方が強いが，その事を表わす遺物等は出土しておらず不明遺構としておく。

Ⅳ　遺　物

第Ⅰ次調査　図版説明『土器』

A完形土器

第35図版(1)

a 土器埋納土器

b 深鉢形土器

c 器高37cm，口径31.5cm
底径8.2cm

d 「C」字状文

e 単節 R { L / L / L

f 大木10 b 式

第36図版(2)

a ＨＹ　一炉埋設土器

b 深鉢形土器

c 推定器高33cm，底径 8 cm，
推定口径26cm

d 「C」「U」字状文

e 単節 L { R / R / R

f 大木10 a 式

第37図版(3)

a ＨＹ　一炉埋設土器

b 深鉢形土器

c 現高20cm，底径7.7cm

d 「U」字状文,「S」字状
渦巻文

e 単節 R { L / L / L

f 大木10 a 式（古）

第38図版(4)

a 土器埋納土器

b 深鉢形土器

c 現高30cm，底径 9 cm

d 「C」字状文

e 単節 R { L / L / L

f 大木10 b 式（古）

第39図版(5)

a ＨＹ　一炉埋設土器

b 深鉢形土器

c 現高27.5cm，底径 8 cm

d 「Y」字状文 b，2 単「V」
字状文

e 単節 R { L / L / L

f 大木 9 b 式

第40図版(6)

a

b 深鉢形土器

c 現高31cm，口径27.6cm

d 変形「C」字状文

e 単節ＬＲ

f 大木10 a 式（古）

第41図版(7)

a 土器埋納土器

b 深鉢形土器

c 現高23.3cm，底径6.7cm

d 「H」字状文し円「V」字
状文

e 単節 L { R / R / R

f 大木 9 b 式

第42図版(8)

a ＨＹ　床面直上

b 深鉢形土器

c 現高15.7cm，底径 8 cm

d 変形「S」字状渦巻文

e 単節ＬＲ

f 大木 9 b 式

第43図版(9)

① a ＨＹ　床面直上

b 小形深鉢形土器

c 現高5.8cm，底径4.3cm

d 「C」字状文

e 単節ＬＲ

f 大木10 b 式（古）

② a

b 小形深鉢形土器

c 器高4.7cm，底径５cm，径8.3cm
d 「C」字状文
e 単節ＲＬ
f 大木10ａ式（新）
第44図版(10)
a ＨＹ３　床面直上
b 小形壺形土器
c 現高9.5cm，底径７cm
d 変形「Y」，「H」字状文
e 突刺文
f 大木９ｂ式
第45図版(11)
a ＨＹ２　床面直上
b 台付土器底部
c 現高9.5cm，底径21.5cm
e 単節 L { R / R / R }
f 大木10ａ式
第46図版(12)
a ＨＹ４　床面直上
b 甕形土器
c 現高17.5cm，口径33.5cm
e 単節ＲＬ
f 大木９ｂ式
第47図版(13)
a ＨＹ４　床面直上
b 深鉢形土器
c 現高26cm，口径35cm
e 単節 L { R / R / R }
f 大木10ａ式
第48図版(14)
a ＨＹ５　床面直上
b 深鉢形土器
c 現高23cm，口径31.5cm
e 無文
f 大木10ａ式
第49図版(15)
a 包含層出土
b 深鉢形土器
c 器高29cm，口径21cm，底径8.5cm
d 渦巻文，多条沈線文
e 単節ＬＲ
f 堀之内Ⅰ式
第50図版(16)
a ⅡＹ１　床面直上
b 甕形土器
c 器高25cm，底径５cm，口径18.2cm
d ナデ＋ヘラ調整＋ケズリミガキ
e ナデ＋ヘラナデ
f 南小泉Ⅱ式
第51図版(17)
a ＨＹ１　床面直上
b 甕形土器
c 器高24cm，口径19.5cm，底径9.2cm
d ナデ＋ハケメ＋ヘラ調整
e ヘラ調整＋ヘラナデ＋ナデ
f 南小泉Ⅱ式
第52図版(18)
a 方形周溝墓底面
b 甕形土器
c 現高19.5cm，口径18cm
d ハケメ＋ナデ
e ハケメ
f 塩釜式
第53図版(19)
a ＨＹ１　床面直上
b 壺形土器
c 器高20cm，口径15.3cm，底径17cm
d ミガキ＋ヘラ調整＋ケズリ
e ナデ＋ヘラナデ
f 南小泉Ⅱ式
第54図版(20)
a ＨＹ１　床面直上
b 壺形土器
c 器高21cm，口径17cm，底径6.5cm
d ヘラ調整・ミガキ
e ナデ＋ミガキ＋ヘラナデ
f 南小泉Ⅱ式
第55図版(21)
a ＨＹ１　床面直上
b 壺形土器
c 器高12.1cm，口径12.5cm，

底径4.3cm
d ナデ＋ミガキ＋ケズリ
e ヘラ調整＋ヘラナデ＋ナデ
f 塩釜式

第56図版(22)

①a ＨＹ１　床面直上
b 高坏坏部
c 現高5.7cm，口径15cm
d ナデ
e ナデ
f 南小泉Ⅱ式

②a ＨＹ　床面直上
b 高坏坏部
c 現高4.7cm，口径15cm
d ナデ＋ミガキ
e ナデ
f 塩釜式

③a ＨＹ１床面直上
b 坩付高坏
c 現高7.2cm，口径8.8cm
d ミガキ
e ミガキ
f 塩釜式

第57図版(23)

a ＨＹ１床面直上
b 甑
c 器高10.1cm，底径6.2cm，口径21.2cm
d ハケメ＋ミガキ
e ハケメ＋ミガキ
f 塩釜式

第58図版(24)

Ⅰ群土器(１～６)縄文早期中葉
a ⅡＹ床面直上出土
d 沈線文・無文
f 田戸下層式併行

Ⅱ群土器(７～14・32)縄文前期初頭
a 包含層出土
b 羽状縄文
f 関山式併行

Ⅲ群土器(８～31)縄文前期後葉
a 包含層出土
半截竹管文18～24・沈線文25～32
f 大木６式併行

第59図版

Ⅲ群土器(１～27)縄文前期末葉
a 包含層出土
半截竹管文による山形文(５～13)。
撚糸圧痕文によるもの(１・14・15)。
粘土紐を貼付したもの(19)
沈線文による山形文を有するもの(23～27)。
平行沈線文を有するもの(４・17)。
単節のＬＲ・ＲＬを有するもの(２・16・18・20～22)
f 大木６式併行

第60図版(26)

Ⅲ群土器(１～19) 縄文前期末葉
a 包含層出土
d 沈線文に片方向の竹管を有するもの(１)。
粘土貼付文に沈線を加えたもの(２～７)。
乙単位の沈線文を有するもの(９・11)。
撚糸圧痕文を有するもの(８・10)。
単節のＬＲ・ＲＬを有するもの(12・19)。
f 大木６式併行

第61図版(27)

Ⅲ群土器(１・２) 縄文前期末葉
a 包含層出土
d 多条沈線文，同心円文，突刷文を組み合せたもの(３～７・９)。
撚糸沈線文を有するもの(８・10・11)。
f 堀之内Ⅰ式併行

第62図版(28)

Ⅳ群土器(1～18)縄文中期後葉期

a ＨＹ２床面直上(1～10)・ＨＹ３床面直上(11～18)

d 横位もしくは縦位の「Ｃ」字状文を有するもの。(1～12・14・15)

渦巻文を有するもの(13・16～18)

f 前者は大木９ｂ式～大木10ａ式

後者は大木９ｂ式

第63図版(29)

Ⅳ群土器(1～15)縄文中期後葉期

a ＨＹ３床面直上(1～3・15)・ＨＹ４床面直上(4～14)

d 横位もしくは縦位の「Ｃ」字状文を有するもの。(9・13・14)。

縦位の楕円文を有するもの (8)。

渦巻文を有するもの(1・4～5・10・12)。

単節斜縄文 L { R を有するもの(1～3・11)。 / R / R

f 「Ｃ」字状文は大木10a～10b式・他は大木9b式

第64図版(30)

Ⅳ群土器(1～17)縄文中期後葉期

a ＨＹ６床直上(1～6・9)・ＳＫ63(7・8・10・11・13・18)・ＳＫ40底面(12・16・17)・ＳＫ62(14・15)

d 渦巻文を有するもの(1・5・7・10)

横位もしくは縦位の「Ｃ」字状文を有するもの(2～4・6・8・9・12～17)。

単節斜縄文ＬＲ・ＲＬを有するをの(11)。

f 渦巻文は大木9b式,「Ｃ」字状文は大木9b新式から大木10b式

第65図版(31)

Ⅳ群土器(1～15・22～29)縄文中期後葉期

a ＳＫ38底面出土(1)・ＳＫ56埋土出土(2)・ＳＫ36底面出土(3～6)・ＳＫ33底面出土(7)・ＳＫ24埋土出土(8・21)・ＳＫ54埋土出土(9)・ＳＹ２埋土～床面出土(10～12)・ＳＹ１床面出土(13・14)・Ｔピット埋土出土(15・16)・ＳＤ２底面出土(7・20)・ＳＫ４底面出土(18・19)・ＳＫ55(22・23)・ＳＫ52(24～29)

d 横位もしくは縦位の「Ｃ」字状文を有するもの(1～3・13～15・24～27)。

多条沈線文を有するもの (11)。

単節斜縄文 L { R / R・R / R { L / L・LR・RL / L } を

有するもの(4～10・23・24・27・28)。

渦巻状の沈線を有するもの(29)。

f 大木９ｂ～大木10ａ式

Ⅲ群土器(16～21)縄文前期末葉

a 前記参照

d 単節斜縄文ＬＲ・ＲＬ

f 大木６式併行

第66図版(32)

Ⅳ群土器(1～15)縄文中期後葉期

a ＳＫ57(1・2), Ｐ20(3), ＳＫ25(5・6), ＨＹ３(5・6)・ＨＹ２(8～15)

d 横位の「Ｃ」字状文を有するもの(6・5・9～15)。

単節斜縄文 L { R / R・R / R } { L を有するもの。 / L / L }

（1～4・7），8は注口破片

第67図版(33)縄文中期後葉期

Ⅲ群土器（1～3）縄文前期末葉

a 包含層出土

d 単節斜縄文ＬＲ・底部片

f 大木６式併行

Ⅳ群土器（4～27）

a 包含層出土

d 隆帯を有し，渦巻文を転回するもの（5～11・11・12）。

渦巻文を有するもの（14・15・21・26）。

横位もしくは縦位の「C」字状文を有するもの（13・16～20・22・27）。

f 隆帯を有する渦巻文・単なる渦巻文は大木9b式，「C」字状文は大木10a～大木10b式

第68図(34)

Ⅳ群土器（1～24）縄文中期後葉期

a 包含層出土

d 縦長の楕円文もしくは渦巻文を有するもの。

f 大木９ｂ式

第69図(35)

Ⅳ群土器（1～19）縄文中期後葉期

a 包含層出土

b 横位の「C」字状文を有するもの（1～14）。

一条の平行線文に L { Rの単節斜縄文を / R / R } 有するもの（14）。

無文のもの（16～18）。

f 大木10ｂ式

第70図版(36)

Ⅳ群土器縄文中期後葉期

a 包含層出土

d 粗製土器であり，全面を単節のＬＲ・ＲＬの３本多条を有するもの。

f 大木9b～大木10b式併行

注

本図版説明でのアルファベット使用は次の通りである。

a 出土地区

b 器形

c 土器の計測値

d 単位文様

e 地文

f 年代

ただし，土師器類に関してはｄ外面調整，ｅ内面調整とした。

第Ⅰ次調査　図版説明『石器』

本遺跡より出土した石器総数は5,365点であり，図版を必要と認識した368点について以下に述べる。石器群の分類に関しては米沢市埋蔵文化財報告書第８集を参照願いたい。ただしⅣ，Ⅵ，Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ，ⅩⅡ，ⅩⅢ群石器については新に細類を加えたので簡単に説明していく。

Ⅳ群ｆ類は石槍に類似する形態を有すが，つまみ部がある事からⅣ群に分類した。Ⅵ群ℓ類は剝片素材そのものが長方形を呈すもので簡単な縁辺調整を加えただけの石器である。Ⅷ群ｅ類は鋸歯状を有す微細な剝離技法により整形された有舌尖頭器だ。Ⅷ群Ｊ類は細身で厚みがすくない縦形剝片に調整を加えた石器である。Ⅷ群Ｋ類は「ノ」字状に曲がる剝片を利用して整形を施すもので使用縁辺は曲線を有す。Ⅸ群ｂ類は半月形に整形された両面調整の石器で両端は尖状をなす。ⅩⅡ群ｅ，ｆ類は刃部形態及び製作技法により細類した。ｆ類は摩切技法による。

形態別出土数

Ⅰ群石器－43点　Ⅲ群石器－16点　Ⅴ群ｈ類－２点　Ⅶ群石器－１点　Ⅷ群ｋ類－６点
Ⅰ群ａ類－12点　Ⅲ群ａ類－10点　Ⅴ群ｉ類－２点　Ⅶ群ｅ類－１点　Ⅸ群石器－１点
Ⅰ群ｃ類－10点　Ⅲ群ｂ類－２点　Ⅵ群石器－55点　Ⅷ群石器－133点　Ⅸ群ｂ類－１点
Ⅰ群ｄ類－４点　Ⅲ群ｃ類－４点　Ⅵ群ａ類－４点　Ⅷ群ａ類－21点　Ⅹ群石器－17点
Ⅰ群ｅ類－11点　Ⅳ群石器－８点　Ⅵ群ｂ類－１点　Ⅷ群石器－18点　Ⅸ群ｂ類－１点
Ⅰ群ｆ類－６点　Ⅳ群ｂ類－２点　Ⅵ群ｄ類－１点　Ⅷ群ｃ類－14点　ⅩⅠ群石器－２点
Ⅱ群石器－30点　Ⅳ群ｃ類－５点　Ⅵ群ｆ類－６点　Ⅷ群ｄ類－７点　ⅩⅠ群ｂ類－２点
Ⅱ群ａ類－７点　Ⅳ群ｅ類－１点　Ⅵ群ｇ類－２点　Ⅷ群ｅ類－３点　ⅩⅡ群石器－10点
Ⅱ群ｂ類－14点　Ⅴ群石器－６点　Ⅵ群ｉ類－２点　Ⅷ群ｆ類－３点　ⅩⅡ群ａ類－２点
Ⅱ群ｃ類－２点　Ⅴ群ｂ類－１点　Ⅵ群ｊ類－１点　Ⅷ群ｇ類－３点　ⅩⅡ群ｂ類－１点
Ⅱ群ｄ類－１点　Ⅴ群ｇ類－１点　Ⅵ群ℓ類－21点　Ⅷ群ｊ類－12点　ⅩⅡ群ｃ類－１点
ⅩⅡ群ｄ類－１点　ⅩⅡ群ｅ類－４点　ⅩⅡ群ｆ類－１点

第71図版(1)Ⅰ群石器１～23

Ⅰ群ａ類１～８，Ⅰ群ｃ類９，10，12，13～15，Ⅰ群ｄ類11，22，23，Ⅰ群ｅ類16～21

第72図版(2)Ⅰ群石器１～15，７，８，12，14，Ⅱ群石器６，９，10，11，13，15～19，Ⅰ群ａ類３，８，12，Ⅰ群ｃ類５，Ⅰ群ｄ類１，Ⅰ群ｅ類２，14，Ⅱ群ａ類６，Ⅱ群ｂ類９，Ⅱ群ｄ類10，11，15～19

第73図版(3)Ⅰ群石器１～11，Ⅱ群石器12～15

Ⅰ群ｃ類１，４，Ⅰ群ｅ類２，３，５，Ⅰ群ｆ類６～11，Ⅱ群ａ類18，Ⅱ群ｂ類12～17，19～25

第74図版(4)Ⅱ群石器１～８，Ⅶ群石器９

Ⅱ群ａ類３～７，Ⅱ群Ｃ類１，２，Ⅱ群ｄ類８　Ⅶ群ｅ類９

第75図版(5)Ⅲ群石器１～８

Ⅲ群ａ類１～５，７，８，Ⅲ群ｂ類６

第76図版(6)Ⅲ群石器１～６

Ⅲ群ａ類２～５，Ⅲ群ｃ類１，６

第77図版(7)Ⅲ群石器１，２

Ⅲ群ｃ類１，２

第78図版(8)Ⅳ群石器１～５

Ⅳ群ｂ類５，Ⅳ群ｃ類１，３，４

Ⅳ群ｅ類２

第79図版(9)Ⅳ群石器１～３

Ⅳ群ｂ類１，Ⅳ群ｃ類２，３

第80図版(10)Ⅴ群石器１，２

Ⅴ群ｂ類１，Ⅴ群ｈ類２

第81図版(11)Ⅴ群石器１，２

Ⅴ群ｇ類１，Ⅴ群ｈ類２

第82図版(12)Ⅴ群石器１，２

Ⅴ群ｉ類１，２

第83図版(13)Ⅵ群石器１～４

Ⅵ群ａ類１～４

第84図版(14)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｉ類１～５，Ⅵ群ｆ類ｂ

第85図版(15)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｂ類１，Ⅵ群ｄ類２

Ⅵ群ｉ類３，４，Ⅵ群ℓ類５，６

第86図版(16)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｆ類４，Ⅵ群ｇ類５

Ⅵ群ｉ類１，３，Ⅵ群ｊ類１

Ⅵ群ℓ類２，６

第87図版(17)Ⅷ群石器１～７

Ⅷ群ｂ類１～４，Ⅷ群ｃ類５～７

第88図版(18)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｆ類２～４，Ⅵ群ｇ類５

Ⅵ群ｉ類１，Ⅵ群ℓ類６

第89図版(19)Ⅵ群石器１～３

Ⅵ群ｉ類１，２，Ⅵ群ℓ類３

第90図版(20)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｉ類１，２，Ⅵ群ℓ類３

Ⅵ群ｉ類１，Ⅵ群ℓ類６

第91図版(21)Ⅵ群石器１～３

Ⅵ群ℓ類１～３

第92図版(22)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ｉ類１～６

第93図版(23)Ⅵ群石器１～６

Ⅵ群ℓ類１～６

第94図版(24)Ⅵ群石器１～３

Ⅵ群ℓ類１～３

第95図版(25)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ａ類

第96図版(26)Ⅷ群石器１～６

Ⅷ群ａ類１～６

第97図版(27)Ⅷ群石器１～７

Ⅷ群ａ類１，４，７，Ⅷ群ｂ類２，６

Ⅷ群ｆ類３，５

第98図版(28)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｂ類１～３

第99図版(29)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｃ類１～３

第100図版(30)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｂ類３，Ⅷ群ｃ類１，２

第101図版(31)Ⅷ群石器１～４

Ⅷ群ｃ類１～４

第102図版(32)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類２，Ⅷ群ｂ類１，Ⅷ群ｅ類３

第103図版(33)Ⅷ群石器１～５

Ⅷ群ｄ類１～５

第104図版(34)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ｆ類１，２

第105図版(35)Ⅴ群石器２，Ⅷ群石器１

Ⅴ群ｄ類２，Ⅷ群ｅ類１

第106図版(36)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ｇ類１，２

第107図版(37)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ｄ類１，Ⅷ群ｆ類２

第108図版(38)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｄ類１，Ⅷ群ｅ類２，Ⅷ群ｆ類３

第109図版(39)Ⅷ群石器１～６

Ⅷ群ｂ類６，Ⅷ群ｆ類１～５

第110図版(40)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ｆ類１，２

第111図版(41)Ⅷ群石器１，２

Ⅷ群ａ類２，Ⅷ群ｉ類１

第112図版(42)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類１，３，Ⅷ群ｉ類２

第113図版(43)Ⅷ群石器１～６

Ⅷ群ｂ類５，Ⅷ群ｆ類１．３，４，６

Ⅶ群ｇ類２

第114図版(44)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｆ類石器１～３

第115図版(45)Ⅷ群石器１～４

Ⅷ群ａ類３，Ⅷ群ｆ類１，２，４

第116図版(46)Ⅷ群石器１～４

Ⅷ群ｊ類１～４

第117図版(47)Ⅷ群石器１～４

Ⅷ群ｊ類１～４

第118図版(48)Ⅷ群石器１～５

Ⅷ群ｆ類３～５，Ⅷ群ｊ類１，２

第119図版(49)Ⅷ群石器２～４，Ⅸ群石器１

Ⅷ群ｉ類２～４，Ⅸ群ｂ類１

第120図版(50)Ⅹ群石器１～３

Ⅹ群ａ類１～３

第121図版(51)Ⅵ群石器１～３

Ⅵ群ℓ類１～３

第122図版(52)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｅ類３，Ⅷ群ｋ類１，２

第123図版(53)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｋ類１～３

第124図版(54)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類２，Ⅷ群ｆ類１，３

第125図版(55)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類１，Ⅷ群ｂ類２

Ⅷ群ｊ類３

第126図版(56)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ｂ類３，Ⅷ群ｃ類２

Ⅵ群ｆ類１

第127図版(57)Ⅷ群石器１，２，４５，Ⅹ群石器３

Ⅷ群ｂ類１，Ⅷ群ｆ類２，５

Ⅵ群ｊ類５，Ⅹ群ａ類３

第128図版(58)Ⅹ群石器１～９

Ⅹ群ｂ類１～９

第129図版(59)Ⅹ群石器１，２

ⅩⅠ群石器５，ⅩⅡ群石器３，４

Ⅹ群ａ類１，２，ⅩⅠ群ｂ類５

ⅩⅡｅ類３，４

第130図版(60)ⅩⅠ群石器１

ⅩⅠ群ｂ類１

第131図版(61)ⅩⅡ群石器１，２

ⅩⅡ群ｅ類１，２

第132図版(62)ⅩⅡ群石器１，２

ⅩⅡ群ａ類１，２

第133図版(63)ⅩⅡ群石器１～３

ⅩⅡ群ｃ類３，Ⅶ群ｄ類１

ⅩⅡ群ｆ類２

第134図版(64)Ⅷ群石器１～６

Ⅷ群ｆ類１～６

第135図版(65)Ⅳ群石器４，Ⅵ群石器１，Ⅷ群石器３，５，Ⅹ群石器２

Ⅳ群ｅ類４，Ⅷ群ｆ類１，Ⅷ群ｋ類３

Ⅷ群ｆ類５，Ⅹ群ａ類２

第136図版(66)Ⅷ群石器１～４

Ⅹ群石器５

Ⅷ群ｆ類１～４，Ⅹ群ａ類５

第137図版(67)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類２，Ⅷ群ｂ類１，Ⅷ群ｆ類３

第138図版(68)Ⅷ群石器１～３

Ⅷ群ａ類３，Ⅷ群ｂ類１，Ⅷ群ｆ類２

第139図版(69)Ｃ類（凹石）１～９

１ⅠＢ＋Ｃ^{1}＋ⅡＡ　４ⅠＢ＋Ｃ^{3}＋ⅡＡ

７ⅠＢ＋Ｃ^{7}＋ⅡＡ

２ⅠＢ＋Ｃ^{1}＋ⅡＡ　５ⅠＢ＋Ｃ^{7}＋ⅡＡ

８ⅠＢ＋Ｃ^{2}＋ⅡＡ

３ⅠＢ＋Ｃ^{6}＋ⅡＡ　６ⅠＢ＋Ｃ^{7}＋ⅡＡ

９ⅠＢ＋Ｃ^{6}＋ⅡＡ

第140図版(70)Ｄ類（磨石）１～９

１ⅠＢ＋ⅡＤ＋Ｄ′^{4}　４ⅠＣ＋ⅡＤ＋Ｄ′^{2}

７ⅠＡ＋Ⅱｂ＋Ｄ′^{1}

２ⅠＢ＋ⅡＤ＋Ｄ′^{4}　５ⅠＡ＋Ⅱｂ＋Ｄ′^{2}

８ⅠＢ＋ⅡＡ＋Ｄ′^{1}

３ⅠＢ＋ⅡＤ＋Ｄ′^{4}　６ⅠＡ＋Ⅱｂ＋Ｄ′^{1}

９ⅠＡ＋ⅡＡ＋Ｄ′^{2}

第141図版(71)Ｄ類（磨石）１～６

１ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{1}　３ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{1}

５ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{2}

２ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{1}　４ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{1}

６ⅠＢ＋ⅡＣ＋Ｄ′^{2}

第142図版(72)Ｅ類（石皿）１

１，２Ｅ

第Ⅱ次調査　図版説明『土器』

第161図版(1)

ａⅡＹ18床面直上

ｂ深鉢形土器

ｃ器高21.5cm，口径23cm，底径10.2cm

ｄ半截竹管文

ｅ単節ＬＲ

ｆ大木６式併行

第162図版(2)

a ＨＹ20床面直上
b 深鉢形土器
c 現高11.5cm
e 単節ＲＬ
f 大木６式併行
第163図版(3)
a ＨＹ５床面直上
b 甕形土器
c 現高20.2cm，口径17.1cm
d ハケメ＋ナデ
e ハケメ＋ナデ＋ヘラ調整
f 南小泉Ⅱ式
第164図版(4)
a ＨＹ７床面直上
b 甕形土器
c 現高11.1cm，底径５cm
d ハケメ
e ハケメ＋ナデ
f 南小泉Ⅱ式
第165図版(5)
a ＨＹ７床面直上
b 壺形土器
c 現高17.5cm
d ミガキ
e ヘラ調整＋ナデ
f 南小泉Ⅱ式
第166図版(6)
a ＨＹ７床面直上
b 坩
c 器高11.2cm，口径10.6cm，底径3.7cm
d ミガキ＋ナデ＋彩色
e ミガキ＋ハケメ＋彩色
f 塩釜式
第167図版(7)
a ＨＹ19底面出土
b 坩
c 現高10.2cm
d ミガキ
e ハケメ＋ミガキ
f 南小泉Ⅱ式
第168図版(8)
a ＨＹ７床面直上
b 高坏
c 器高13.3cm，口径15cm，底径11.3cm
d ヘラ調整÷ナデ＋ミガキ
e ミガキ＋ナデ＋ヘラ調整
f 南小泉Ⅱ式
第169図版(9)
a ＤＹ14底面出土
b 坩付高坏
c 現高9.2cm
d ナデ＋ミガキ
e ナデ
f 塩釜式
第170図版(10)
① a ＨＹ７床面直上
b 高坏坏部
c 現高6.5cm，口径17cm
d ハケメ＋ヘラ調整＋ミガキ
e ハケメ＋ミガキ
f 塩釜式
② a ＨＹ５床面直上
b 高坏坏部
c 現高5.7cm，口径16.5cm
d ナデ＋ミガキ
e ナデ＋ハケメ＋ミガキ
f 南小泉Ⅱ式
③ a ＸＹ８底面出土（ＨＹ６）
b 坩
c 現高3.7cm，底径４cm
d ミガキ＋ナデ
e ヘラ調整＋ミガキ
f 塩釜式
④ a ＨＹ４床面直上
b 椀形土器
c 現高5.4cm，口径13.3cm，底径4.4cm
d ナデ＋ミガキ
e ナデ＋ハケメ＋ミガキ
f 南小泉Ⅱ式
第171図版(11)
① a ＨＹ７床面直上
b 椀形土器
c 器高5.4cm，口径15.2cm，底径2.5cm
d ハケメ＋ヘラ調整＋ミガキ
e ナデ＋ミガキ
f 塩釜式
② a ＤＹ14底面出土

b 坩付高坏
c 現高2.4㎝
d ミガキ
e ハケメ＋ミガキ＋ナデ
f 塩釜式
③ a ＤＹ10底面出土
b 高坏脚部～底部
c 現高4.2㎝，底径9.8㎝
d ハケメ＋ミガキ
e ナデ
f 南小泉Ⅱ式

第172図版⑫

Ⅰ群土器（１～25）縄文前期末～中期初頭

a ＨＹ９床面直上（１～11）・ＨＹ15（12～25）

d 撚糸庄痕文を有するもの（１～10・22・23）。

半截竹管文を有するもの（12～21）。

e 単節斜縄文を有するもの（11・23～25）。

f 前者撚糸文は大木７ａ式併行，後者竹管文は大木６式併行

第173図版⑬

Ⅰ群土器（１～16）縄文前期末～中期初頭

a ＨＹ17床面直上（１～16）

d 粘土貼付撚糸文（10・11）

粘土紐による貼付文を有するもの（１～３）。

e 単節斜縄文 L { R / R・R / R } { L / L・LR・RL / L } に

よるもの（４～７・12～13）。

波状口縁破片⑯

f 大木６式～大木７ａ式併行

第174図版⑭

Ⅰ群土器（１～30）縄文前期末～中期初頭

ＨＹ18（１～30）

d 半截竹管文による瓜形文・沈線文を有するもの（１～３・５・６・８～30）

単節斜縄文ＬＲ（４・７）

f 大木６式併行

第175図版⑮

Ⅰ群土器（１～15）縄文前期末～中期初頭

a ＨＹ15（１～15）

d 半截竹管文によるもの（１・５）。

撚糸文によるもの（４・６・８～10）。

粘土貼付を有するもの（２・３・７）。

単節斜縄文ＬＲ・ＲＬを有するもの（12～15）。

f 大木６式併行

注

図版説明のアルファベットは第Ⅰ次調査出土土器と同様にした。

第Ⅱ次調査　図版説明『石器』

本遺跡より出土した石器総数は235点であり，大半は剝片で占められる。その中で図版を必要とする20点について図版を作成し説明したい。分類はⅠ次調査で述べているので割合するがⅡ次調査出土の石器群に新しく分類したXⅢ群ｂ類について説明しておく。

XⅢ（石製品）ｂ類に細類したのは管玉であり絶色粘板岩を素材とし，第178図版２はその原石である。XⅣ群ａ類は赤色チャートを素材に用い両面調整により整形を加えた釣針で

あり桑山置跡群では本群石器１点だけであった。

形態別出土数

Ⅳ群石器５点，Ⅵ群石器２点，Ⅷ群石器１点，XⅢ群石器１点

第176図版(1)Ⅳ群石器１～４・６

XⅣ群石器５

Ⅳ群Ｃ類２，３，Ⅳ群ｅ類４，６

Ⅳ群ｆ類１，XⅣａ類５

第177図版(2)Ⅳ群石器２，Ⅷ群石器１，３

Ⅳ群ℓ類２，Ⅷ群ｆ類１，３

第178図版(3)１－砥石，２－管玉原石

XⅢ群ｂ類３

第179図版(4)

１，２－Ｆ（敲石）

３，４，５，Ｃ（凹石）

６，７，８，Ｄ（磨石）

Ⅵ　まとめ

第Ⅰ次調査で得られた成果と第Ⅱ次調査で得られた成果を総合し，その要約をまとめることにする。

１）縄文早期

縄文早期の竪穴住居跡は，第Ⅰ次調査で１棟検出されている。出土した土器は，田戸上層式併行のもので，遺物はすべて破片である。

２）縄文前期

縄文前期の竪穴住居跡は，第Ⅱ次調査で６棟が検出されている。出土した土器は，大木５式～大木６式併行のもので，以前『吹浦式』と呼ばれたことがあった。県内では，遊佐町吹浦遺跡，米沢市大檀遺跡など類例が多い。住居跡の平面プランは，主に楕円形あるいは円形のプランを示すものが多く，ＨＹ９は長径6.6ｍ，短径4.3ｍを示し本遺跡では最大級のものである。

３）縄文中期

縄文中期の遺構は，竪穴住居跡が第１次調査で５棟検出されている。すべてが円形もしくは楕円形のプランを示し，土器埋設複式炉を有する。出土した土器は，変形「Ｓ」字状洞巻文を単位文様とする大木９ｂ式の土器と「Ｃ」「Ｕ」字状文を単位文様とする大木10ａ式の土器，「Ｃ」字状文を単位文様とする大木10ｂ式の土器がある。県内では，村山市中村Ａ遺跡を始め類例が多い。

４）古墳前期

第１次調査では，方形周溝墓１墓，竪穴住居跡１棟，倉庫跡１棟が検出され，第Ⅱ次調査では竪穴住居跡５棟と土壙５基他が検出されている。方形周溝墓は，塩釜式併行でも後葉の時期と考えられ，比丘尼平遺跡の方形周溝墓と八幡原№９八幡堂遺跡の方形周溝墓をつなぐ

時期と思われる。竪穴住居跡においては，坩付高坏など類例の少ない土器を伴い，塩釜式から南小泉Ⅱ式でも古い時期に位置づけられ，もしかすると，塩釜式から南小泉Ⅱ式をつなぐ時期の集落跡と考えられる。

以上，各時期別の要約をまとめていると，大きく分け2つに大別される。1つは，縄文前期末の集落形成の位置づけと，縄文前期と中期をつなぐ資料を得られたことである。2つには，古墳前期における集落構成を，村落，墓制，農耕の三つの面から研究することが可能であると共に，塩釜式の時期から南小泉式Ⅱ式に移行する時期に存在した集落として考えることが可能であるという2つの成果を得ることができた。また，消失家屋の検出によって，生活様式の組み合せをなす資料が得られ，今後の土師器研究に大いに役立つものと期待される。

最後に，調査および本報告書作成について御協力を賜った。㈶米沢市開発公社，山形県教育庁文化課，地元地権者の皆様に感謝を申し上げる。

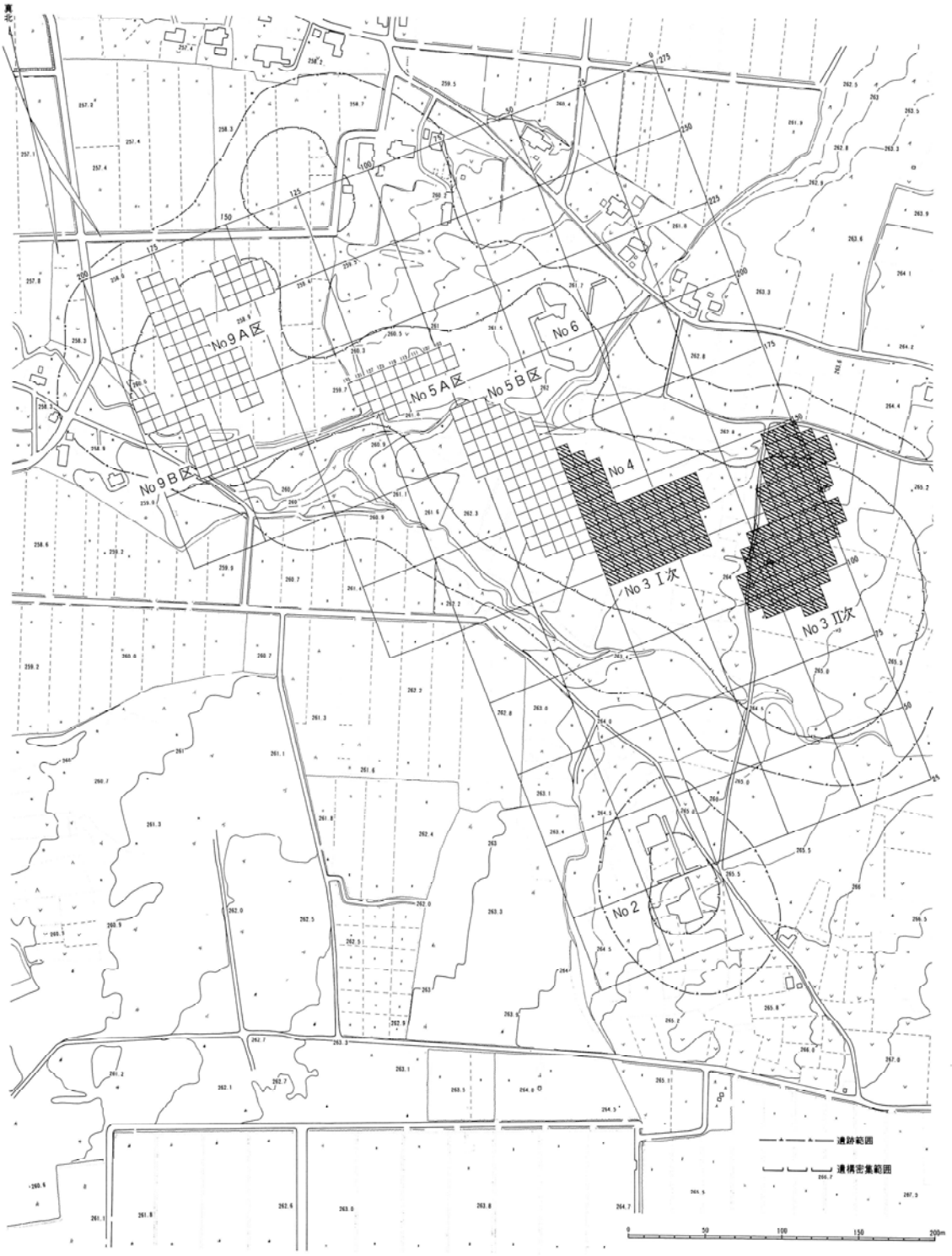
参考文献

1．手塚　孝，菊地政信（1982）『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第Ⅰ集』（米沢市埋蔵文化財調査報告第6集）

2．手塚　孝，菊地政信（1983）『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第Ⅱ集』（米沢市埋蔵文化財調査報告書第8集）

3．菊地政信，村山正市，橋爪　健（1986）『上浅川遺跡第3次調査報告書』（米沢市埋蔵文化財調査報告書第15集）

4．名和達郎，渋谷孝雄（1983）『中村A遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財調査報告書第73集）



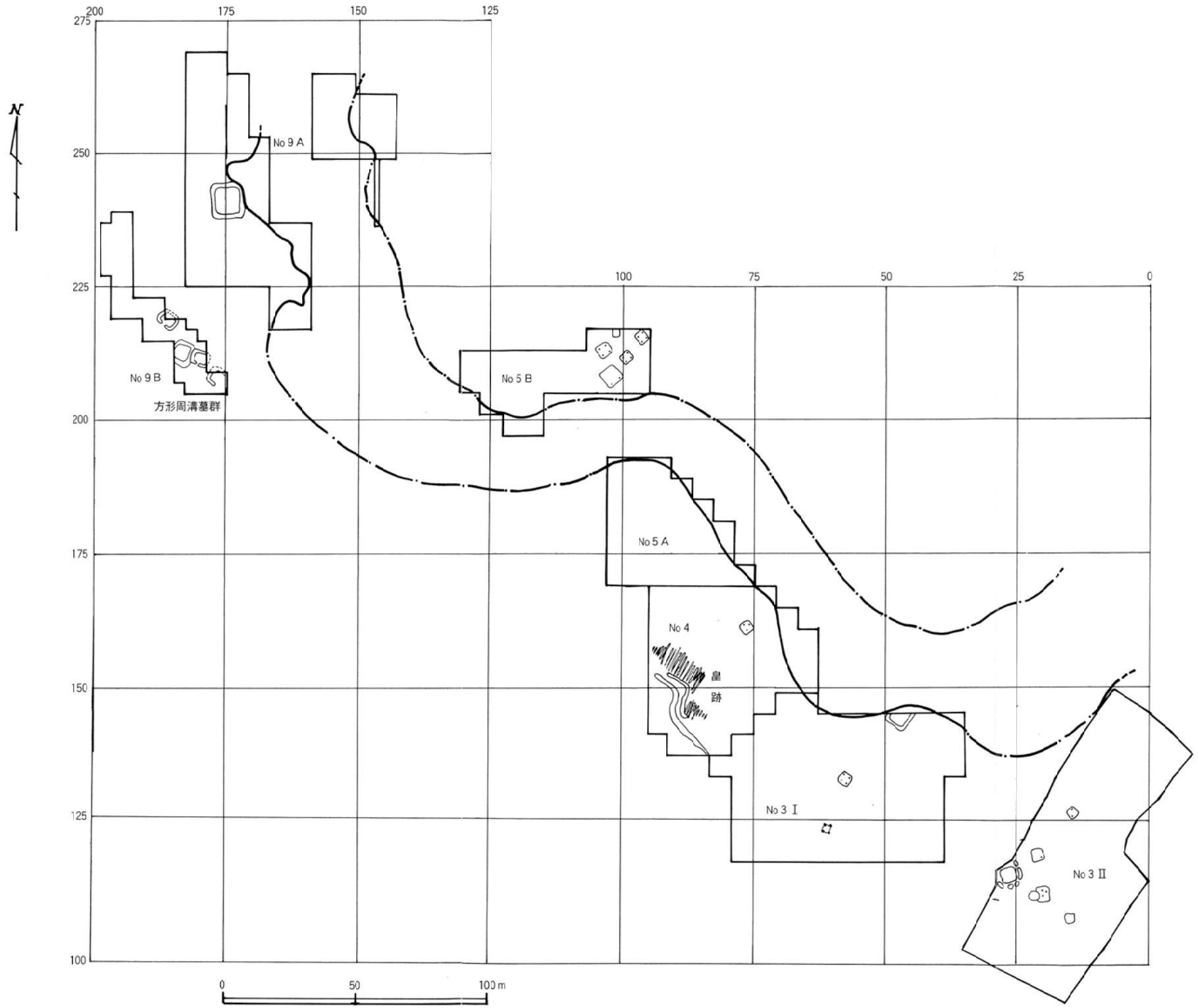
第１図　桑山遺跡群グリッド配図

▲ＨＹ６と土壙群

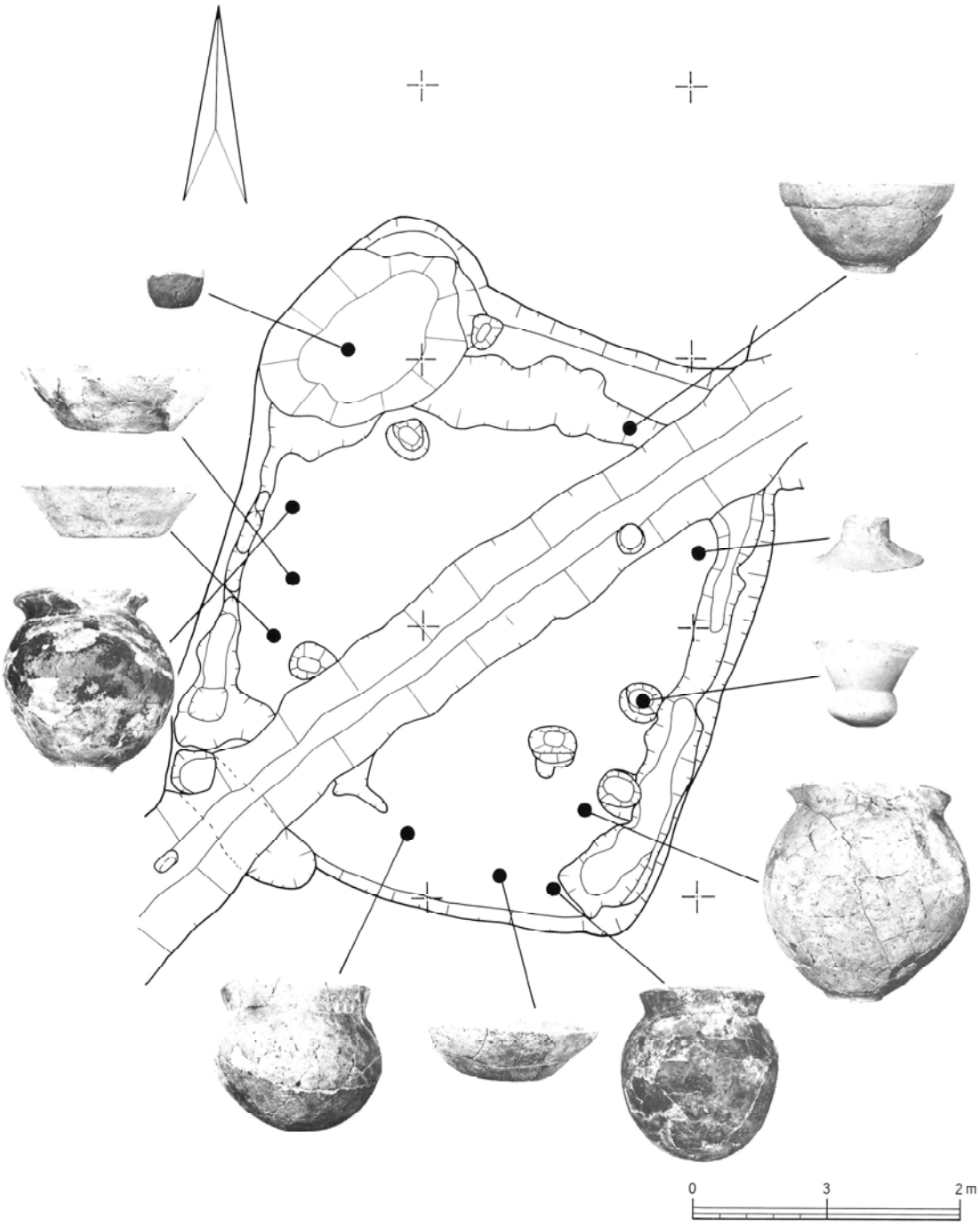
▲ＨＹ２・ＨＹ３全景

▲大清水遺跡の全景（柿の木遺跡より望む）

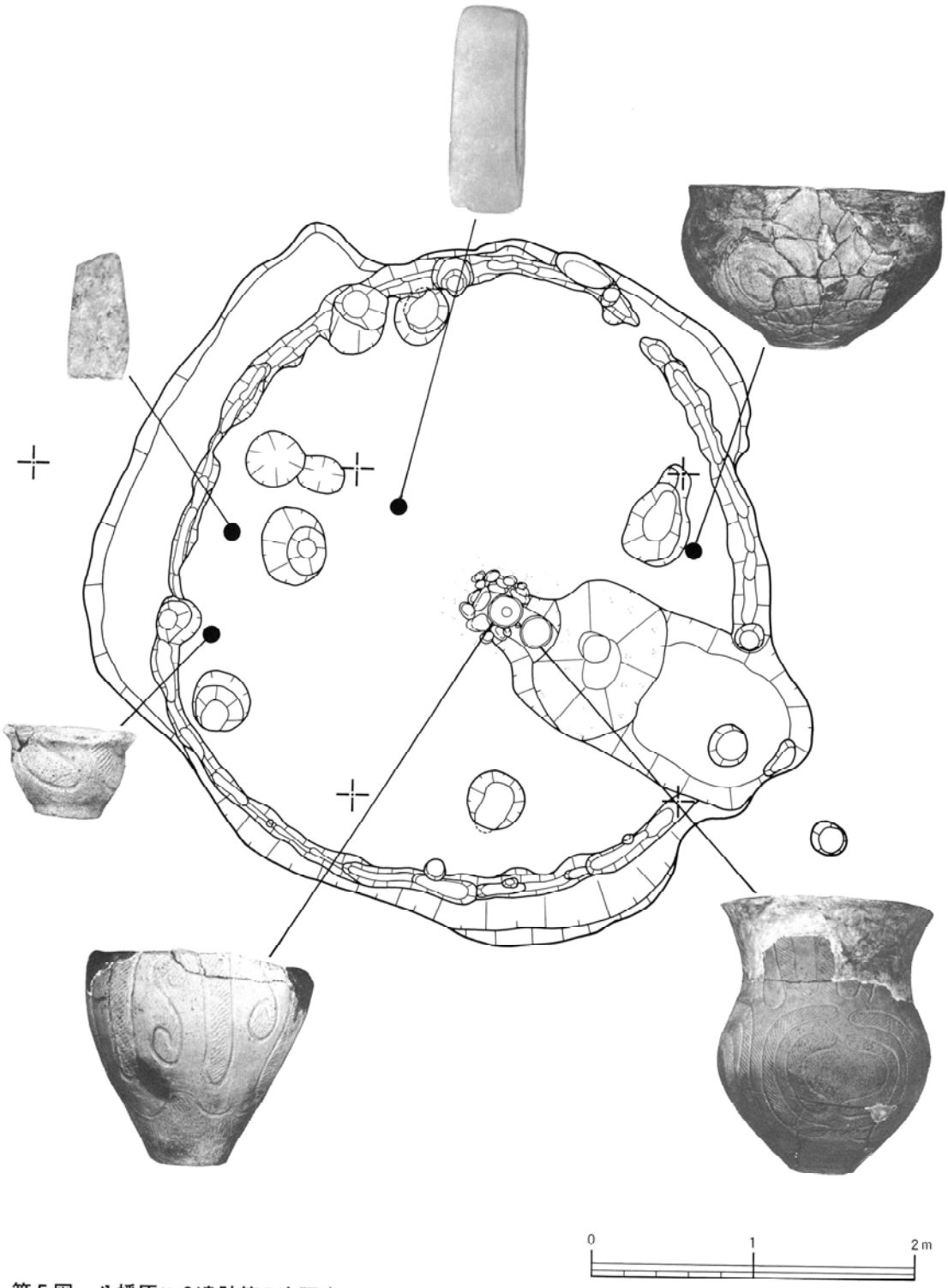
▲ＨＹ７全景



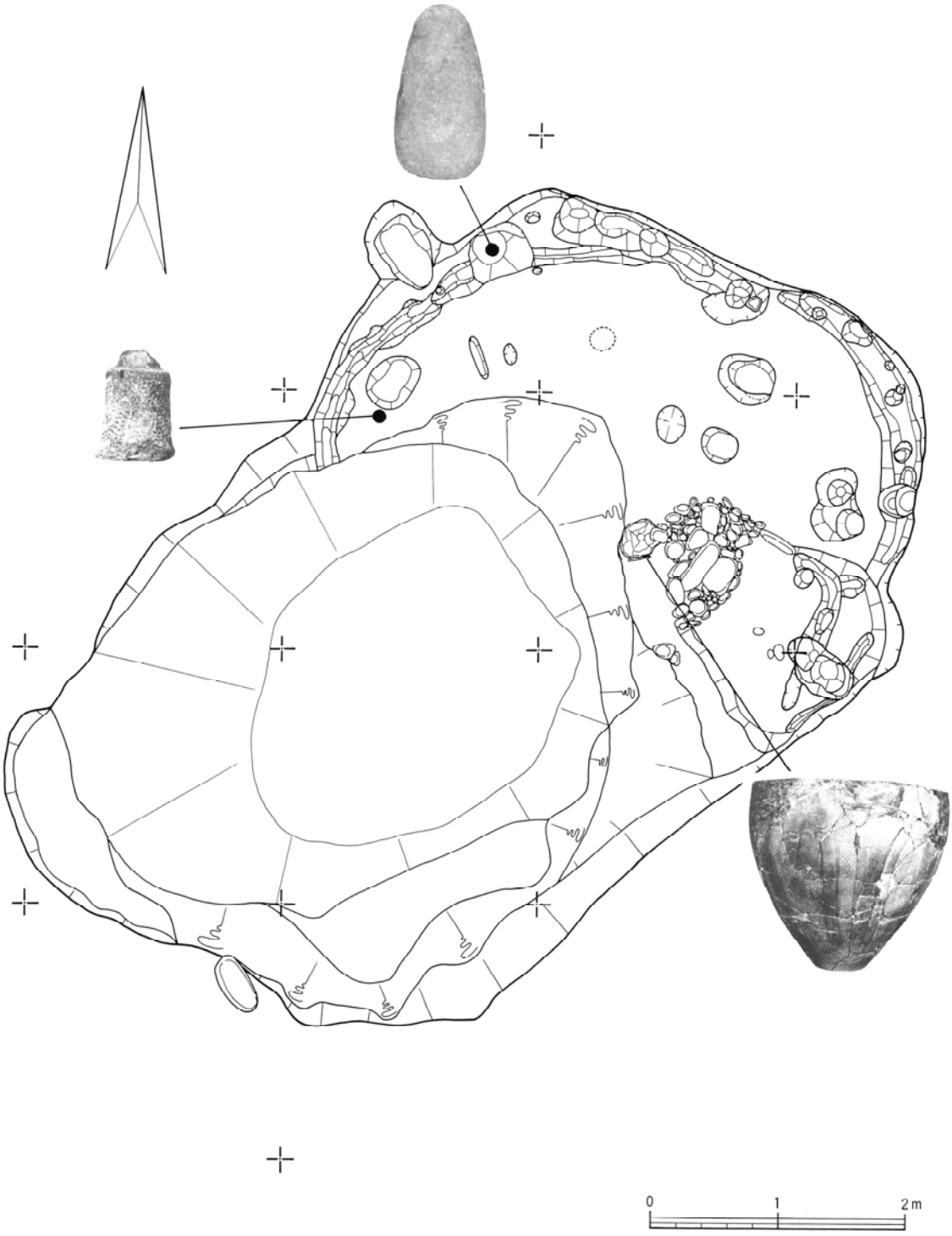
第２図　桑山遺跡群における古墳前期の集落全容図



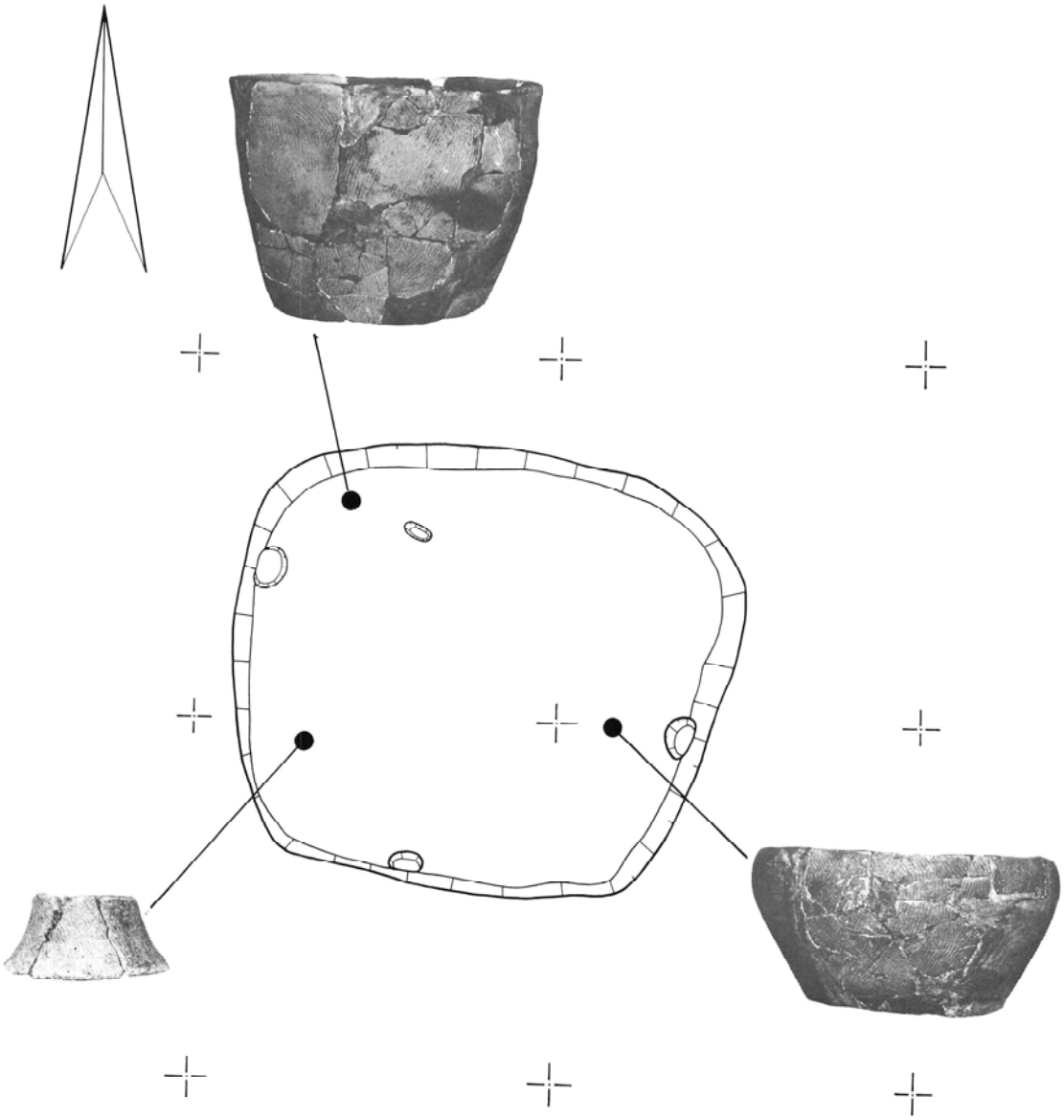
第４図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ１平面図

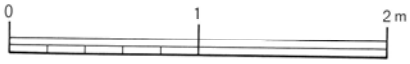


第５図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ２平面図

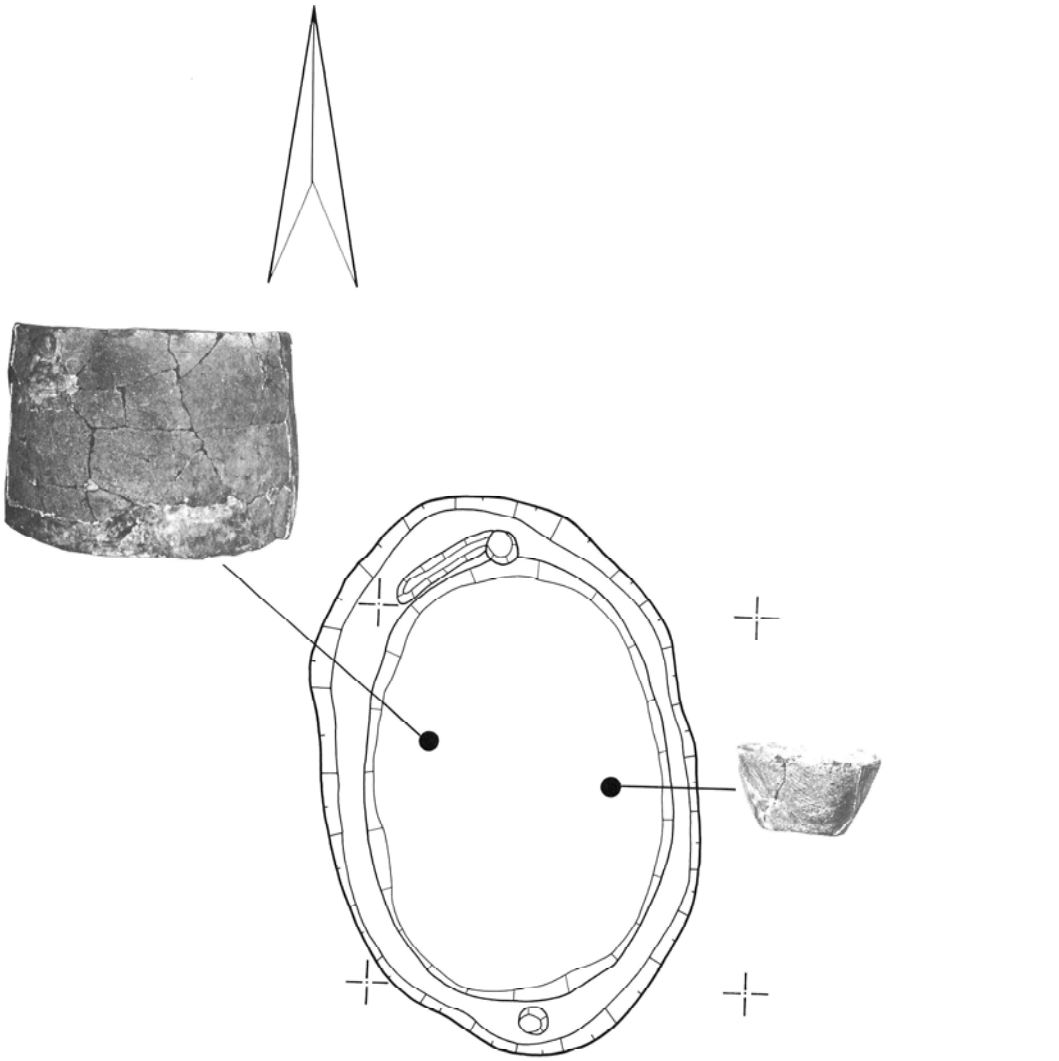


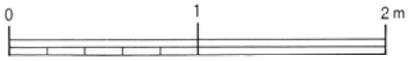
第６図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ３平面図



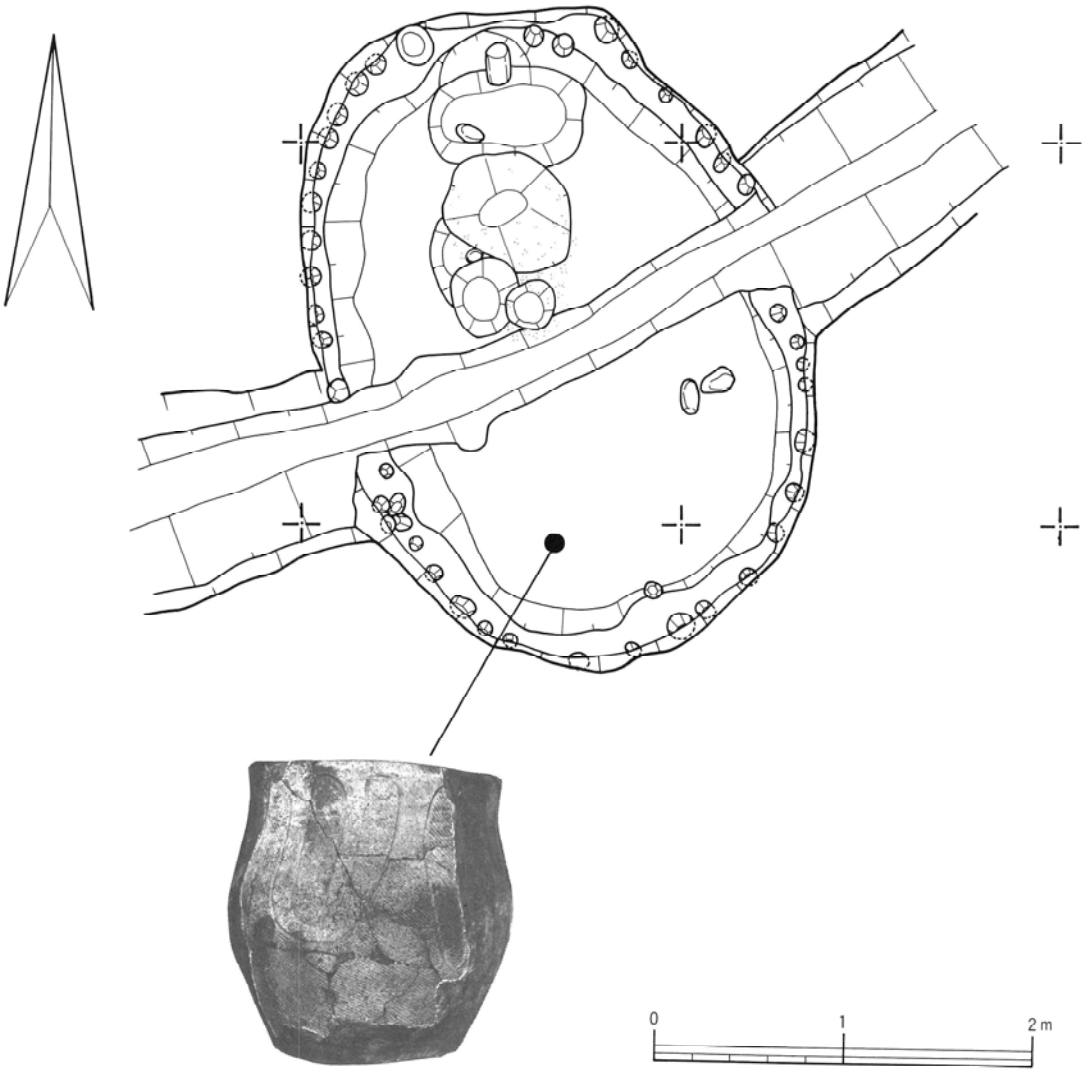


第７図　八幡原No３遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ４平面図

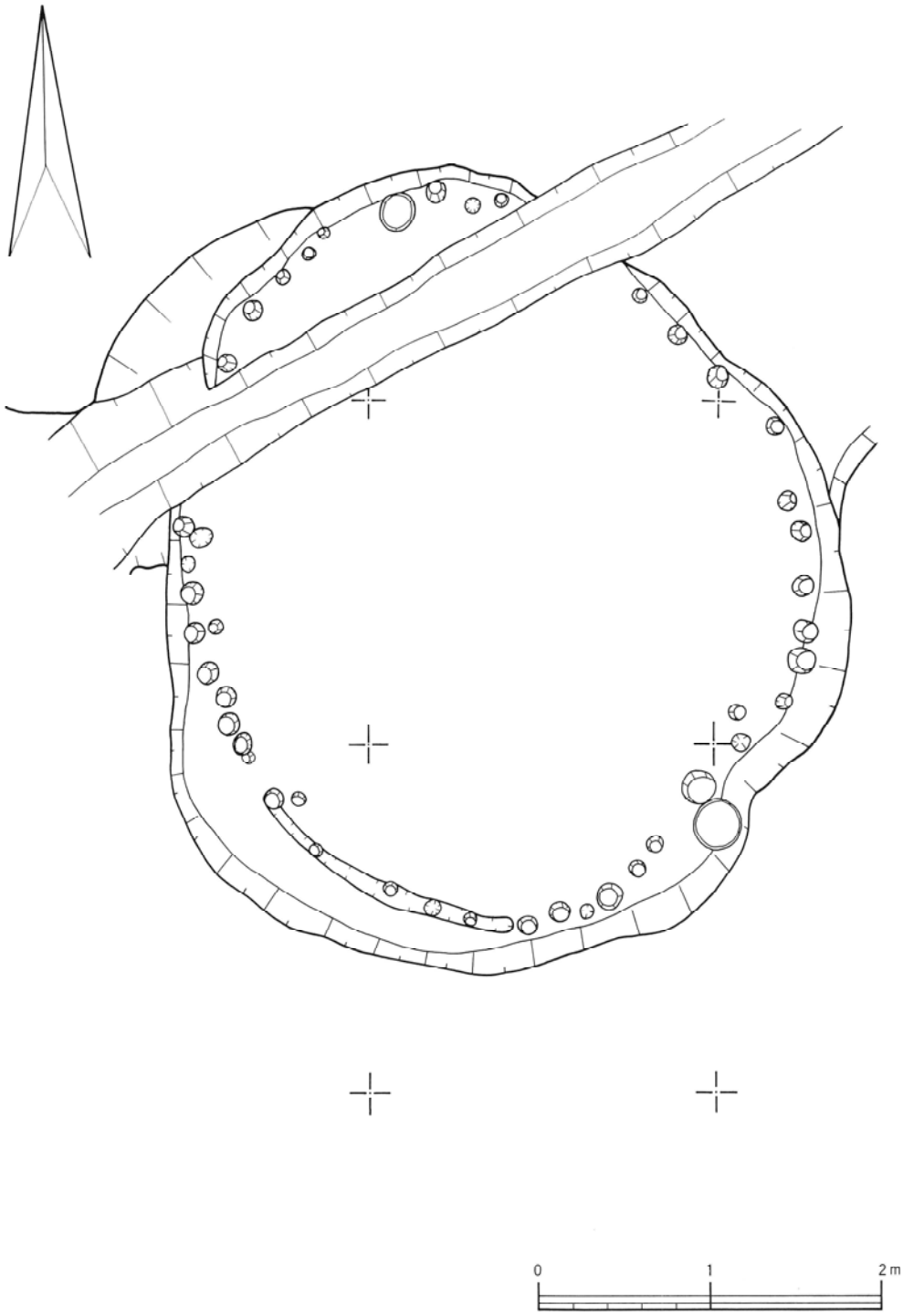




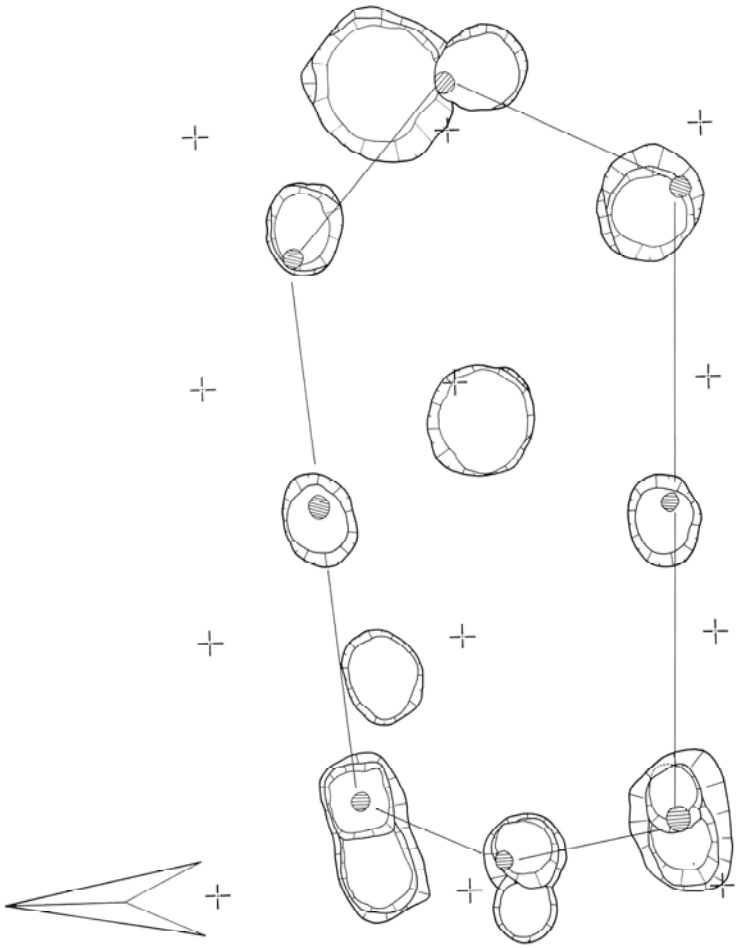
第８図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ５平面図



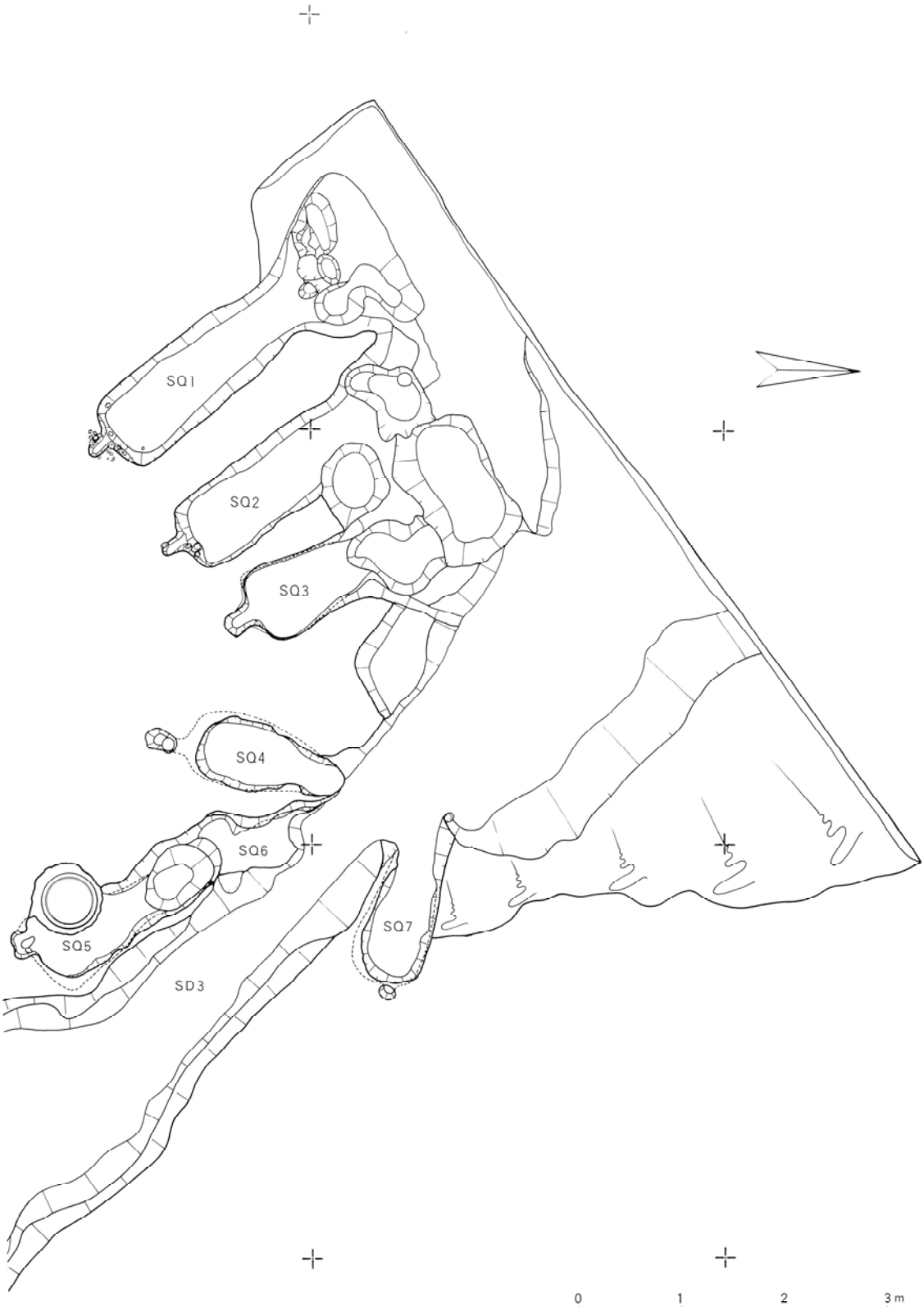
第９図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ６平面図



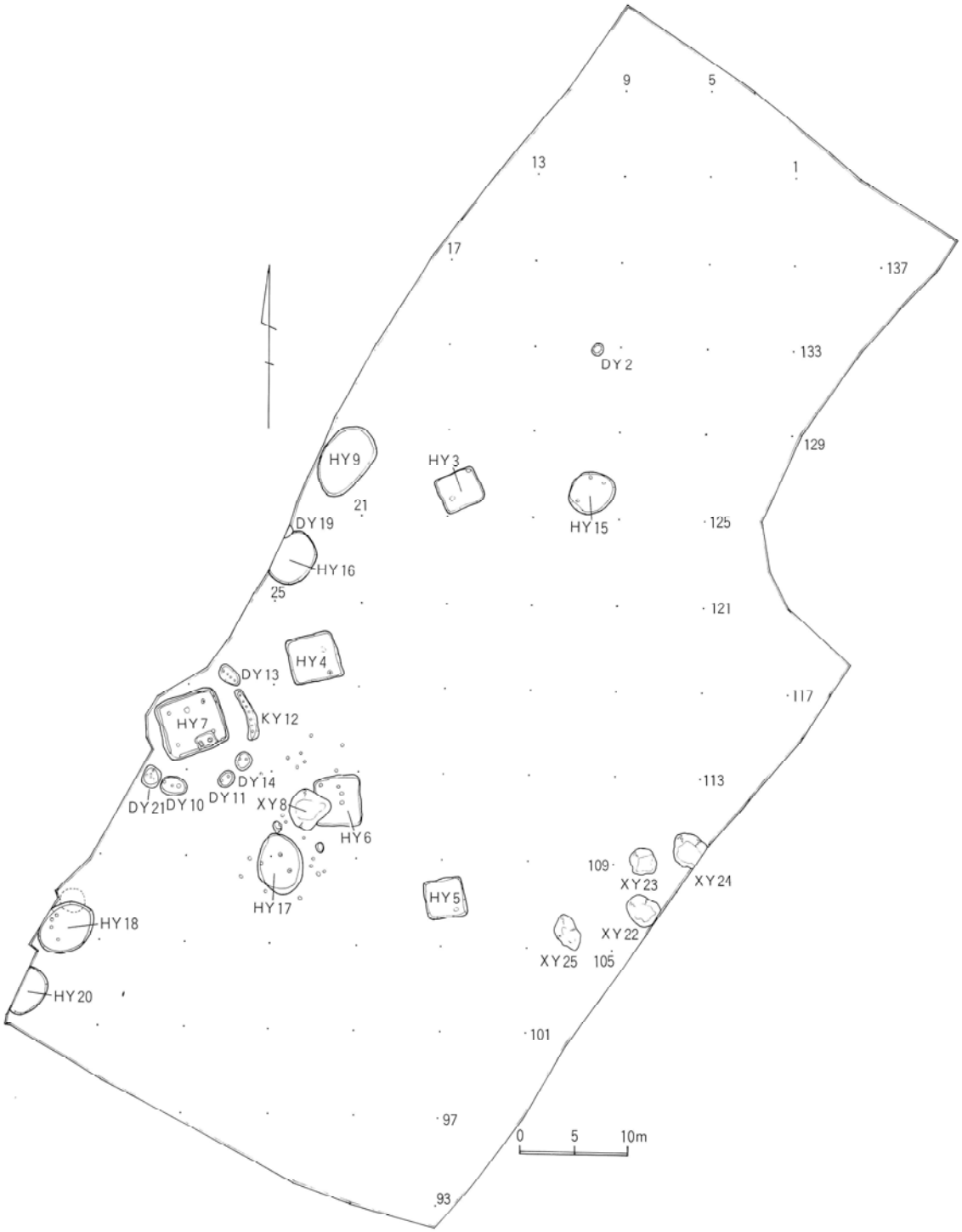
第10図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＨＹ８平面図



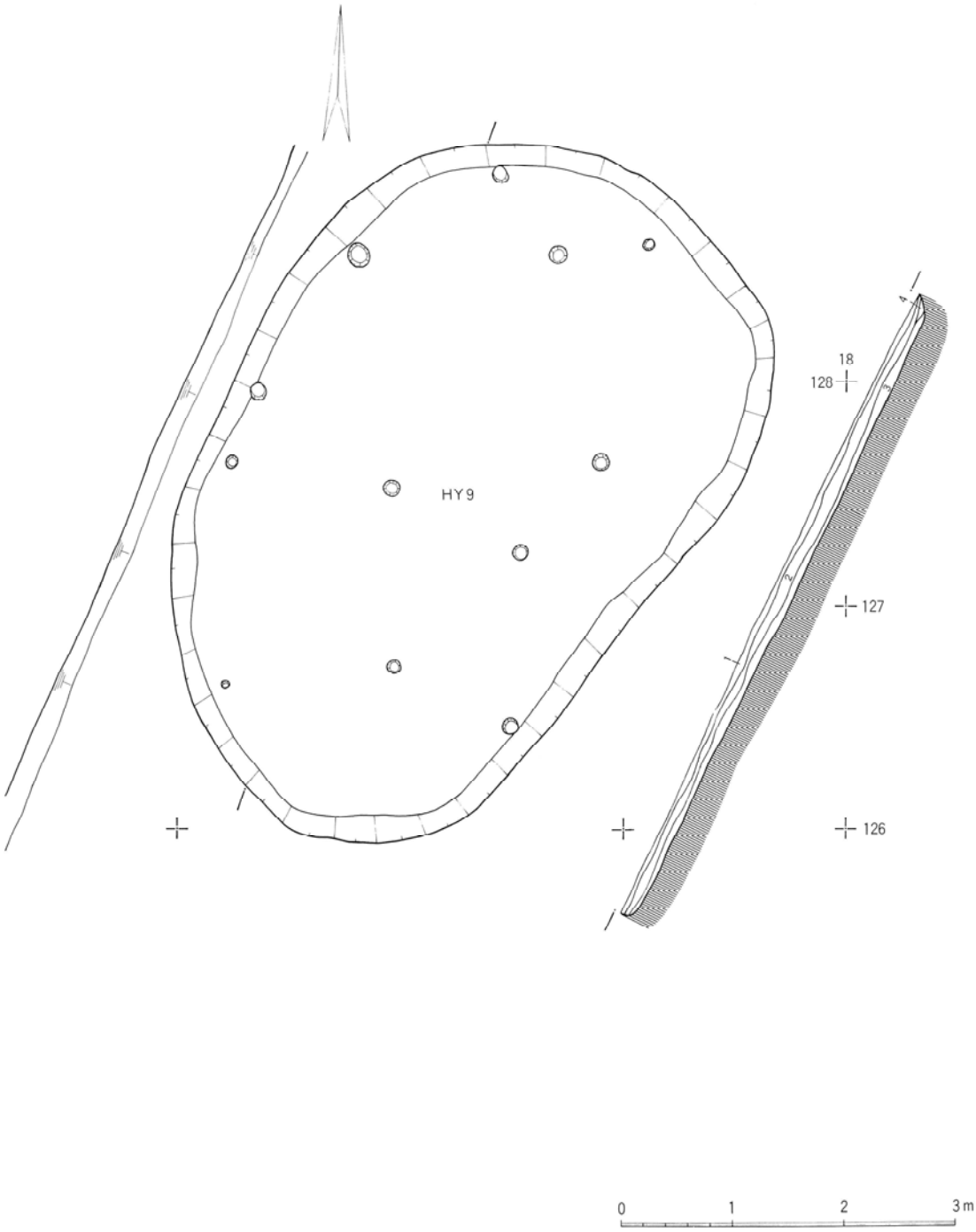
第11図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査ＢＹ１平面図



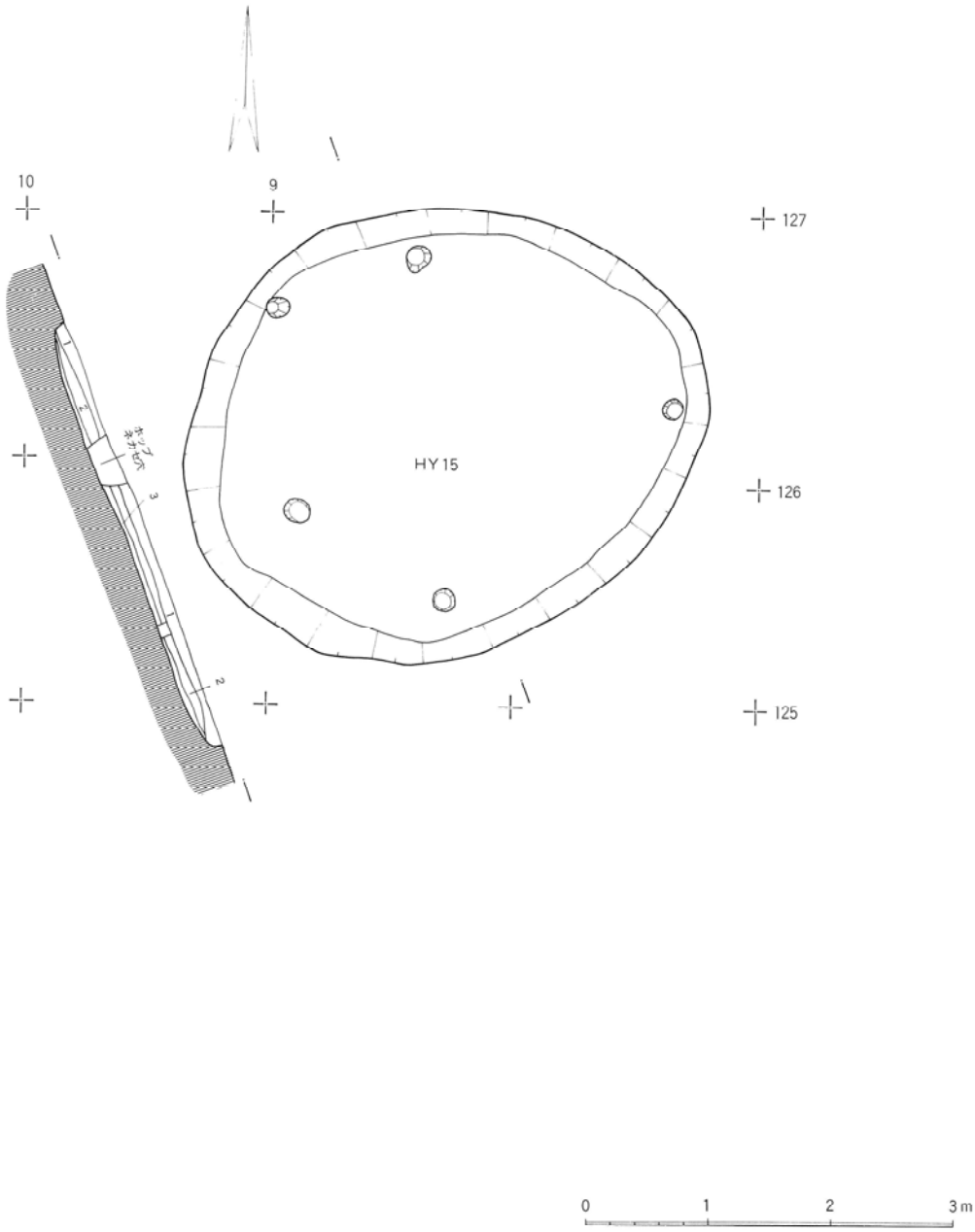
第12図　八幡原No3遺跡第Ⅰ次調査穴窯平面図



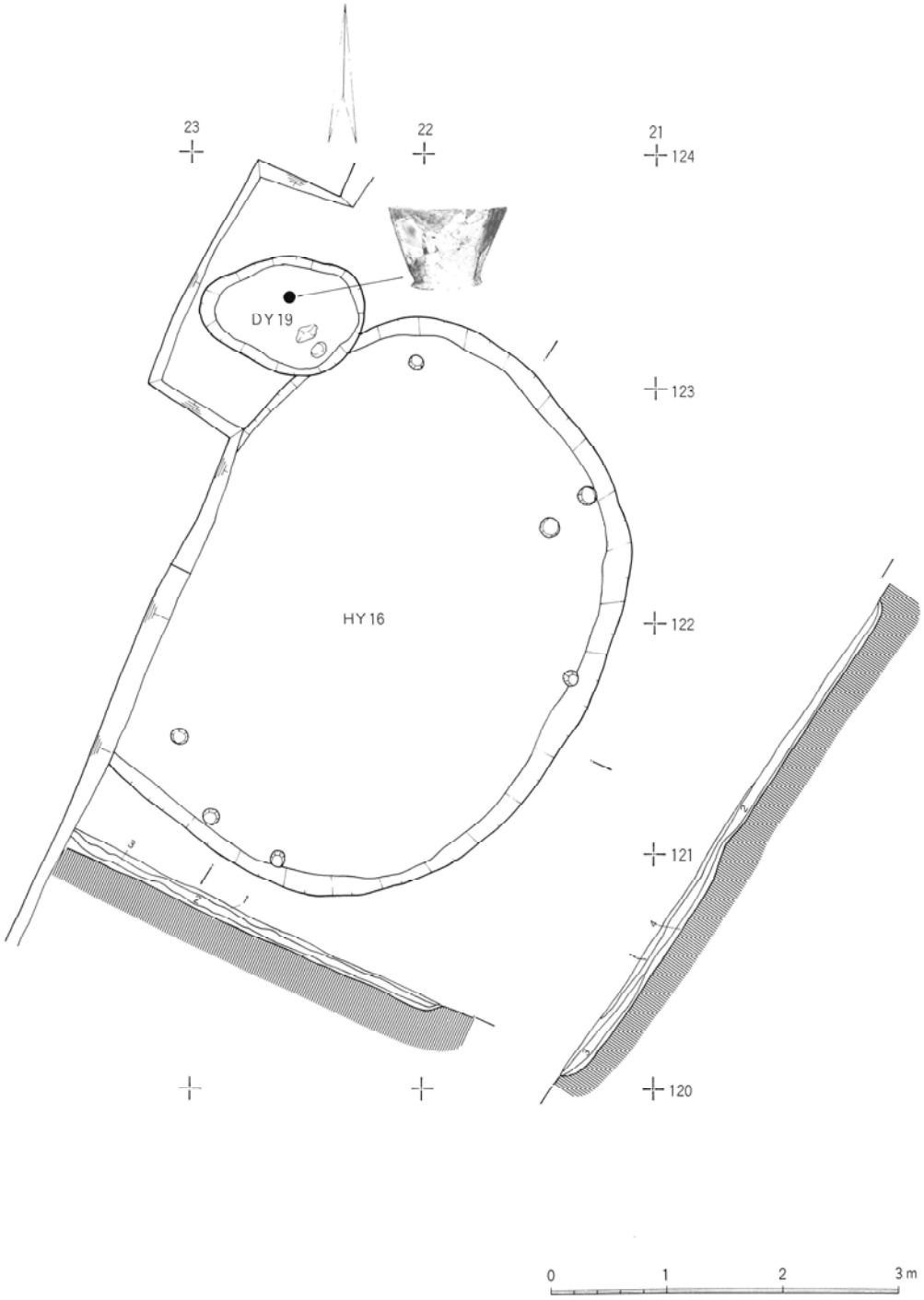
第13図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査遺構全体図



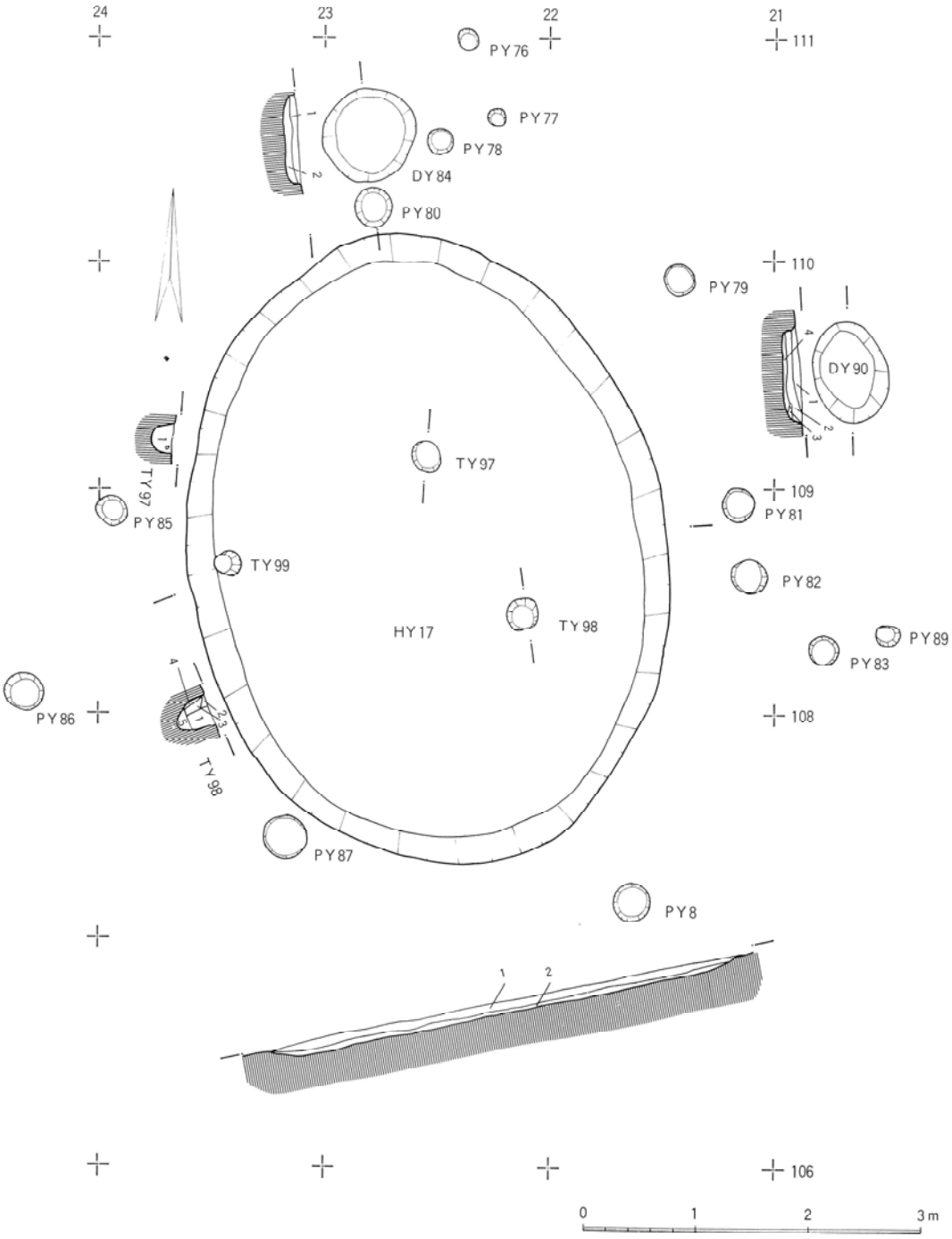
第14図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ９平面図



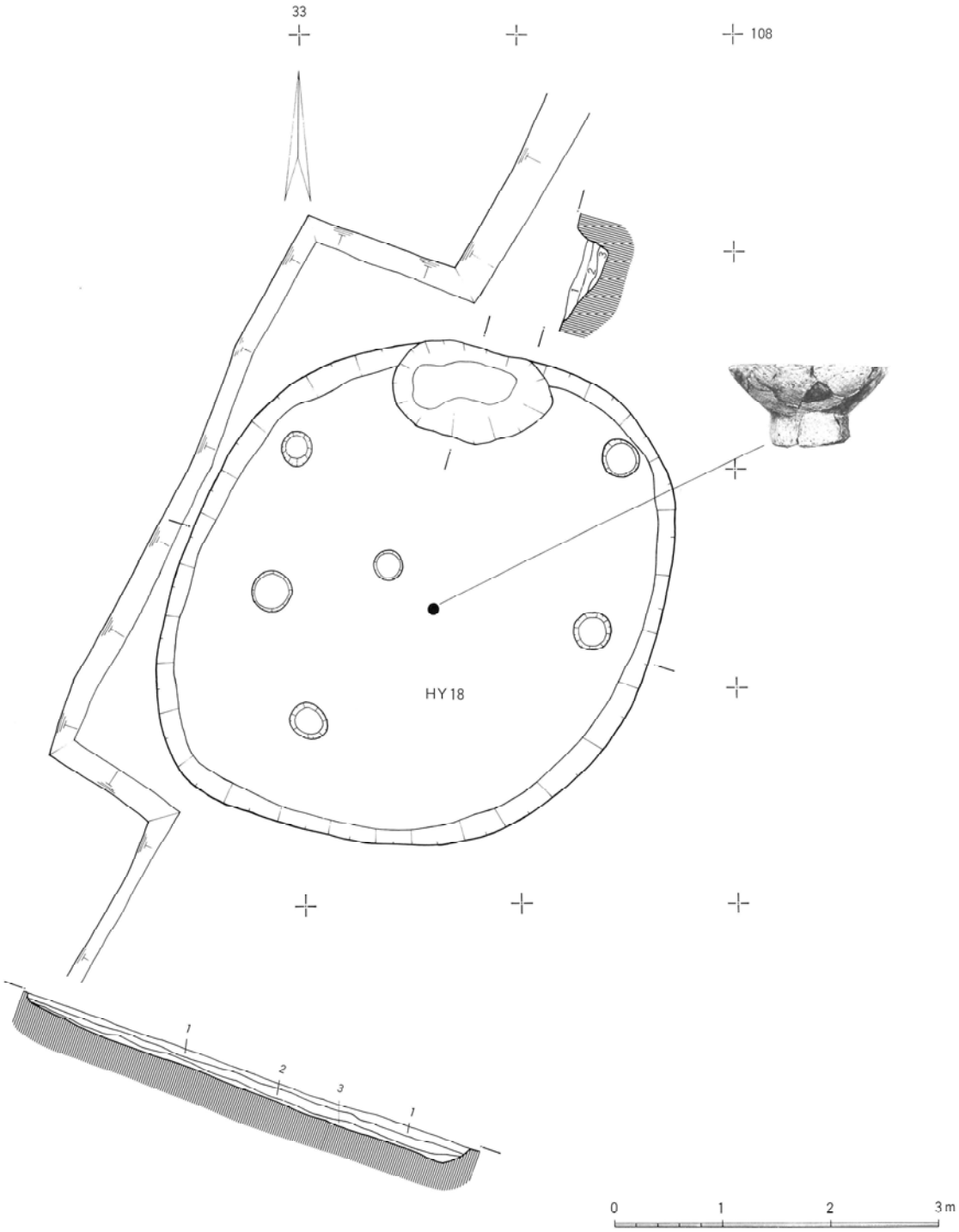
第15図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ15平面図



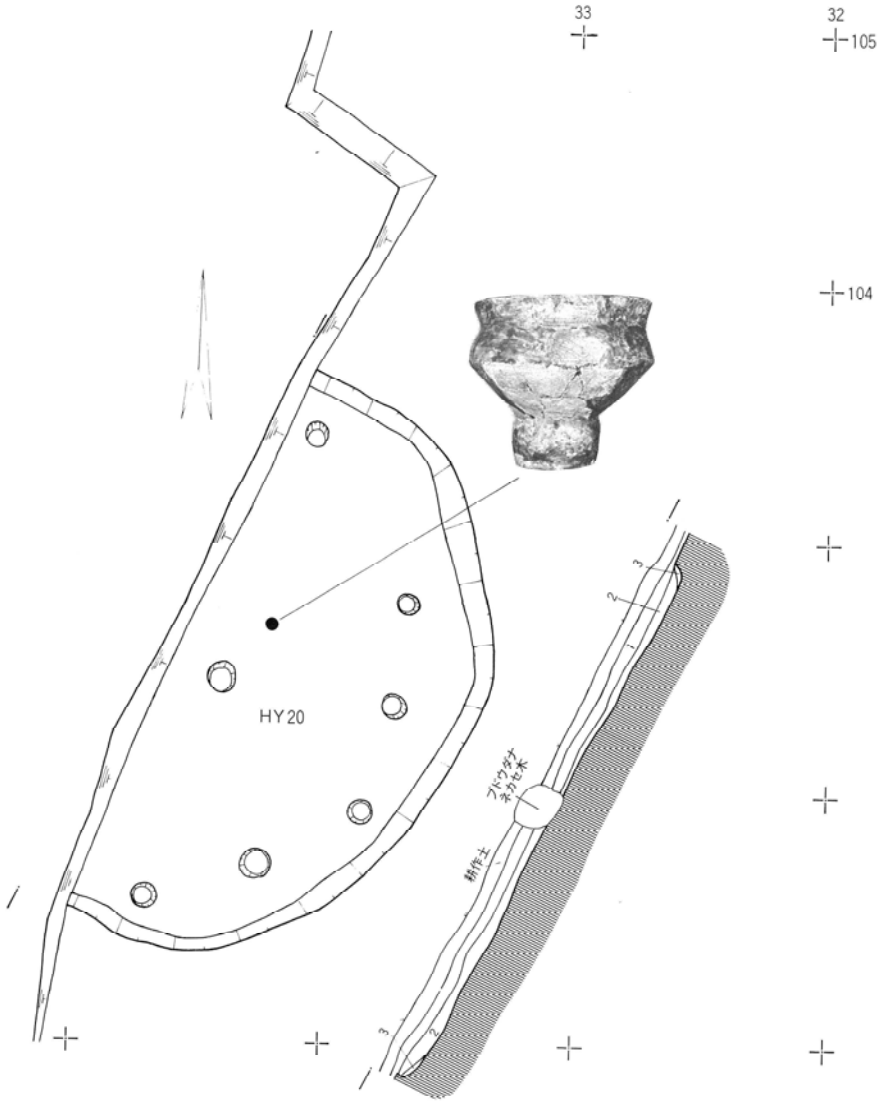
第16図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ16・ＤＹ19平面図



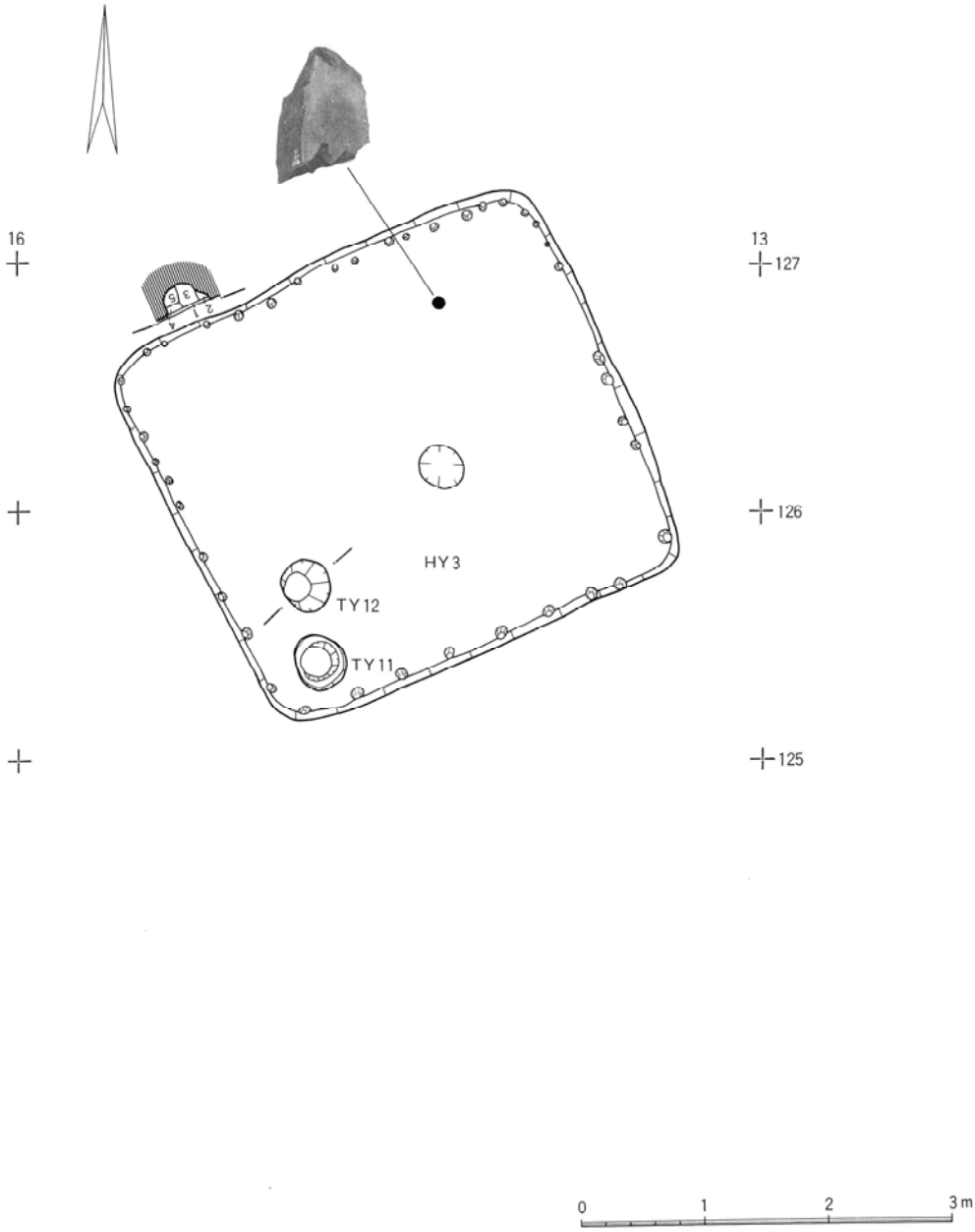
第17図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ17平面図



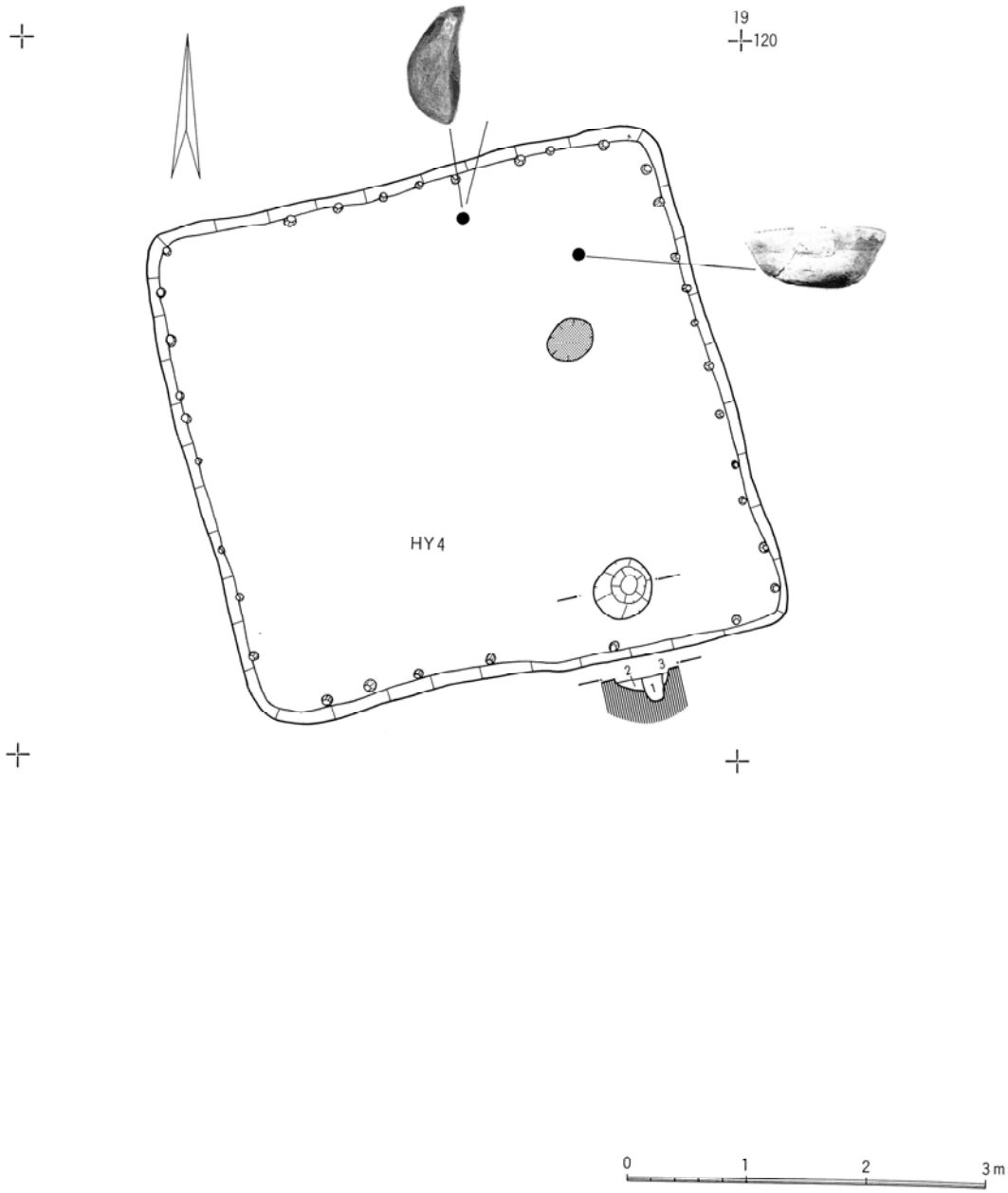
第18図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ18平面図



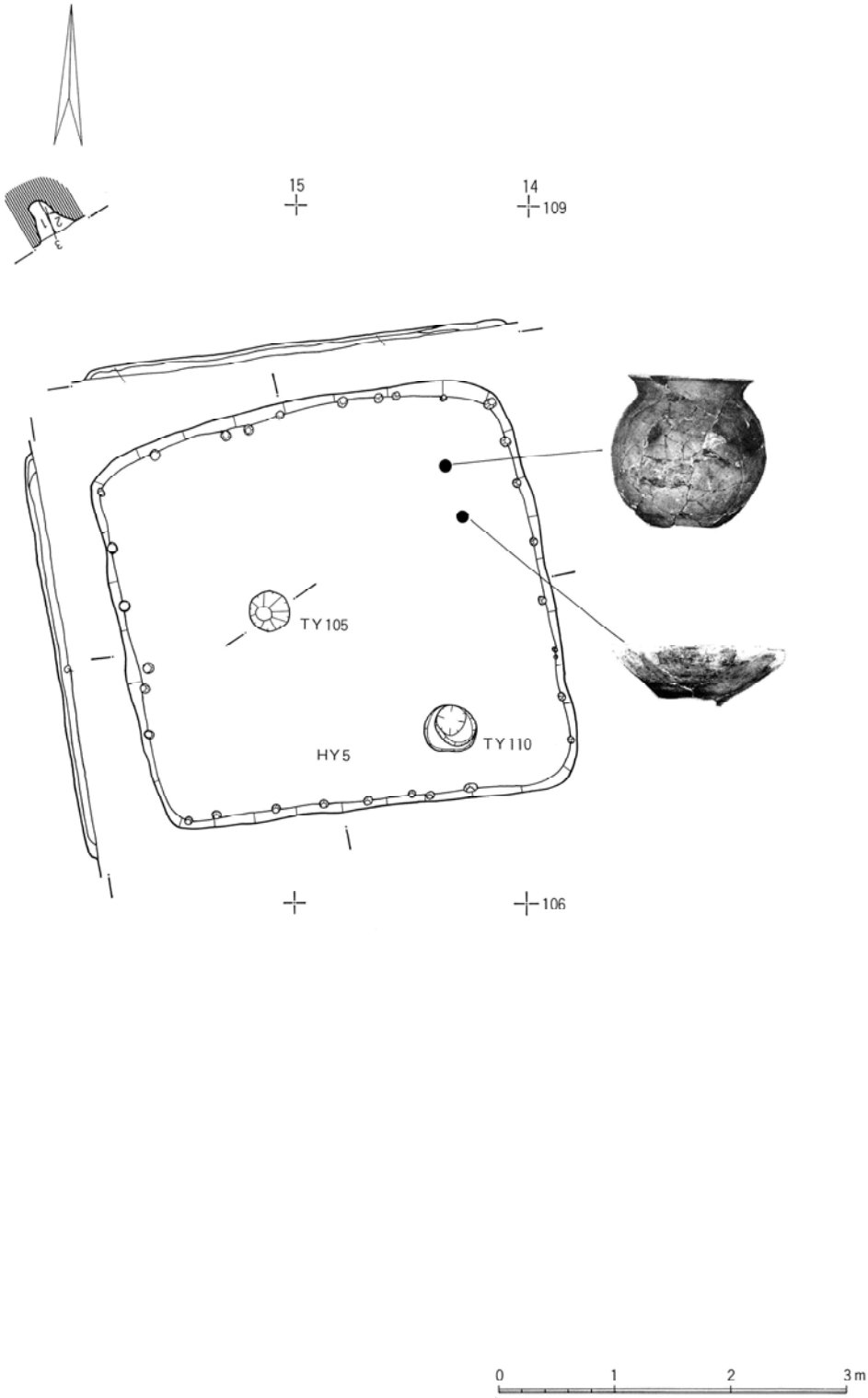
第19図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ20平面図



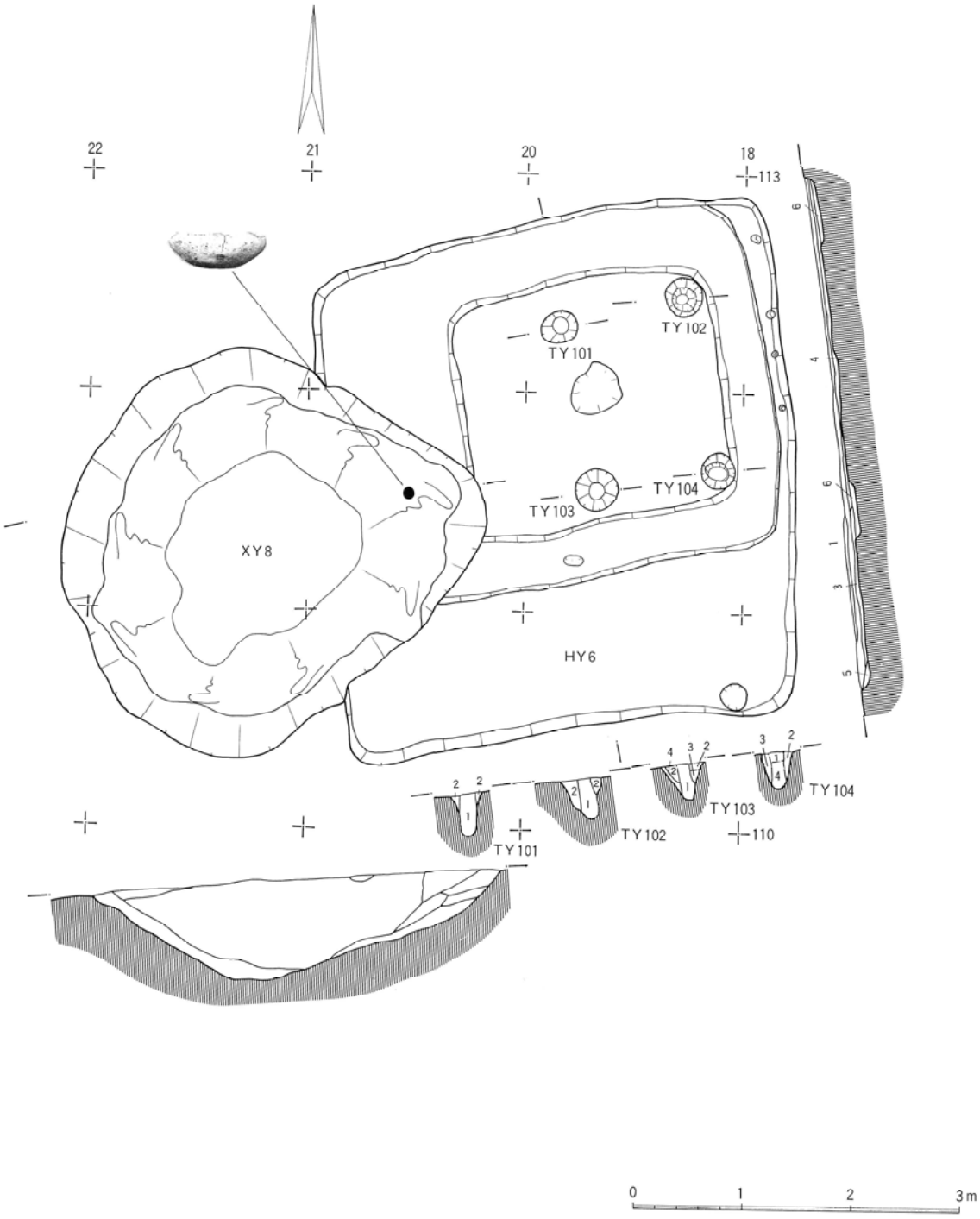
第20図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ３平面図



第21図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ４平面図

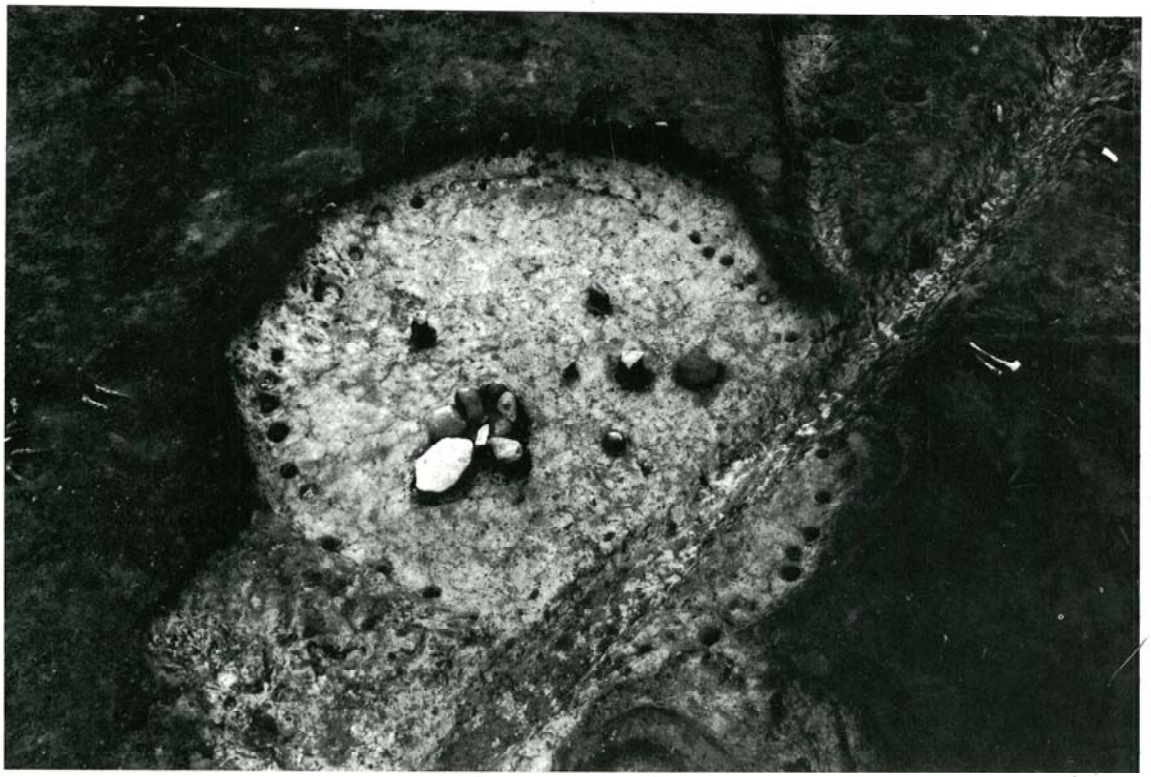


第22図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ５平面図

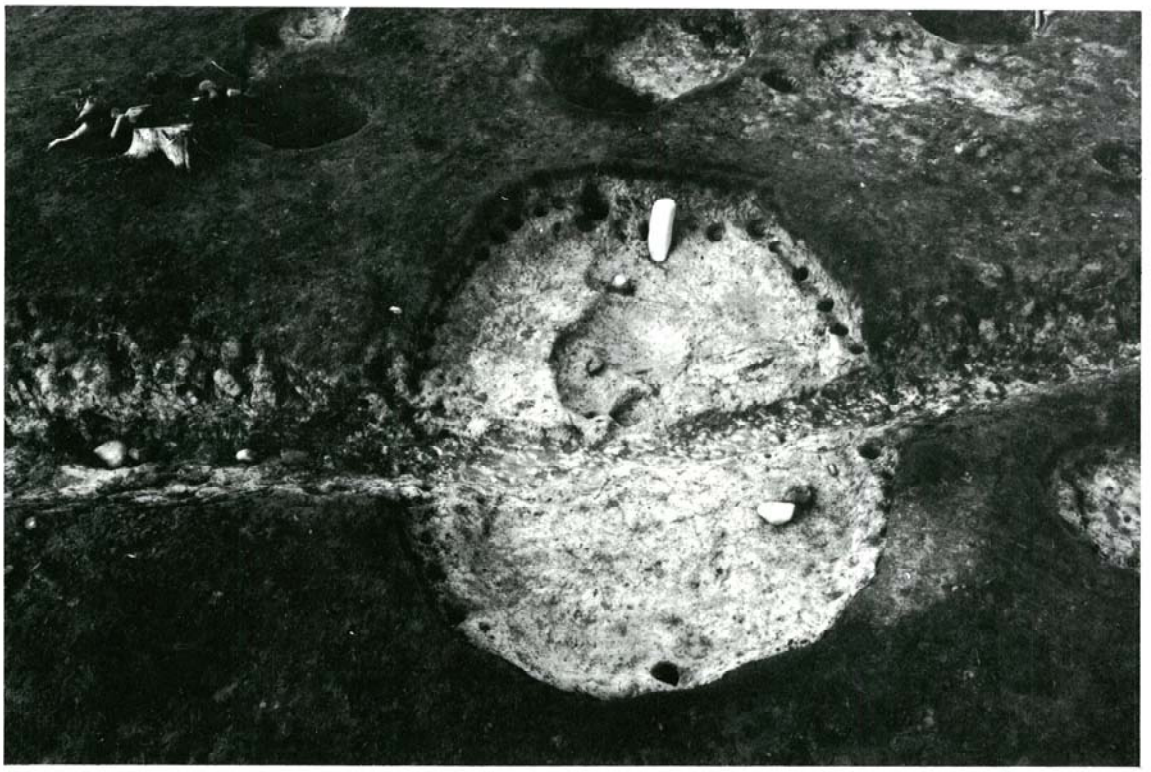


第23図　八幡原No3遺跡第Ⅱ次調査ＨＹ６・ＸＹ８平面図

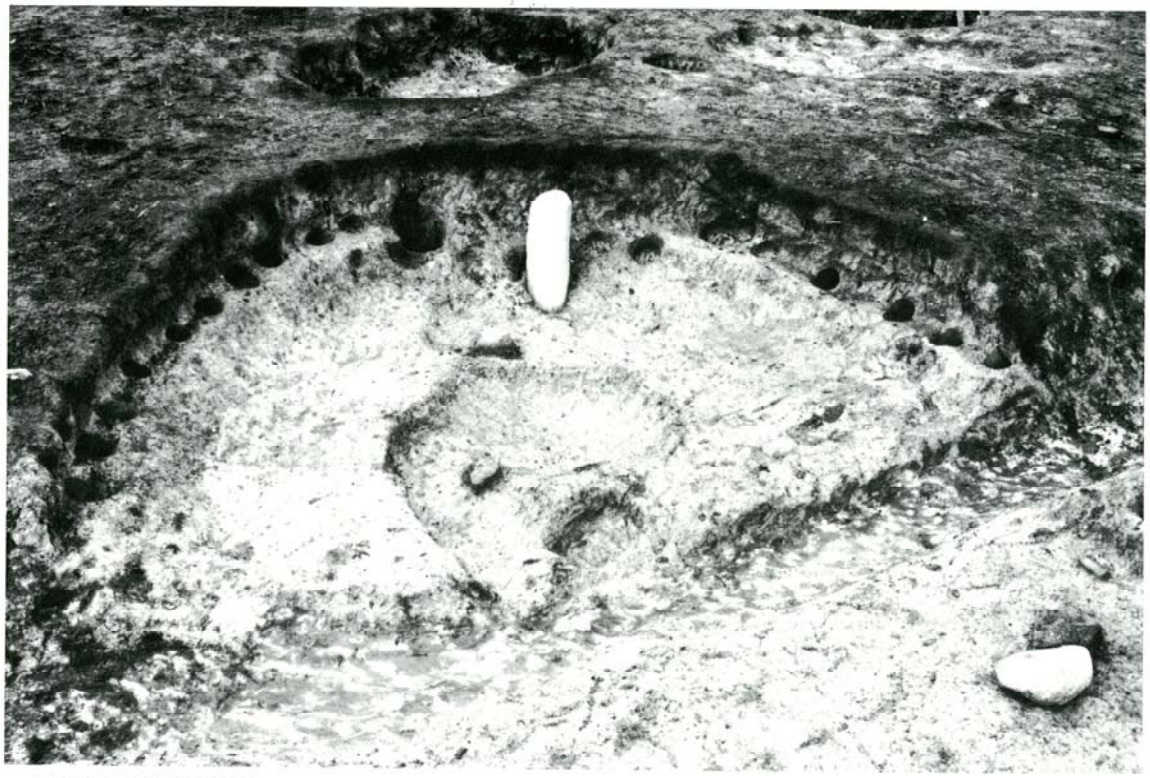
図　　版



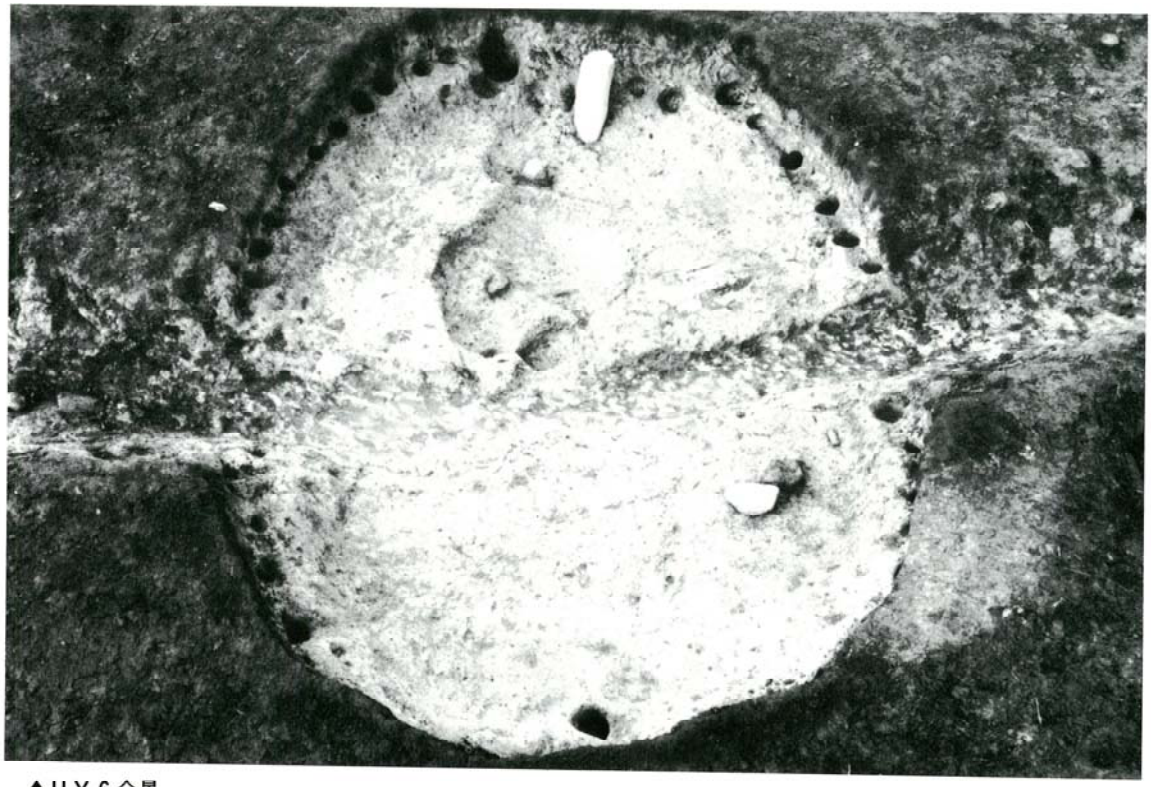
▲ＨＹ８全景



▲ＨＹ６全景

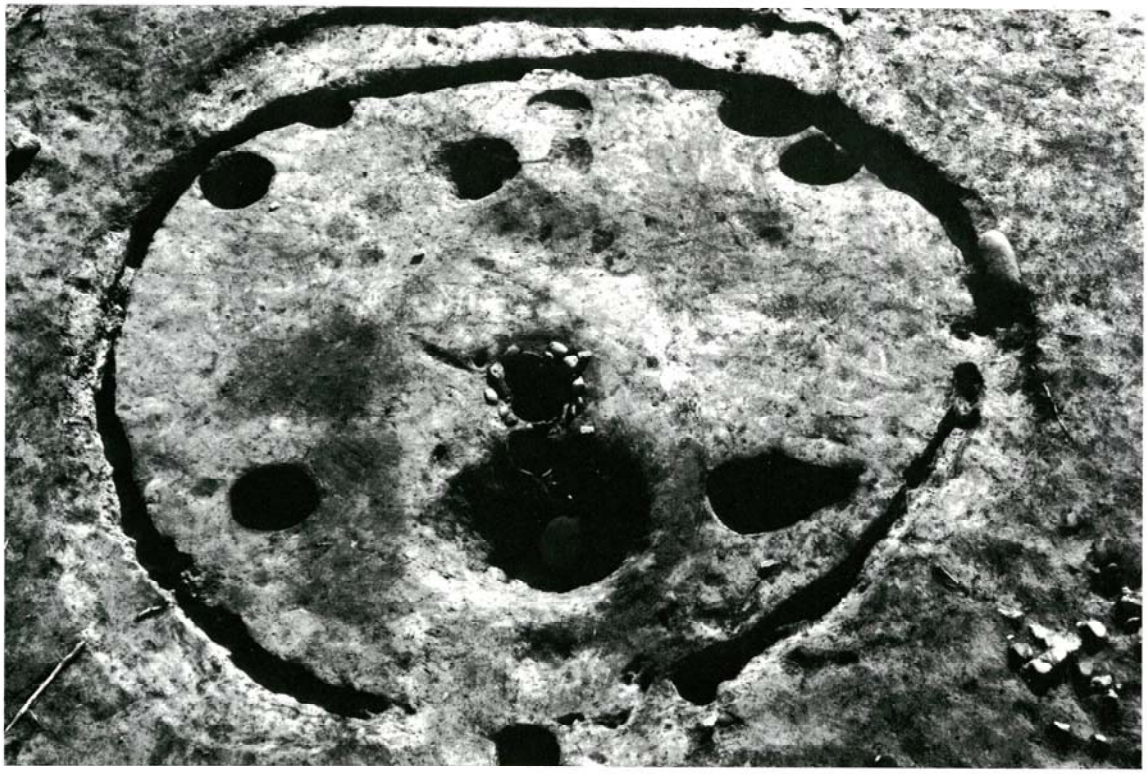


▲ＨＹ６立石近景状況



▲ＨＹ６全景

▲ＨＹ２プラン確認状況



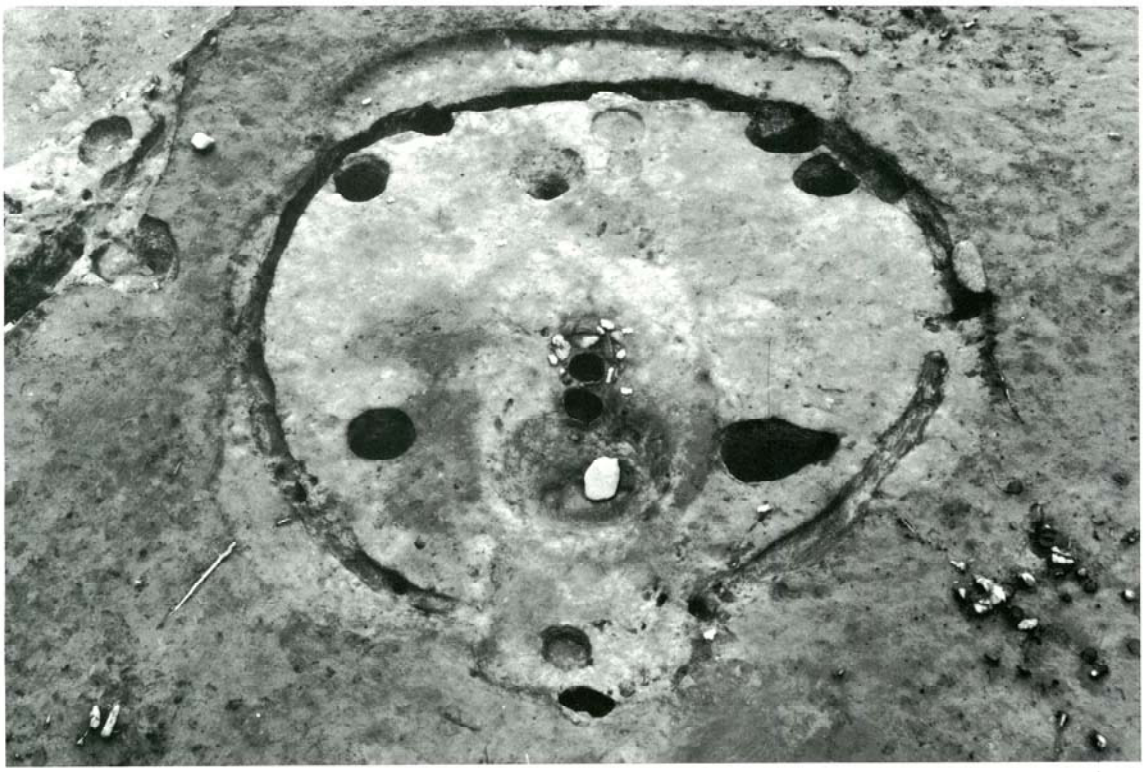
▲ＨＹ２全景

第四図版八幡原No3第1次調査の発掘（4）

▲ＨＹ３発掘状況

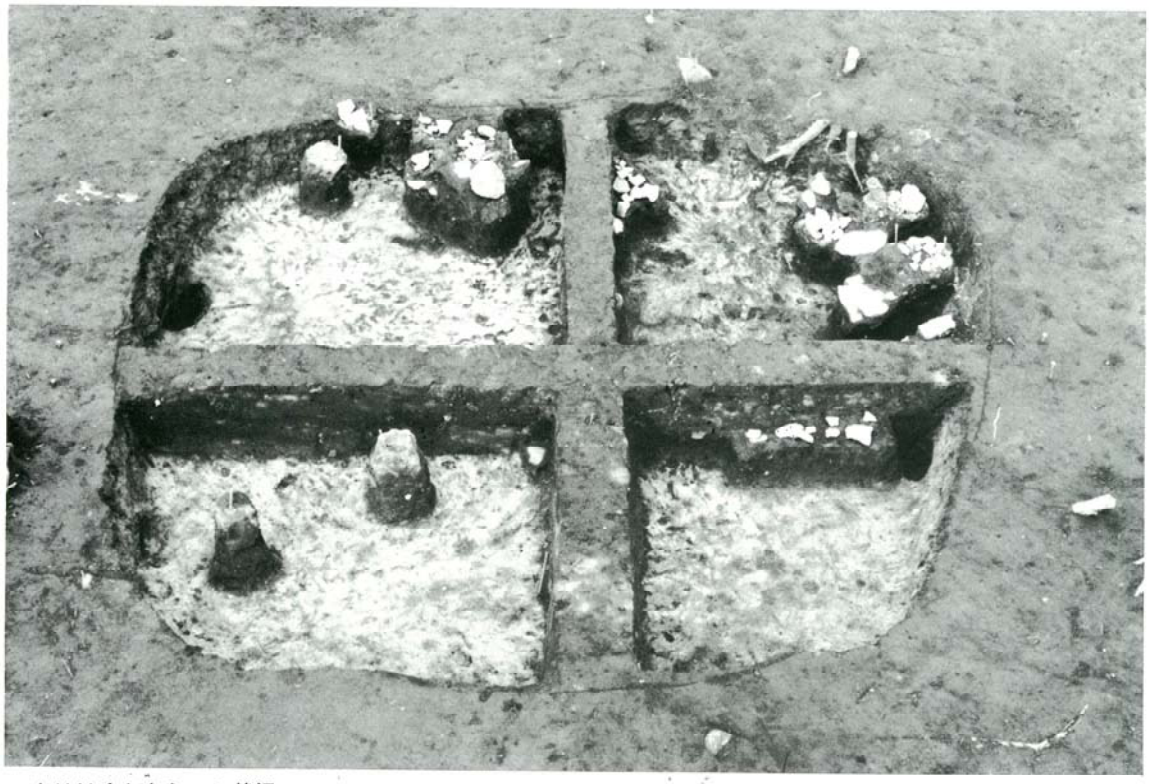
▲ＨＹ３複式炉全景

▲ＨＹ２，ＨＹ３全景

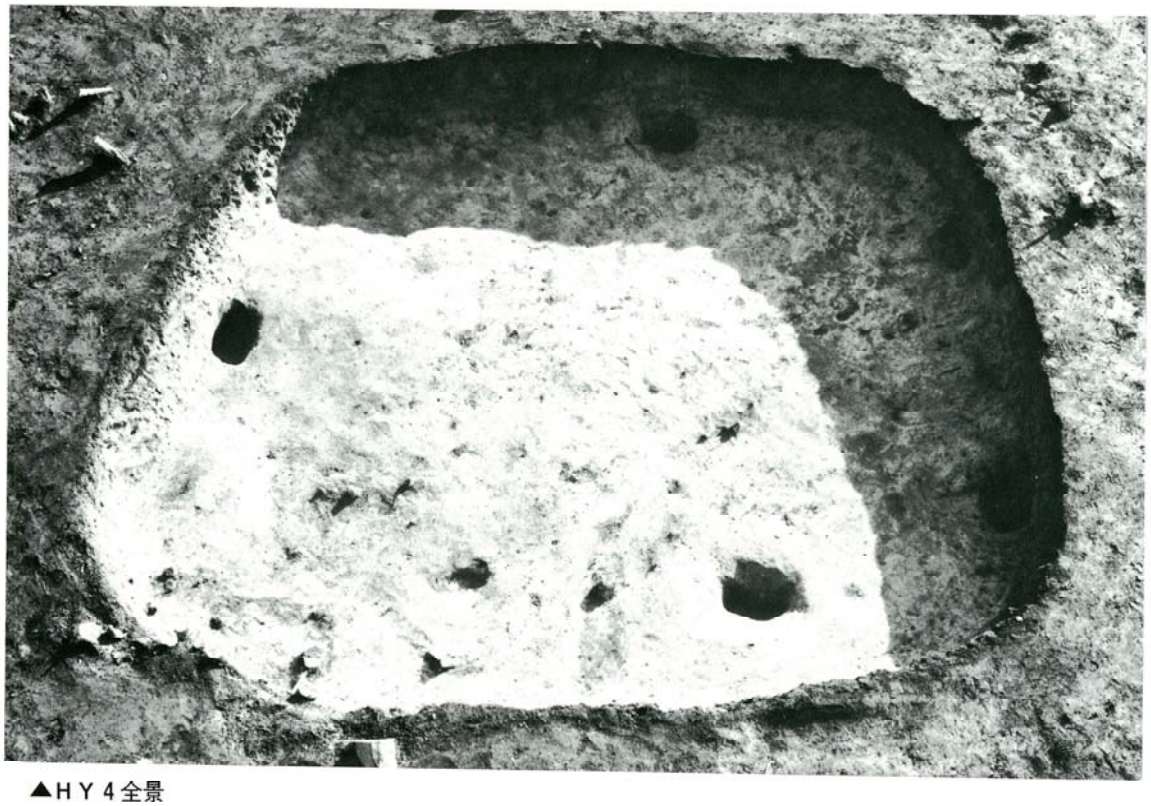


▲ＨＹ２全景

第六図版八幡原No3第1次調査の発掘（6）



▲ＨＹ４セクション状況



▲ＨＹ４全景

▲ＨＹ５セクション状況

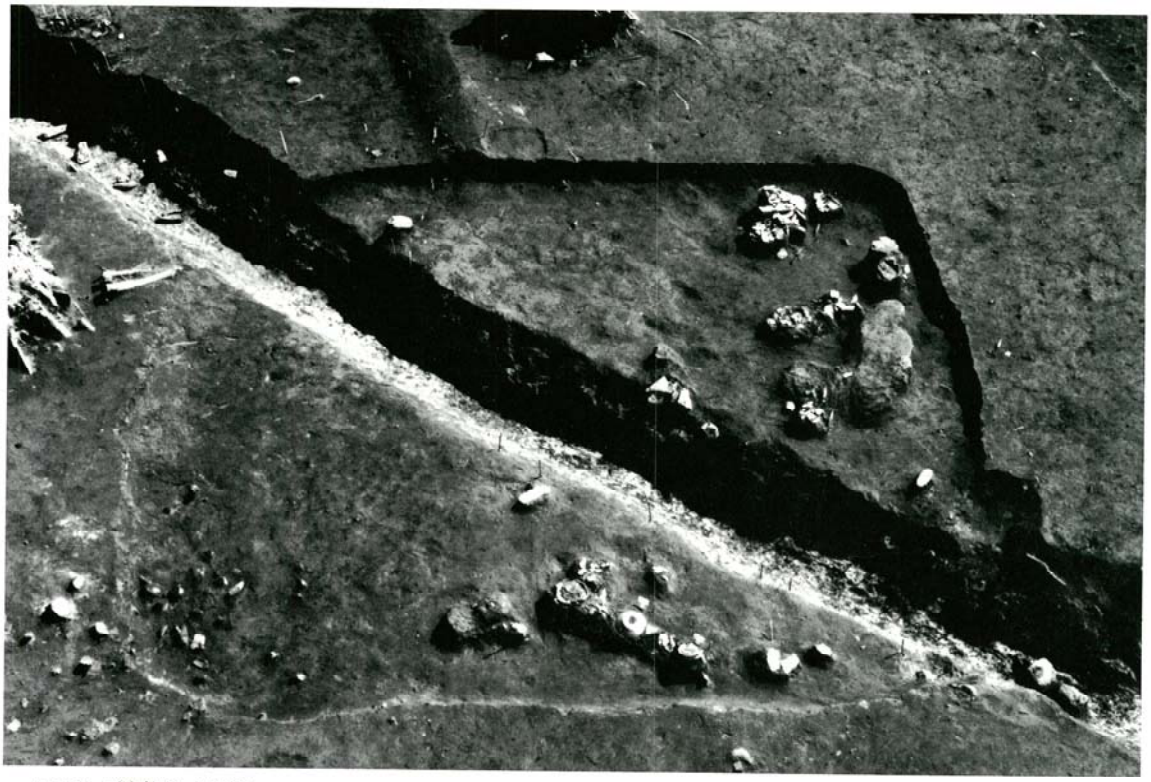
▲ＢＹ１全景

▲土壙群全景

▲畠跡全景

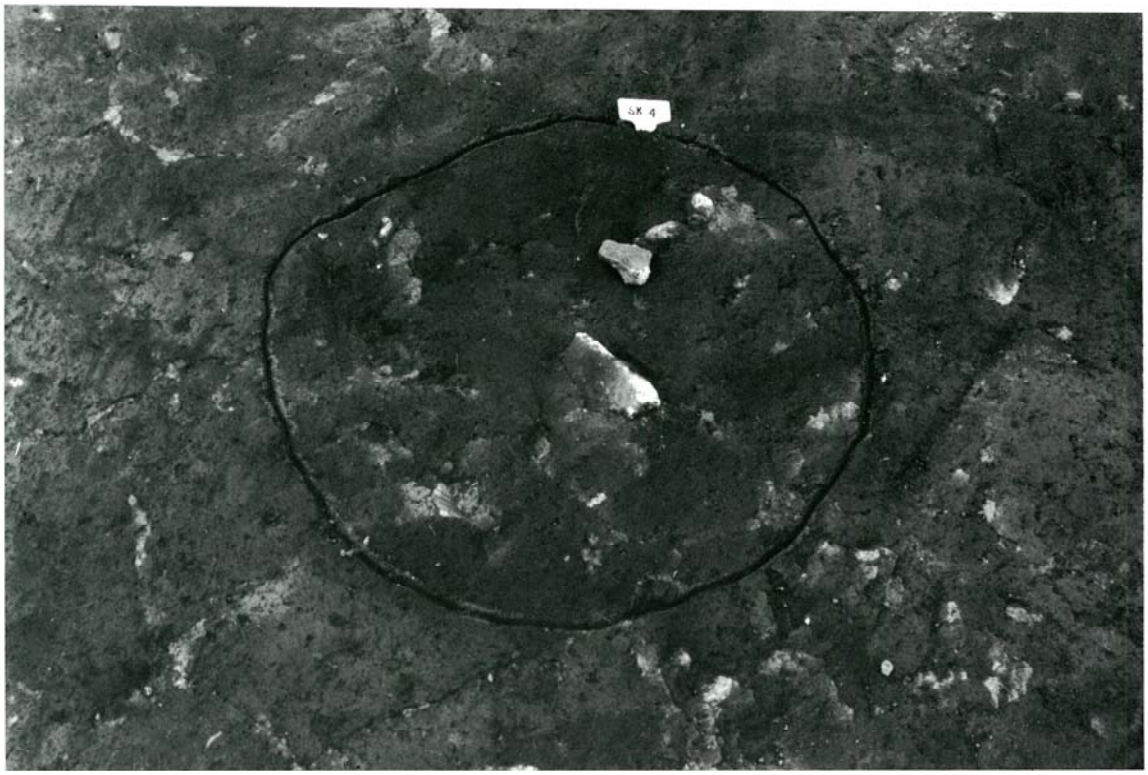
▲第１焼性遺構セクション状況

▲第２焼性遺構全景

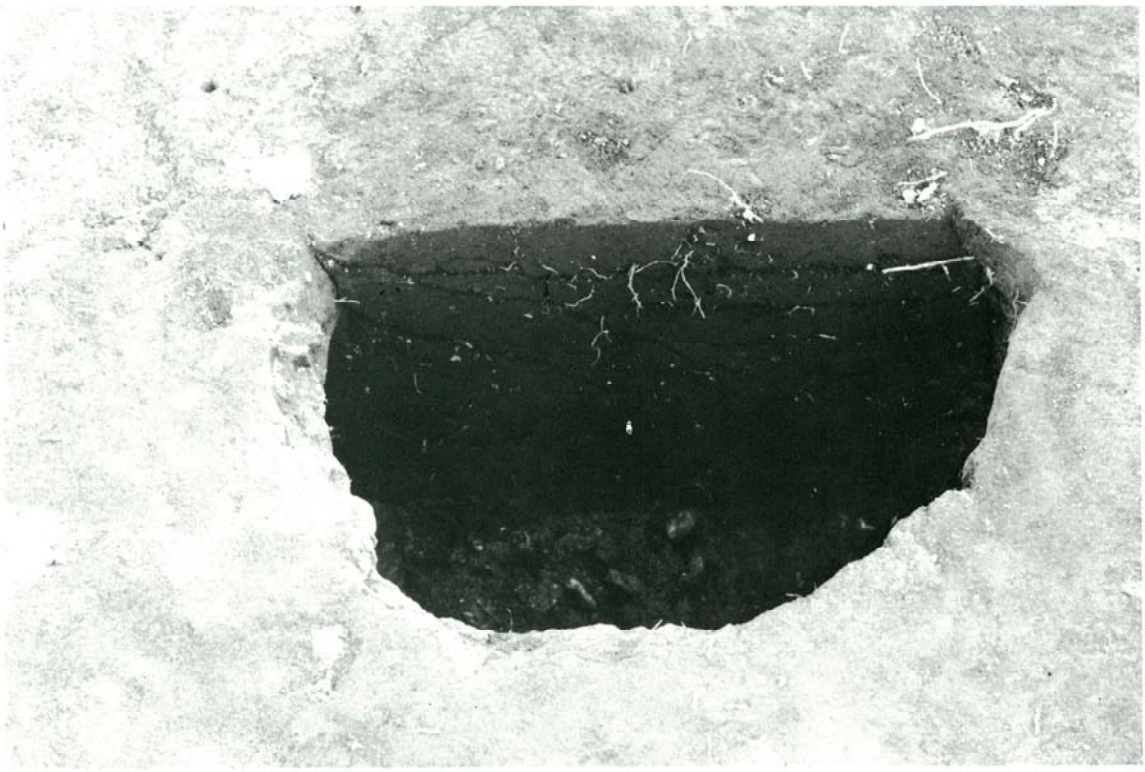


▲ＨＹ１遺物出土状況

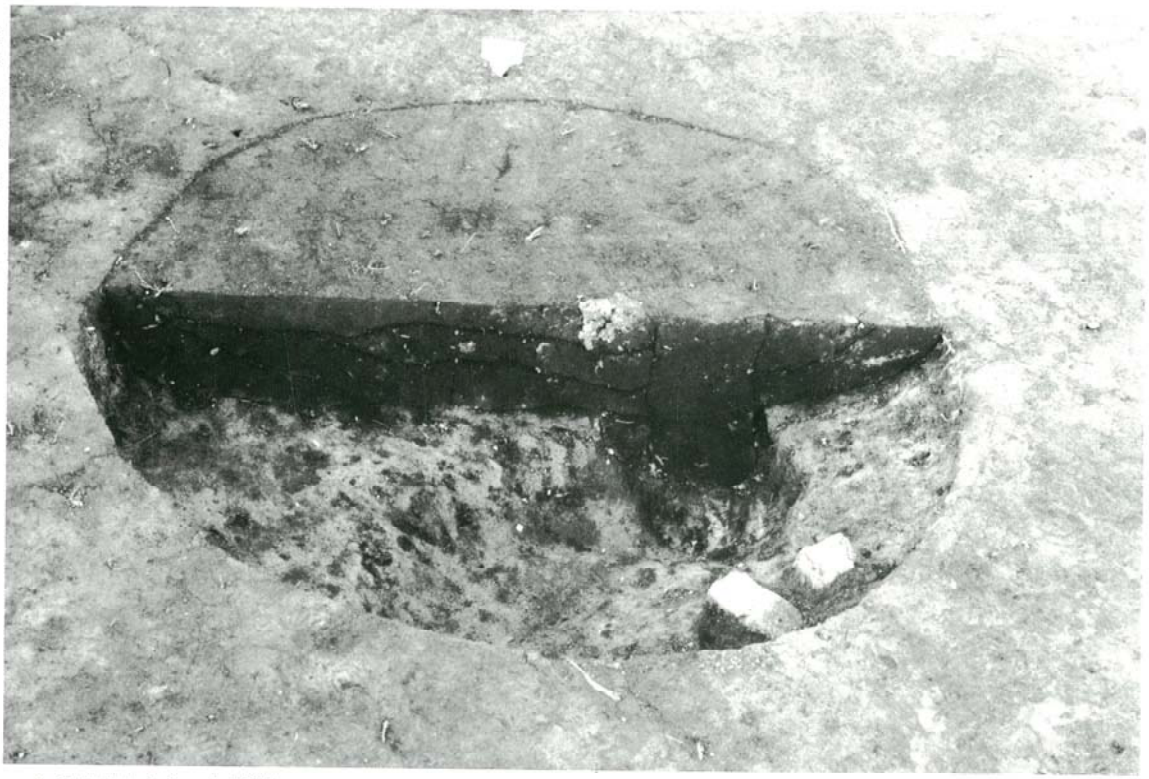
▲ＨＹ１全景



▲ＳＫ４プラン確認状況

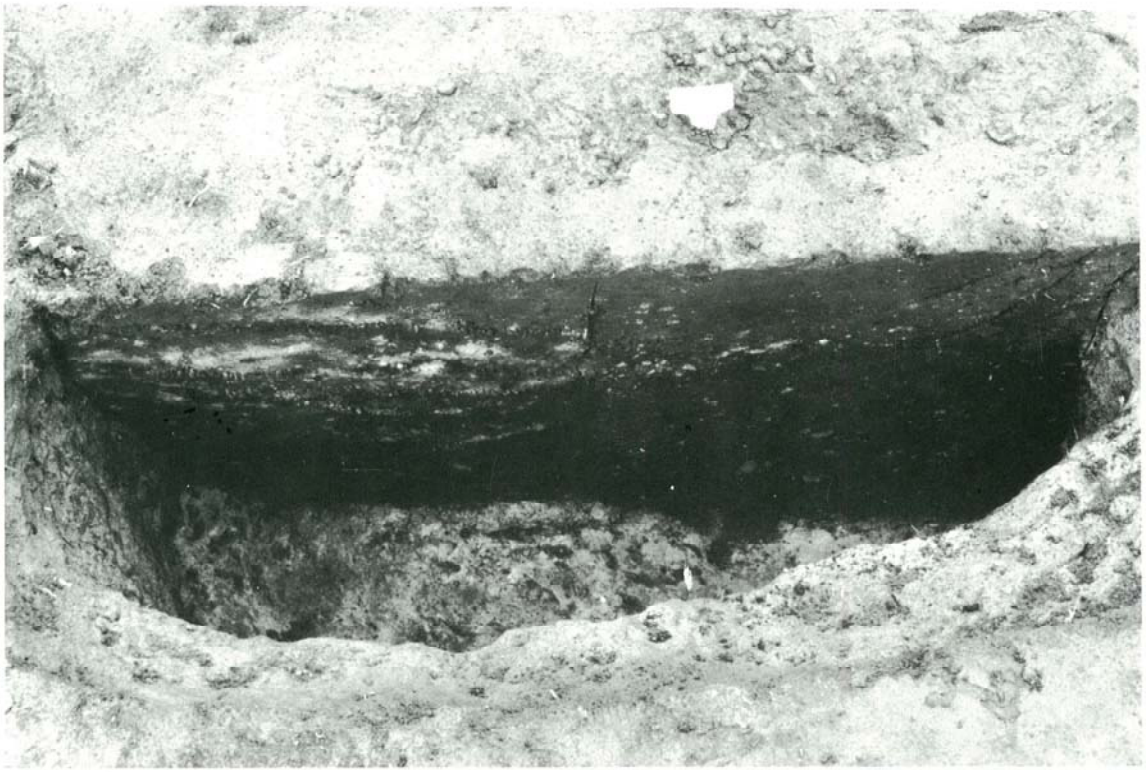


▲ＳＫ11セクション状況



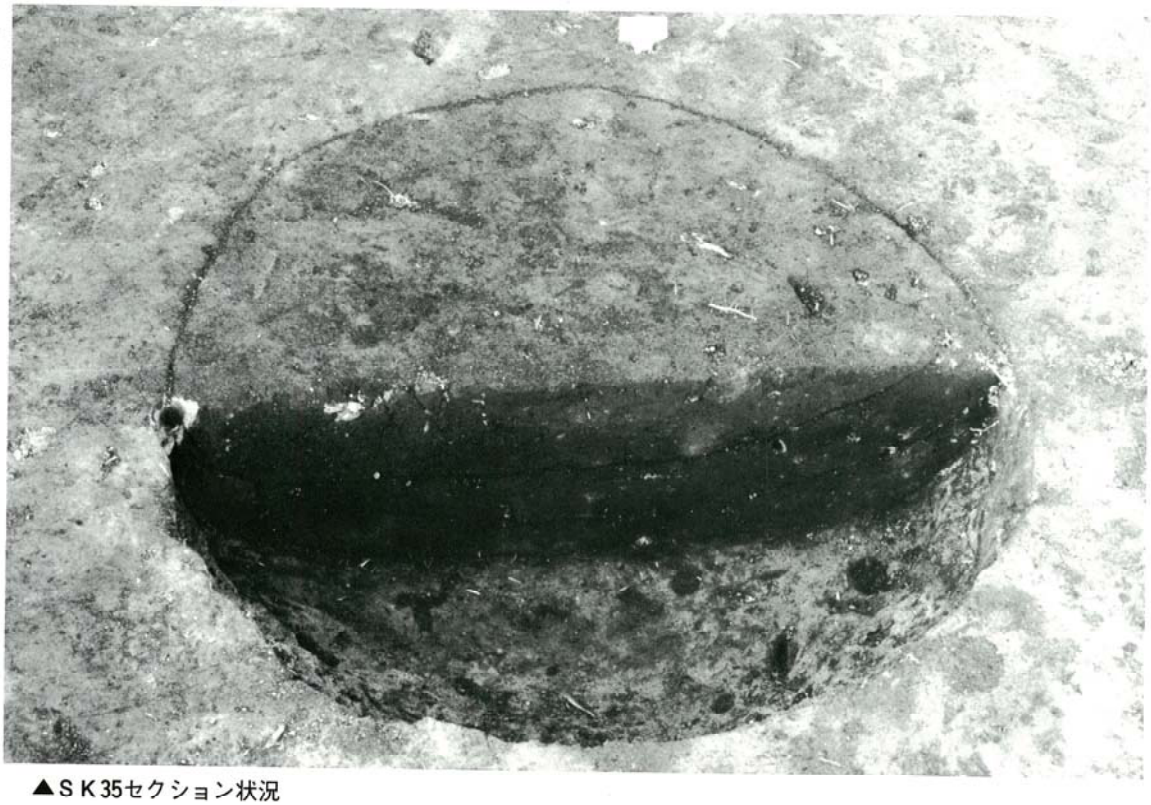
▲ＳＫＩセクション状況

▲ＳＫＩ完掘状況



▲ＳＫ18セクション状況

▲ＳＫ18完掘状況



▲ＳＫ35セクション状況

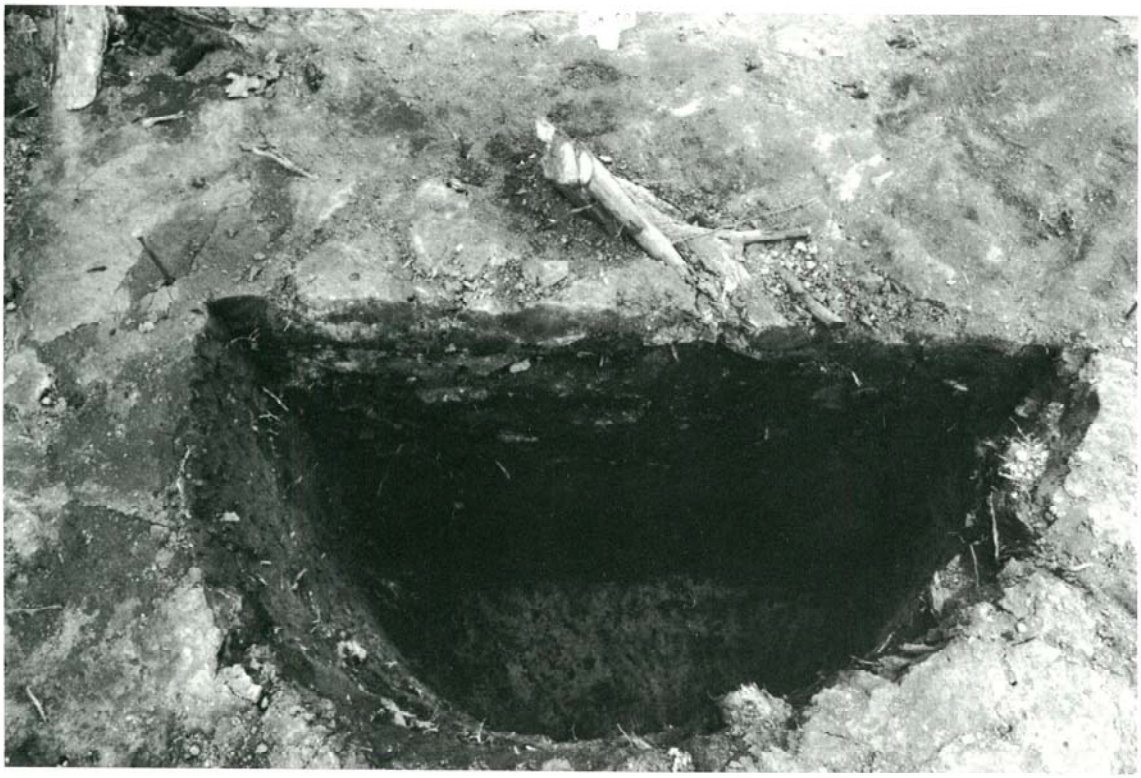
▲ＳＫ35完掘状況

▲ＳＫ31,40セクション状況

▲ＳＫ31,40完掘状況

▲ＳＫ39,38セクション状況

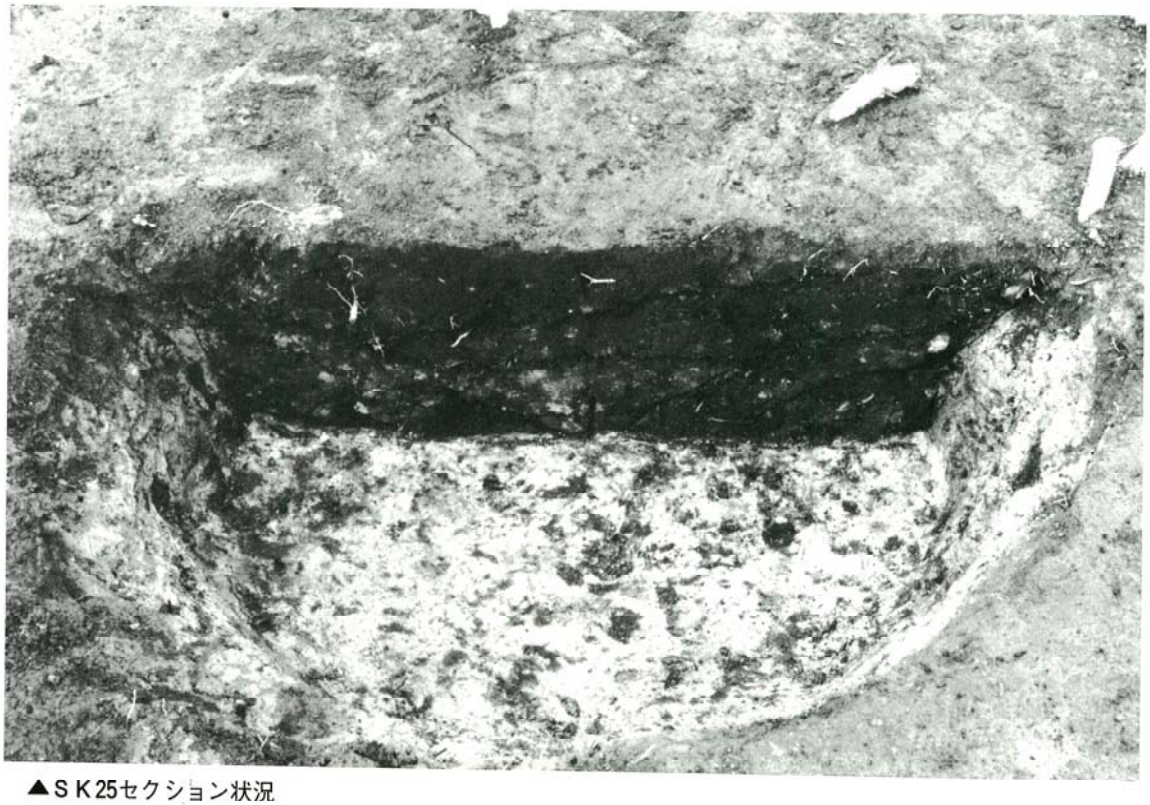
▲ＳＫ39,38完掘状況



▲ＳＫ50セクション状況

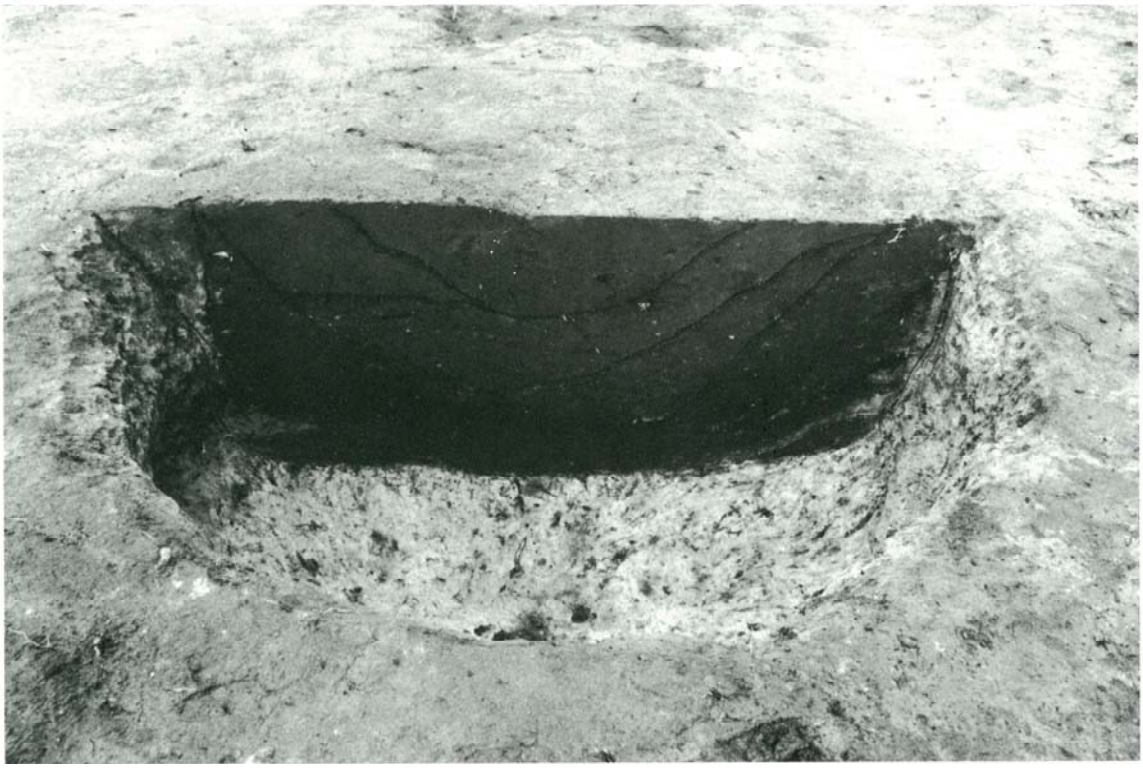
▲ＳＫ50完掘状況

▲ＳＫ24セクション状況

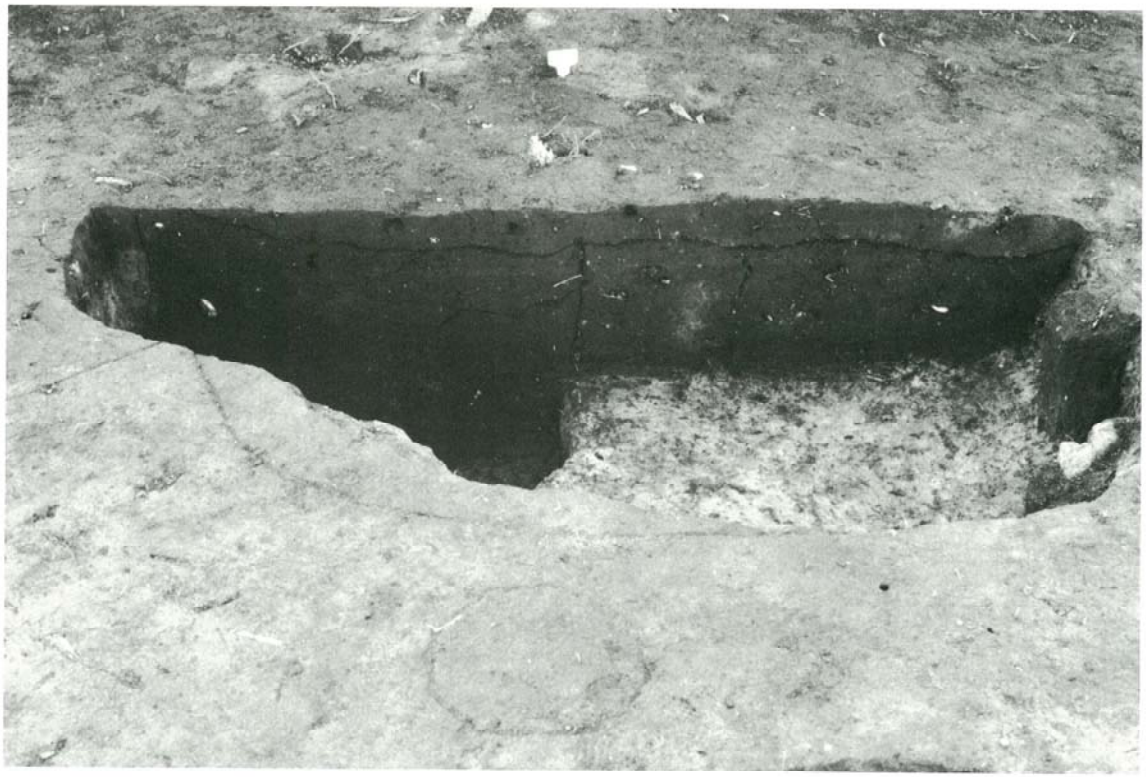


▲ＳＫ25セクション状況

▲ＳＫ27セクション状況



▲ＳＫ37セクション状況

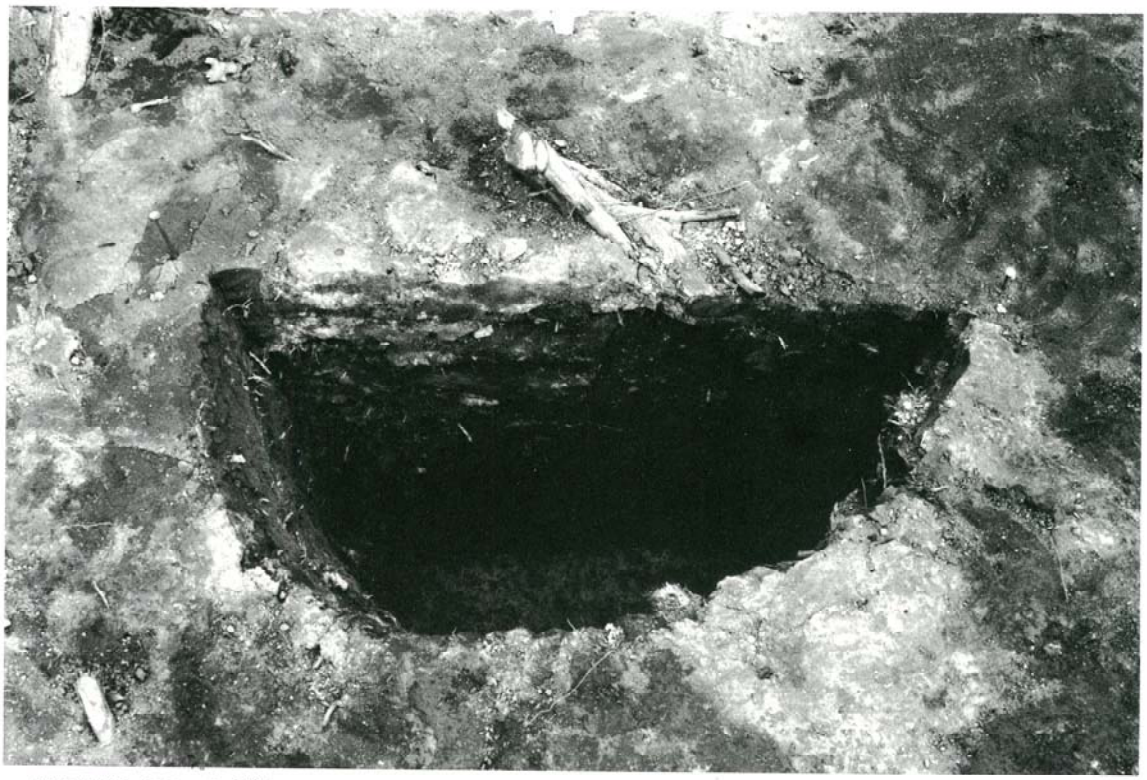


▲ＳＫ40セクション状況

▲ＳＫ51セクション状況

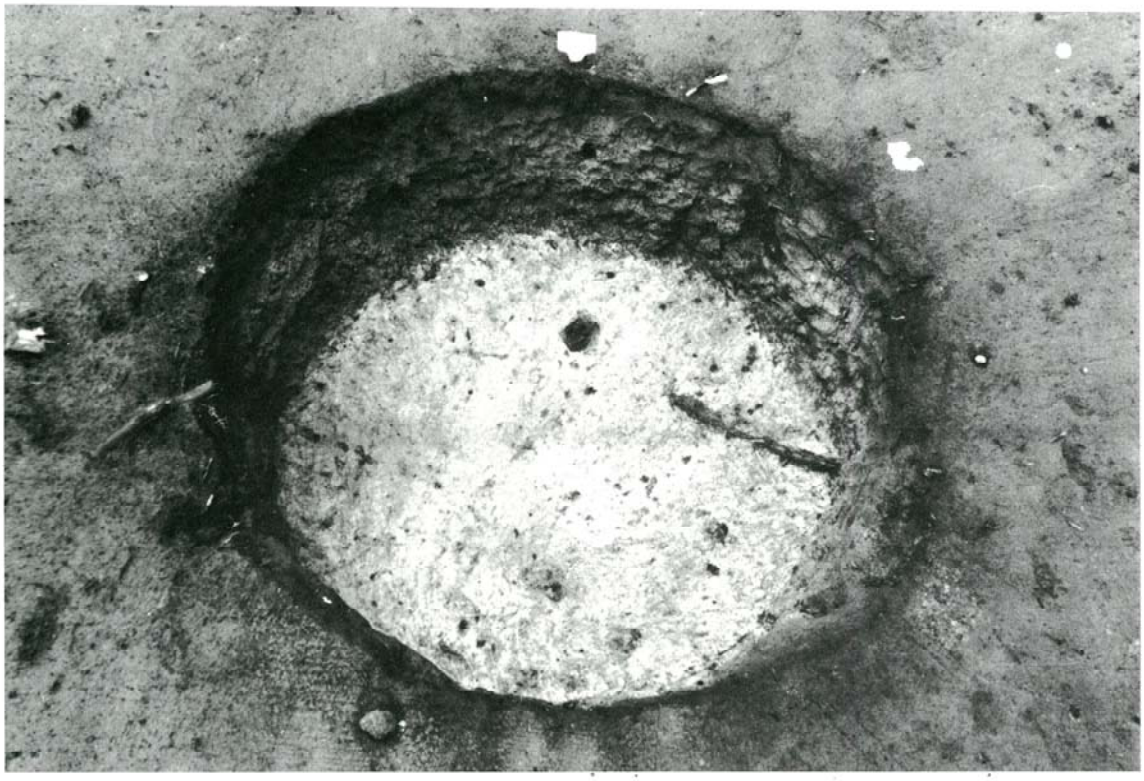
▲ＳＫ17完掘状況

▲ＳＫ21完掘状況

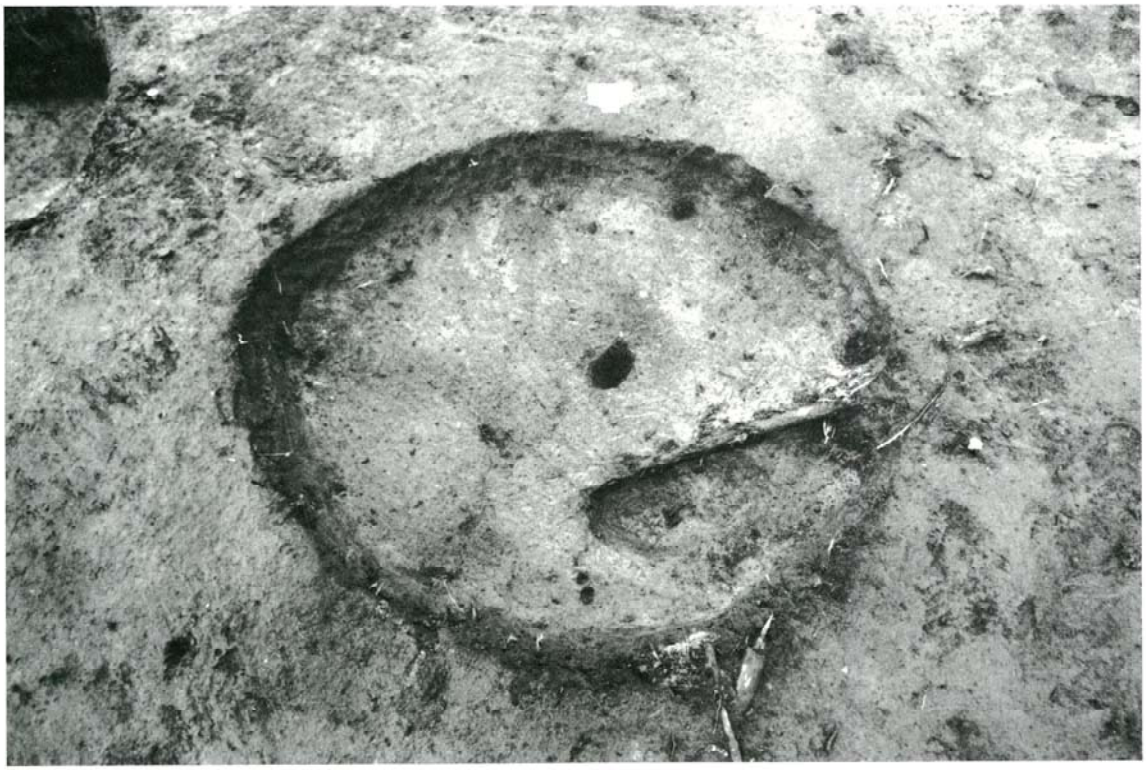


▲ＳＫ50セクション状況

▲ＳＫ21セクション状況



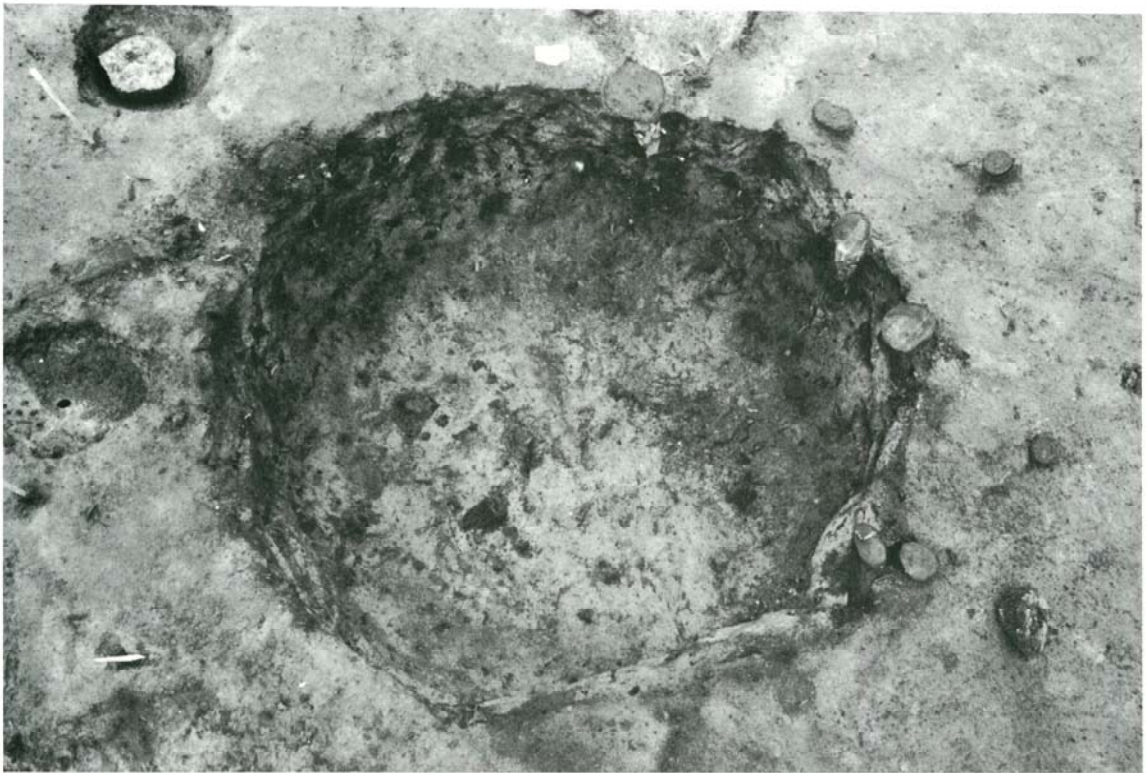
▲ＳＫ23完掘状況



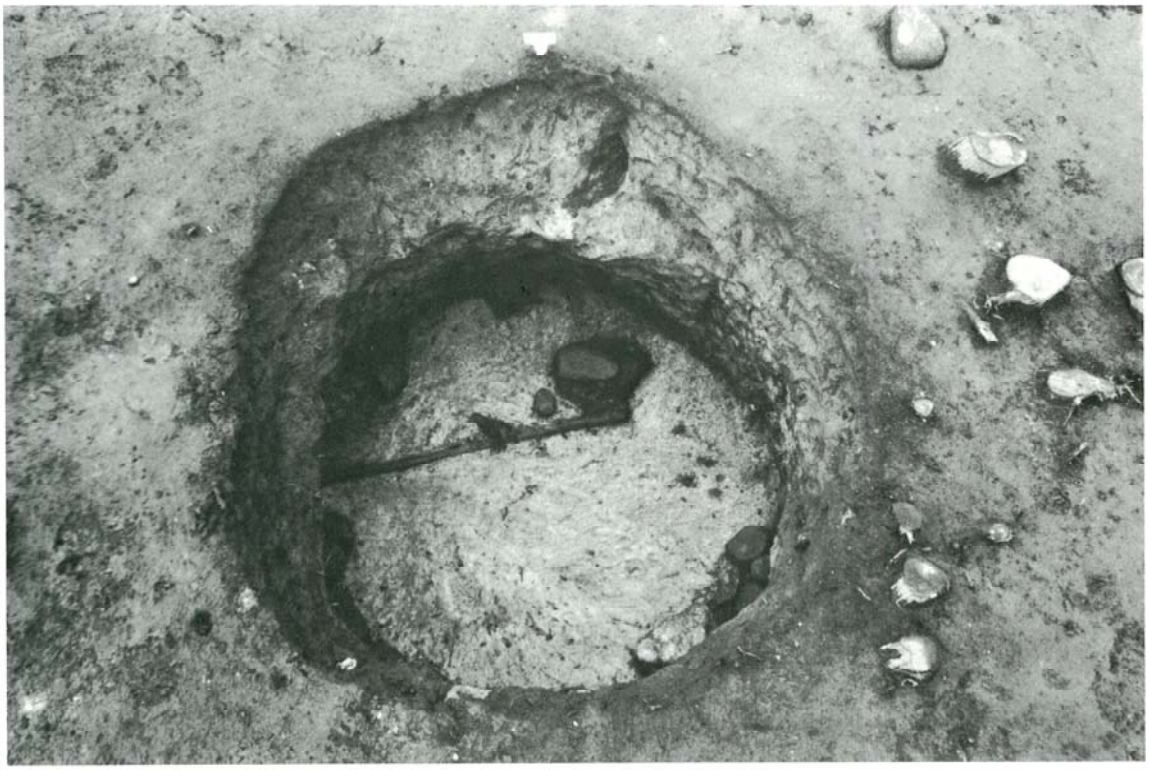
▲ＳＫ26完掘状況

▲ＳＫ28完掘状況

▲ＳＫ23完掘状況

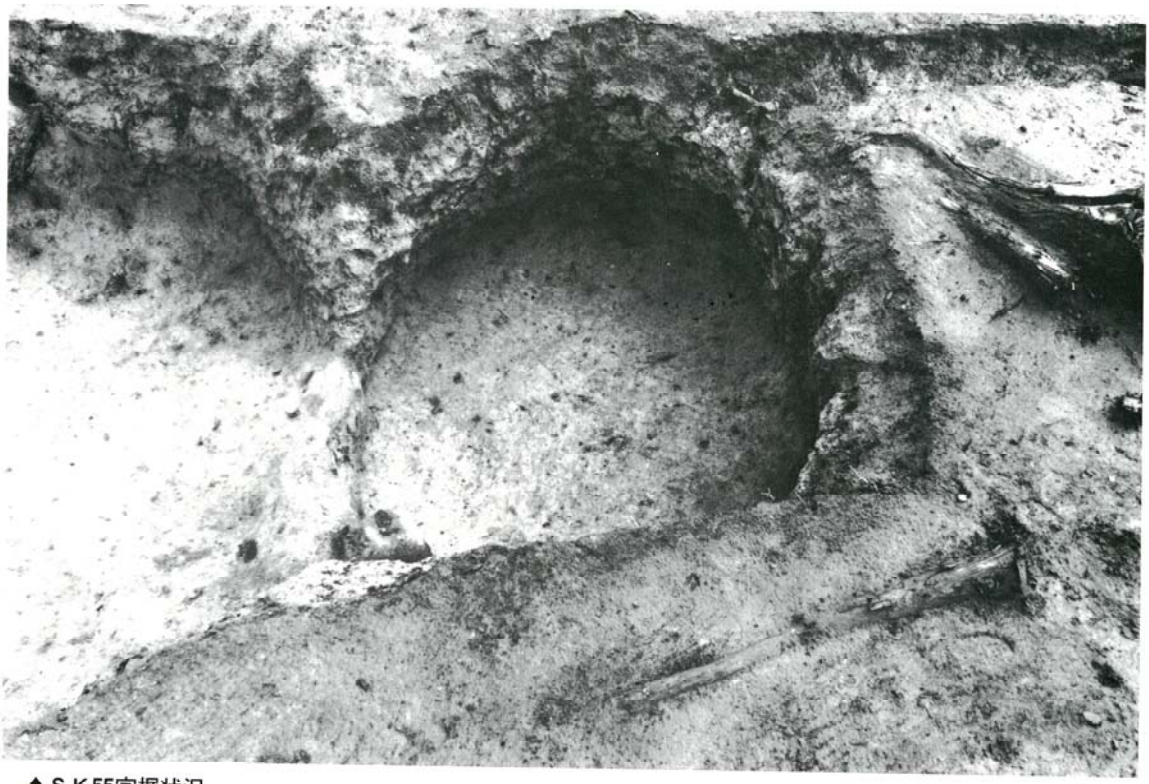


▲ＳＫ36完掘状況

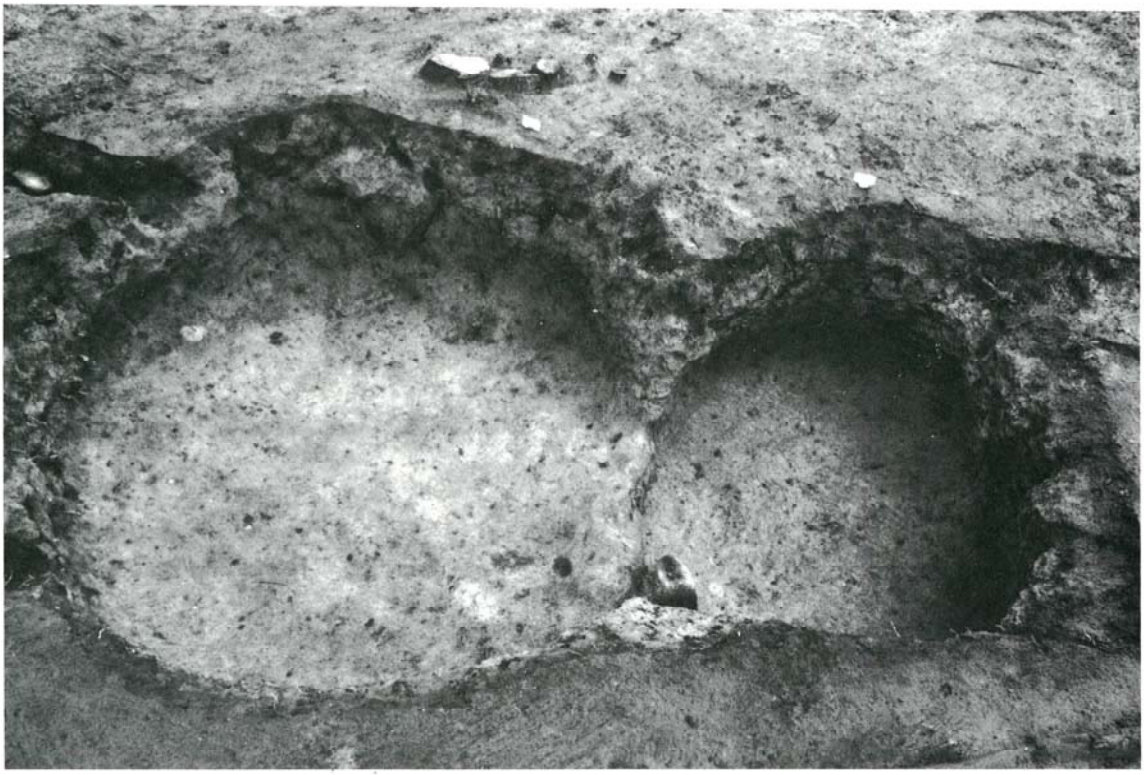


▲ＳＫ52完掘状況

▲ＳＫ51完掘状況

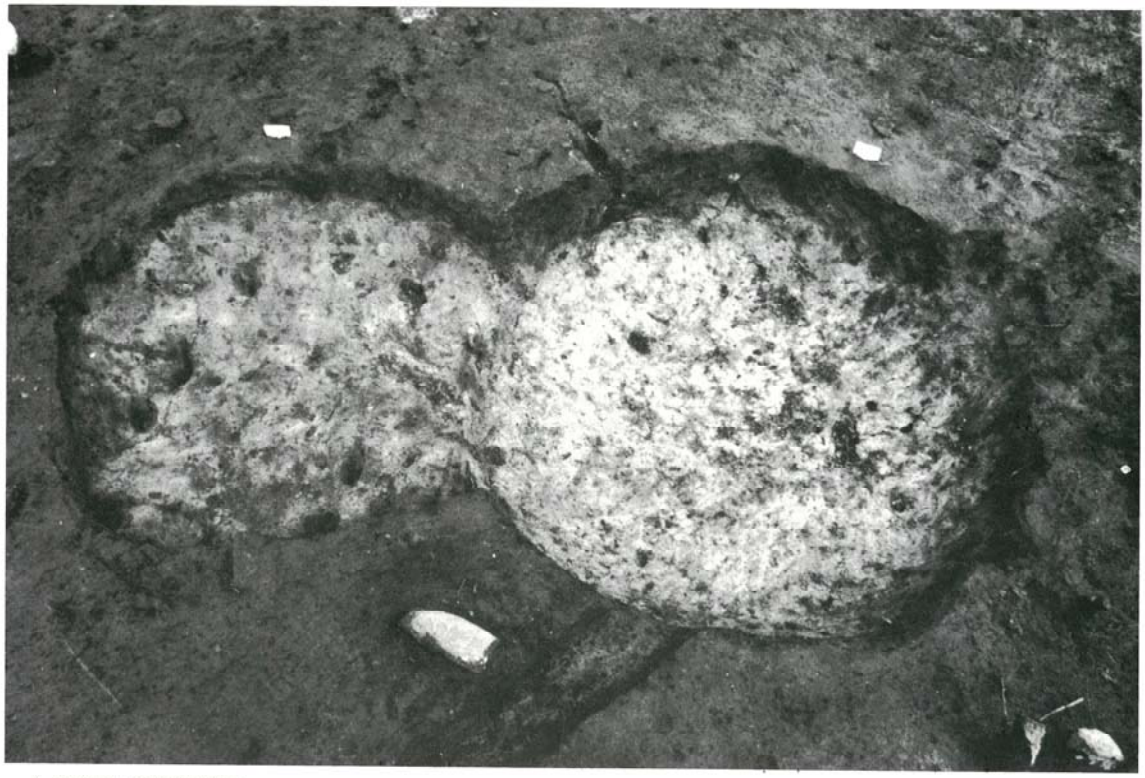


▲ＳＫ55完掘状況



▲ＳＫ55, 54完掘状況

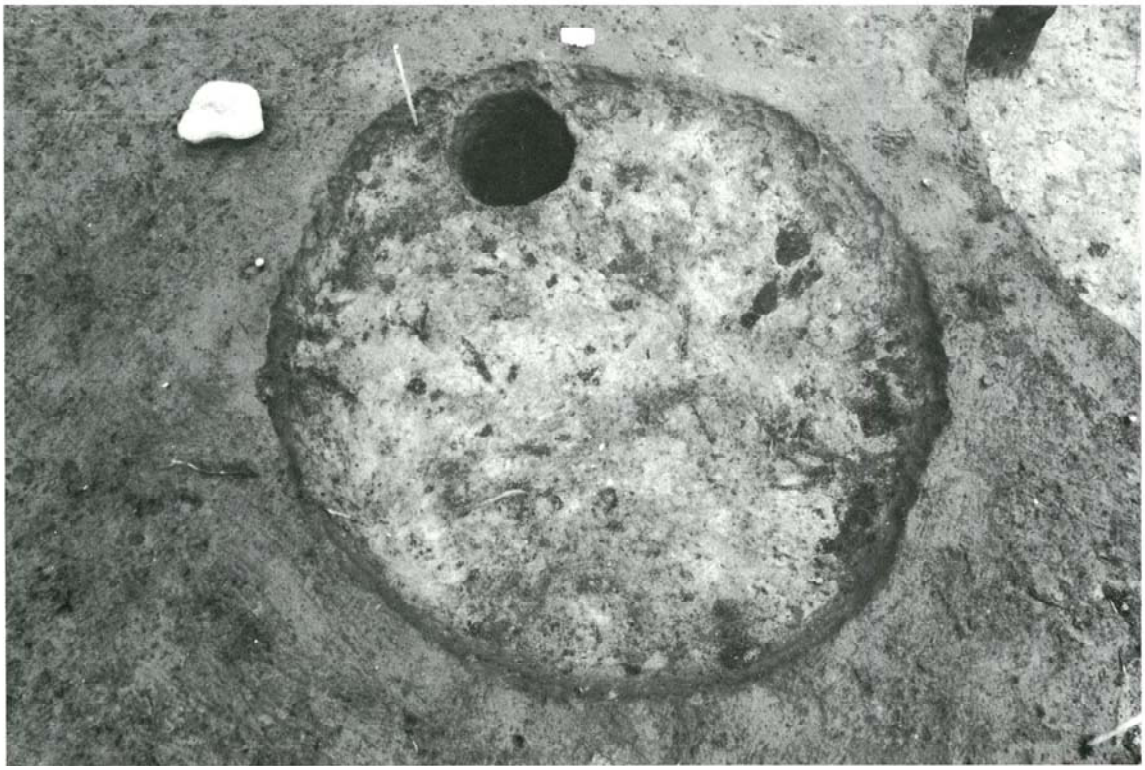
▲ＳＫ57完掘状況



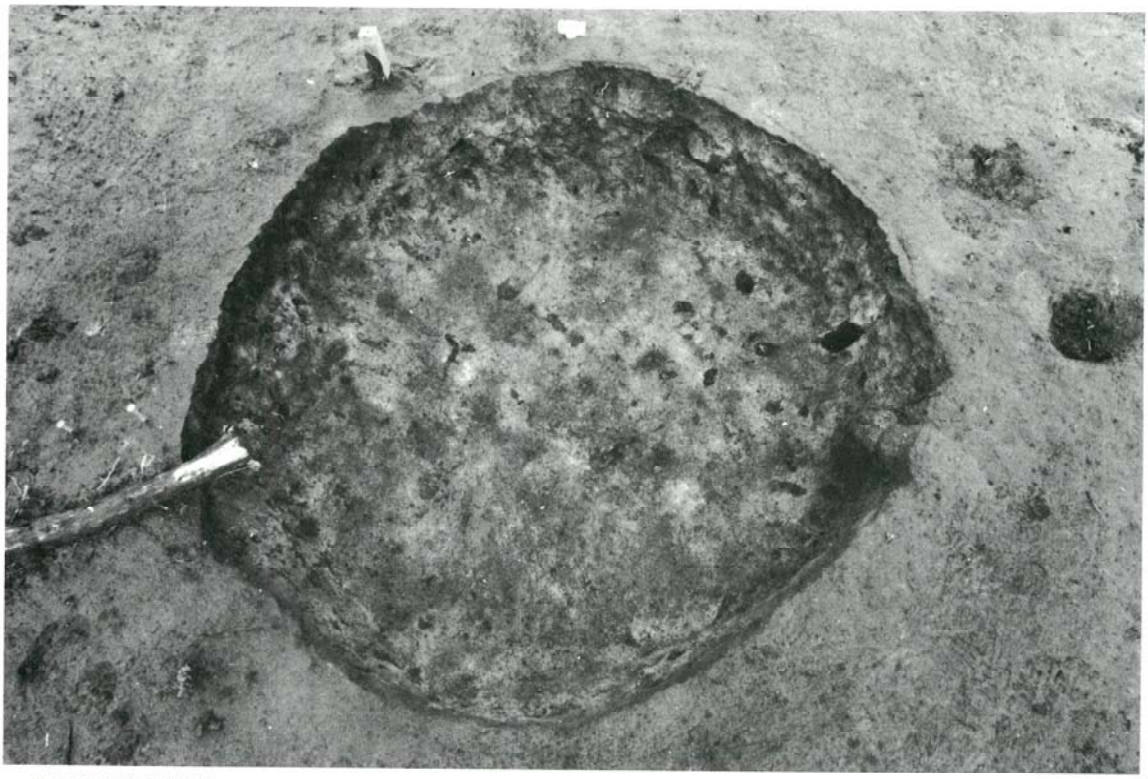
▲ＳＫ56, 58完掘状況

▲ＳＫ59完掘状況

▲ＳＫ60完掘状況

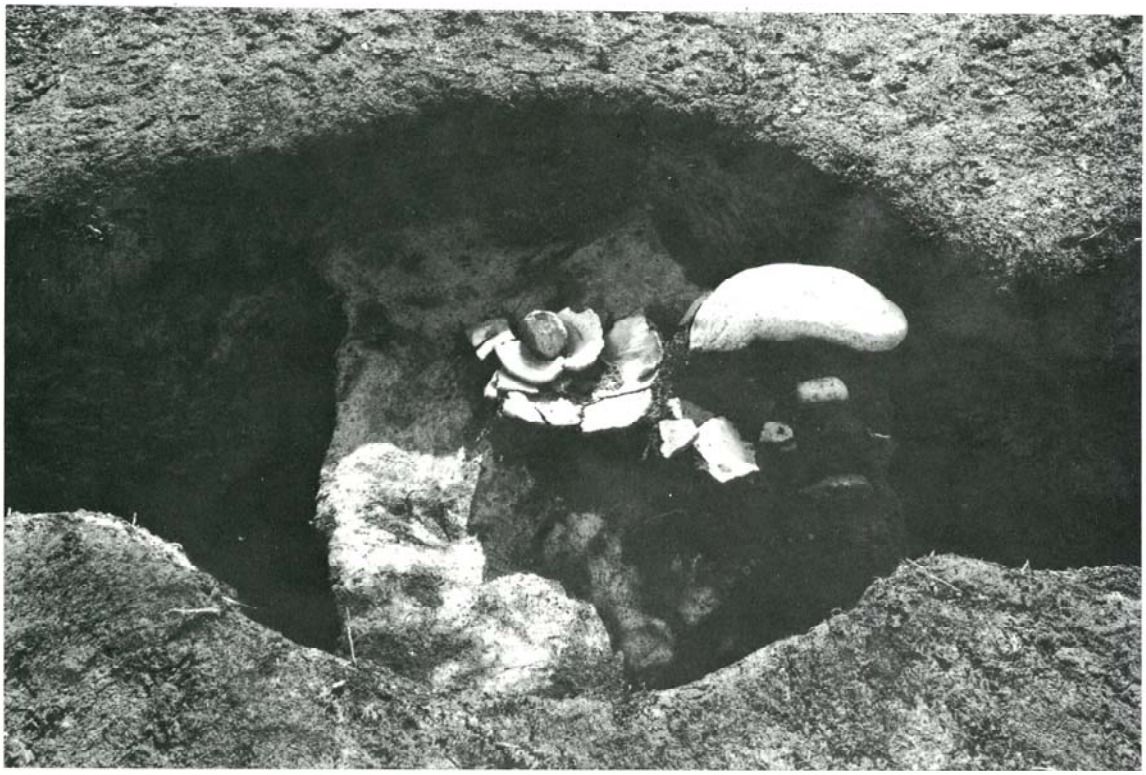


▲ＳＫ61完掘状況



▲ＳＫ62完掘状況

▲ＳＫ64完掘状況



▲ＳＫ30遺物出土状況

▲ＳＫ60遺物出土状況

▲磨製石斧出土状況

▲有舌先頭器出土状況

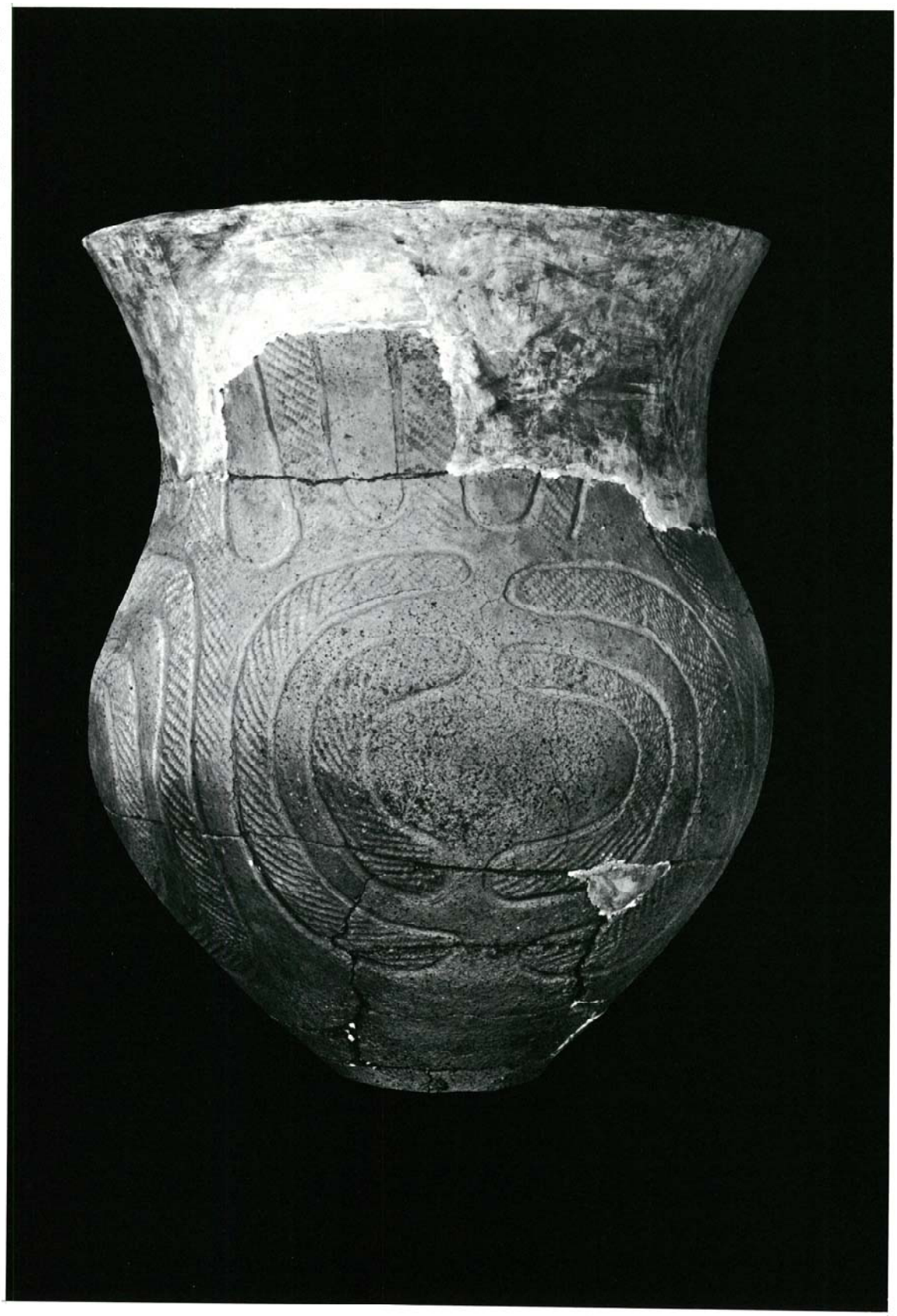
▲完形土器出土状況その1

▲完形土器出土状況その2

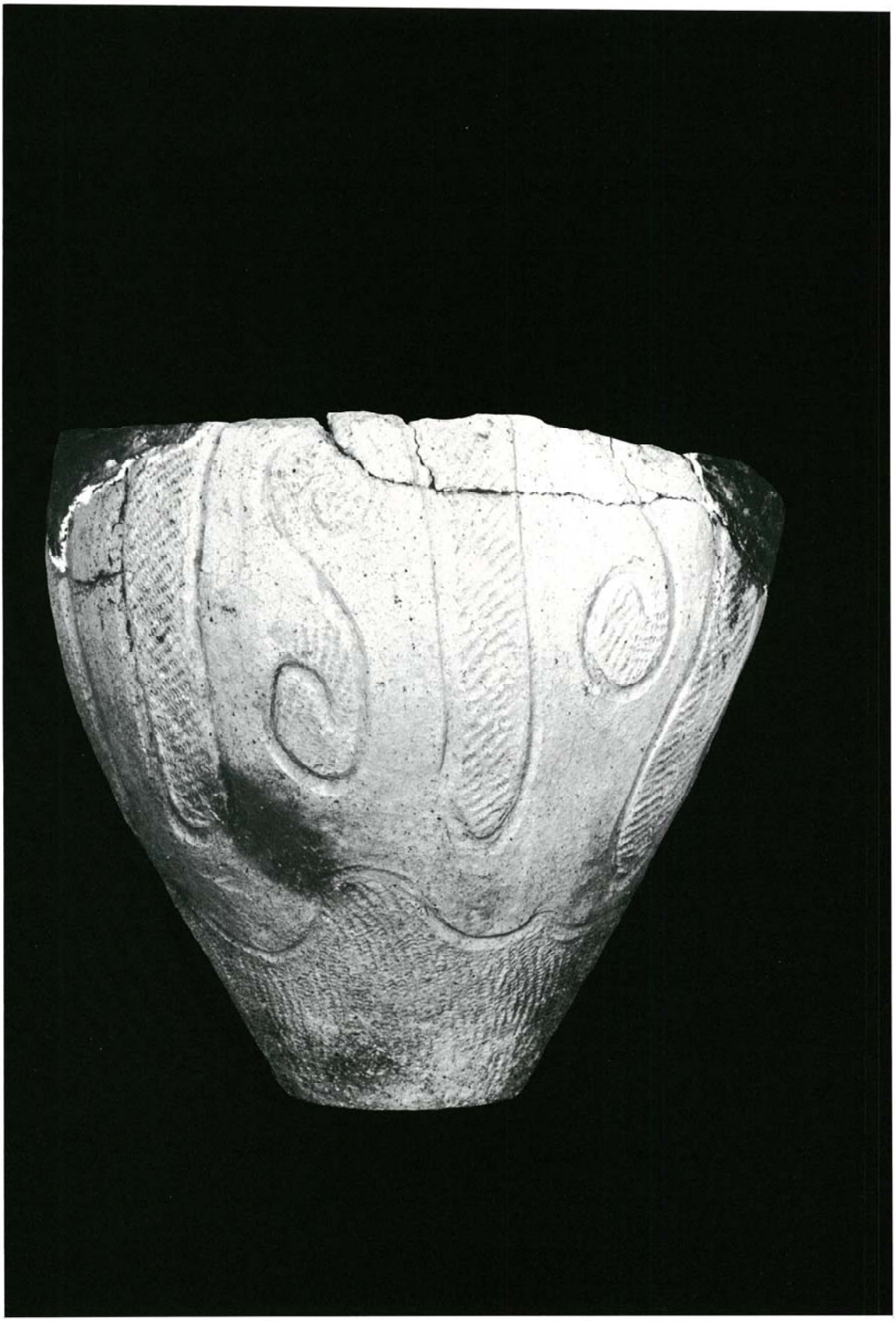
▲ＨＹ１遺物出土状況その１

▲ＨＹ１遺物出土状況その２

第三十五図版八幡原No3第1次調査の土器（1）

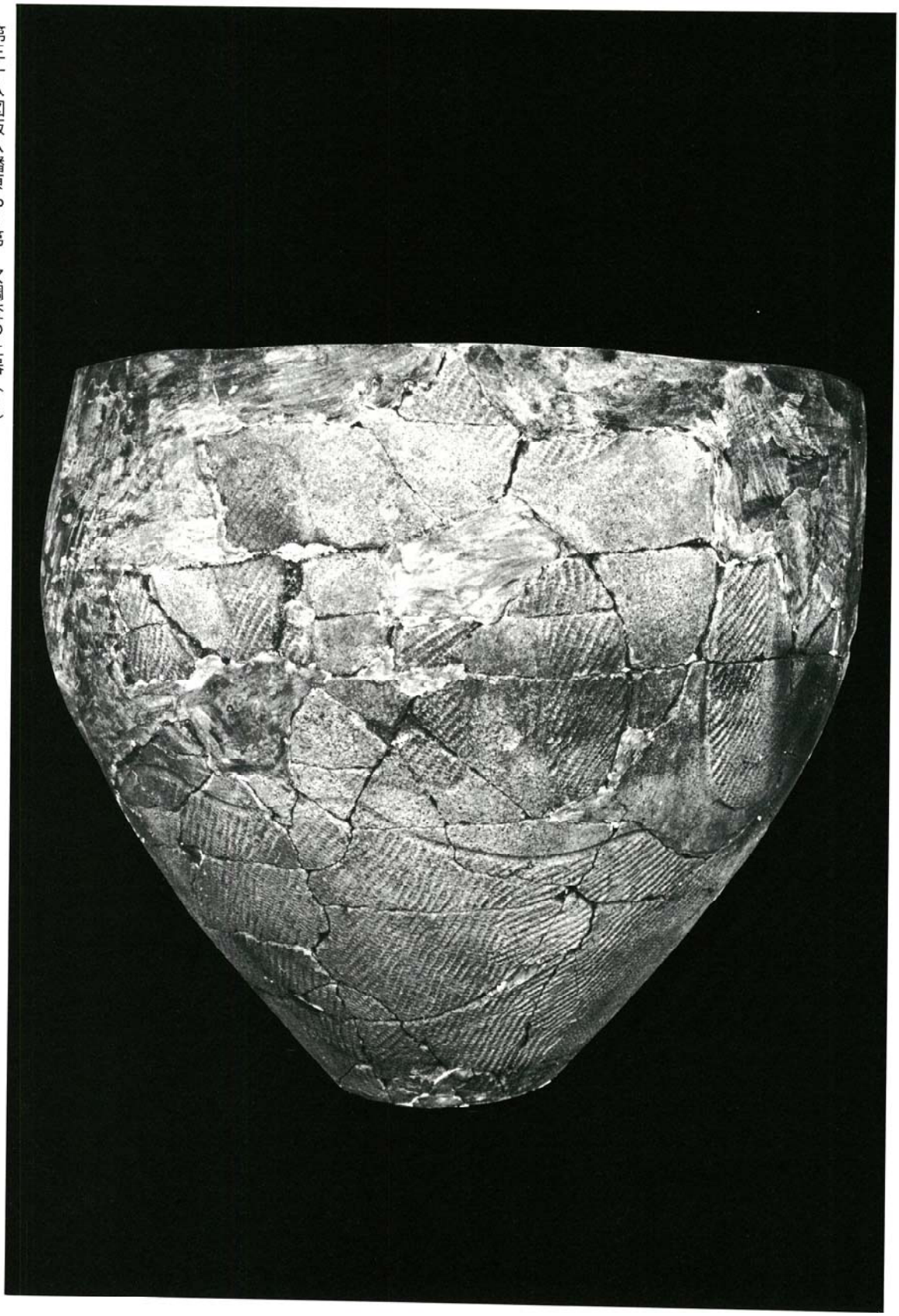


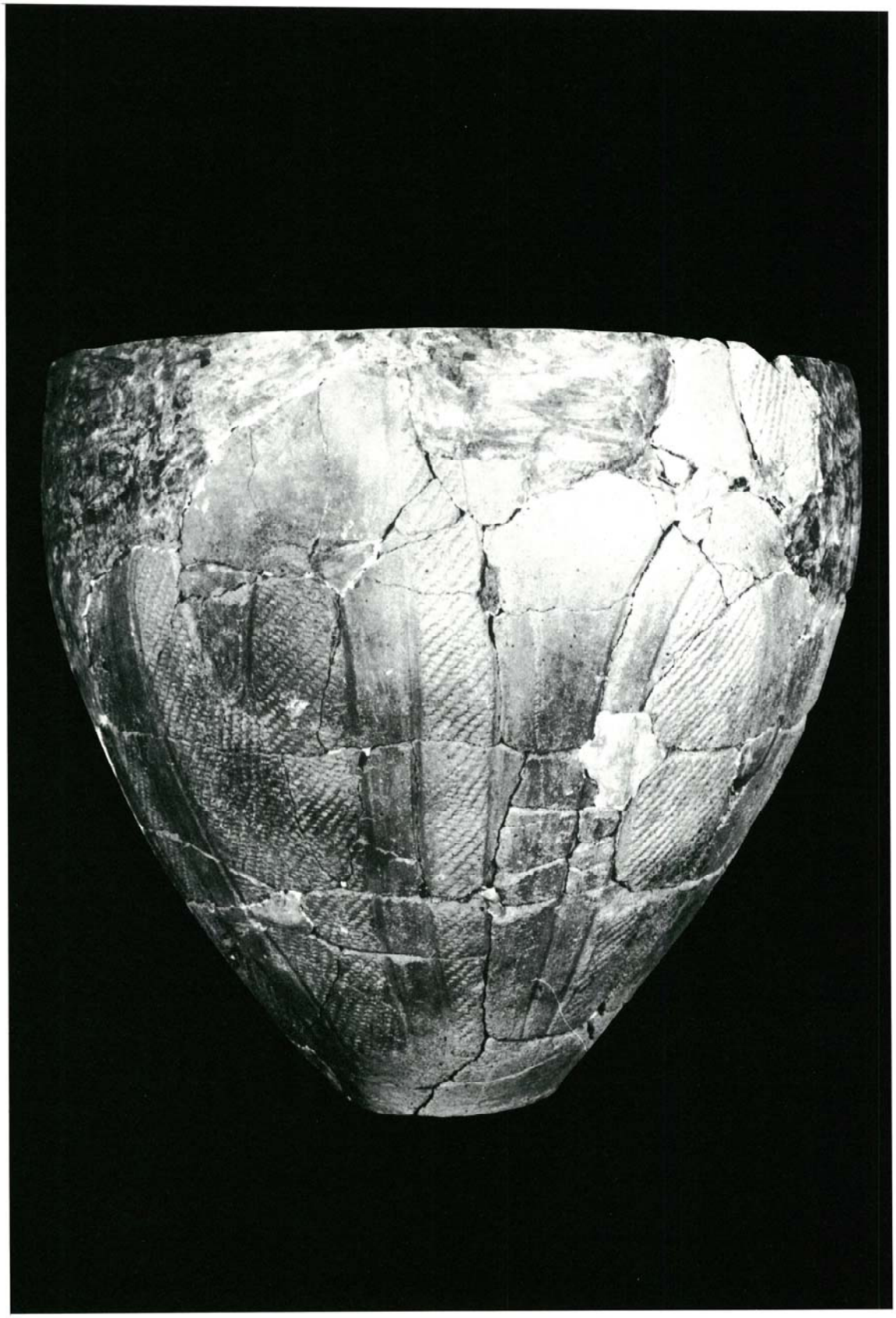
第三十六図版八幡原No3第1次調査の土器（2）



第三十七図版八幡原No3第1次調査の土器（3）

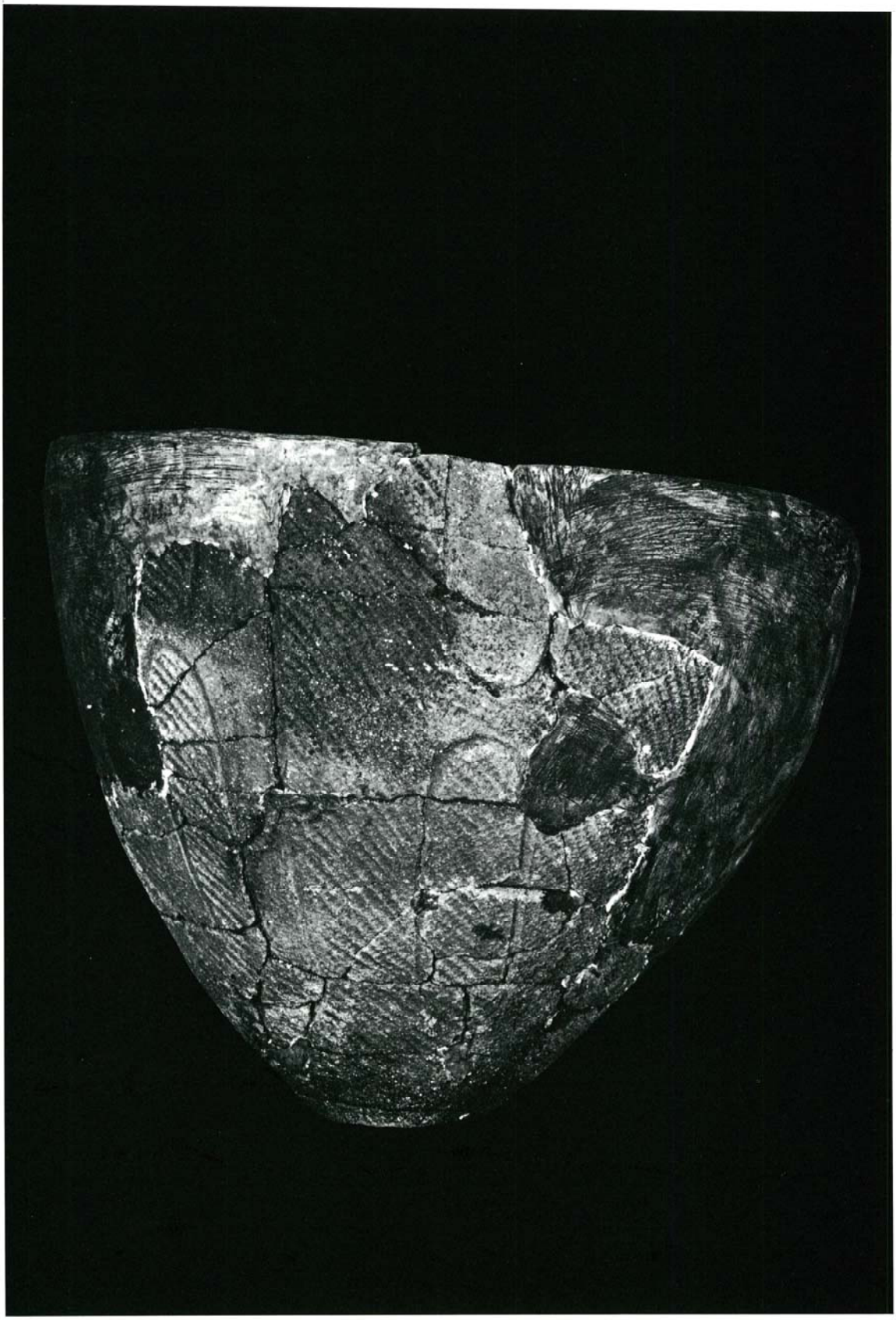
第三十八図版八幡原No3第1次調査の土器（4）





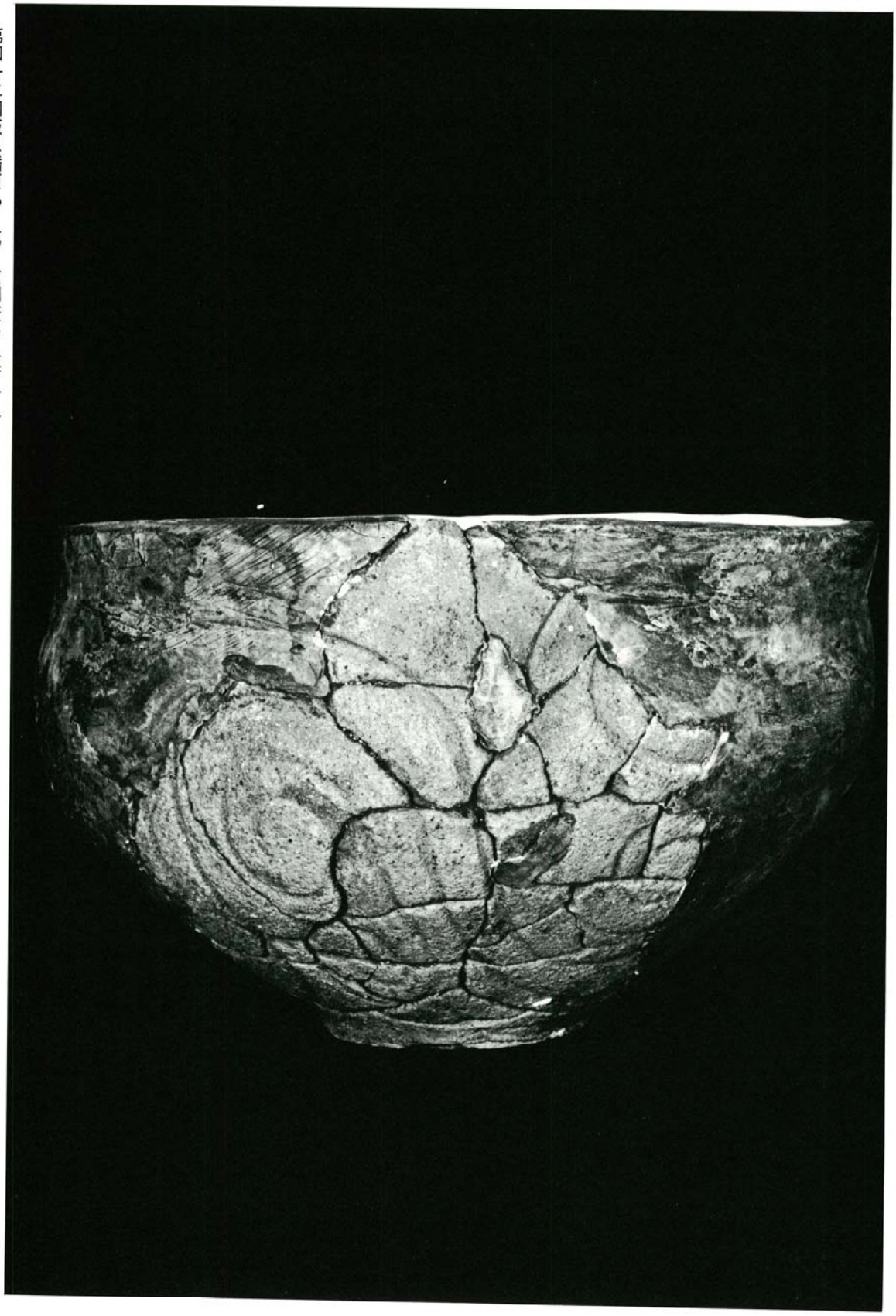
第三十九図版八幡原No3第1次調査の土器（5）

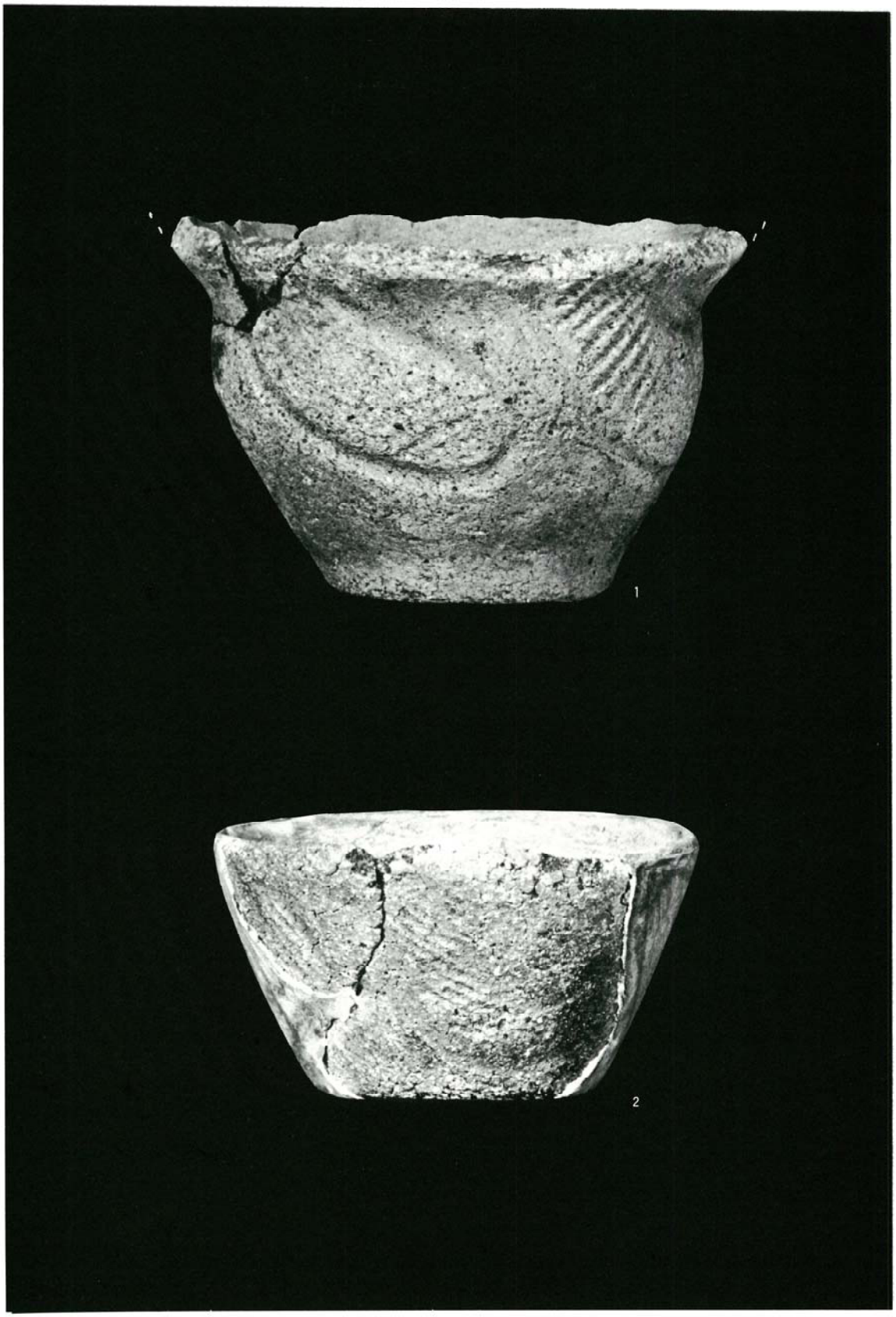
第四十図版八幡原No3第1次調査の土器（6）



第四十一図版八幡原No3第1次調査の土器（7）

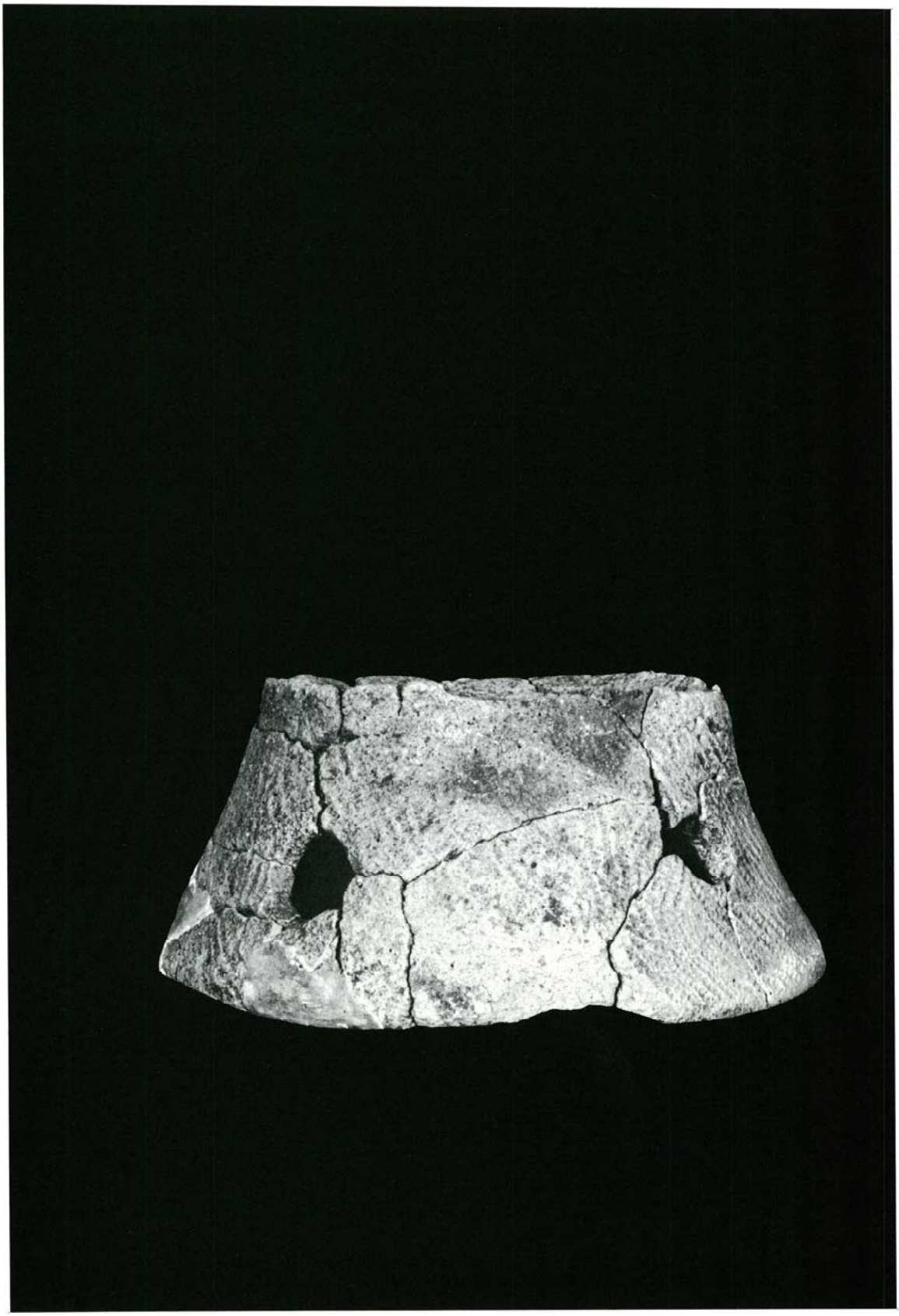
第四十二図版八幡原No3第1次調査の土器（8）





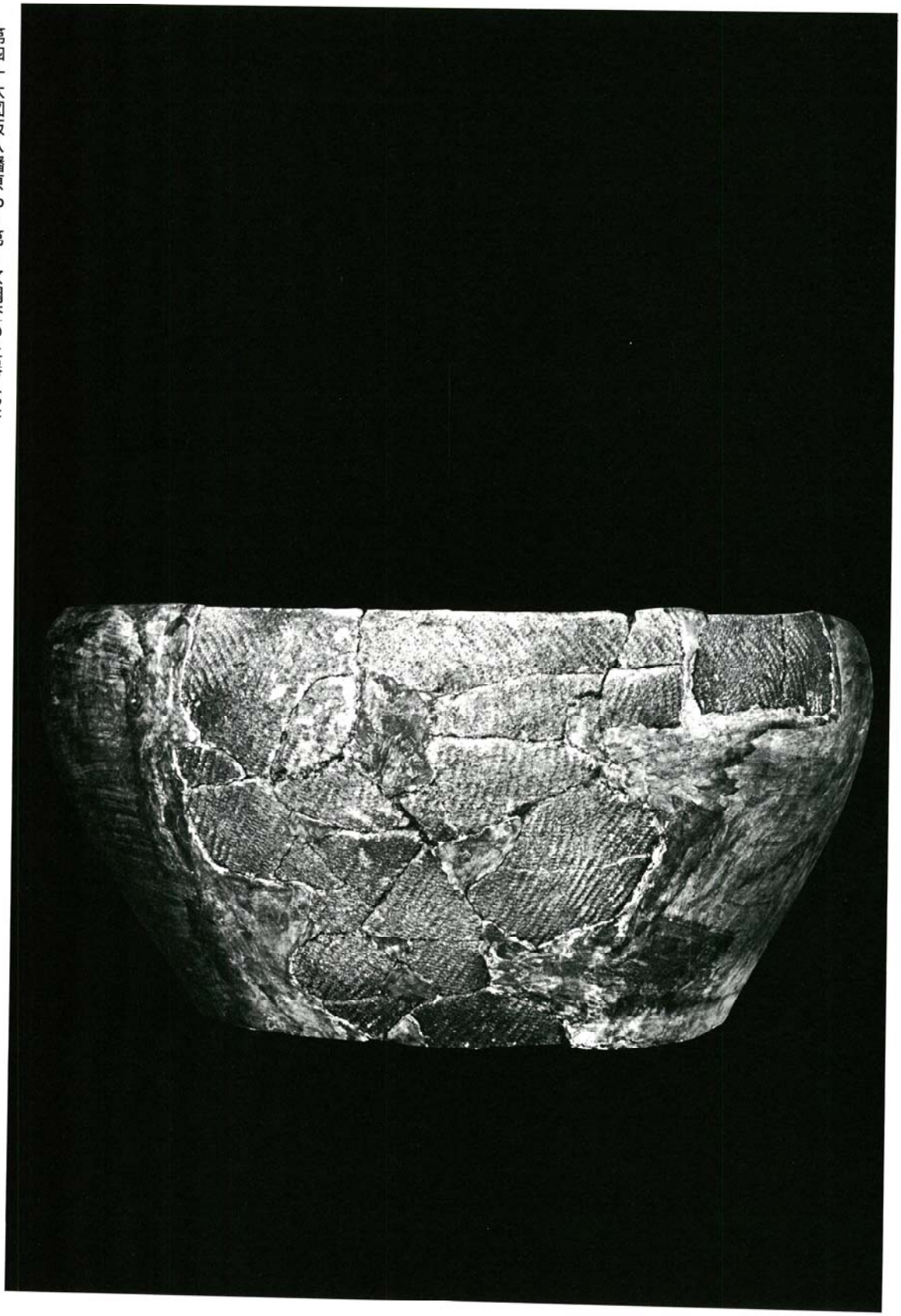
第四十三図版八幡原No3第1次調査の土器（9）

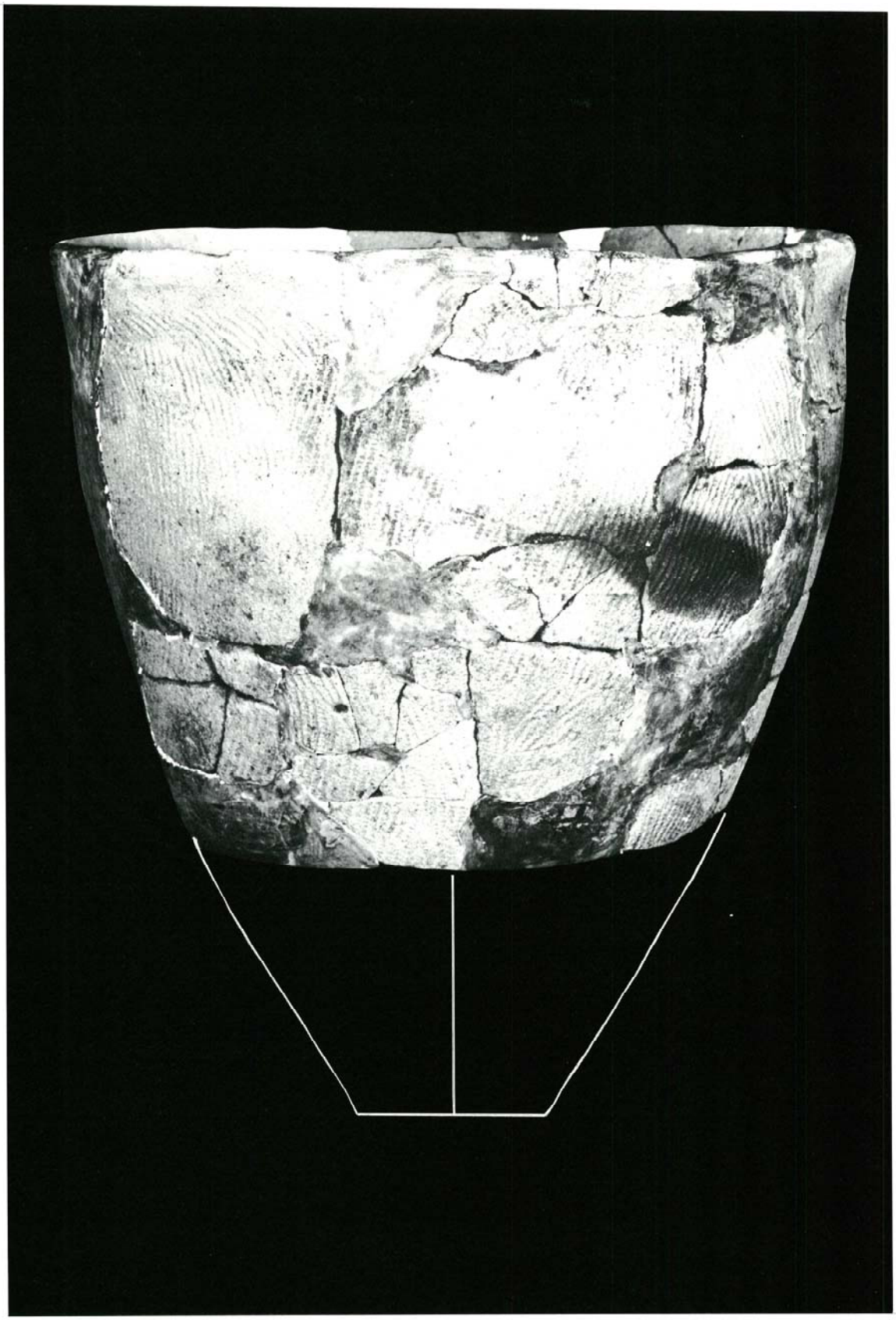
第四十四図版八幡原No3第1次調査の土器（10）



第四十五図版八幡原No3第1次調査の土器（11）

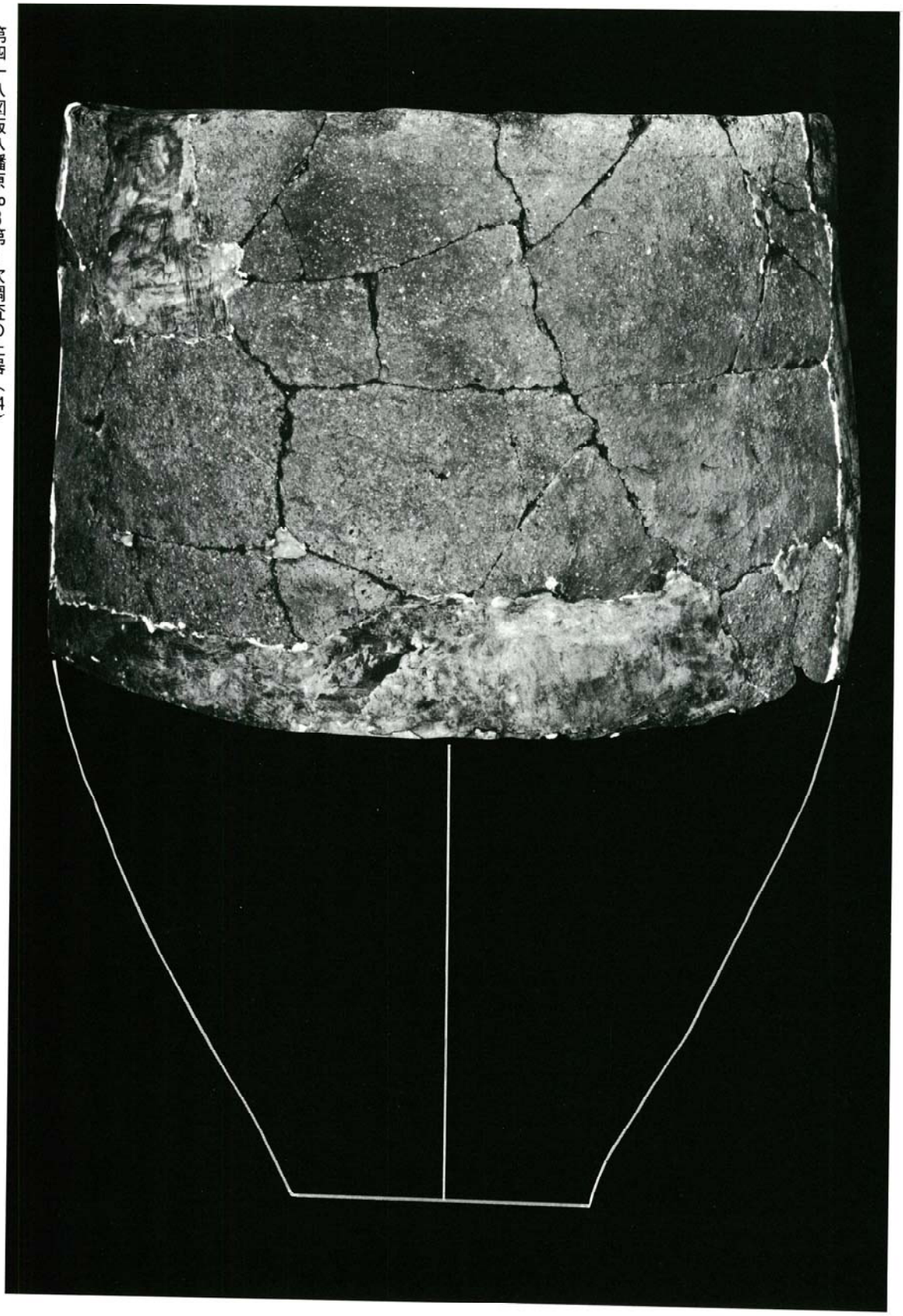
第四十六図版八幡原No3第1次調査の土器（12）

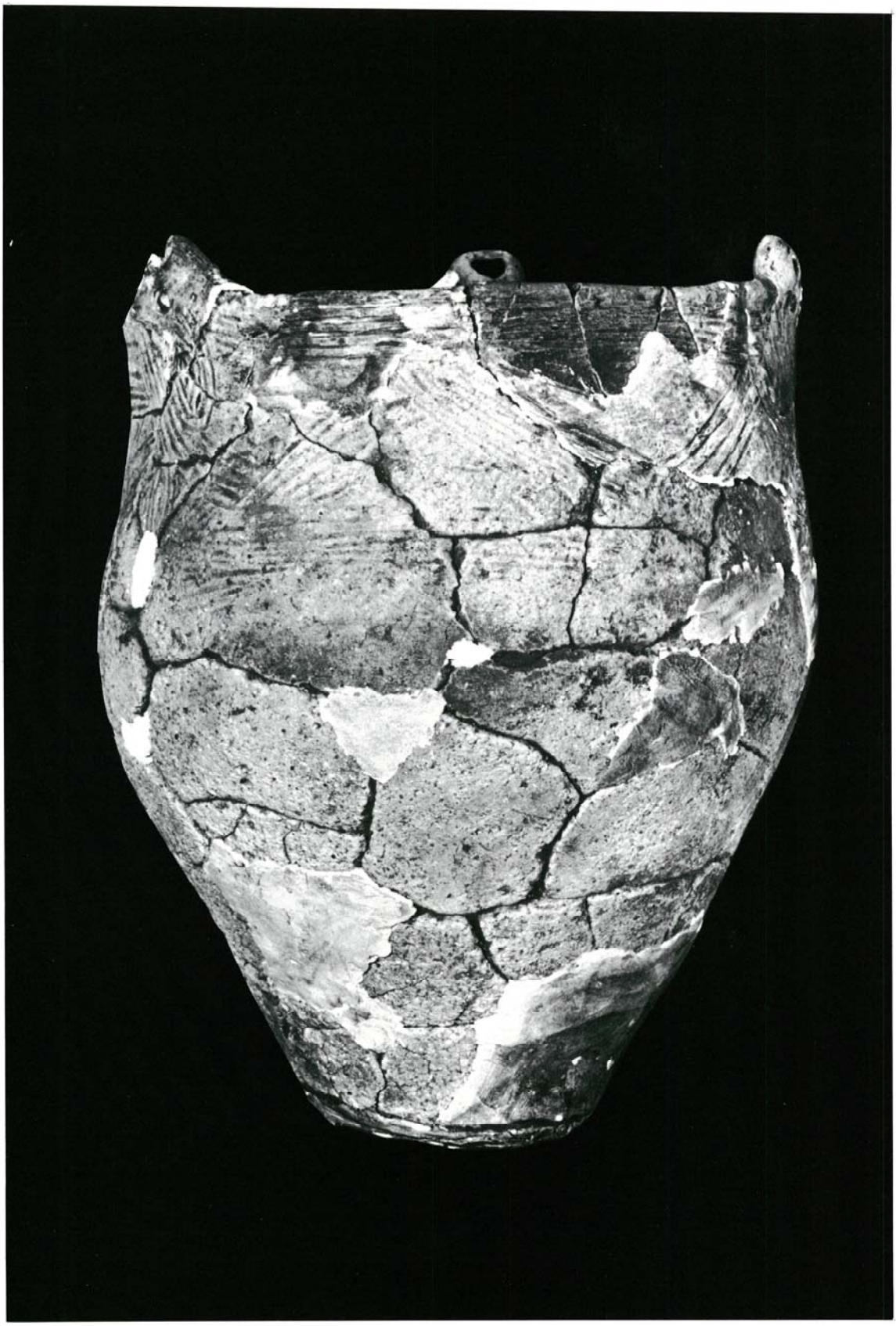




第四十七図版八幡原No3第1次調査の土器（13）

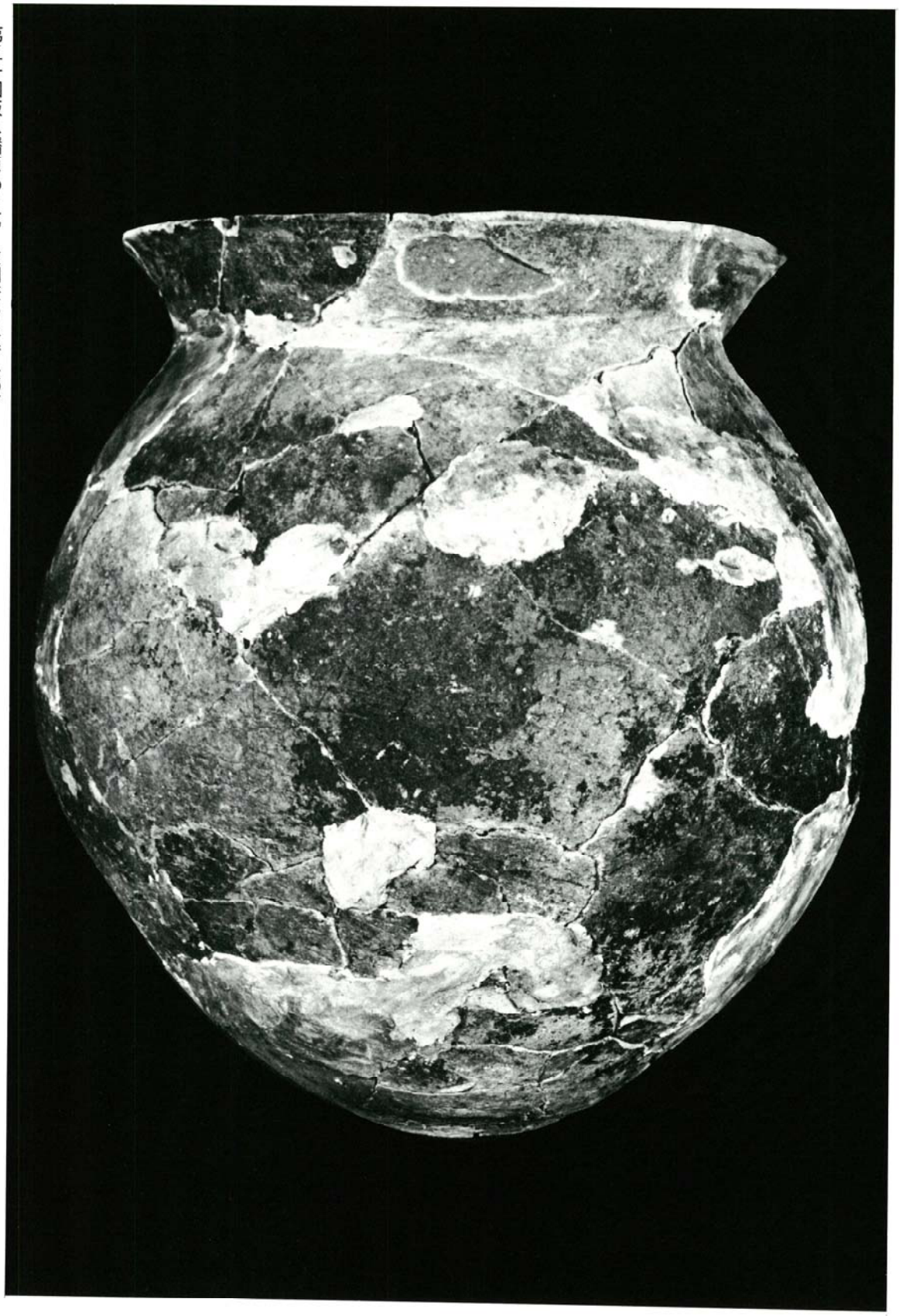
第四十八図版八幡原No3第1次調査の土器（14）

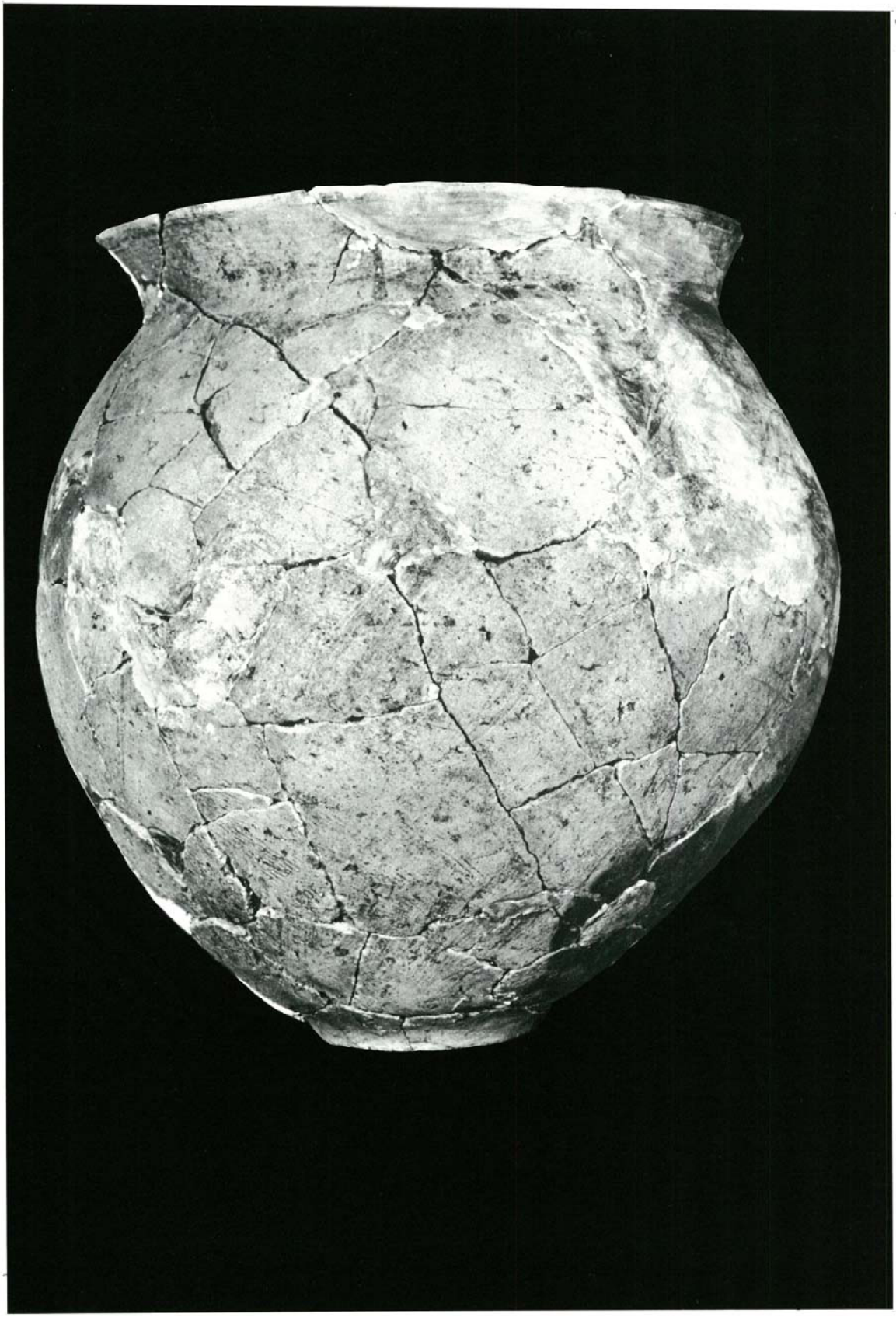




第四十九図版八幡原No3第1次調査の土器（15）

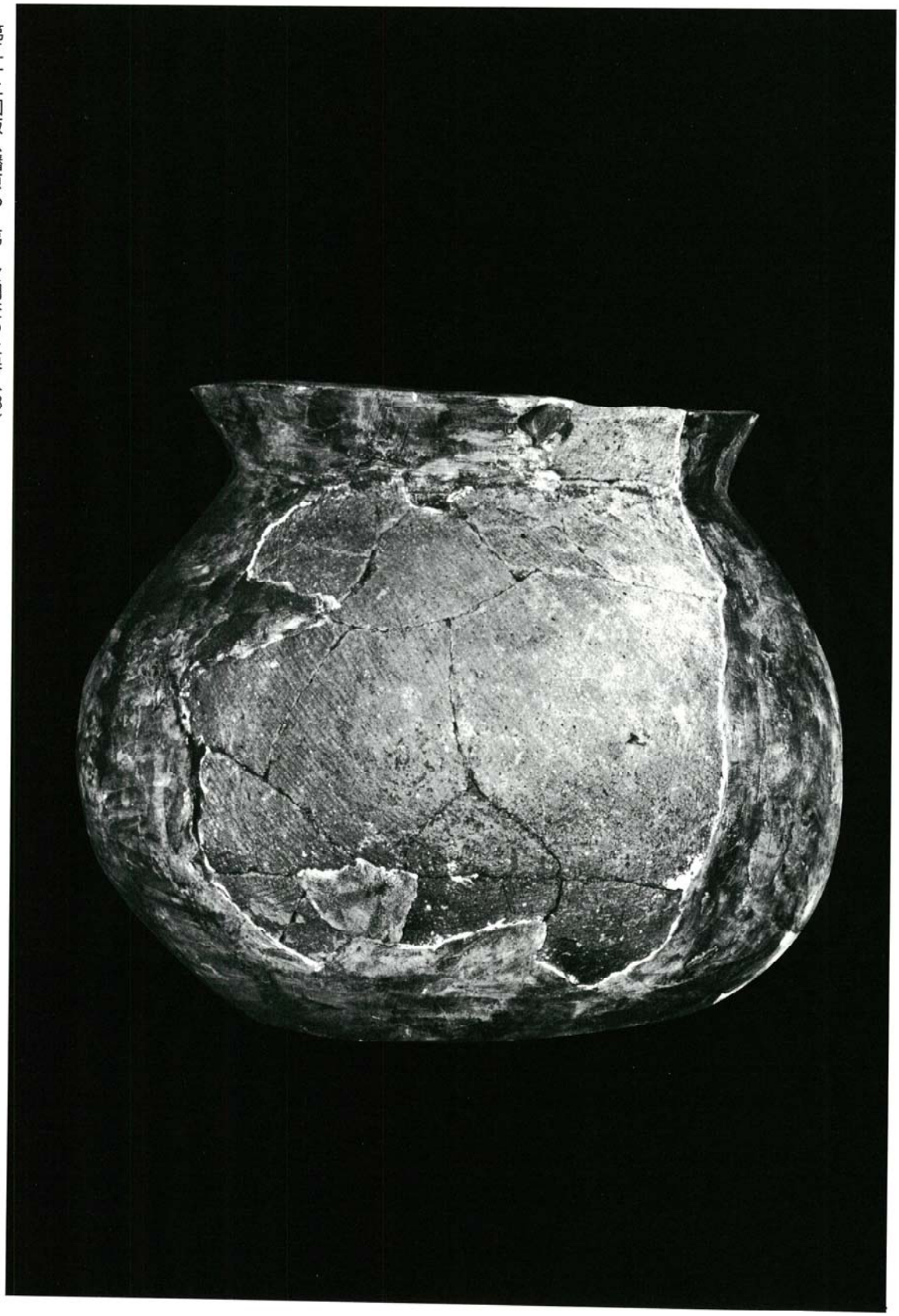
第五十図版八幡原No3第1次調査の土器（16）

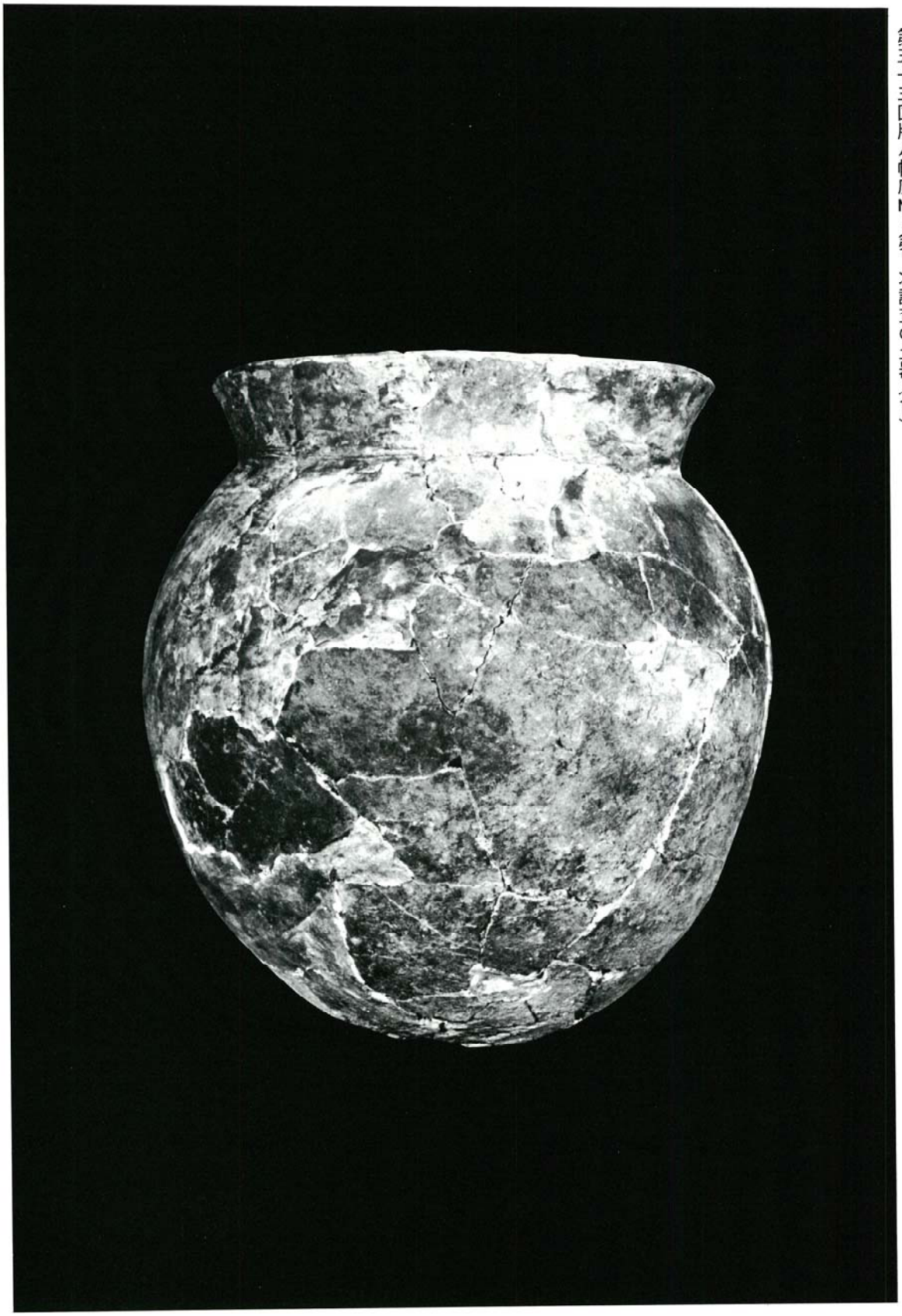




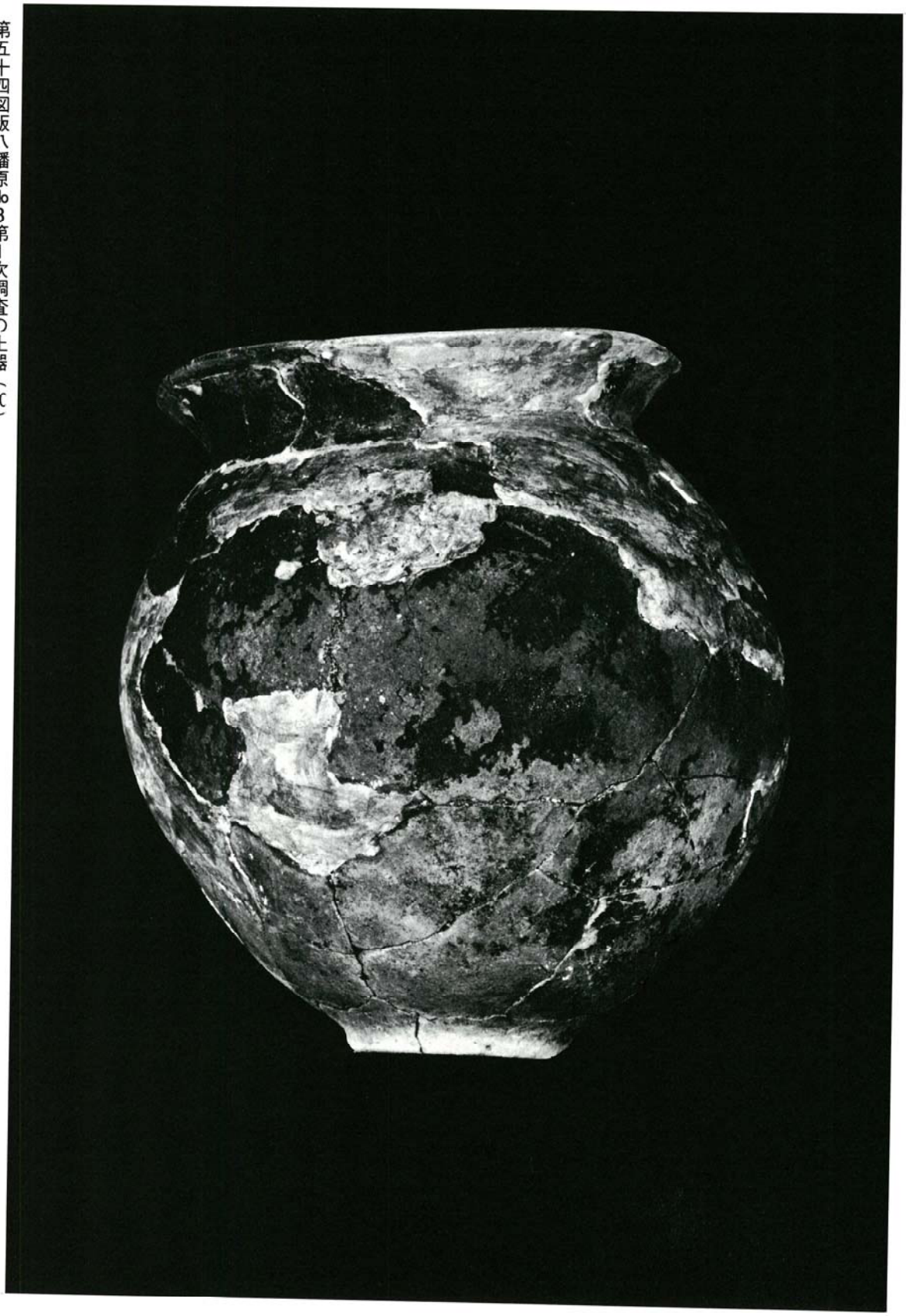
第五十一図版八幡原No3第1次調査の土器（17）

第五十二図版八幡原No 3第1次調査の土器（18）

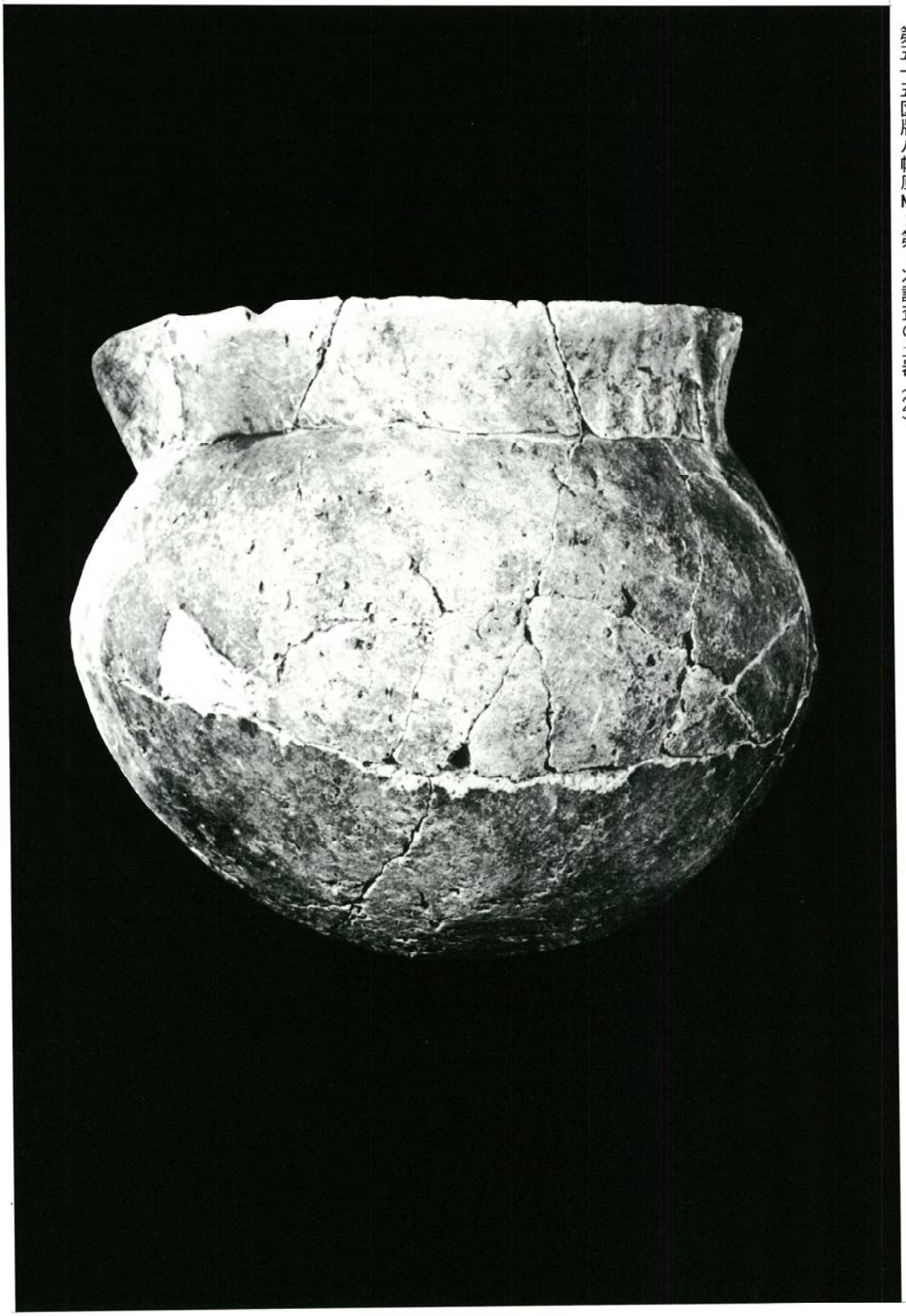




第五十三図版八幡原No3第1次調査の土器（19）

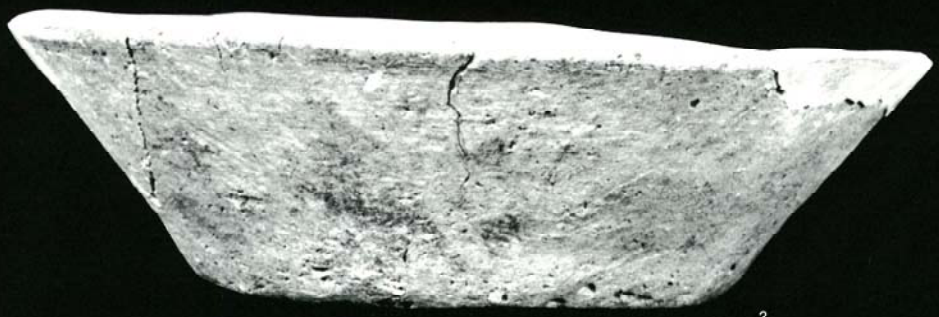


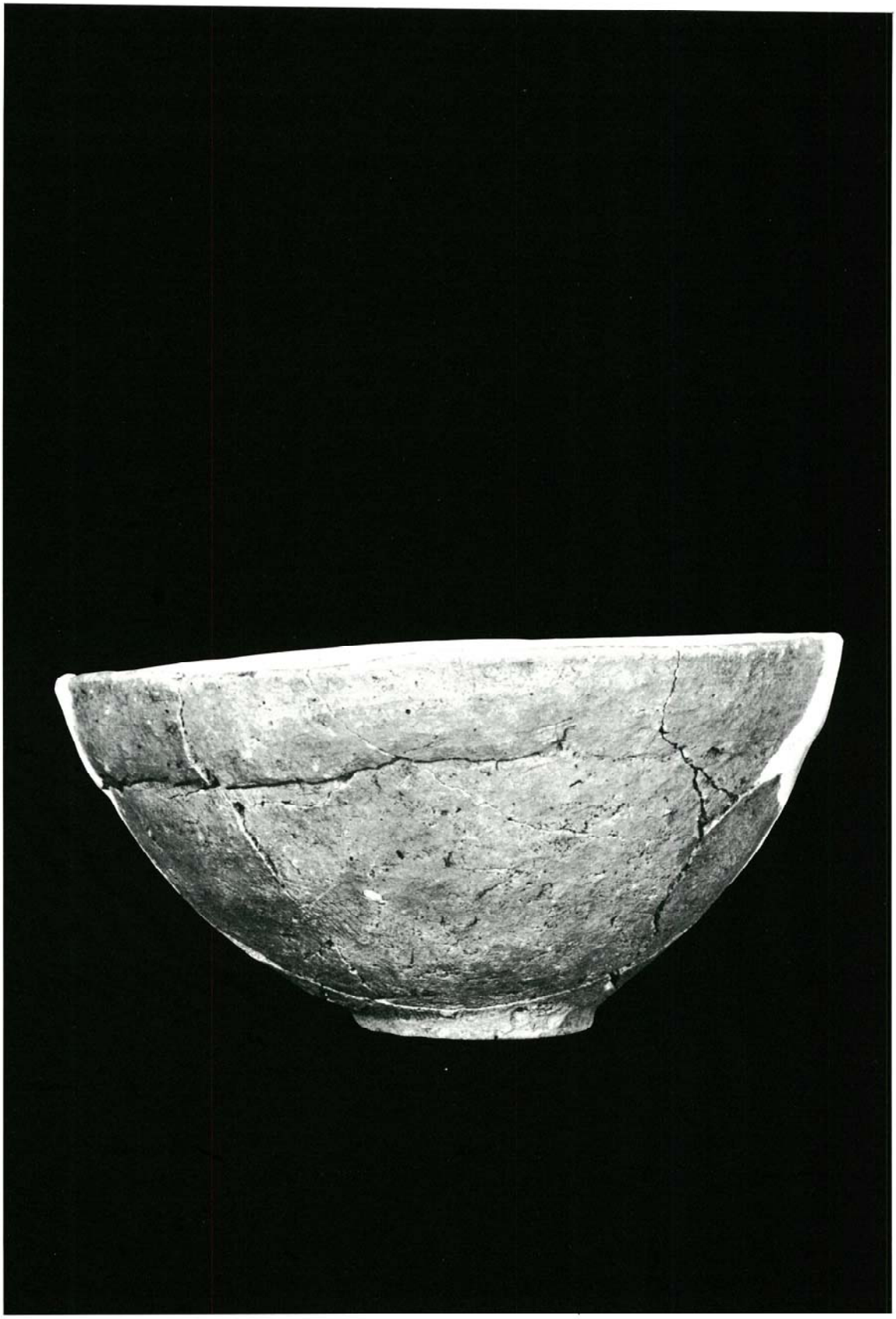
第五十四図版八幡原No3第1次調査の土器（2C）



第五十五図版八幡原No3第1次調査の土器（21）

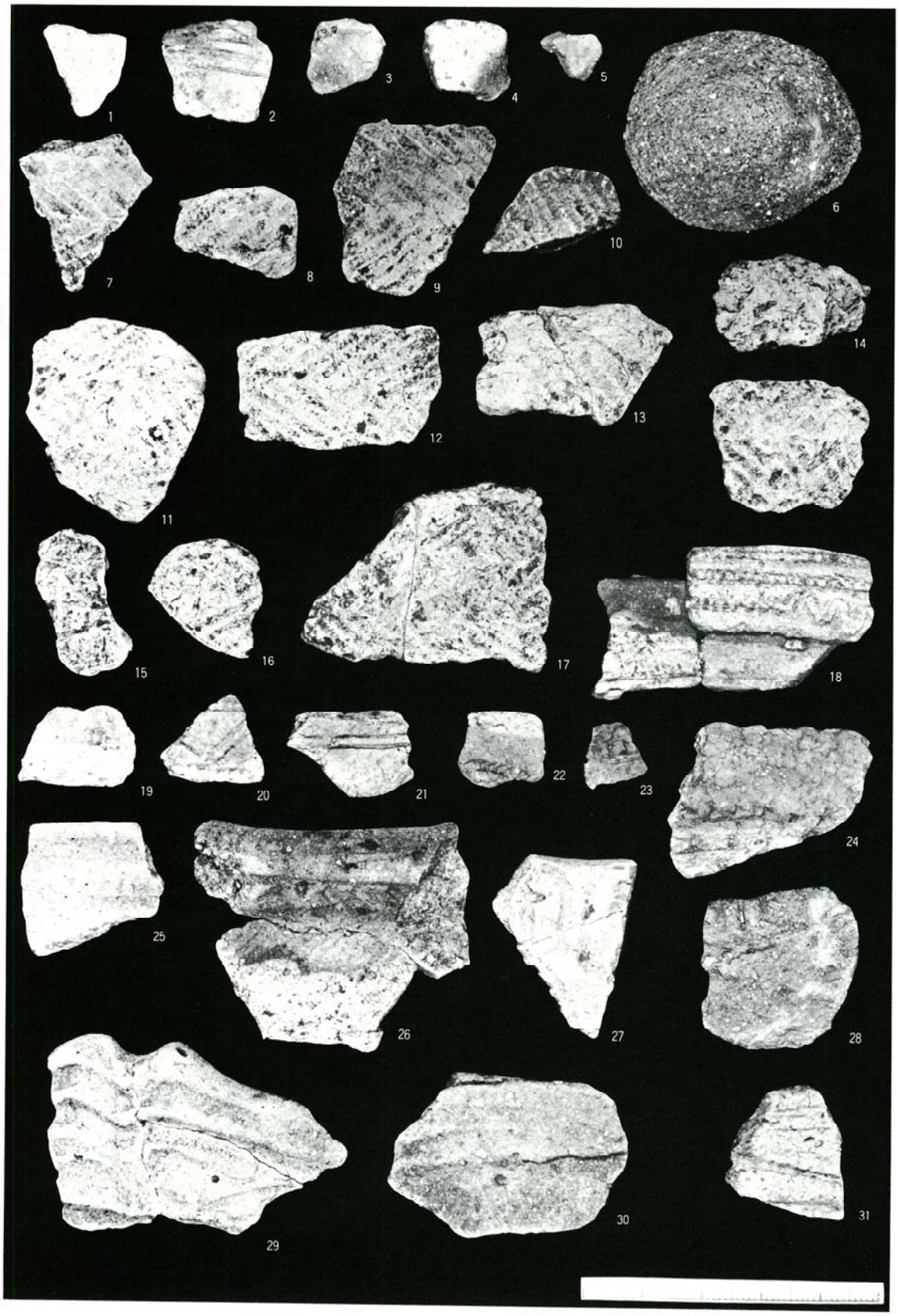
第五十六図版八幡原No3第1次調査の土器（22）

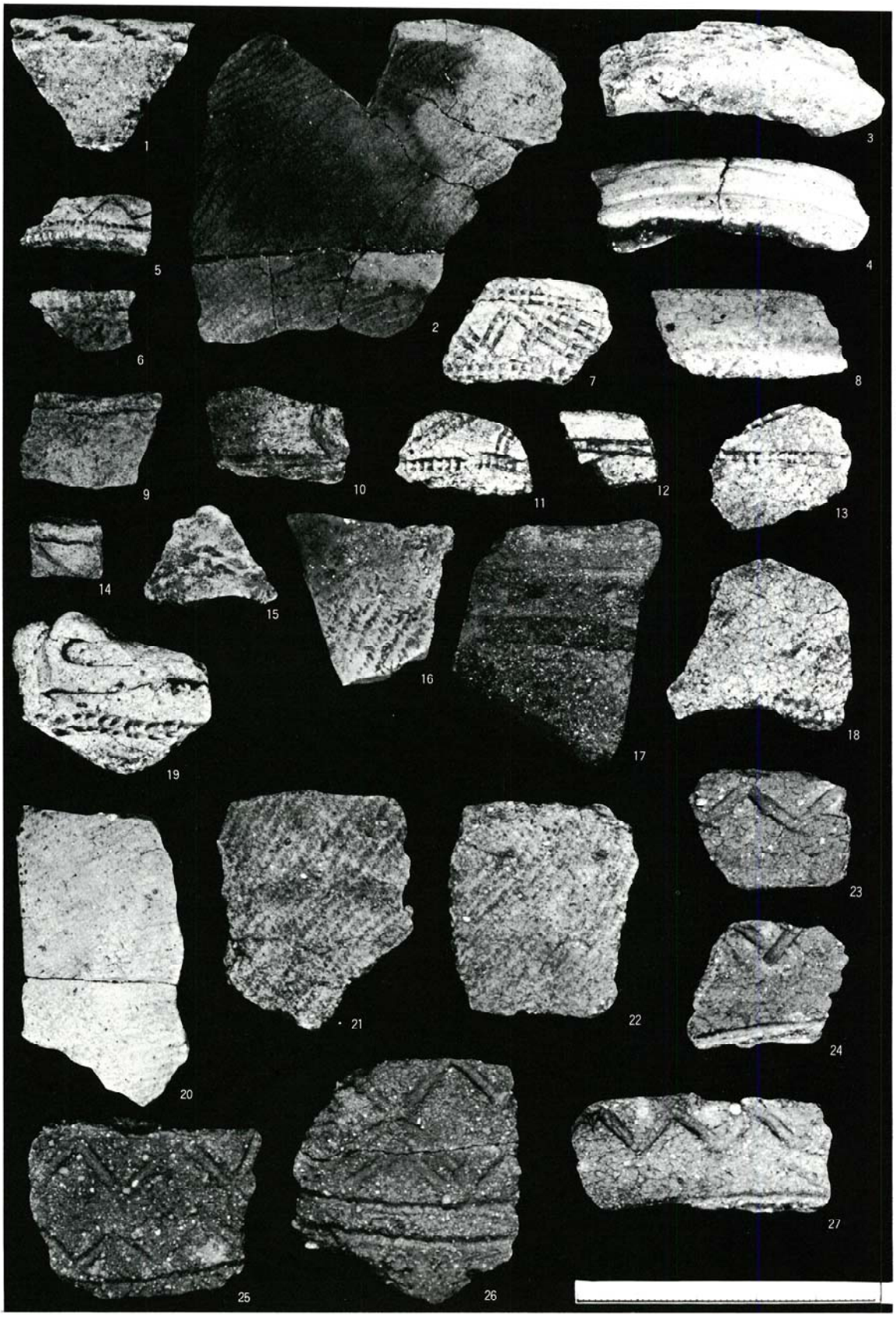




第五十七図版八幡原No.3第1次調査の土器（23）

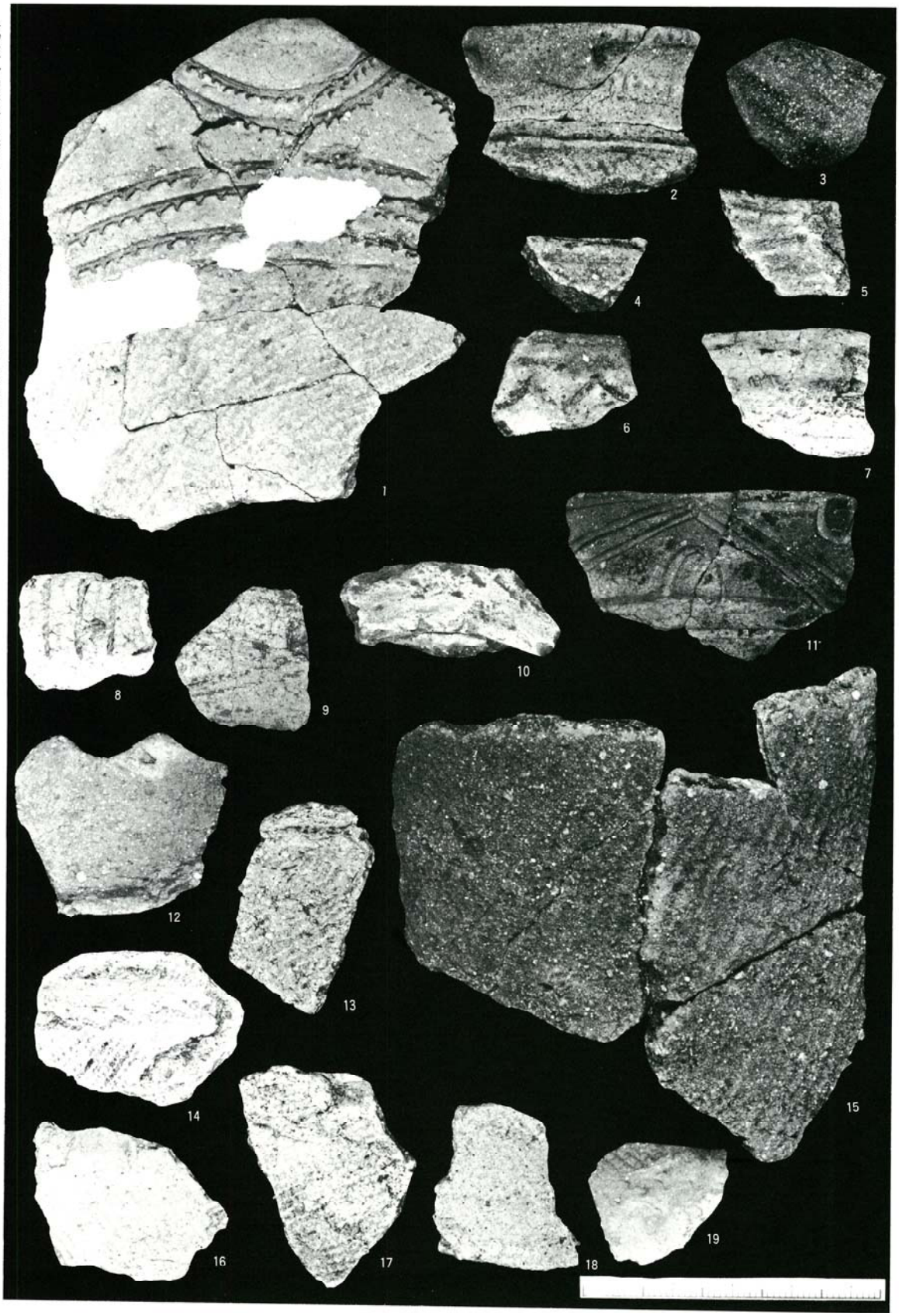
第五十八図版八幡原No3第1次調査の土器（24）

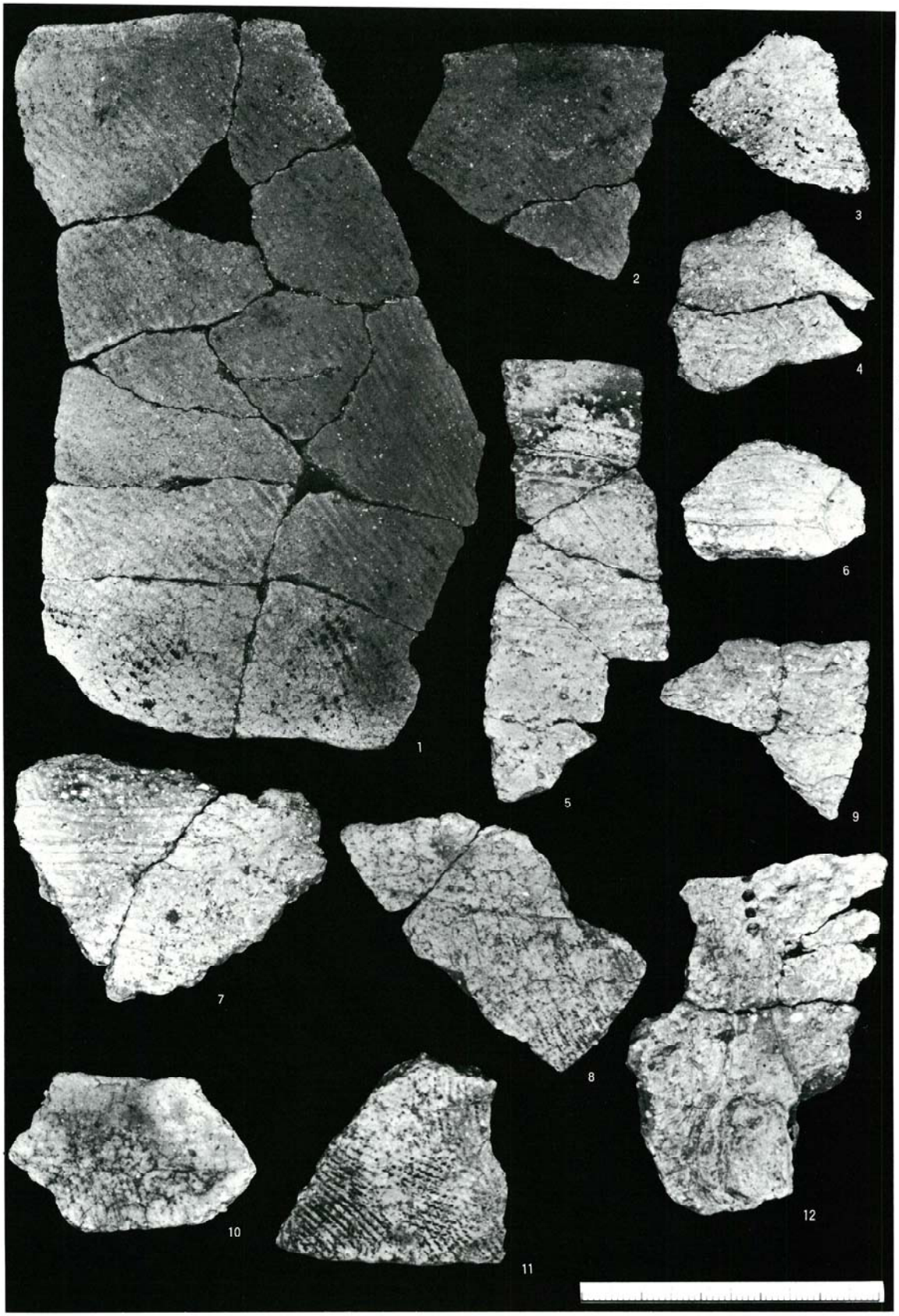




第五十九図版八幡原No3第1次調査の土器（25）

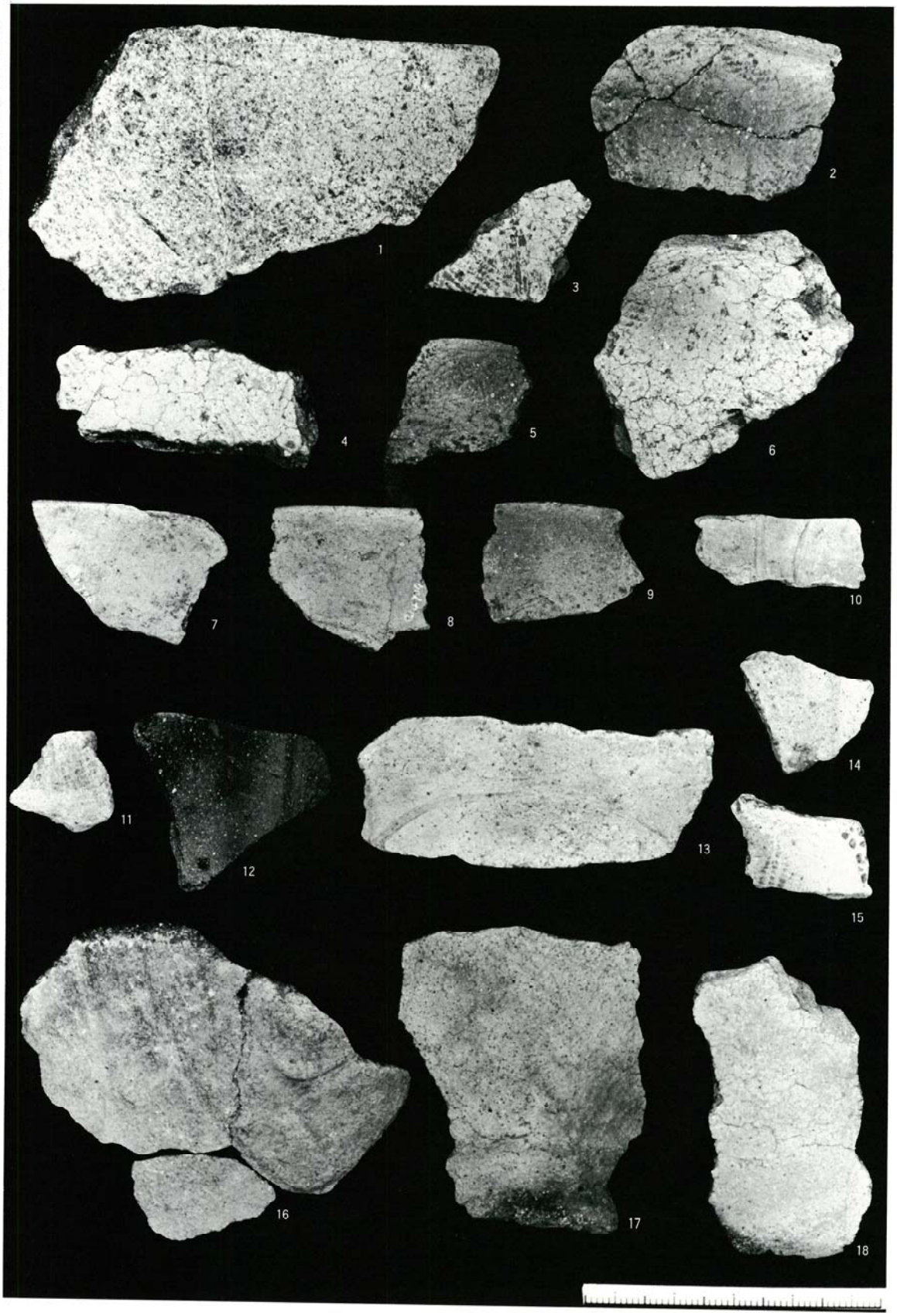
第六十図版八幡原No3第1次調査の土器（26）

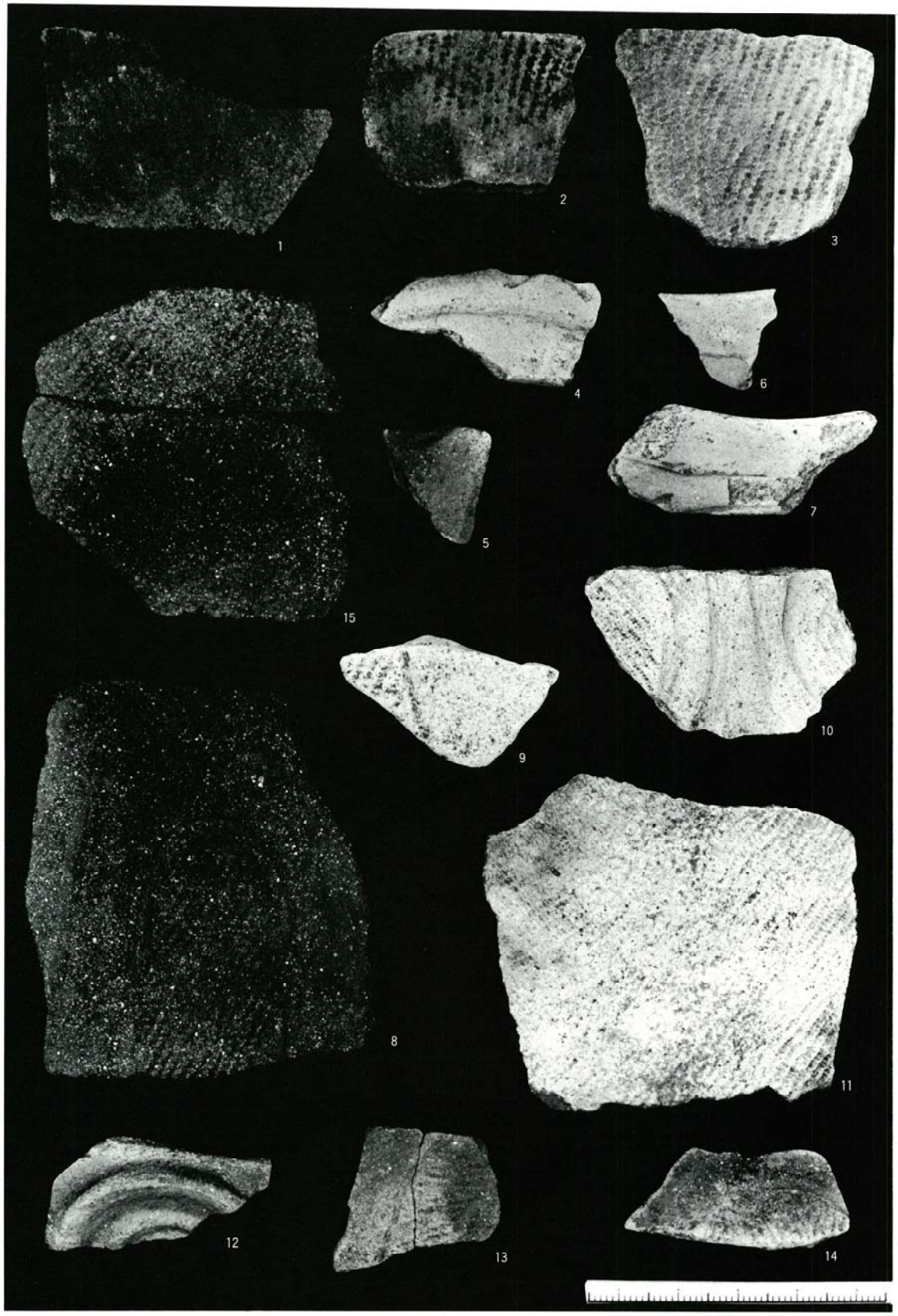




第六十一図版八幡原No3第1次調査の土器（27）

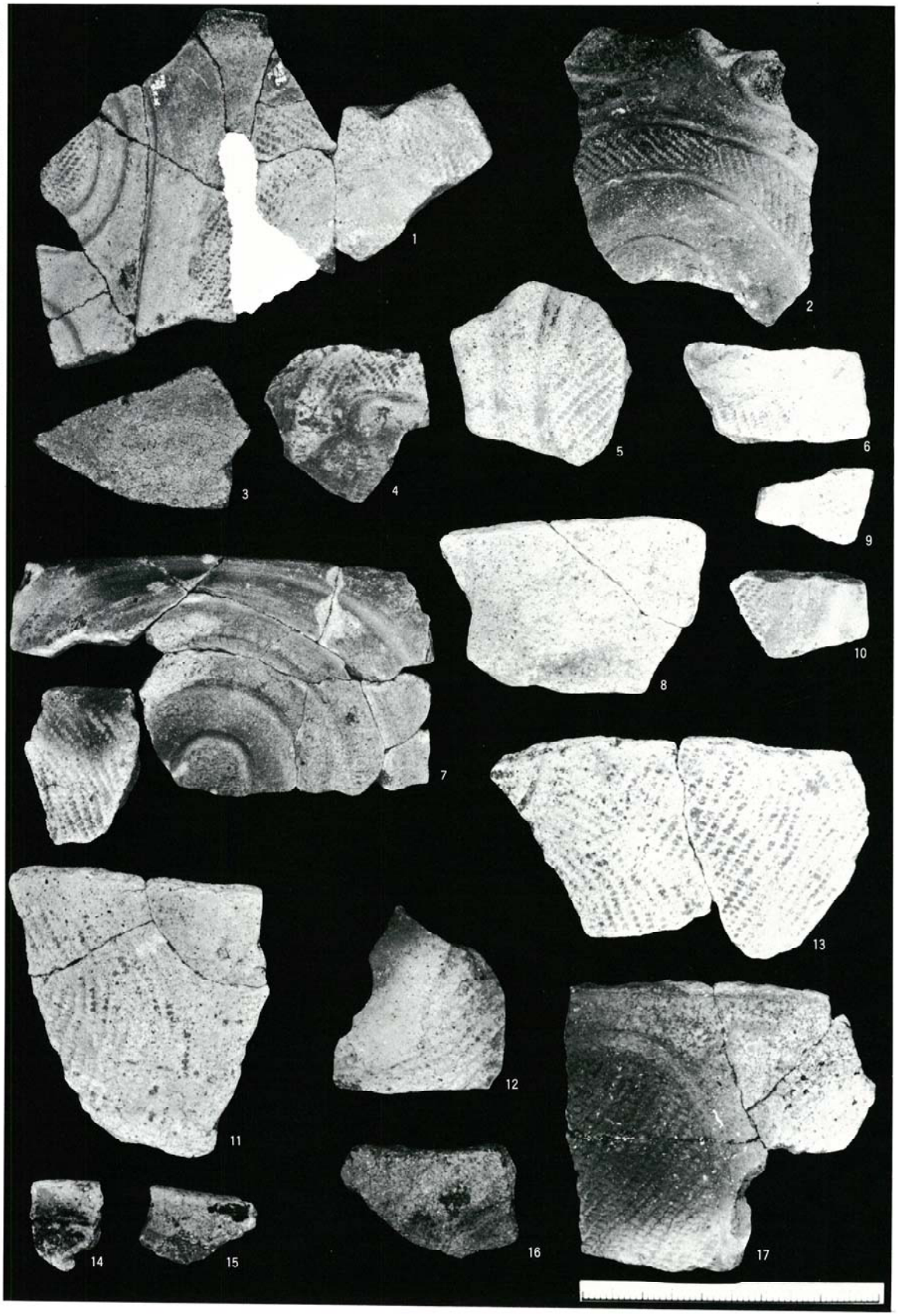
第六十二図版八幡原No3第1次調査の土器（28）

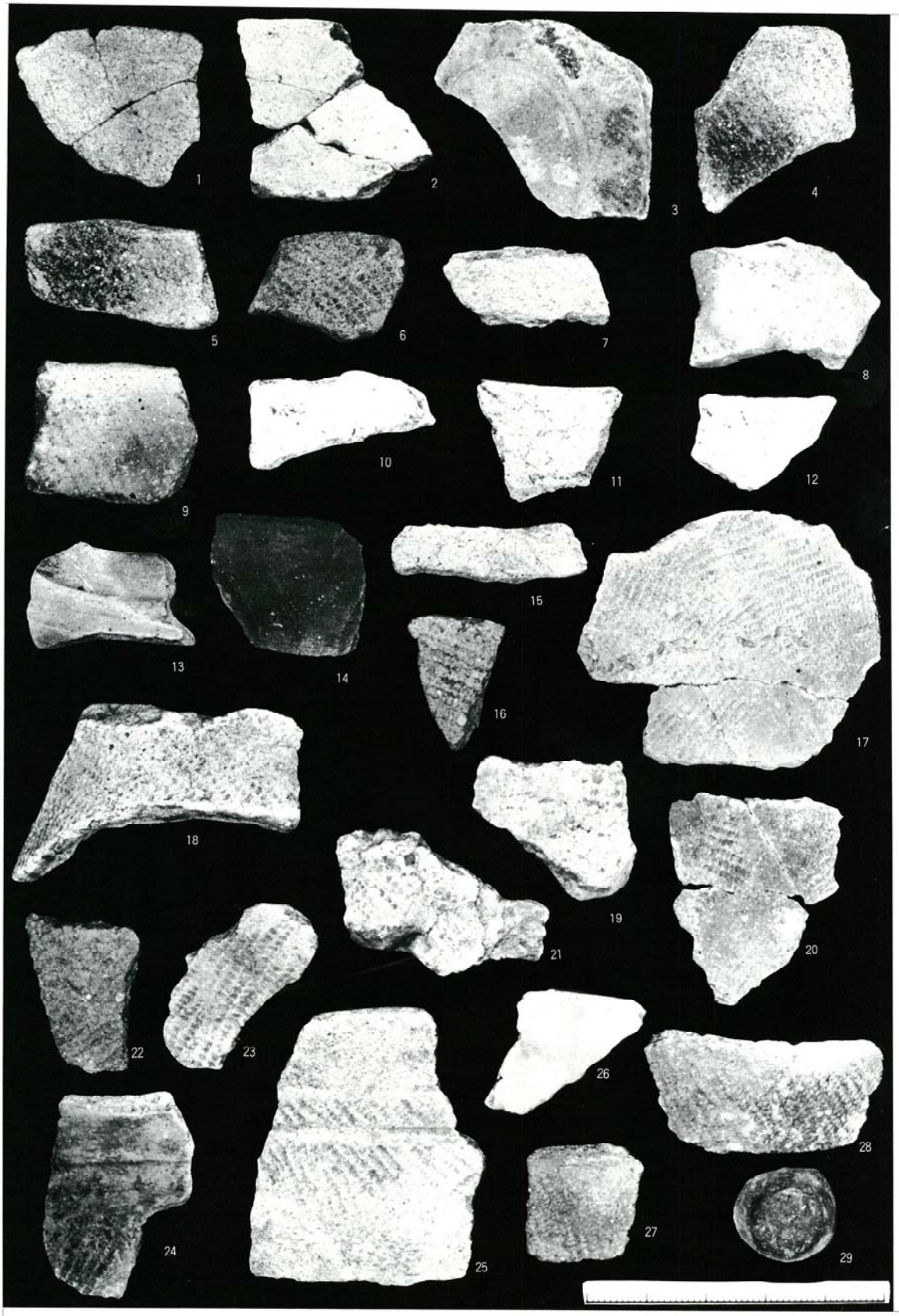




第六十三図版八幡原No3第1次調査の土器（29）

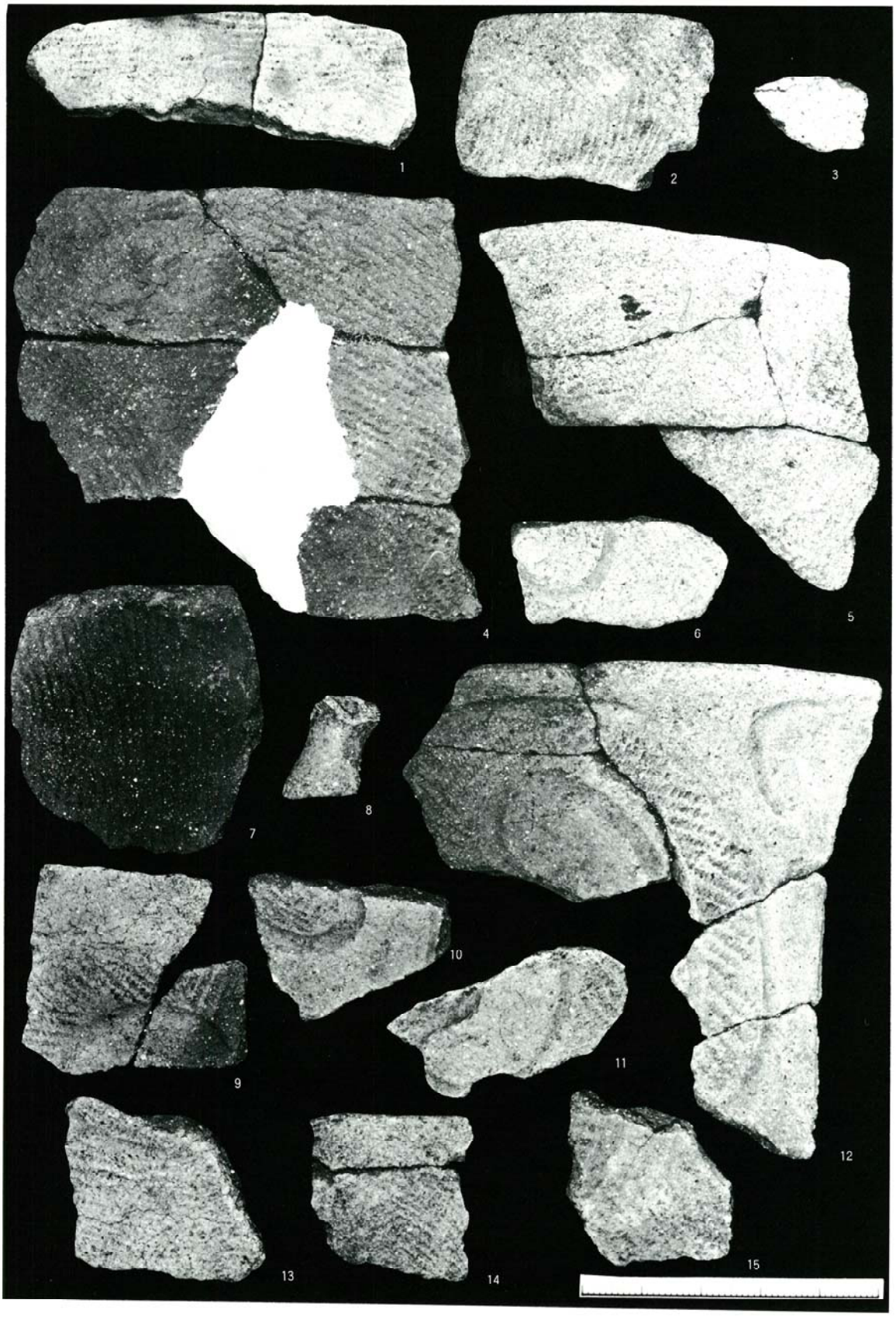
第六十四図版八幡原No3第1次調査の土器（30）

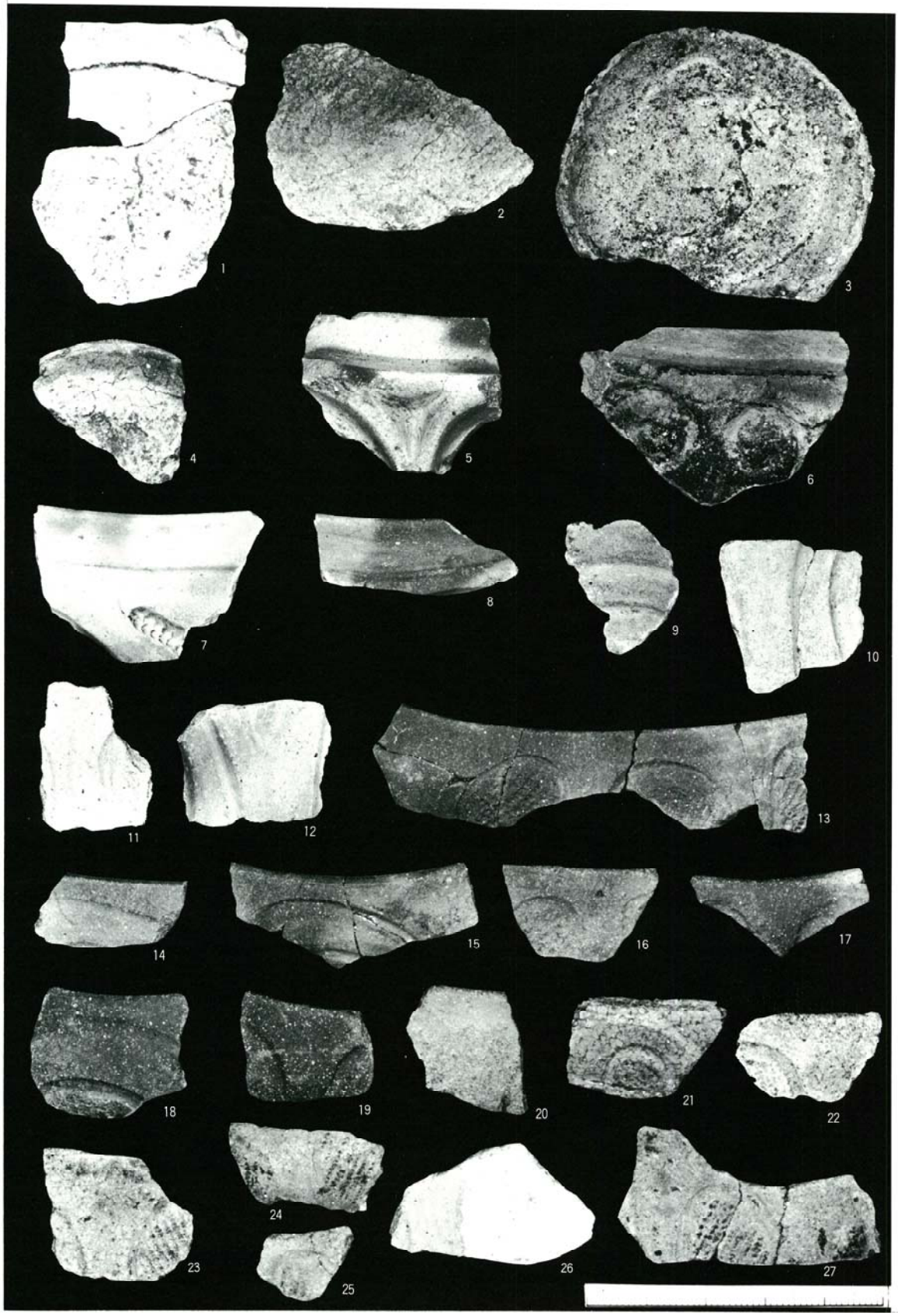




第六十五図版八幡原No3第1次調査の土器（31）

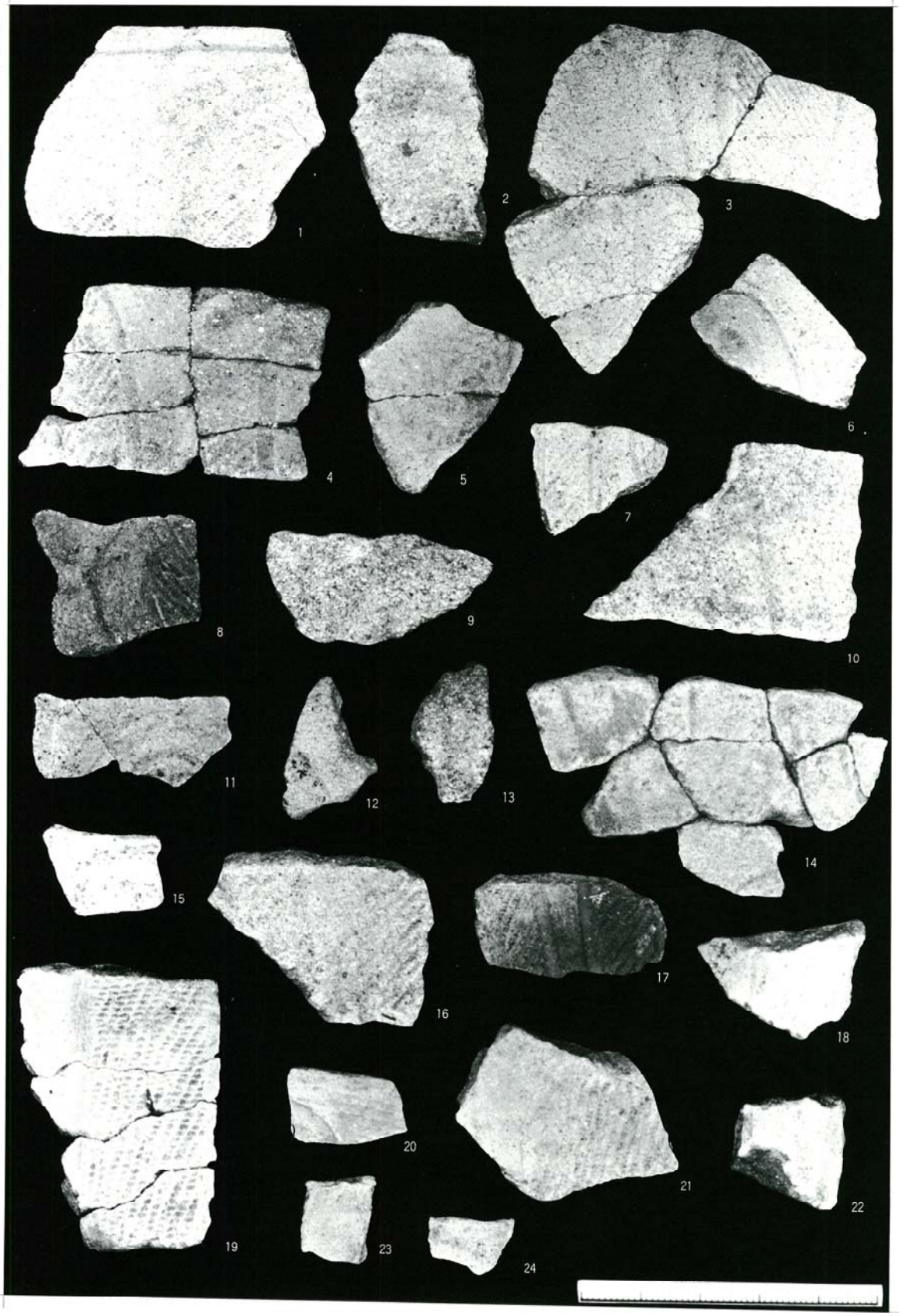
第六十六図版八幡原No 3第1次調査の土器（32）

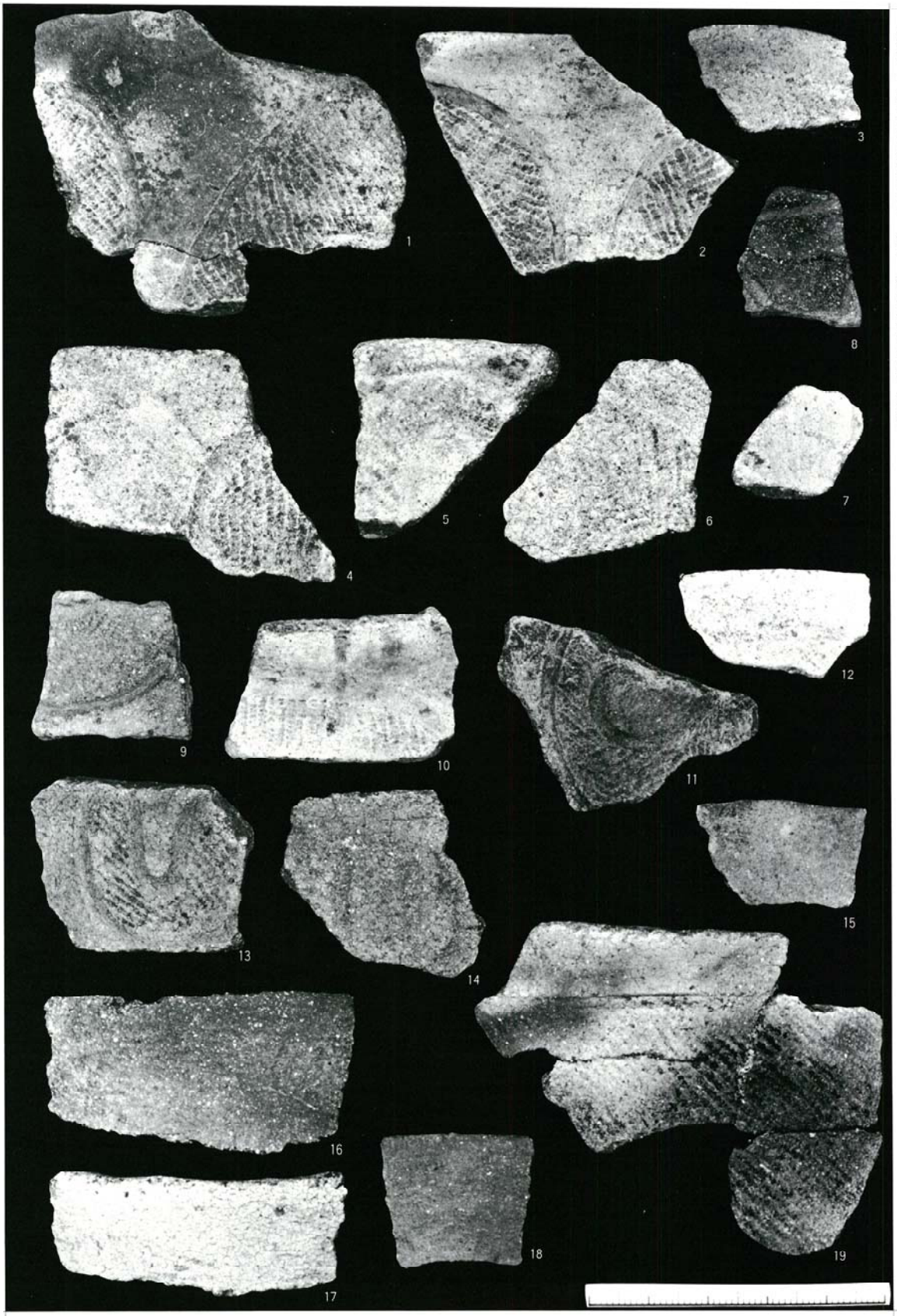




第六十七図版八幡原No3第1次調査の土器（33）

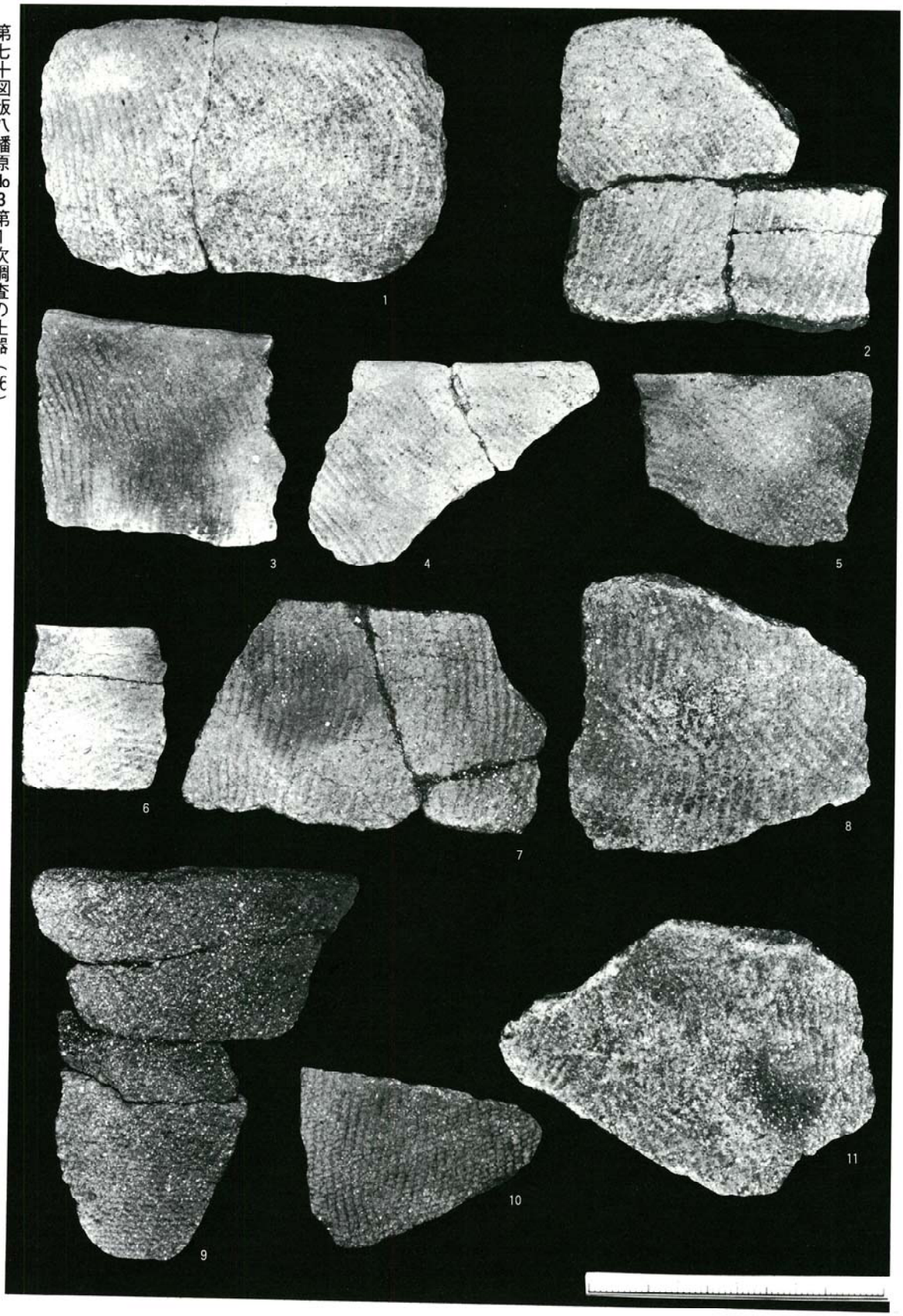
第六十八図版八幡原No 3第1次調査の土器（34）



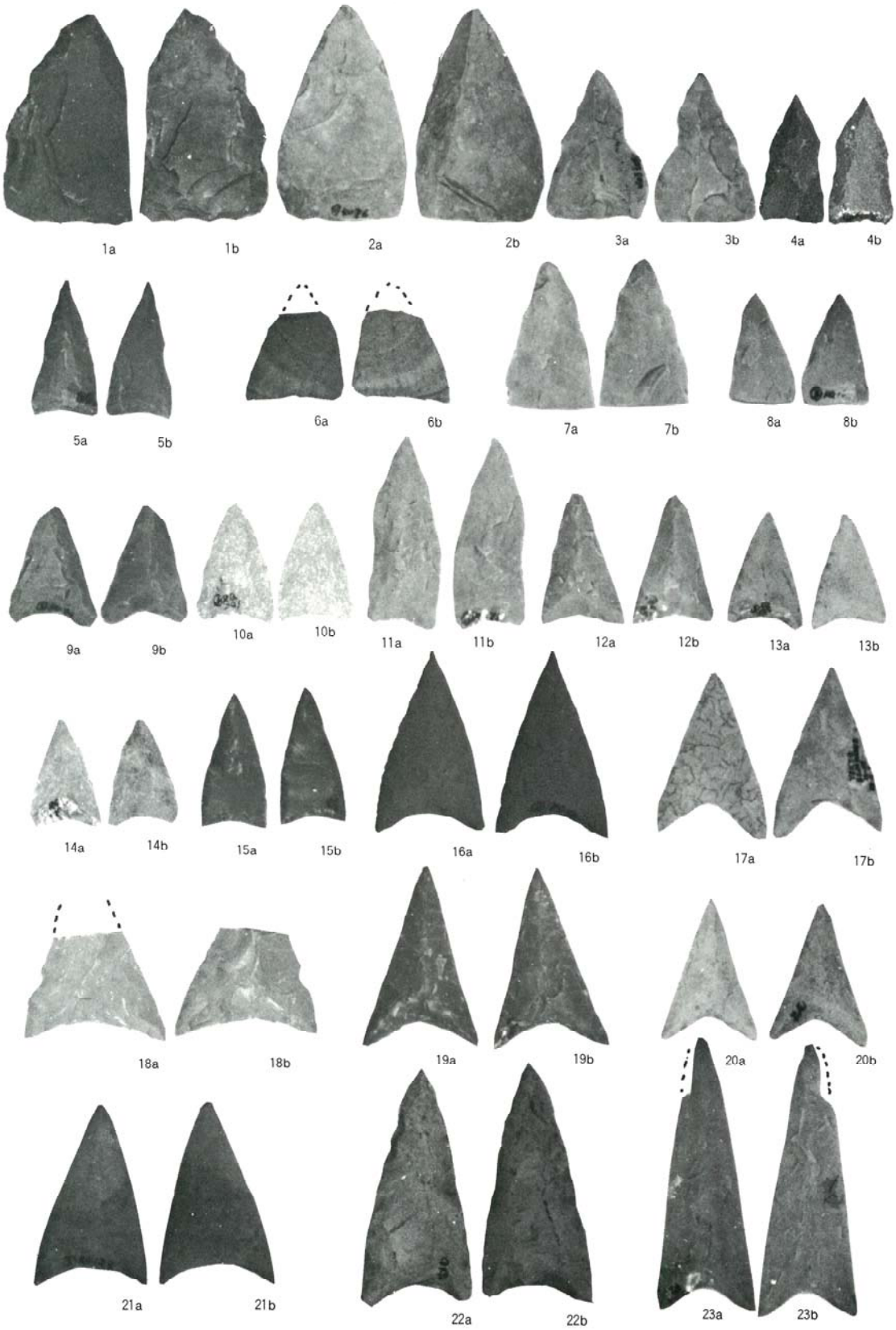


第六十九図版八幡原No3第1次調査の土器（35）

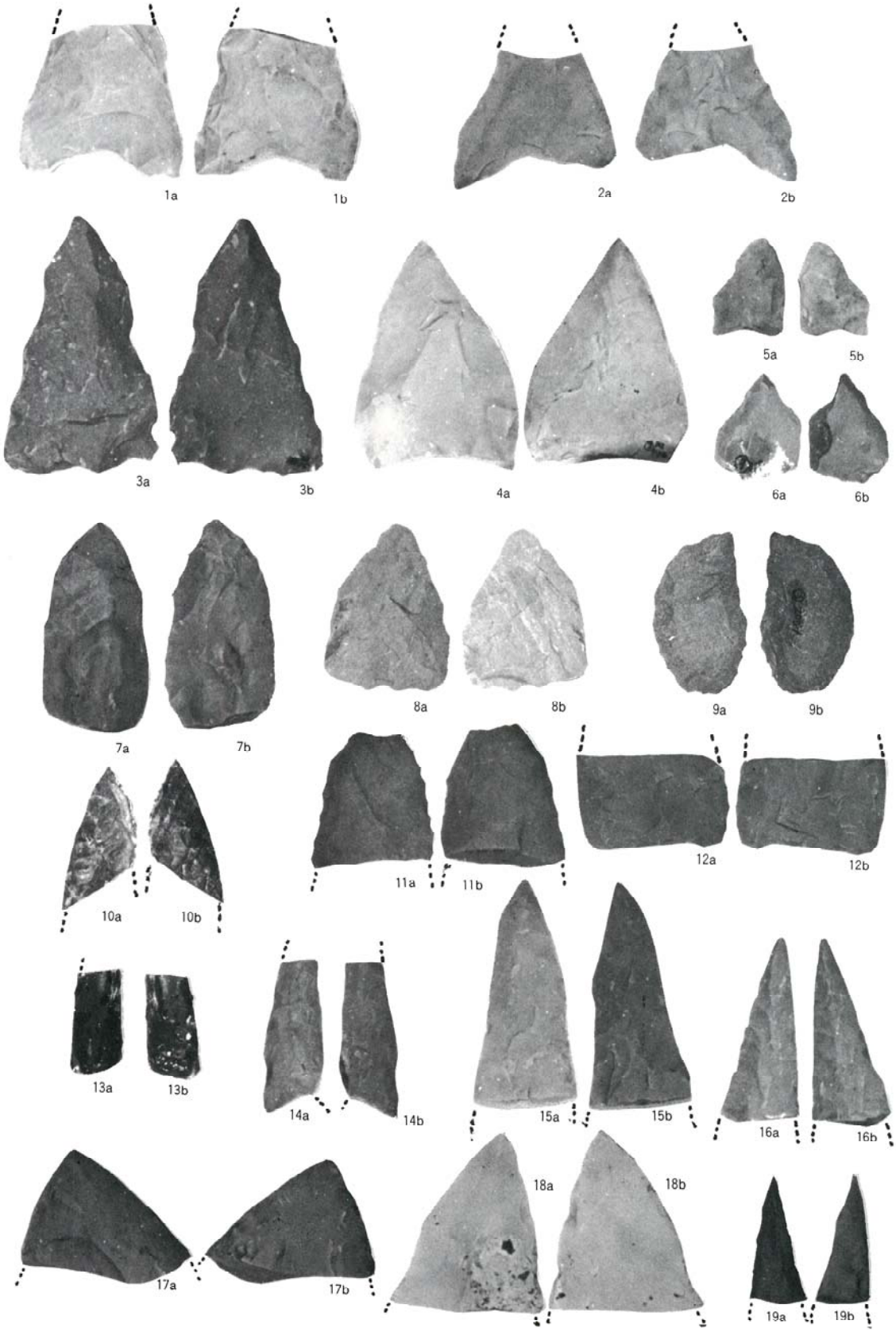
第七十図版八幡原No3第1次調査の土器（36）



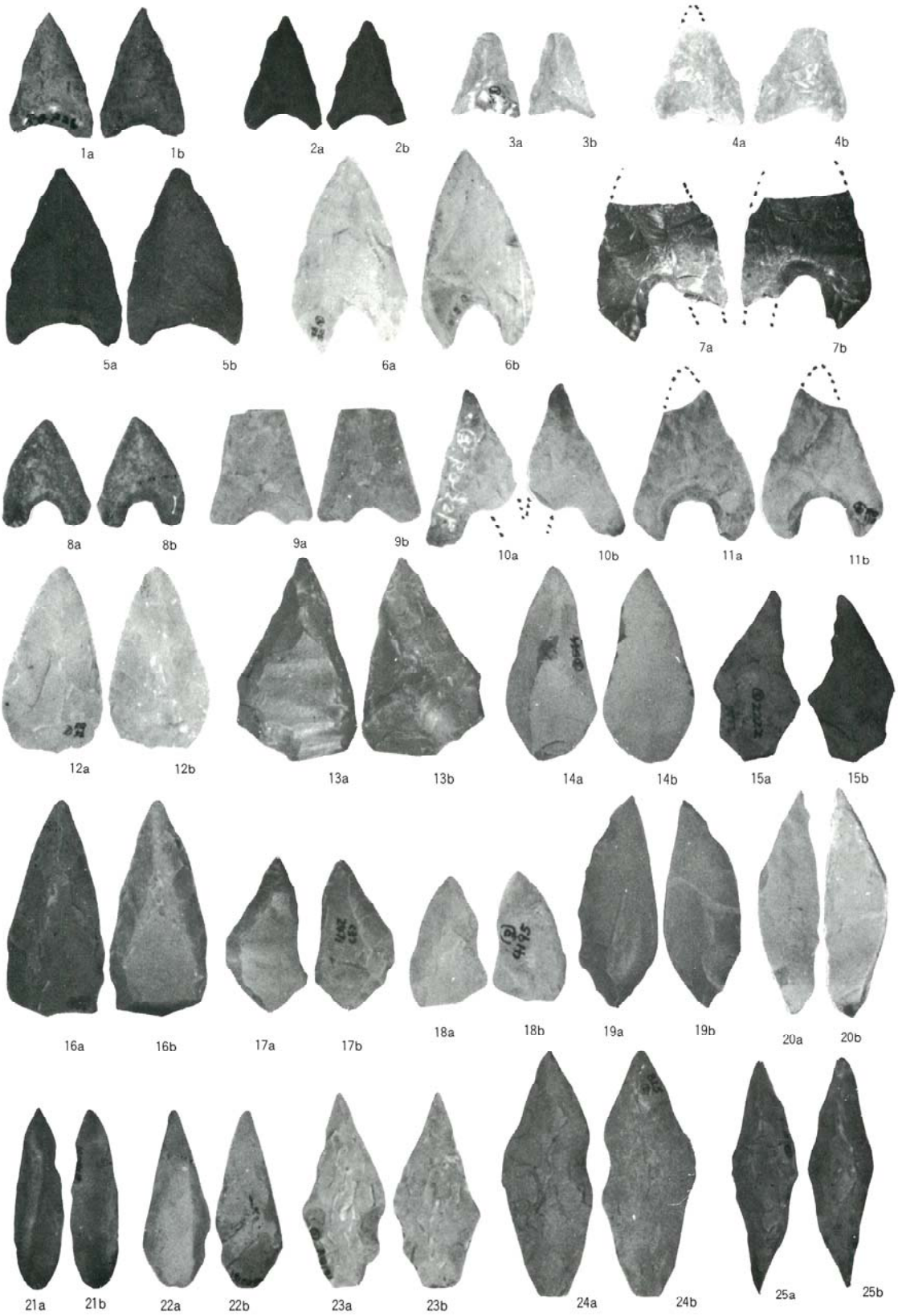
第七十一図版八幡原No3第1次調査の石器（1）



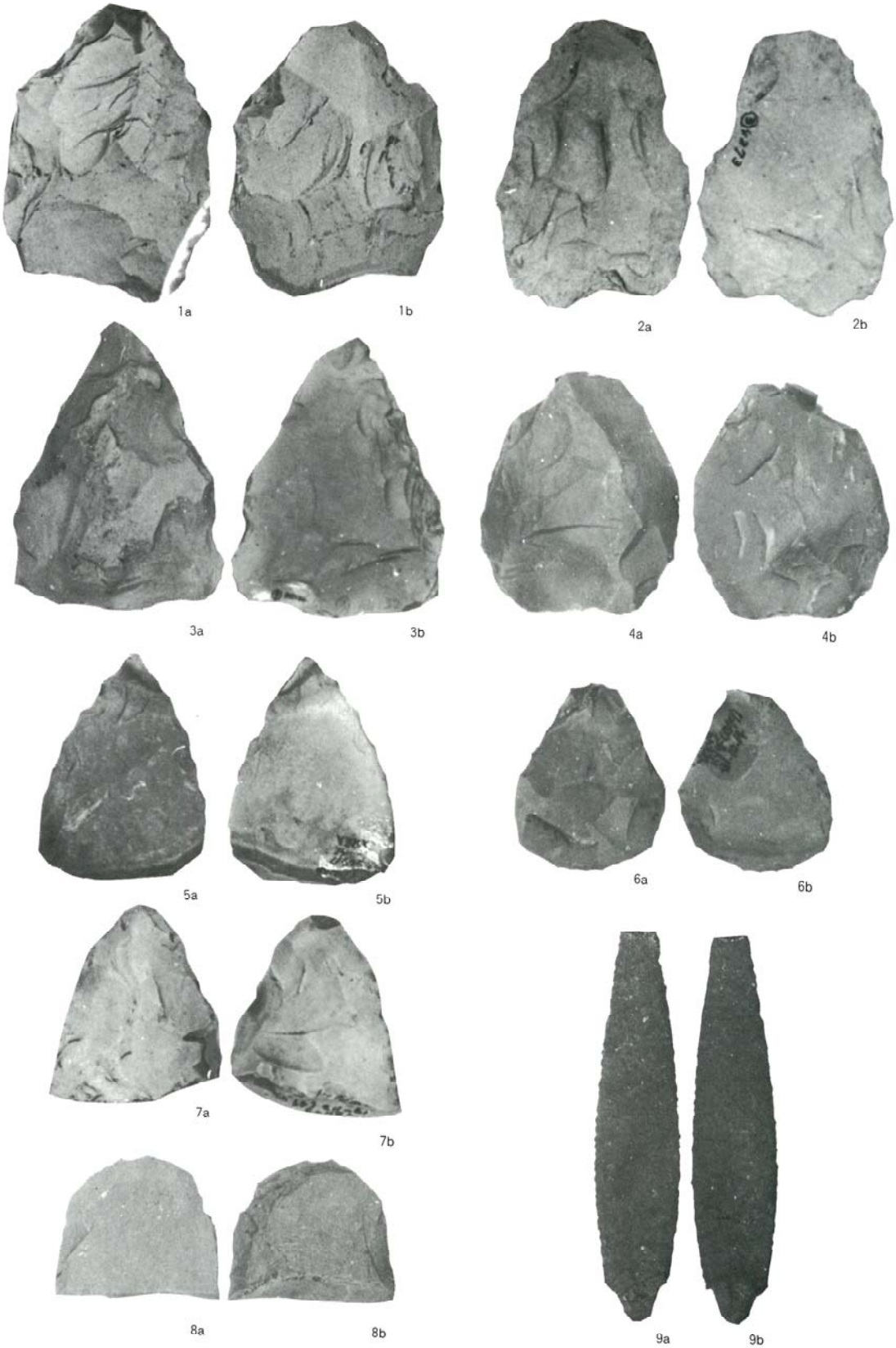
第七十二図版八幡原No3第1次調査の石器（2）



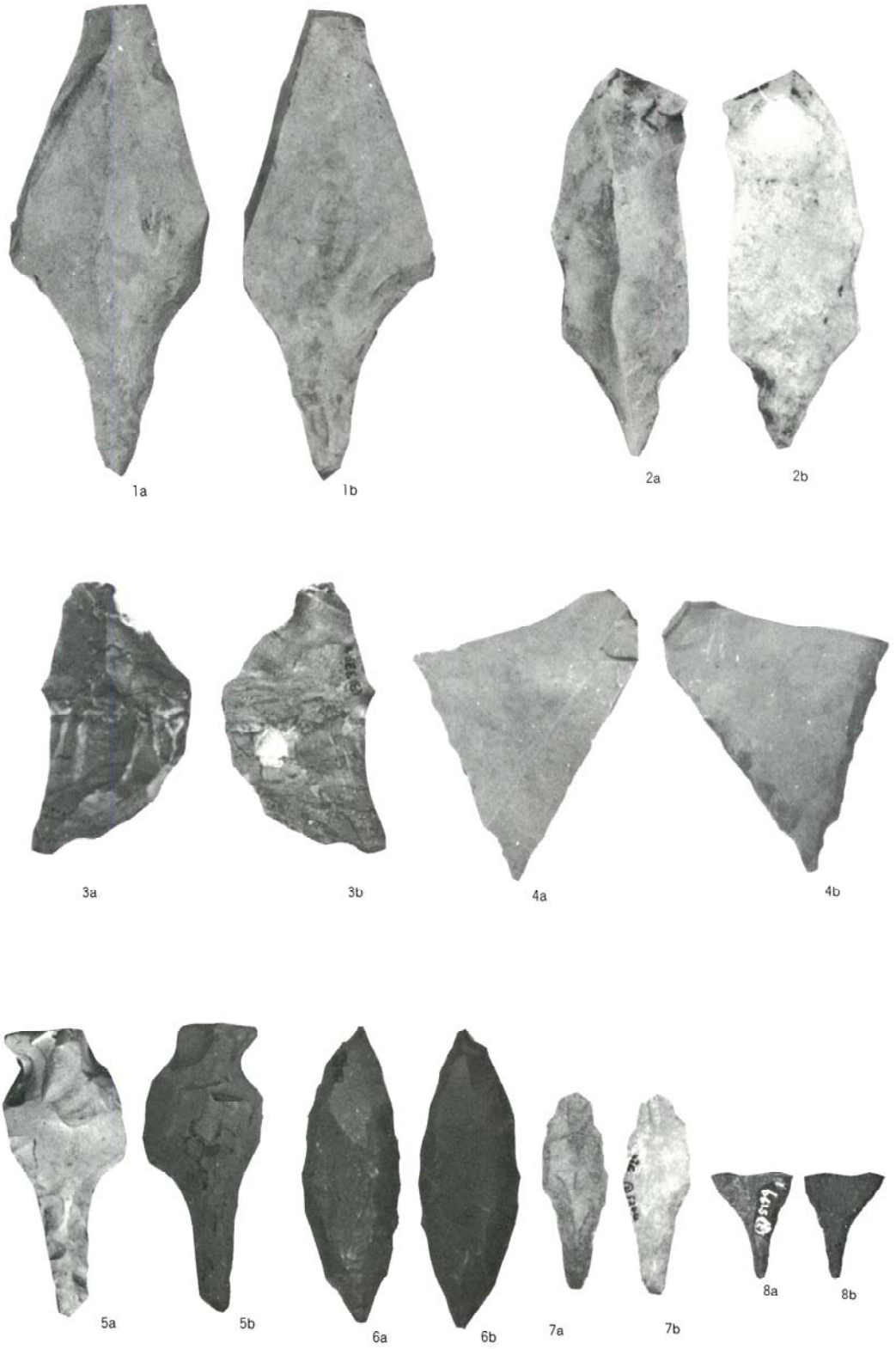
第七十三図版八幡原No3第1次調査の石器（3）



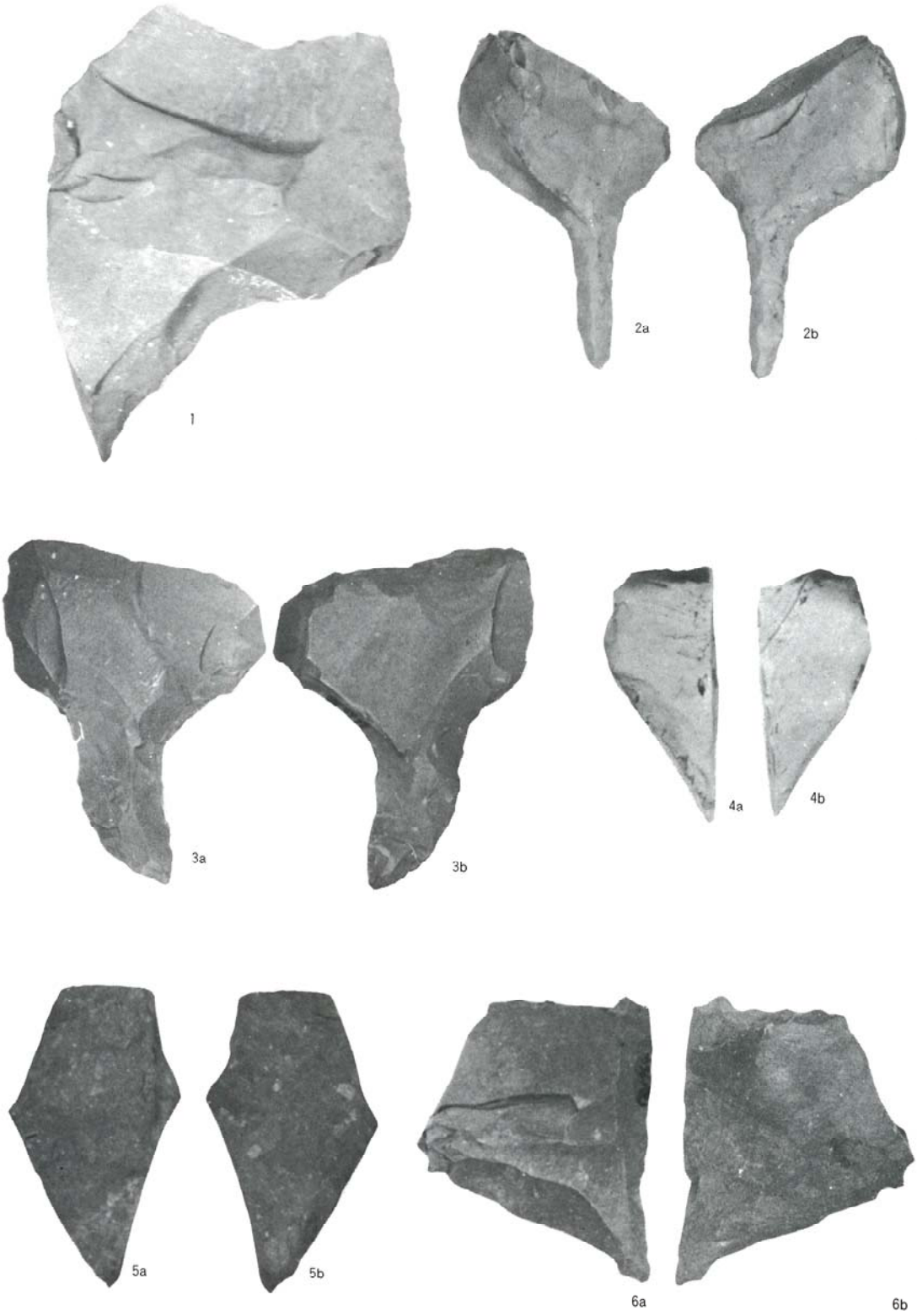
第七十四図版八幡原No3第1次調査の石器（4）



第七十五図版八幡原No.3第1次調査の石器（5）



第七十六図版八幡原No3第1次調査の石器（6）



第七十七図版八幡原No3第1次調査の石器（7）

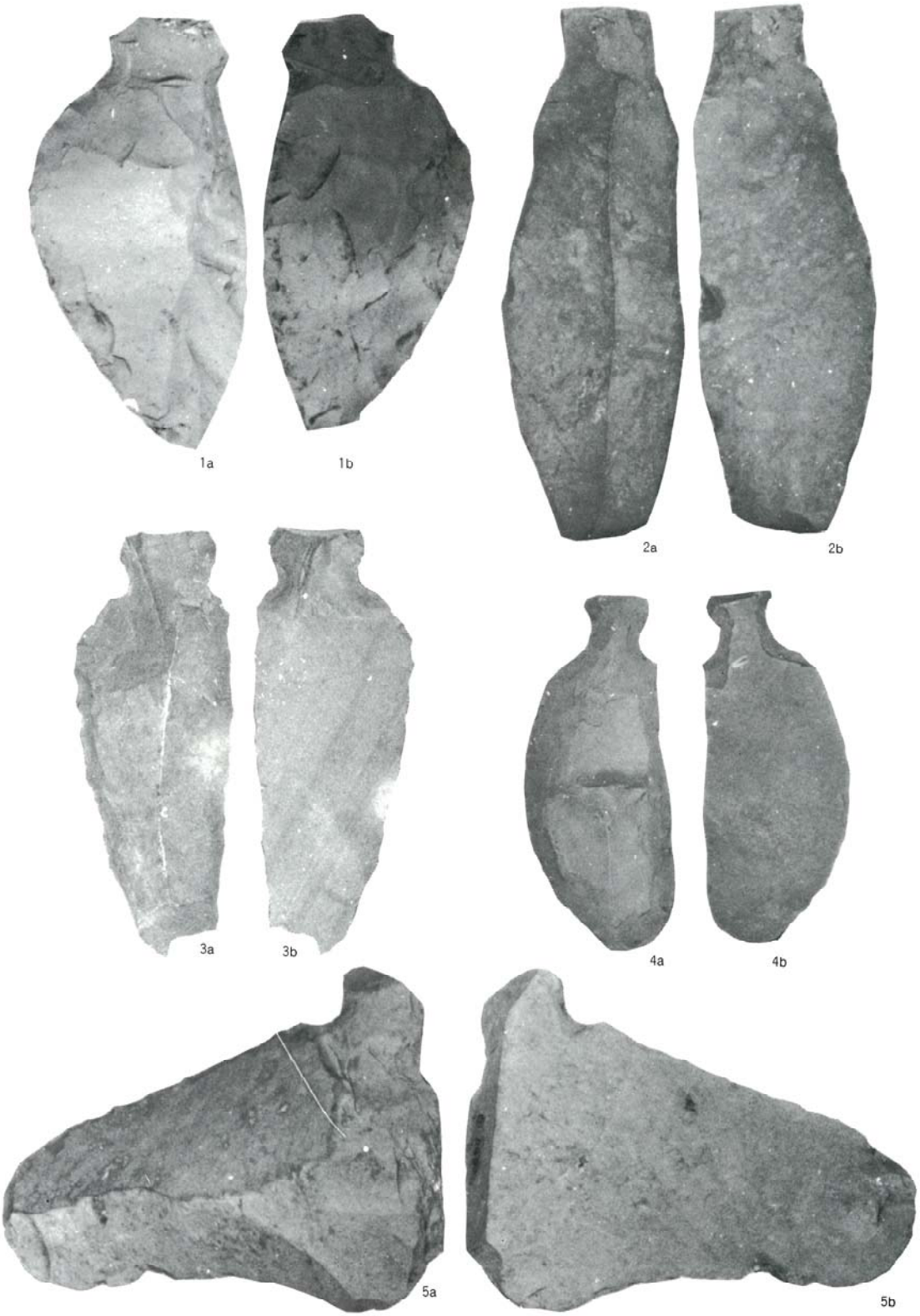
1a

1b

2a

2b

第七十八図版八幡原No3第1次調査の石器（8）



第七十九図版八幡原No3第1次調査の石器（9）

1a

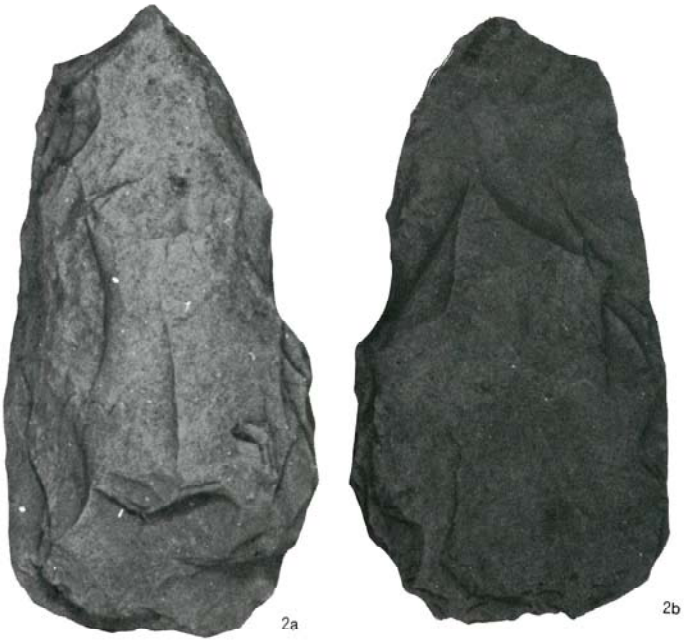
2a　2b

3a

3b

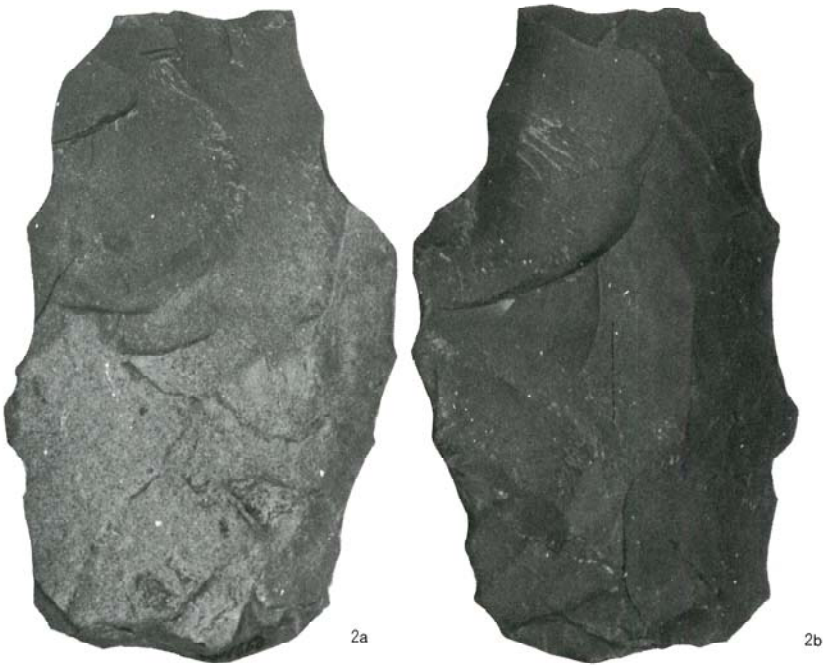
第八十図版八幡原No3第1次調査の石器（10）

1a　1b

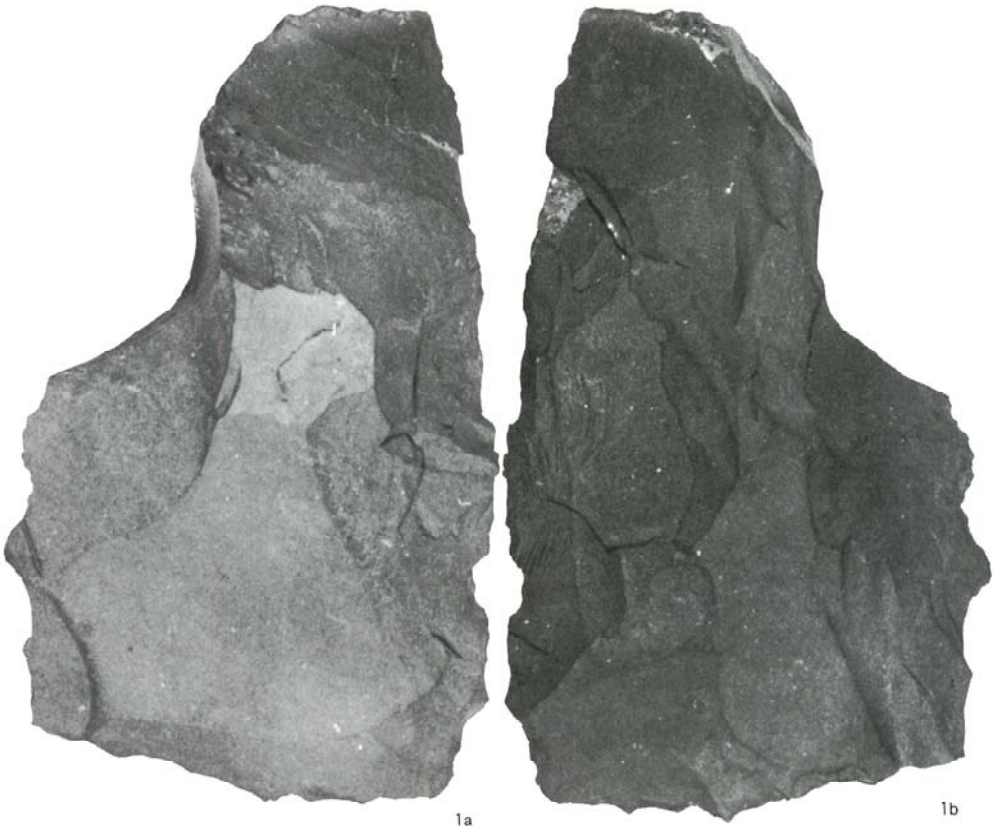


2a　2b

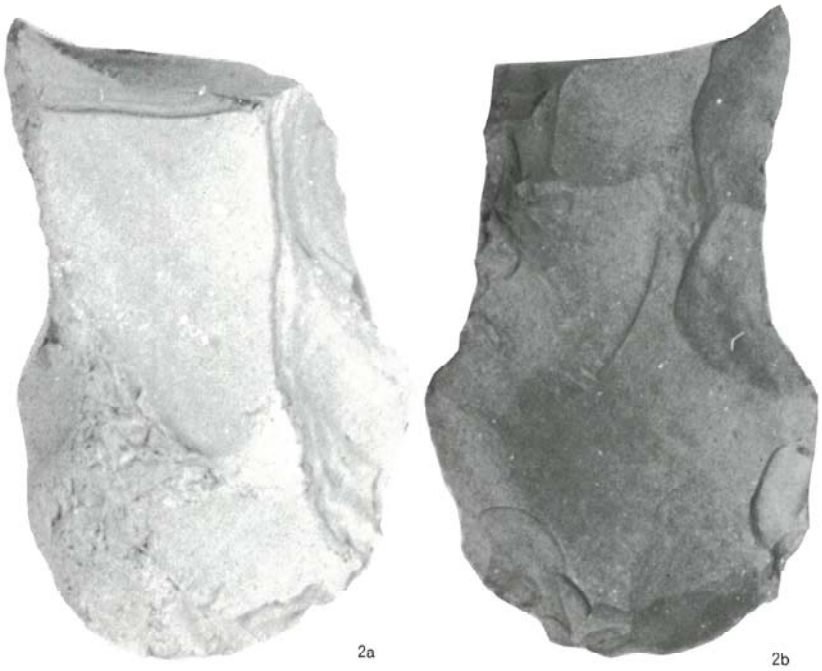
第八十一図版八幡原No3第1次調査の石器（11）



第八十二図版八幡原No 3第1次調査の石器（12）

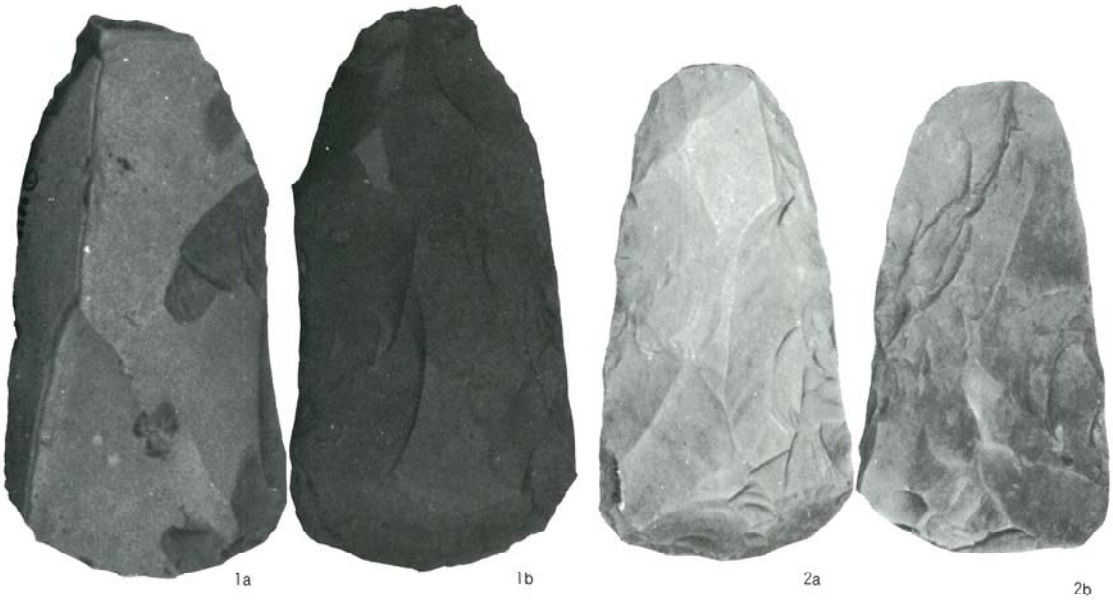


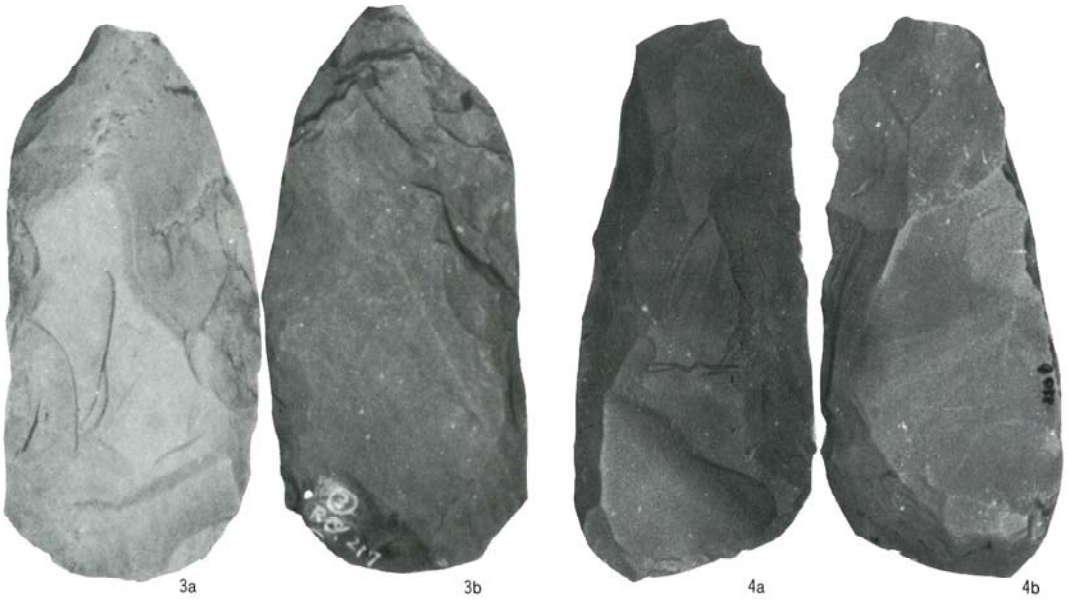
1a　1b



2a　2b

第八十三図版八幡原No3第1次調査の石器（13）





第八十四図版八幡原No3第1次調査の石器（14）

1a

1b

2a

2b

3a

3b

4a

4b

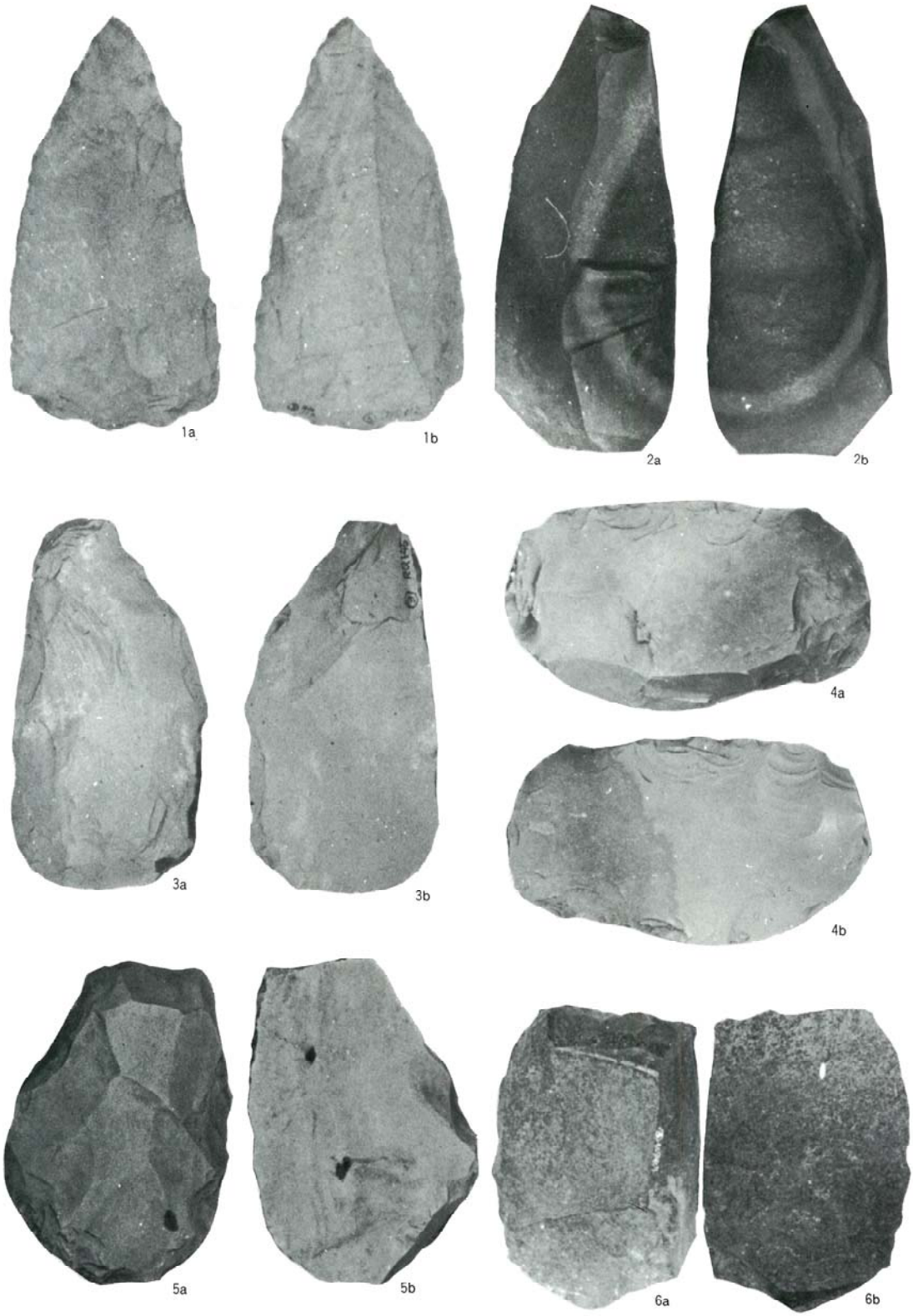
5a

5b

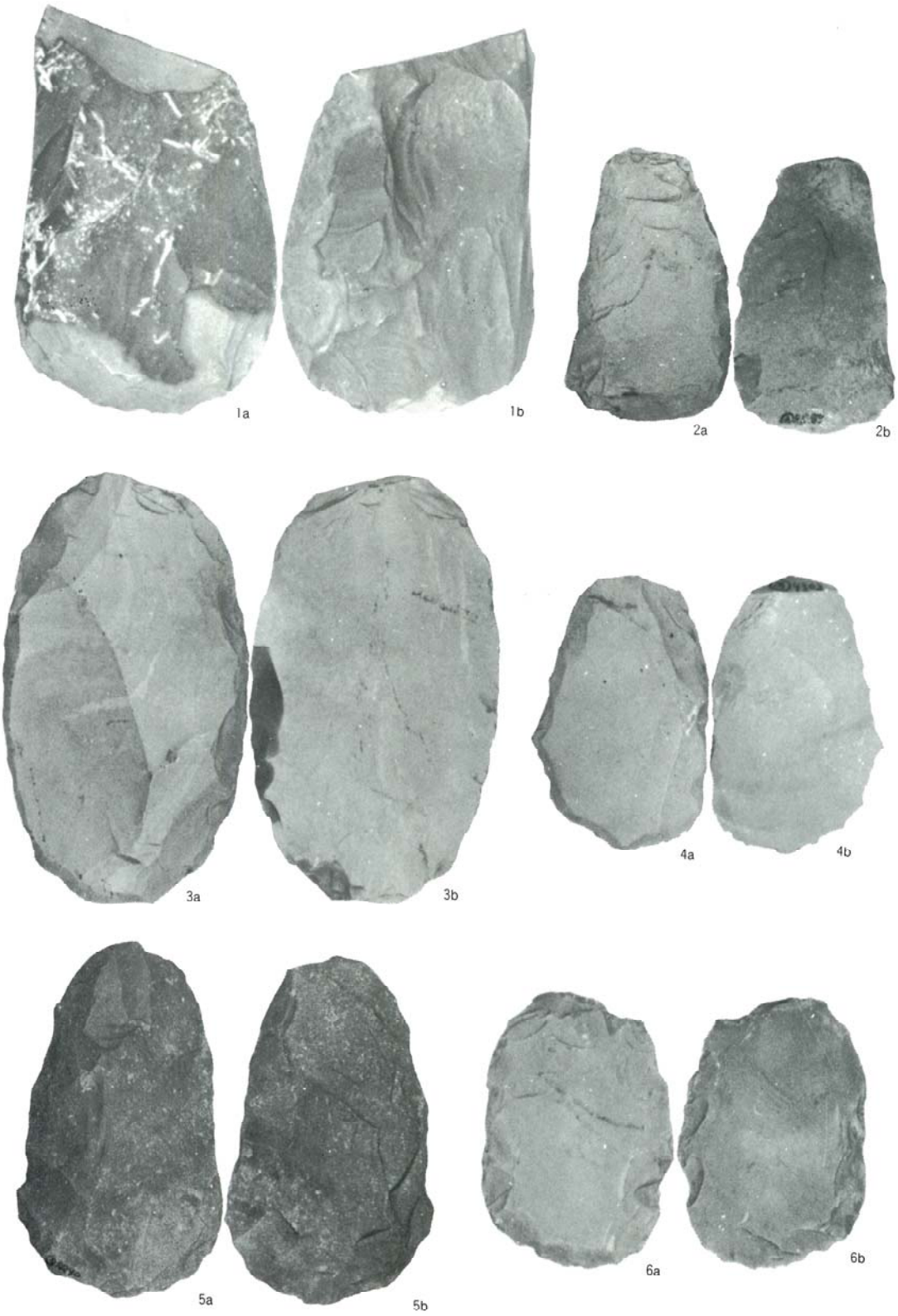
6a

6b

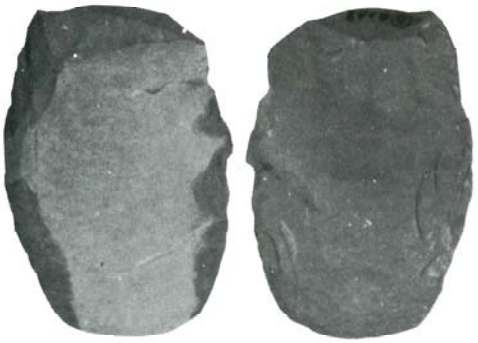
第八十五図版八幡原No3第1次調査の石器（15）



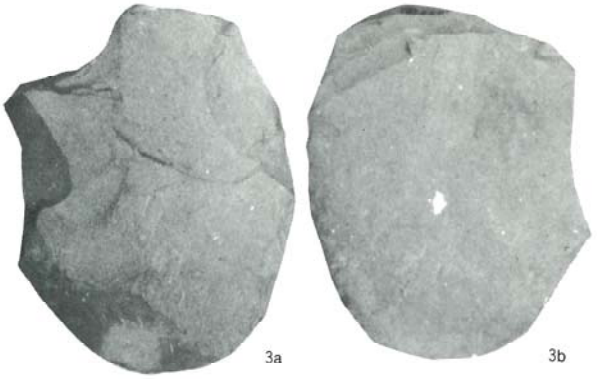
第八十六図版八幡原No3第1次調査の石器（16）

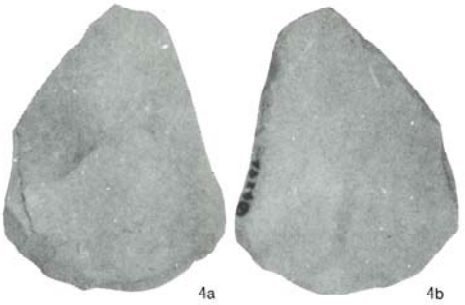


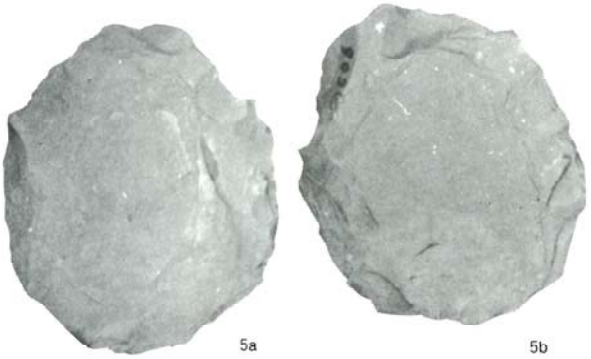
第八十七図版八幡原No 3第1次調査の石器（17）


1a 1b

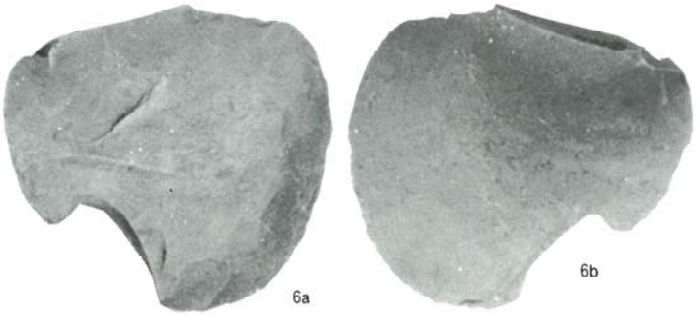
2a 2b


3a 3b


4a 4b

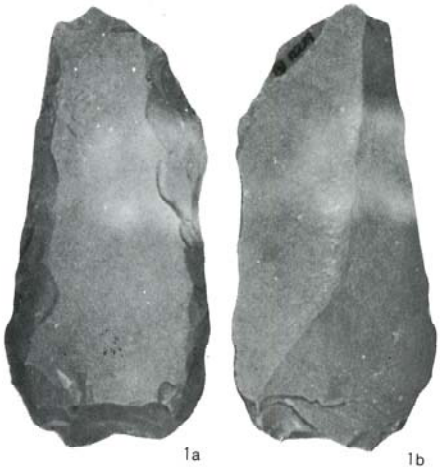

5a 5b

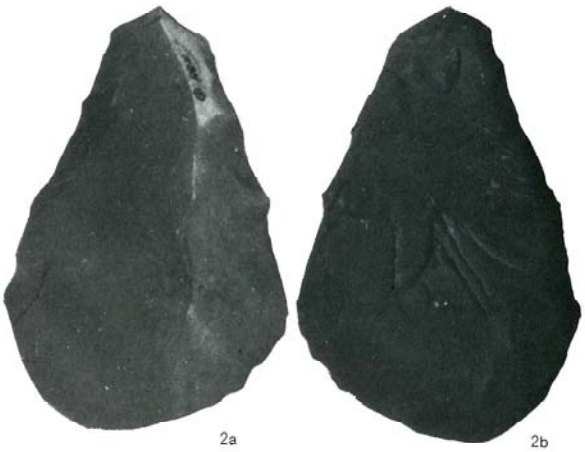
7a

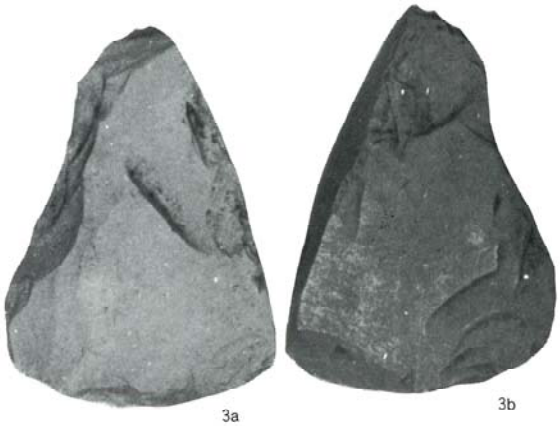

6a 6b

7b

第八十八図版八幡原No3第1次調査の石器（18）

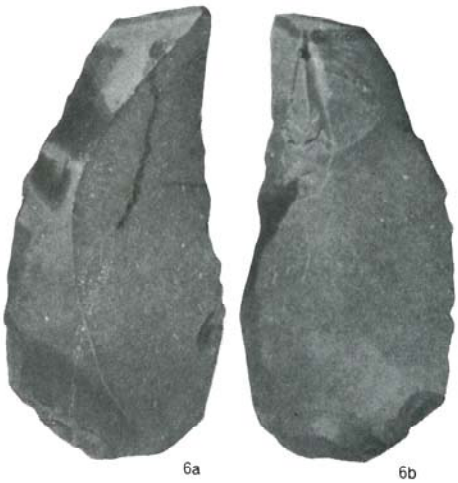

1a 1b


2a 2b


3a 3b

4a 4b

5a 5b


6a 6b

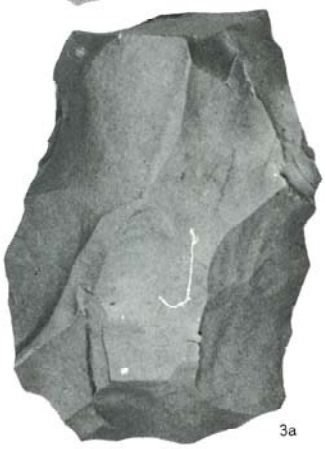
第八十九図版八幡原No 3第1次調査の石器（19）

1a

1b

2a

2b

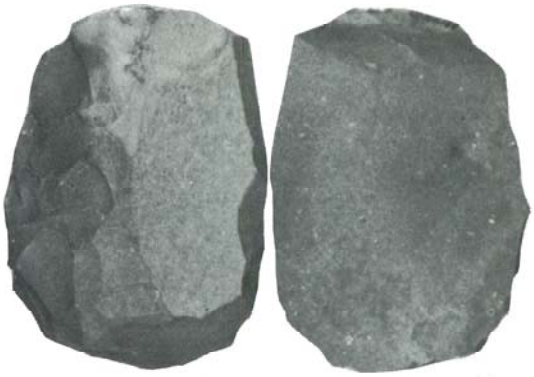

3a

3b

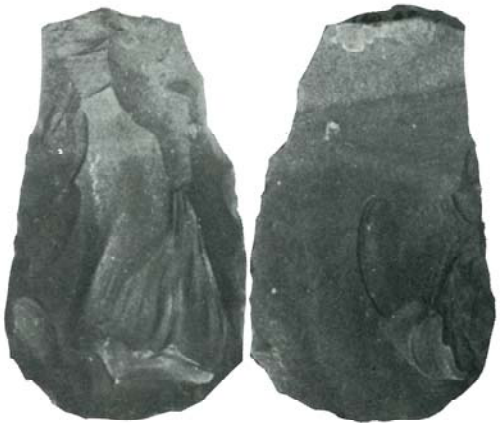
第九十図版八幡原No3第1次調査の石器（20）

1a　1b

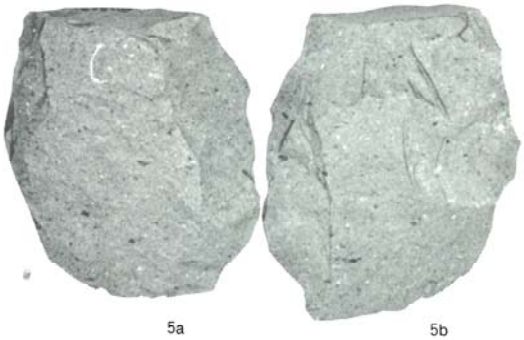
2a　2b



3a　3b

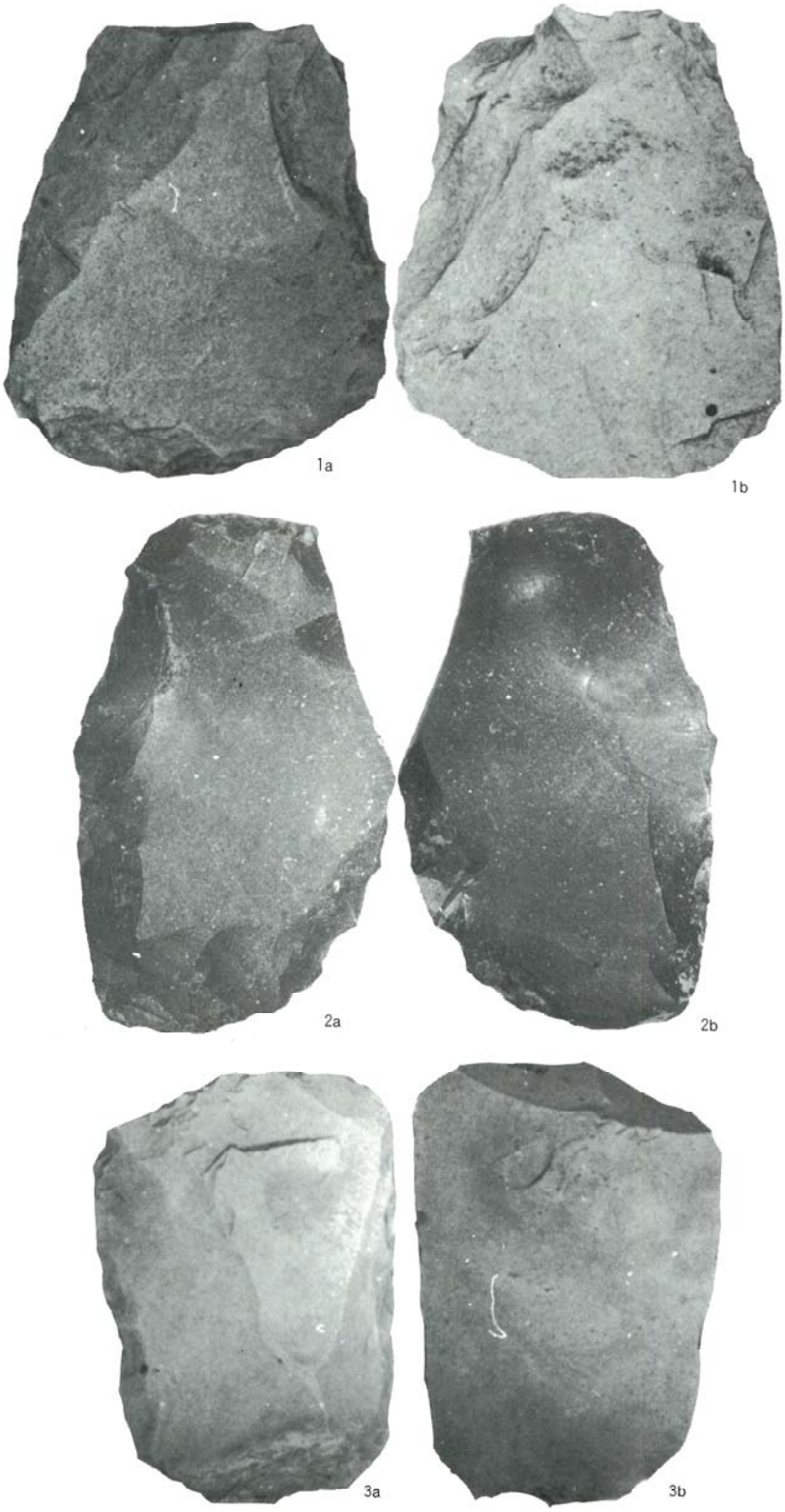


4a　4b



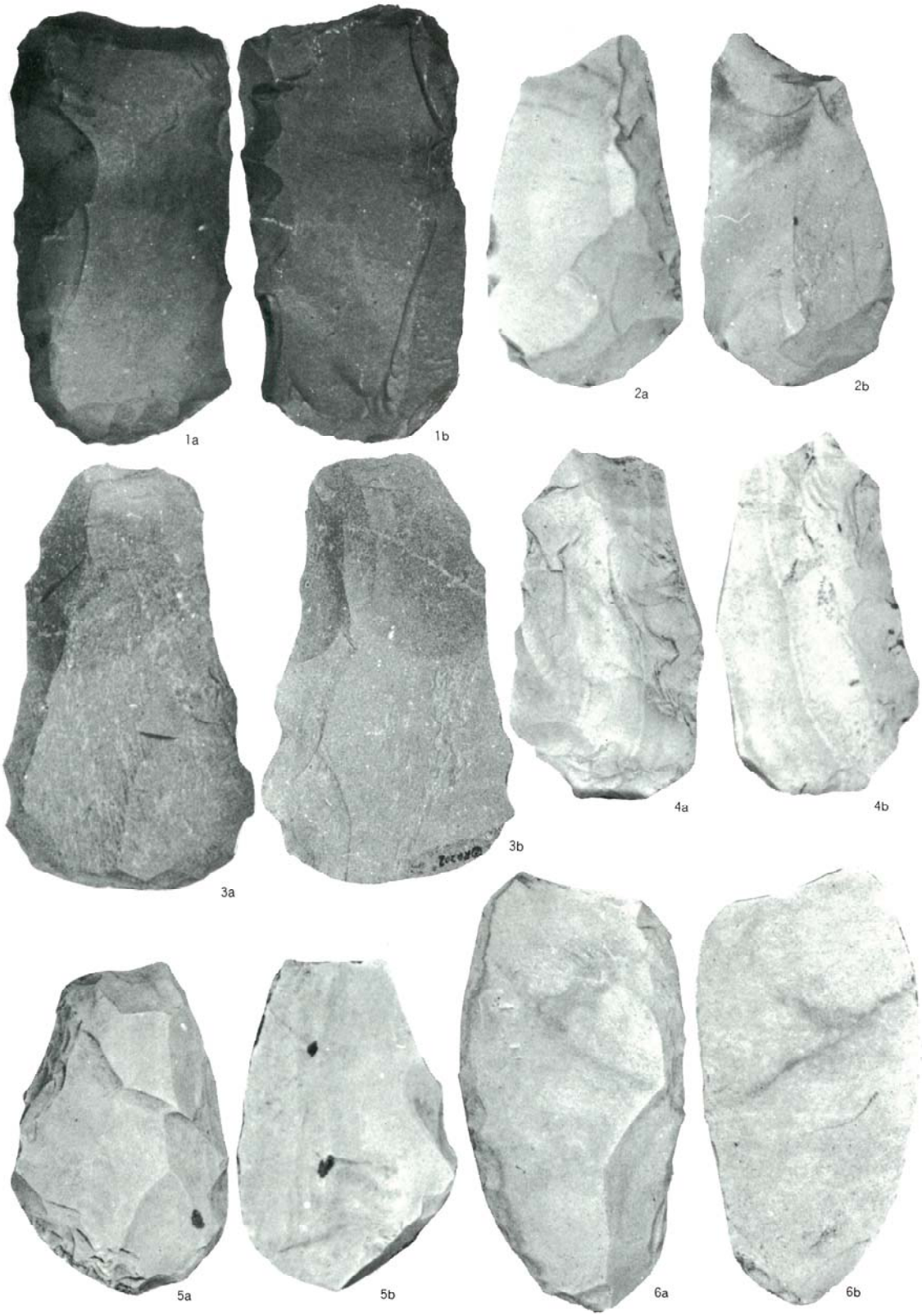
5a　5b

6a　6b

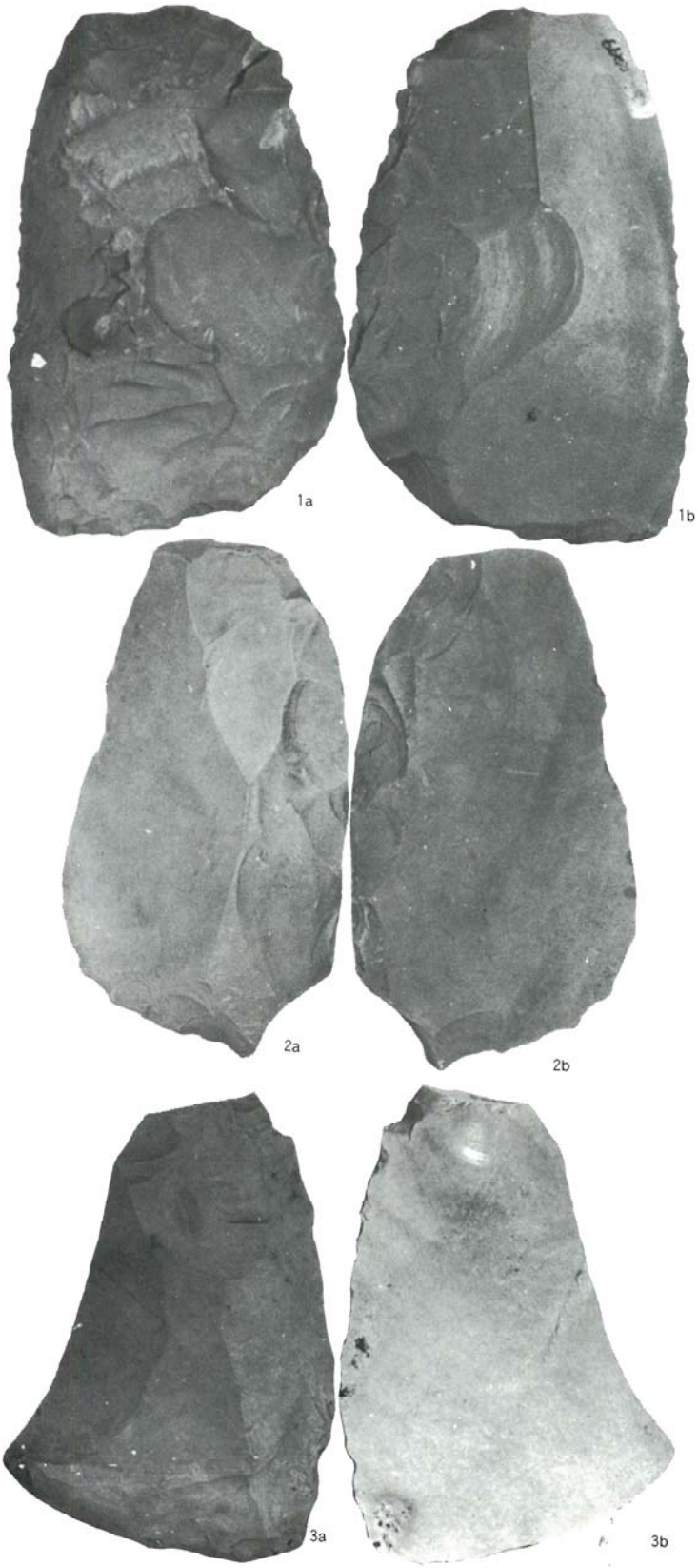

1a
1b
2a
2b
3a
3b

第九十二図版八幡原No3第1次調査の石器（22）

第九十三図版八幡原No3第1次調査の石器（23）



第九十四図版八幡原No 3第1次調査の石器（24）



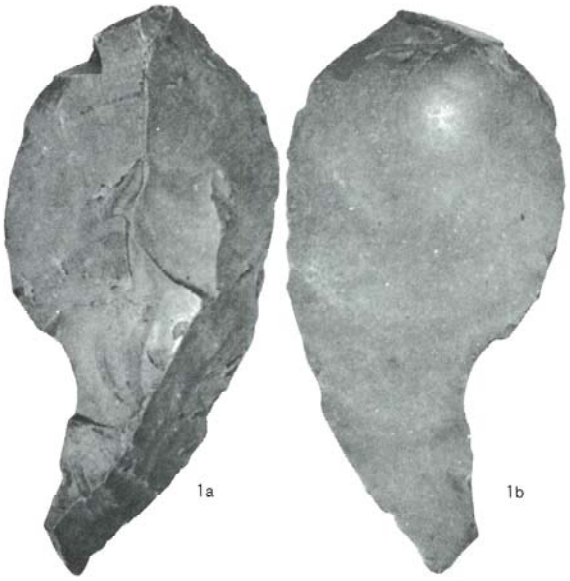
1a

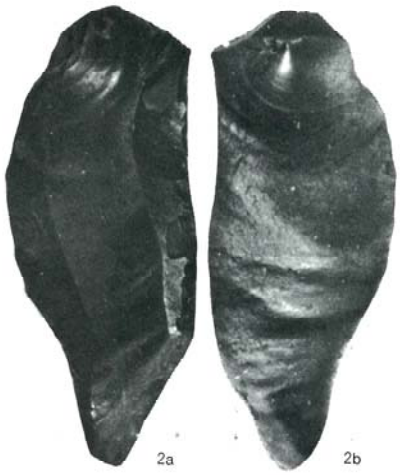
1b

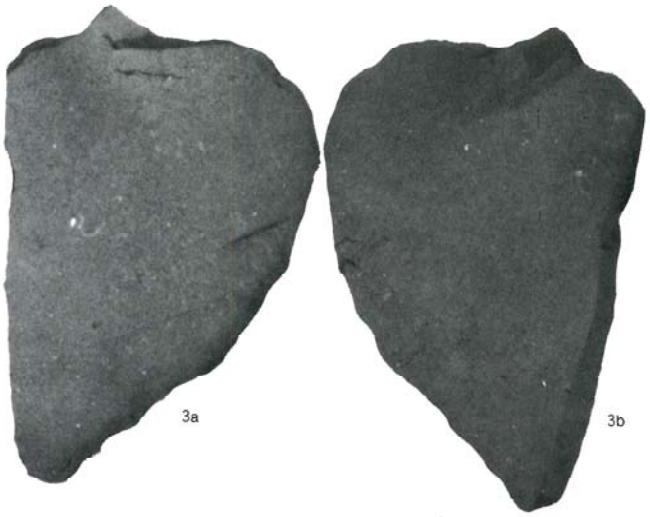
2a

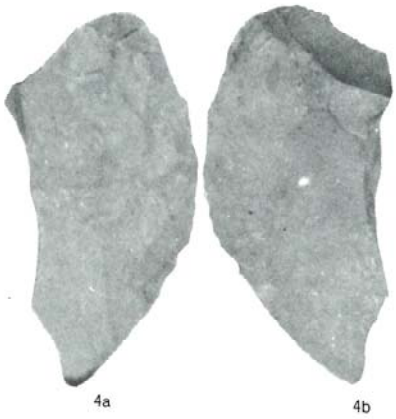
2b

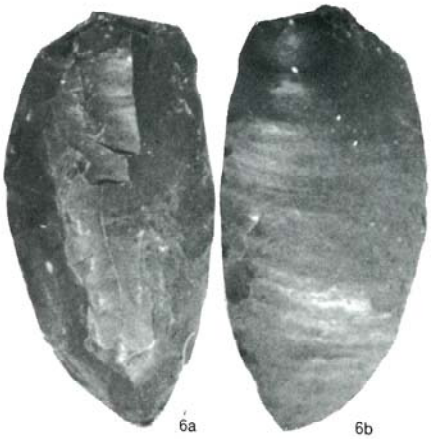
第九十六図版八幡原No.3第1次調査の石器（26）



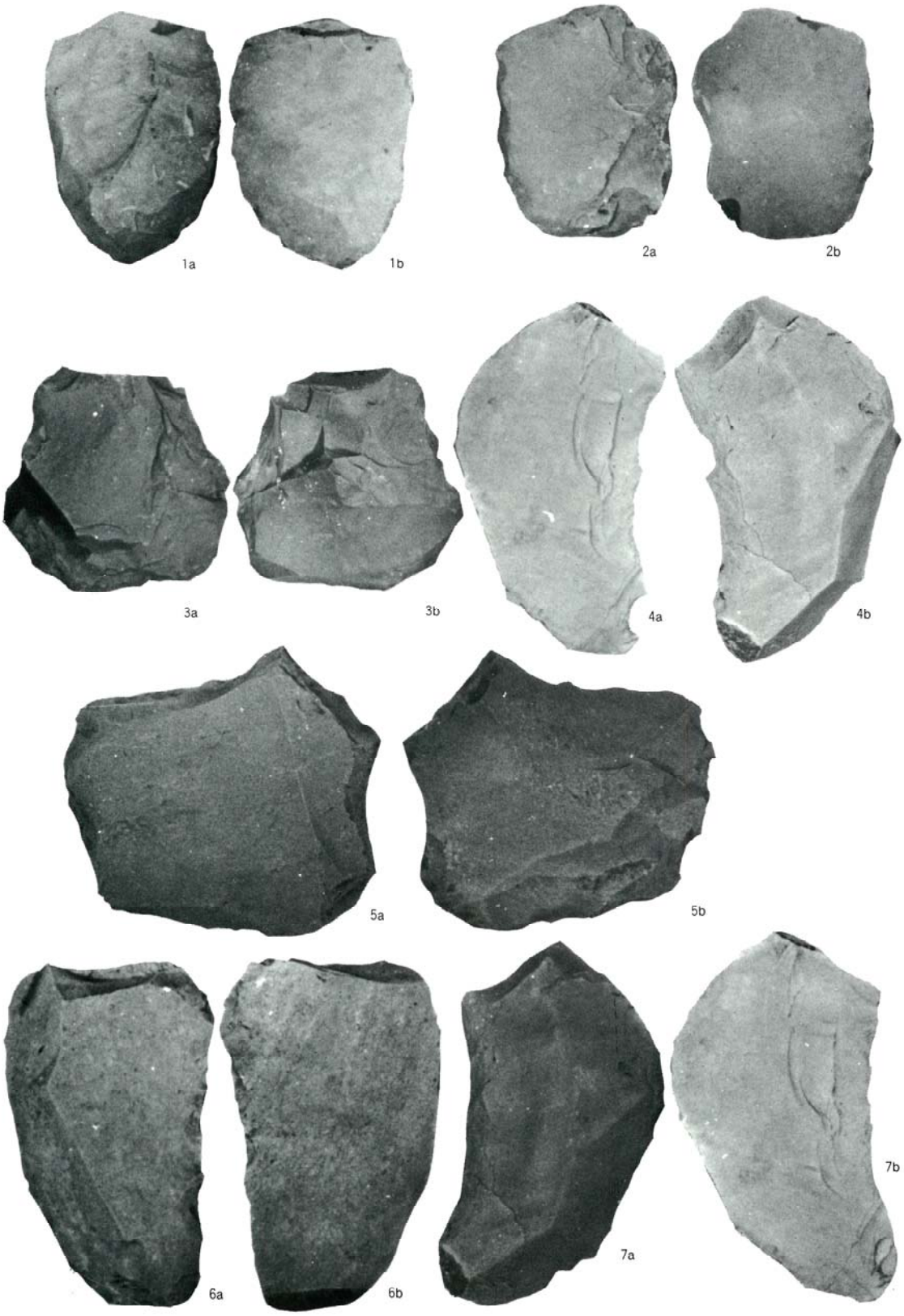




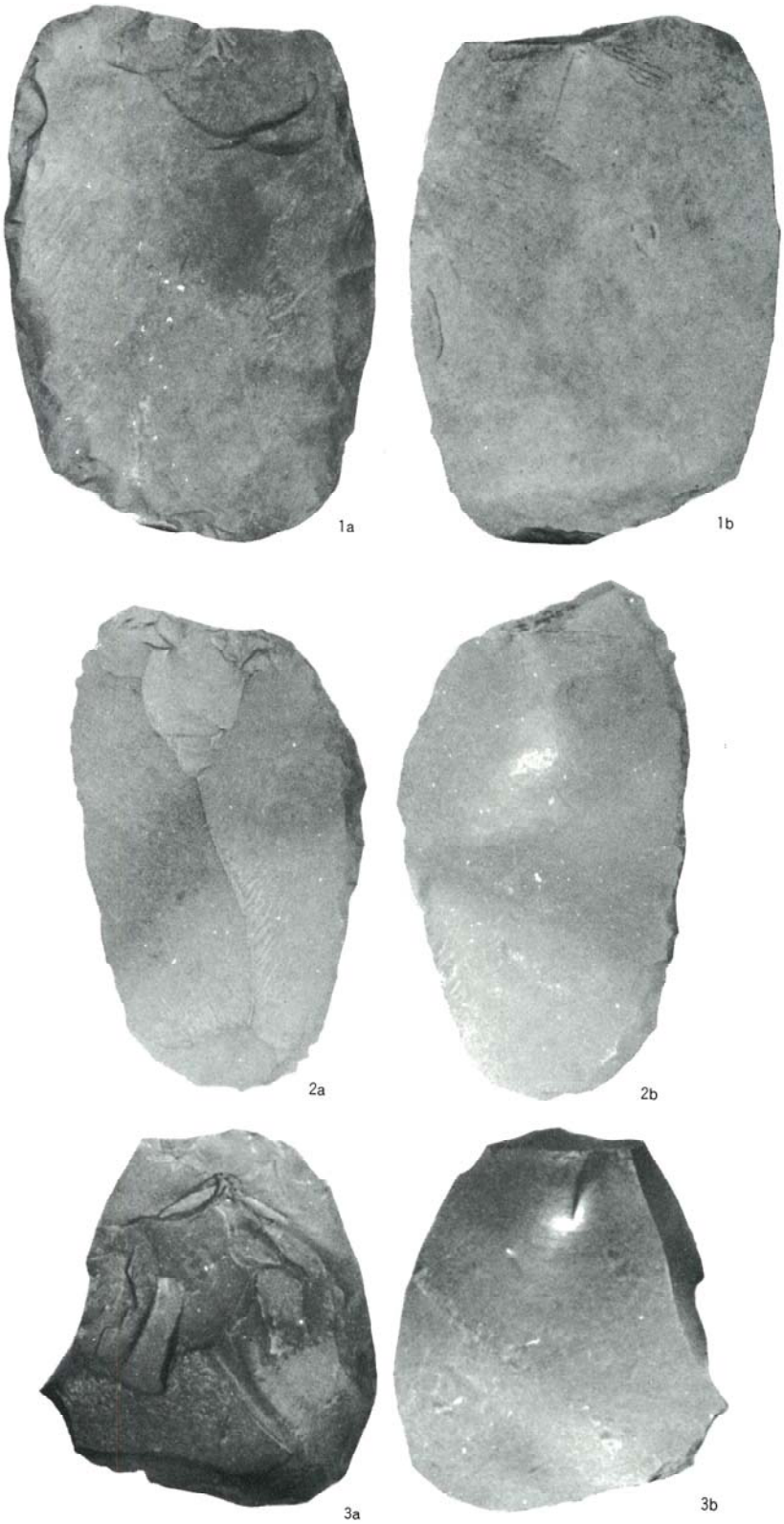




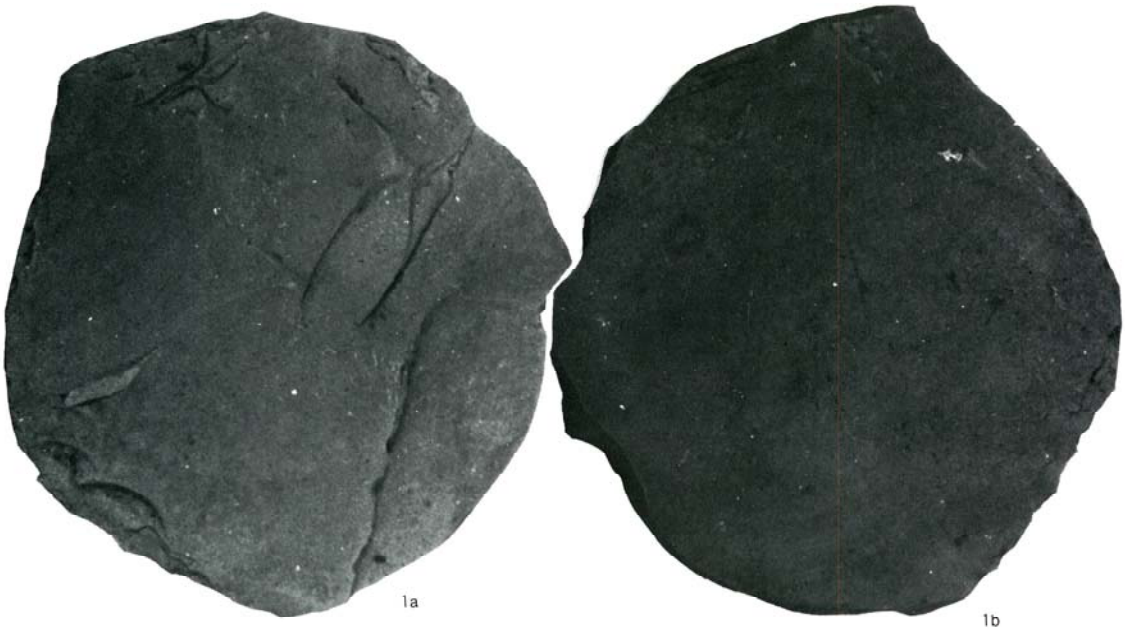
第九十七図版八幡原No3第1次調査の石器（27）



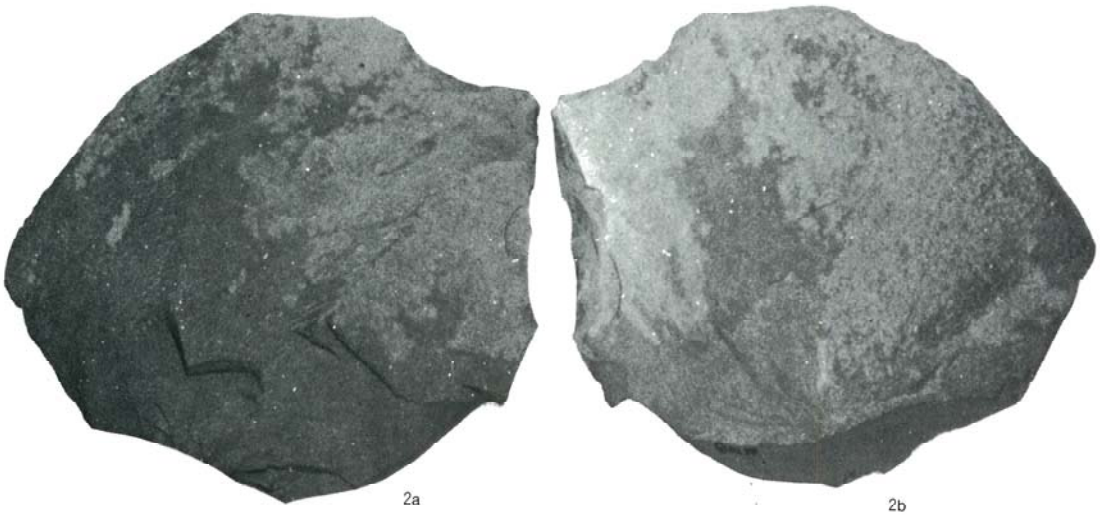
第九十八図版八幡原No3第1次調査の石器（28）



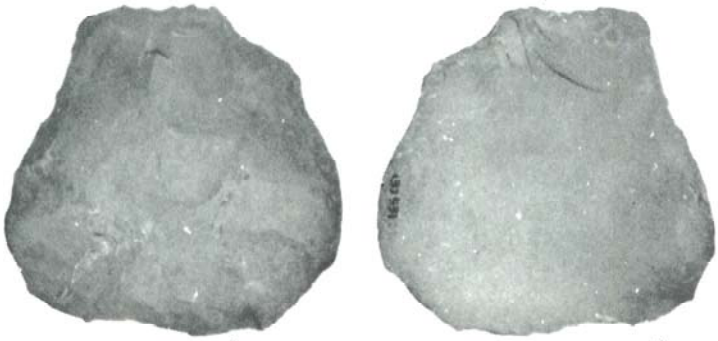
第九十九図版八幡原No3第1次調査の石器（29）



1a　1b

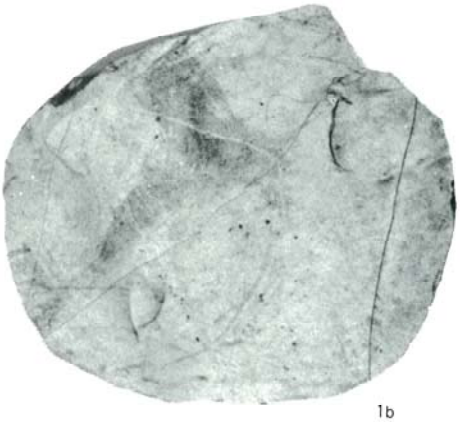


2a　2b



3a　3b

1a


1b

2a

2b

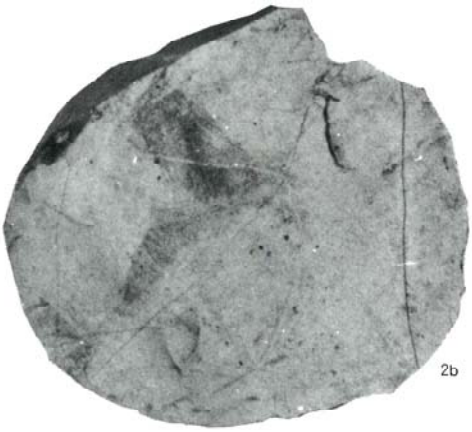
3a

3b

1a

1b

2a


2b

3a

3b

4a

4b

1a

1b

2a

2b

3a

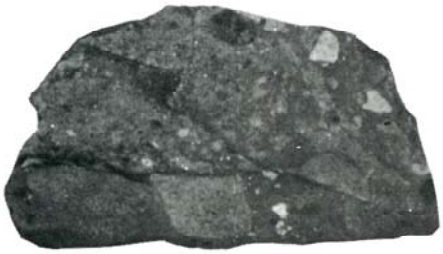
3b

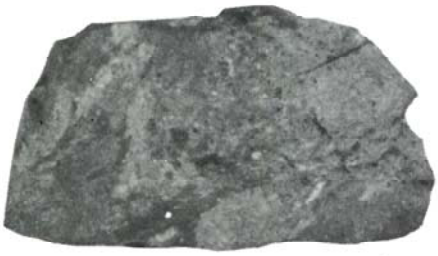
1a

1b

2a

2b


3a


3b

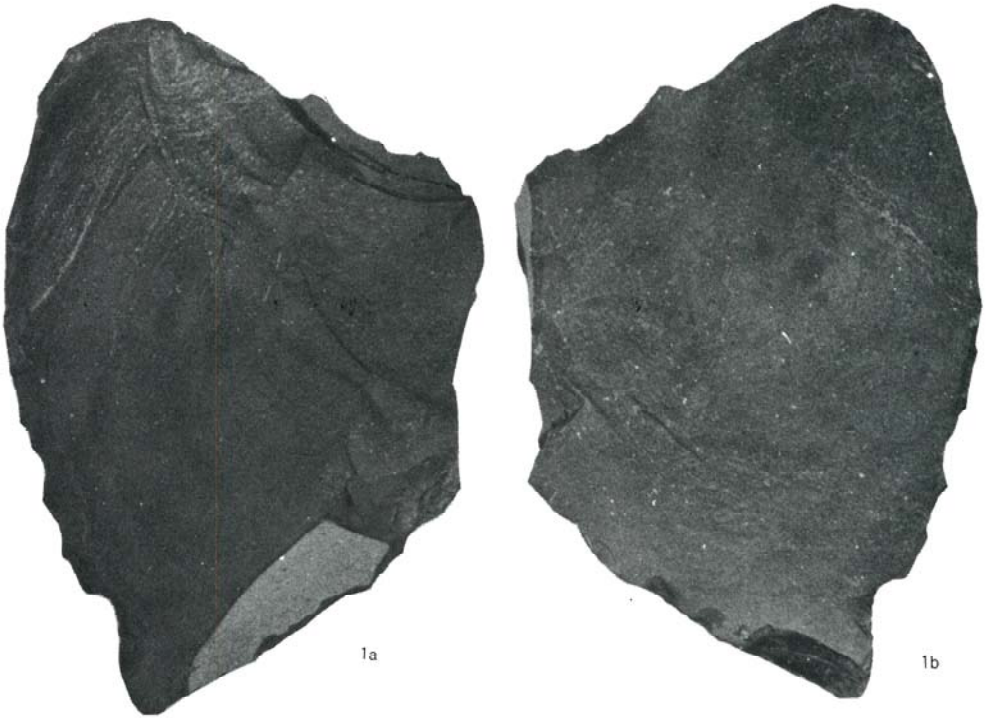
4a

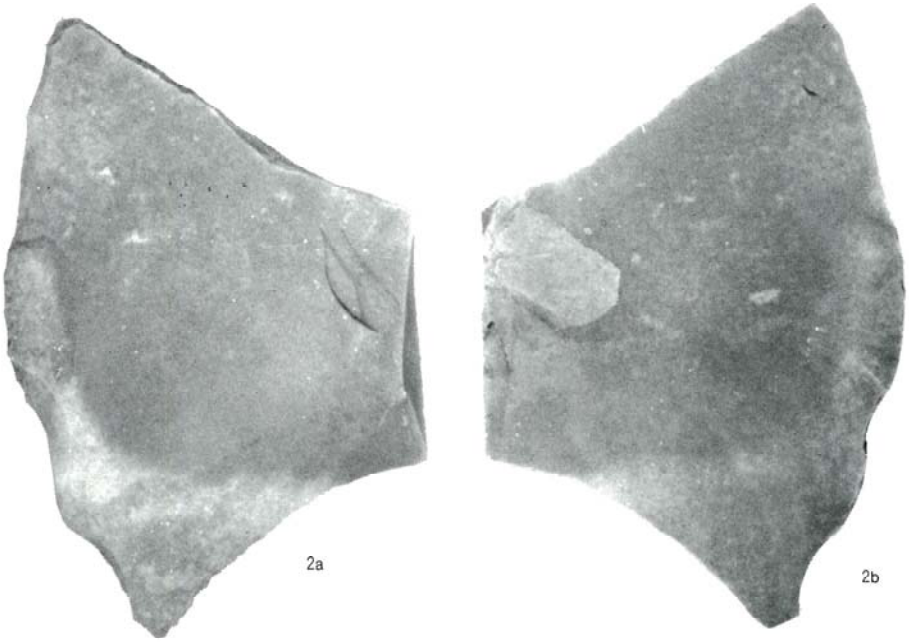
4b

5a

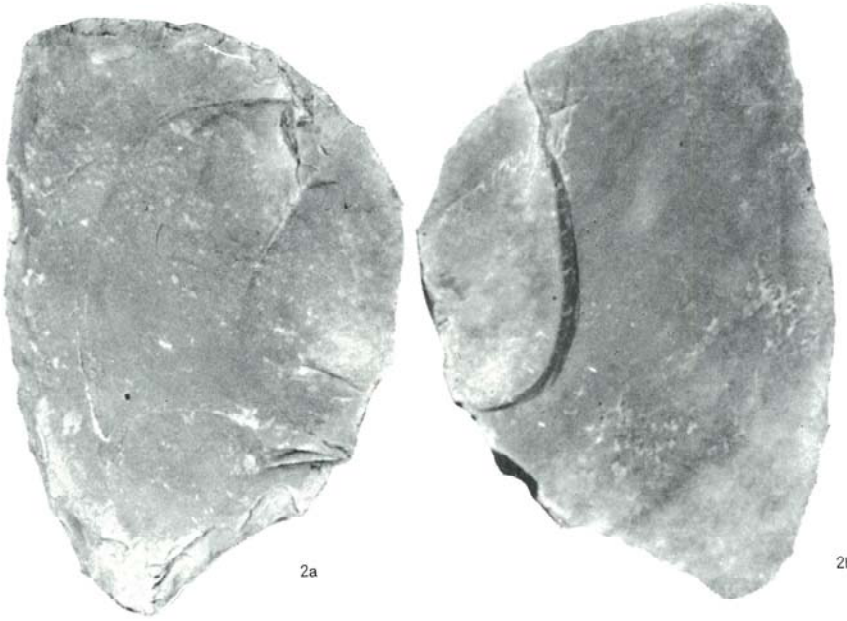
5b

第百四図版八幡原No3第1次調査の石器（34）





1a　1b



2a　2b

第百六図版八幡原No 3第1次調査の石器（36）

第百七図版八幡原No 3第1次調査の石器（37）

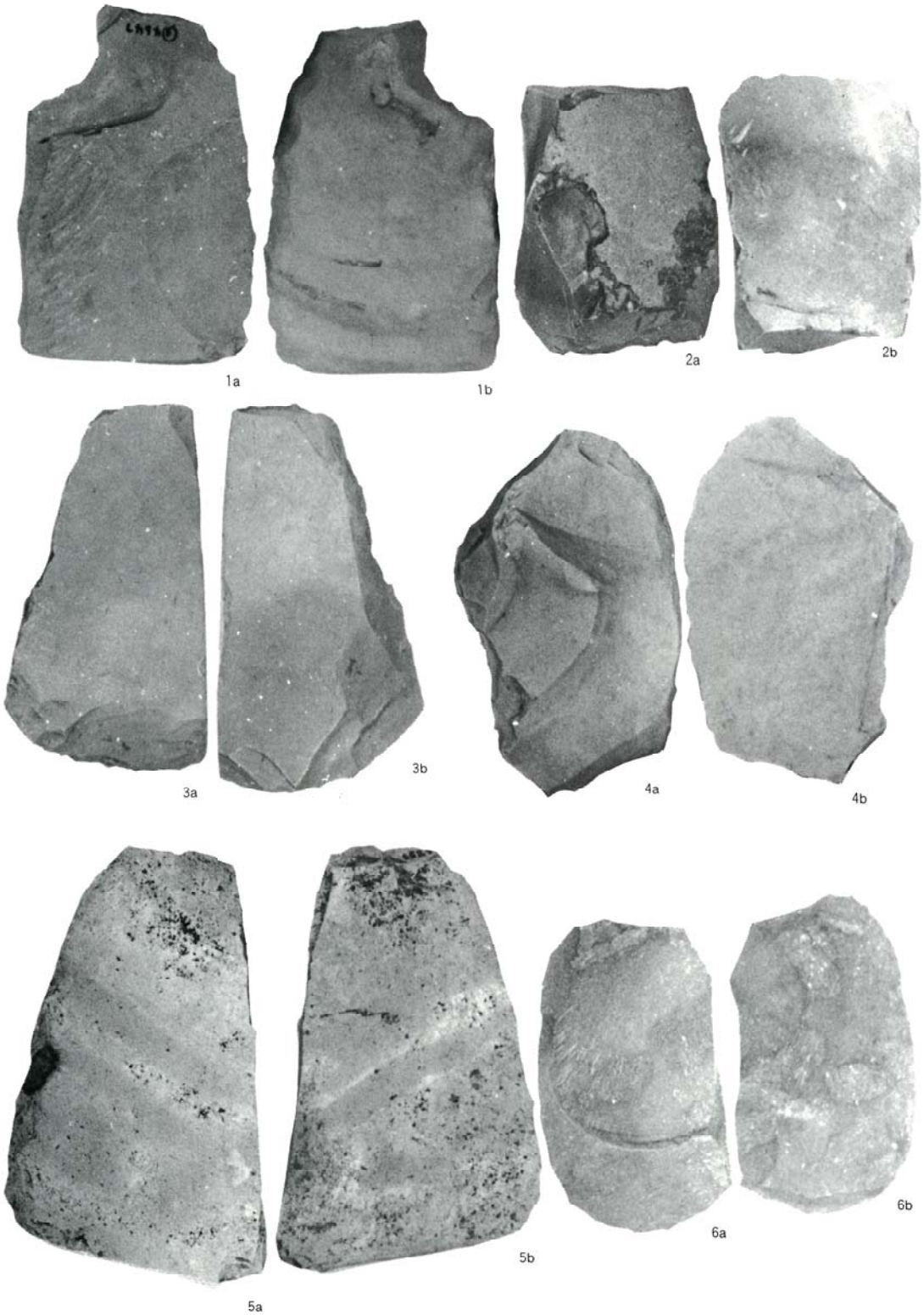
1a

1b

2a

2b

第百八図版八幡原No3第1次調査の石器（38）


1a
1b
2a
2b
3a
3b
4a
4b
5a
5b
6a
6b

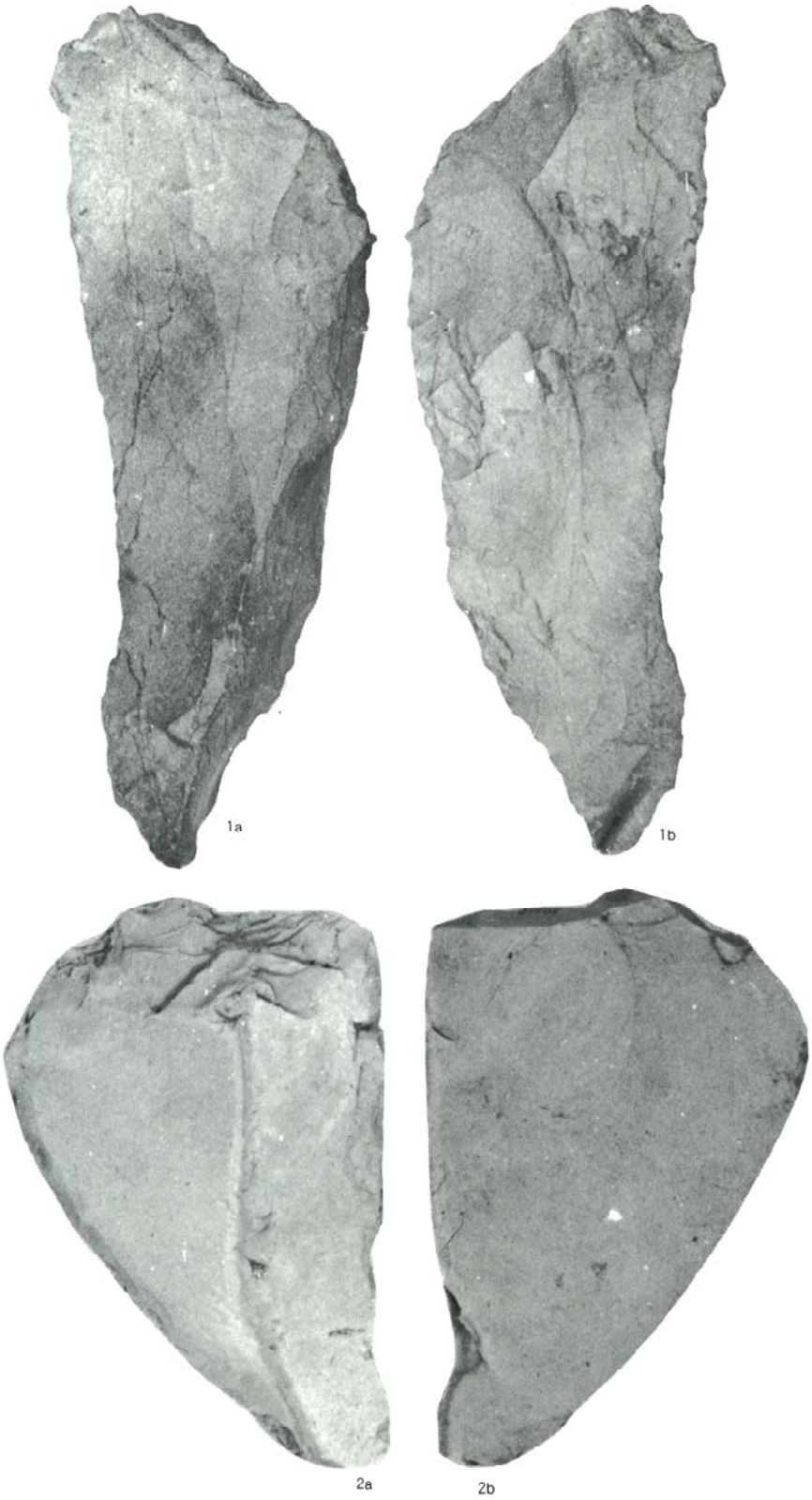
第百十図版八幡原No3第1次調査の石器（40）

1a

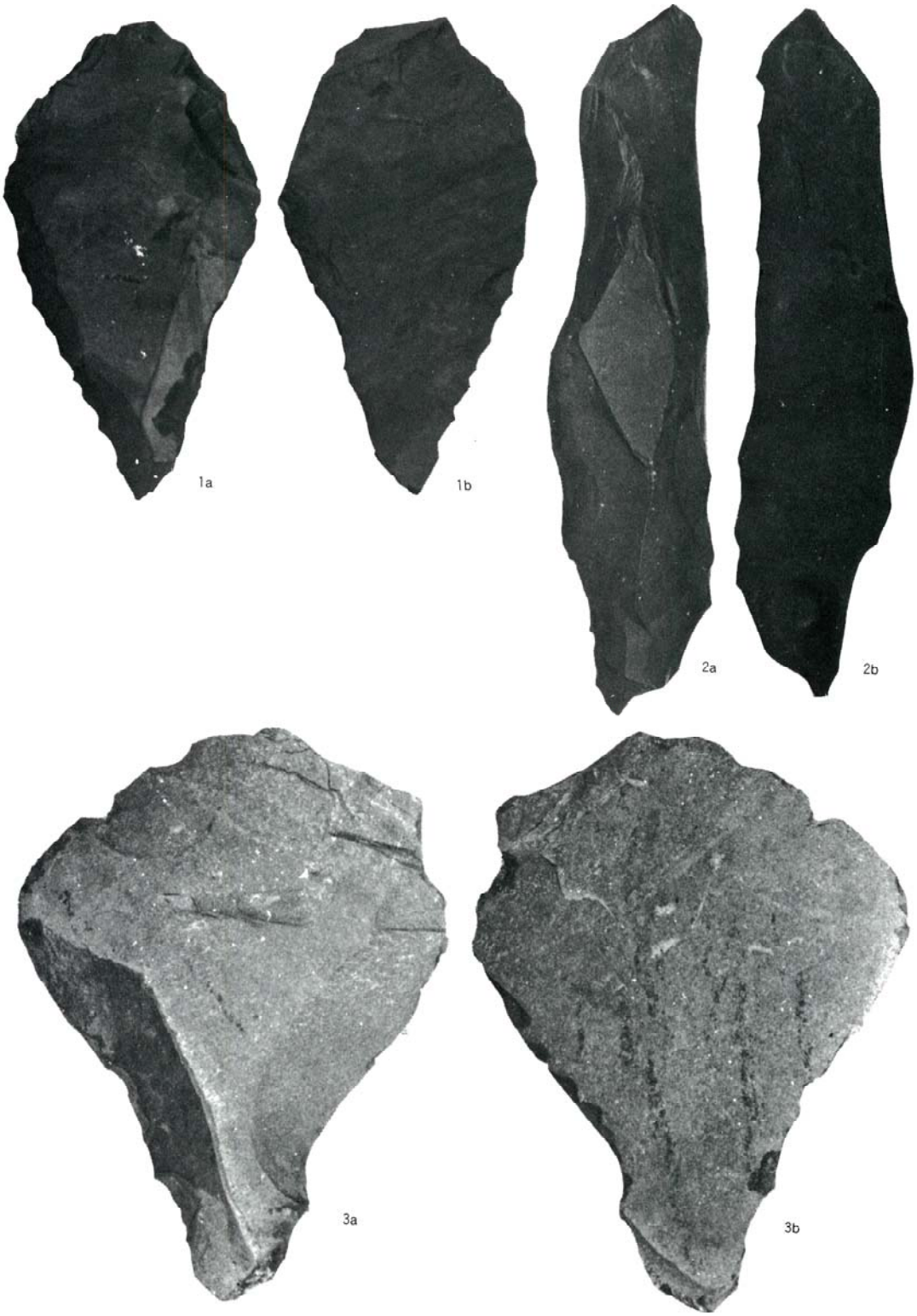
1b

2a

2b

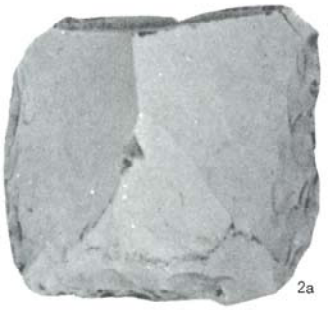

1a
1b
2a
2b

第百十二図版八幡原No 3第1次調査の石器（42）

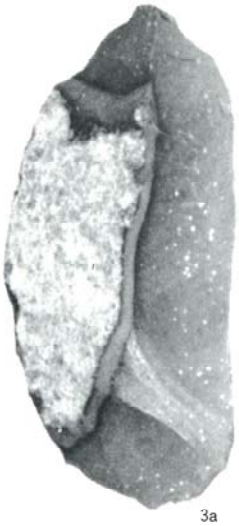


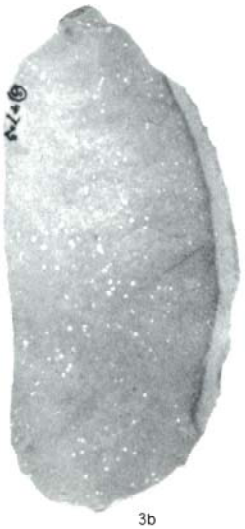
1a

1b


2a

2b


3a


3b

4a

4b

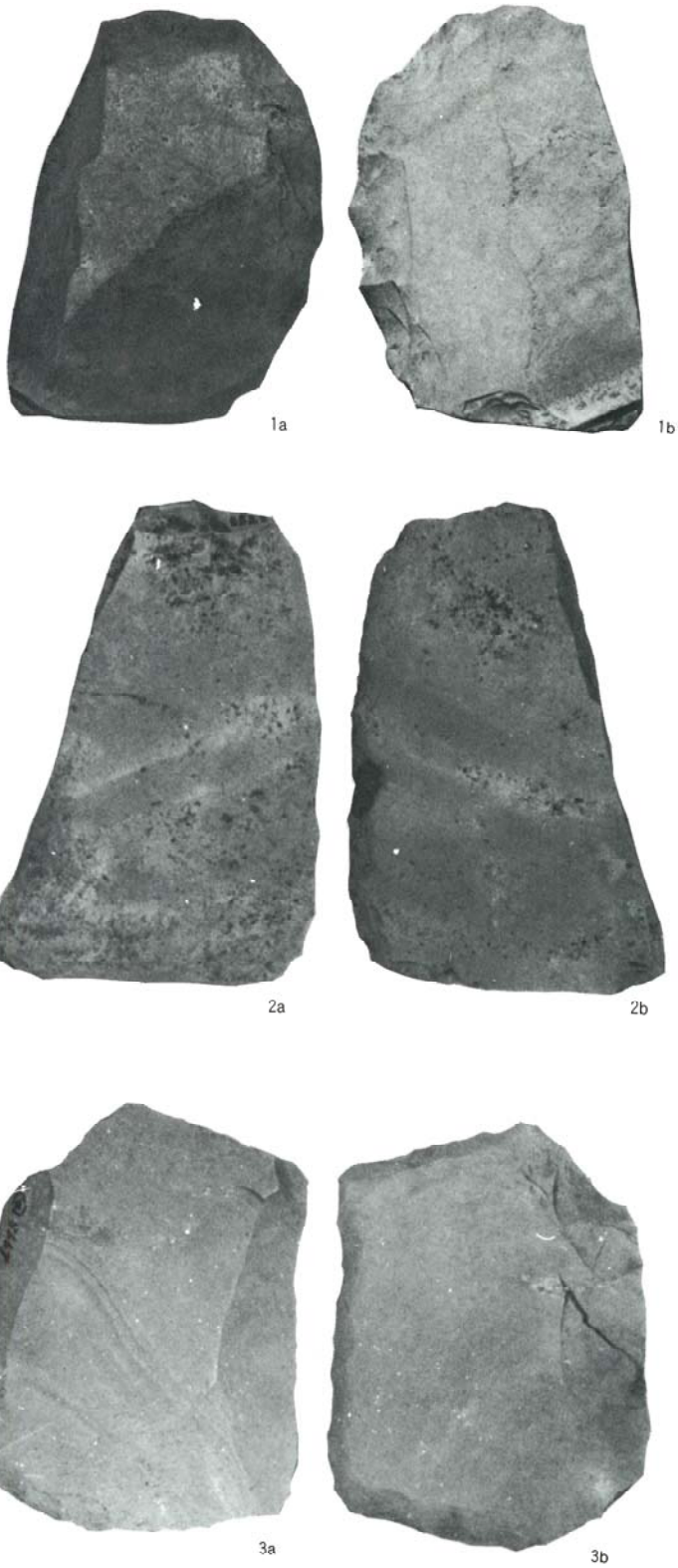
5a

5b

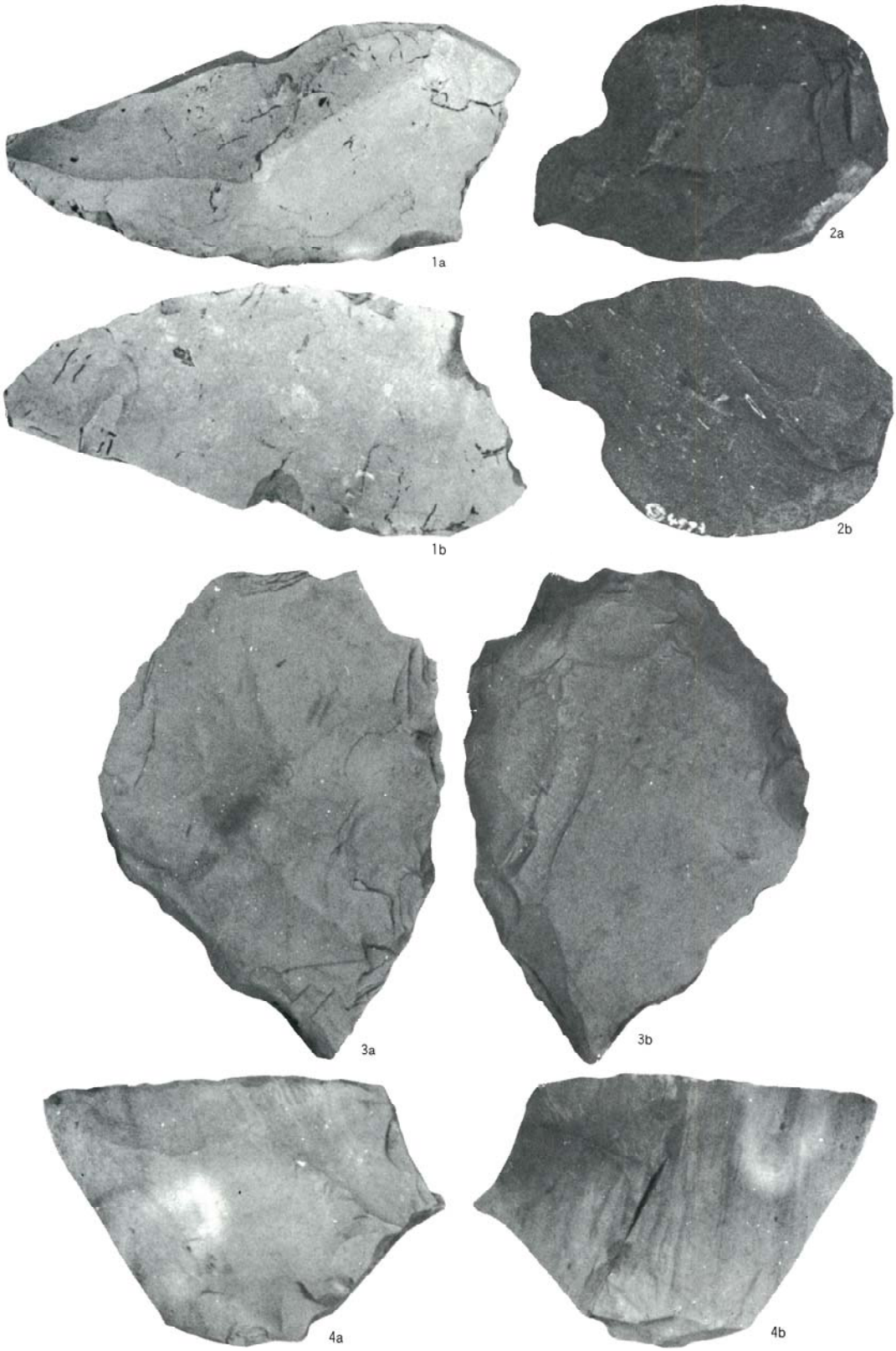
6a

6b

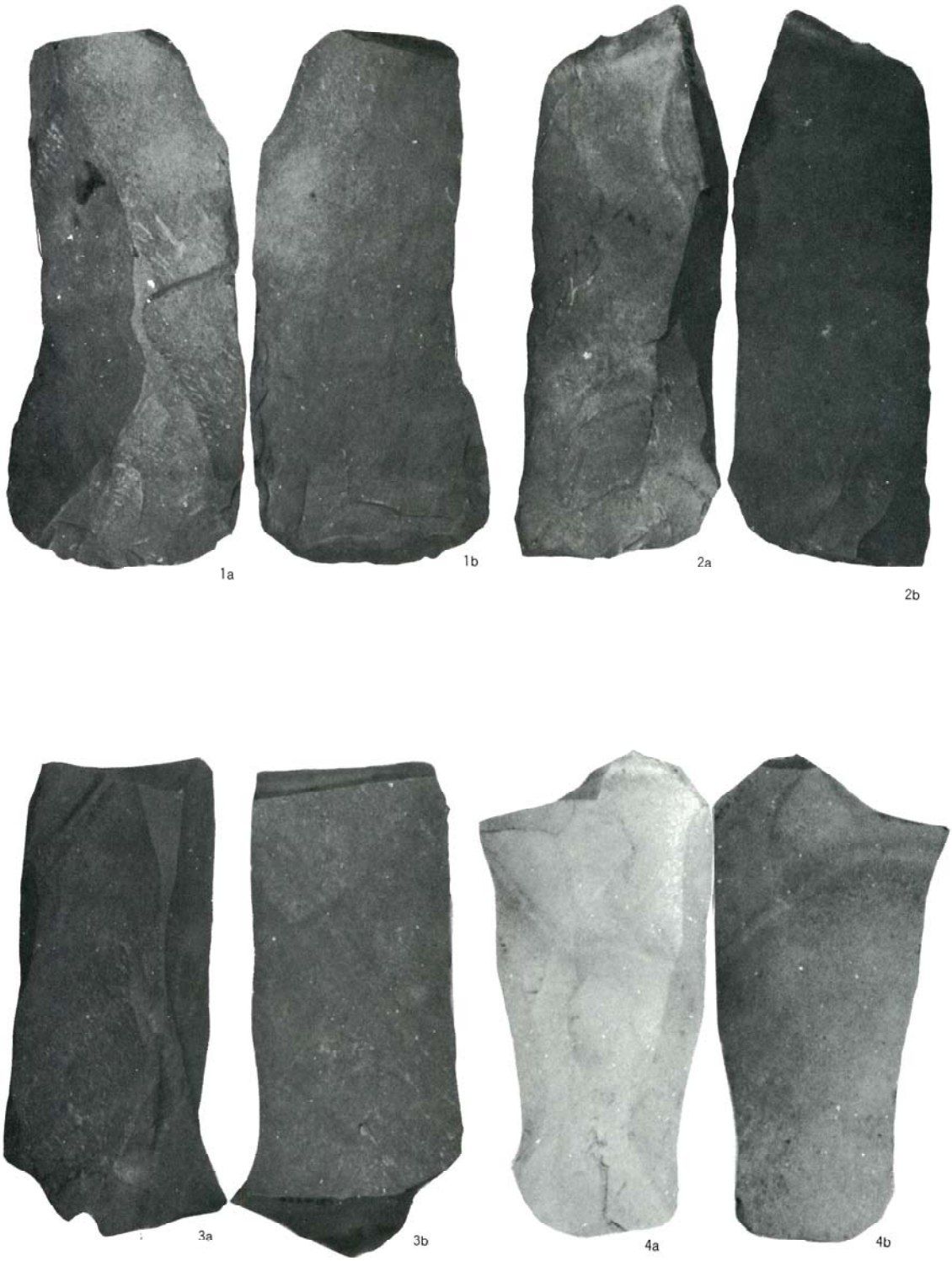
第百十四図版八幡原No3第1次調査の石器（44）



第百十五図版八幡原No 3第1次調査の石器（45）



第百十六図版八幡原No3第1次調査の石器（46）

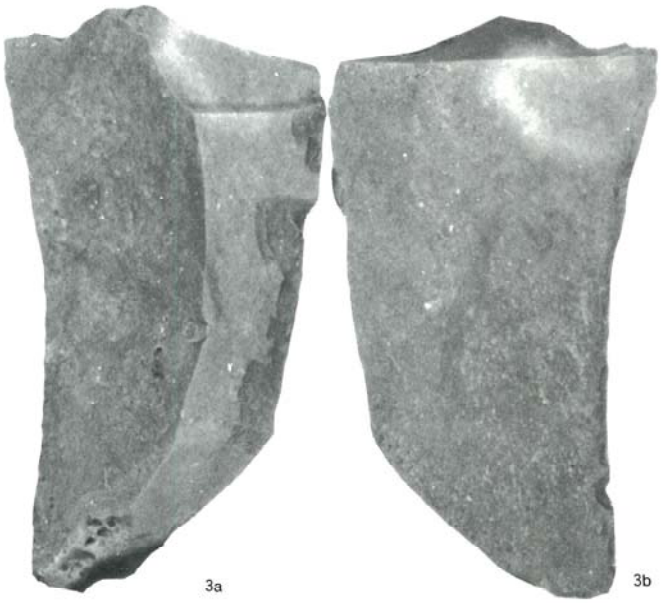


第百十七図版八幡原No 3第1次調査の石器（47）

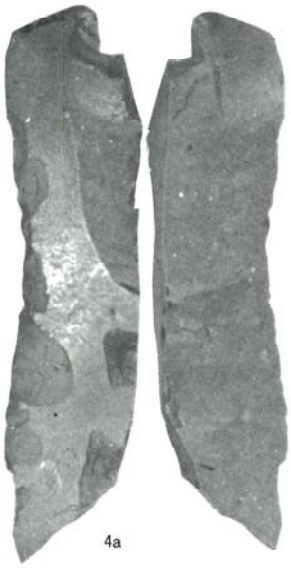
第百十八図版八幡原No 3第1次調査の石器（48）

1a 1b

2a 2b



3a 3b



4a 4b

第百二十図版八幡原No 3第1次調査の石器（50）

1a

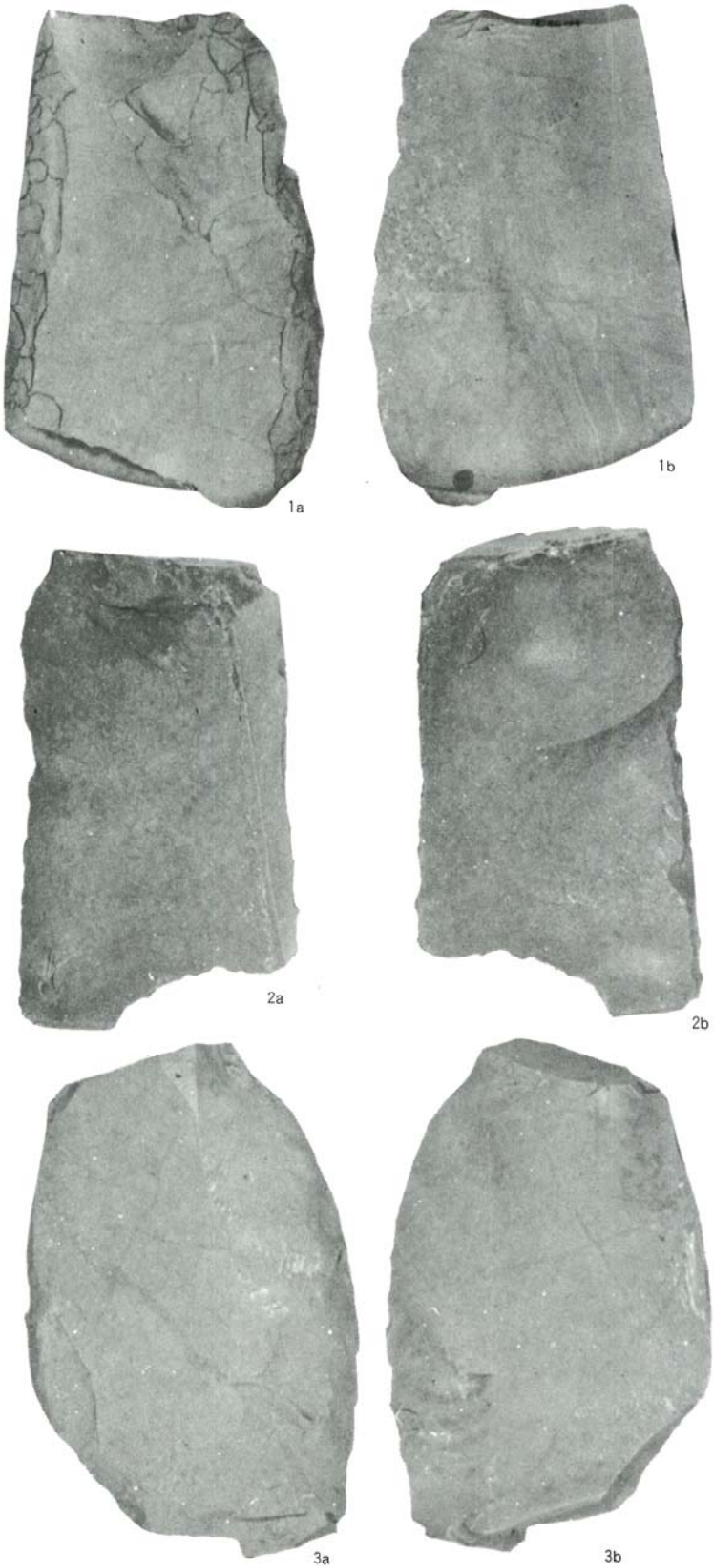
1b

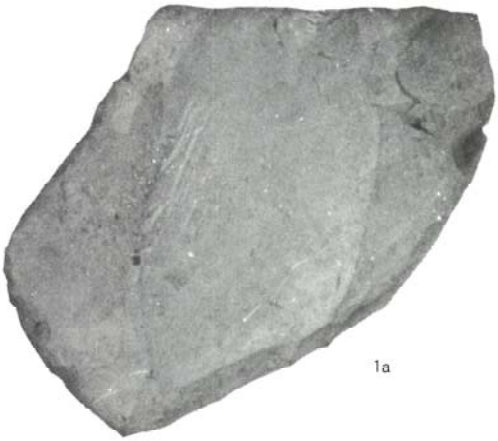
2a

2b

3a

3b


1a
1b
2a
2b
3a
3b


1a

1b

2a

2b

3a

3b

1a

1b

2a

2b

3a

3b

第百二十四図版八幡原No 3第1次調査の石器（54）

1a

1b

2a

2b

3a

3b

1a

1b

2a

2b

3a

3b

1a

1b

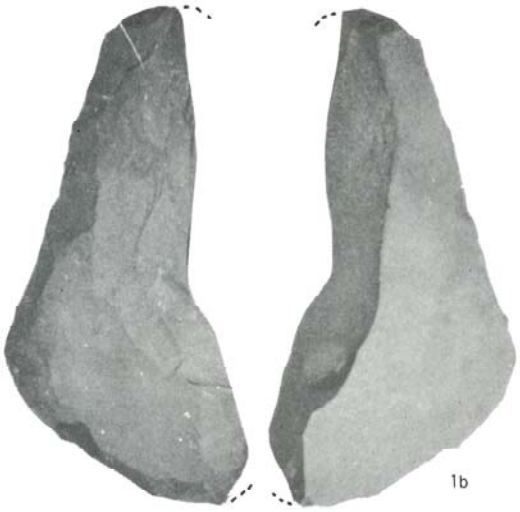
2a

2b

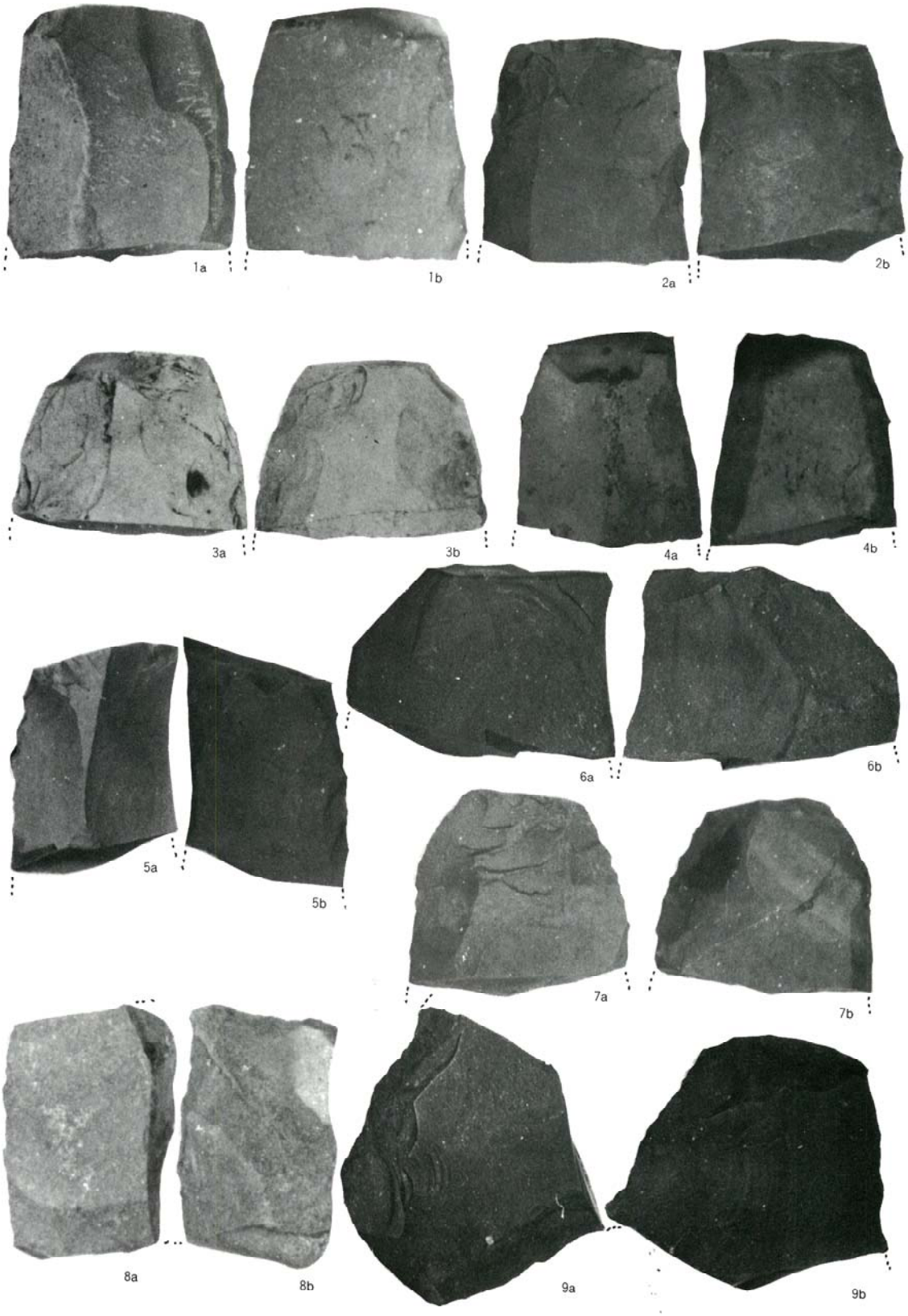
3a

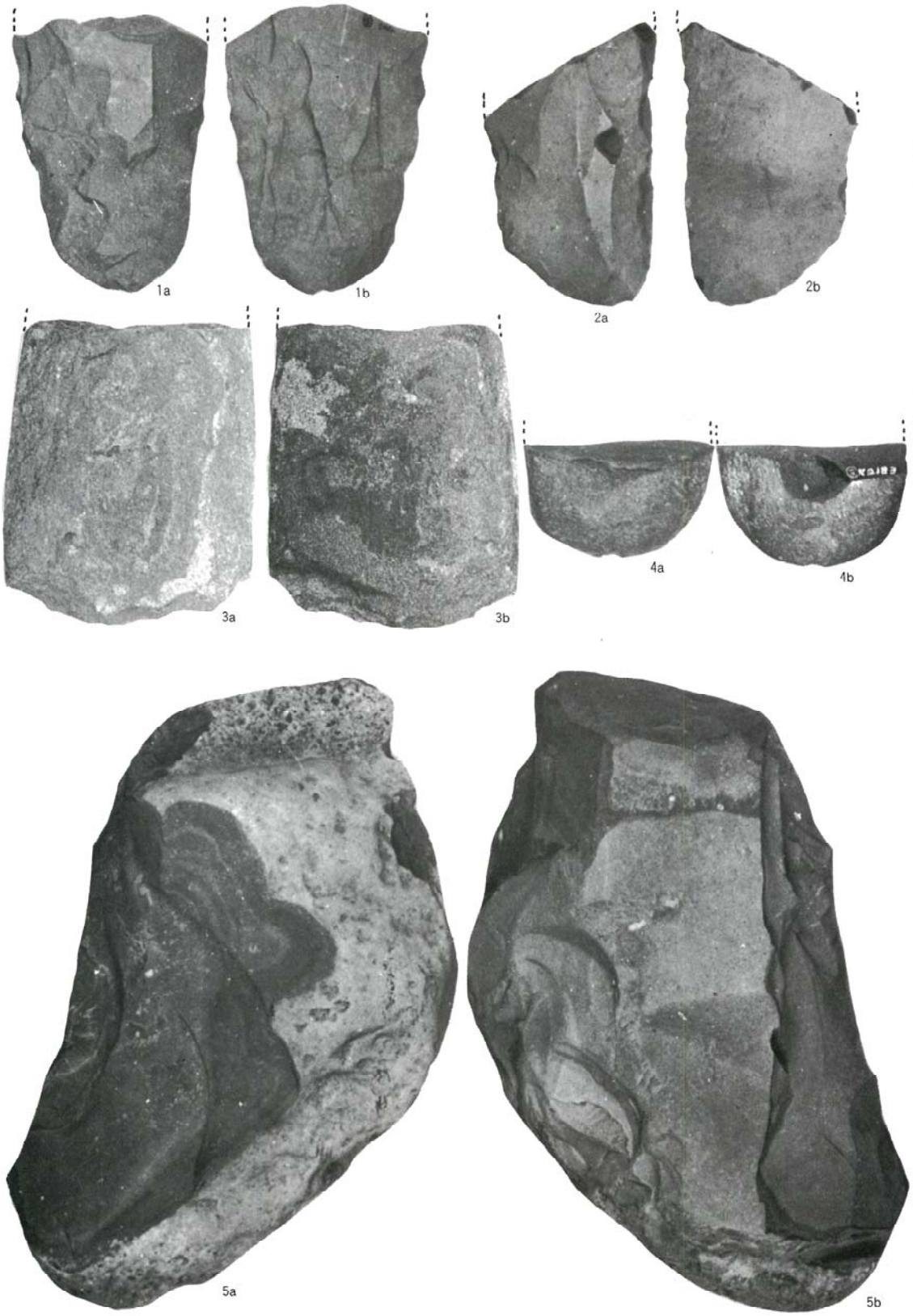
3b

第百二十七図版八幡原No 3第1次調査の石器（57）

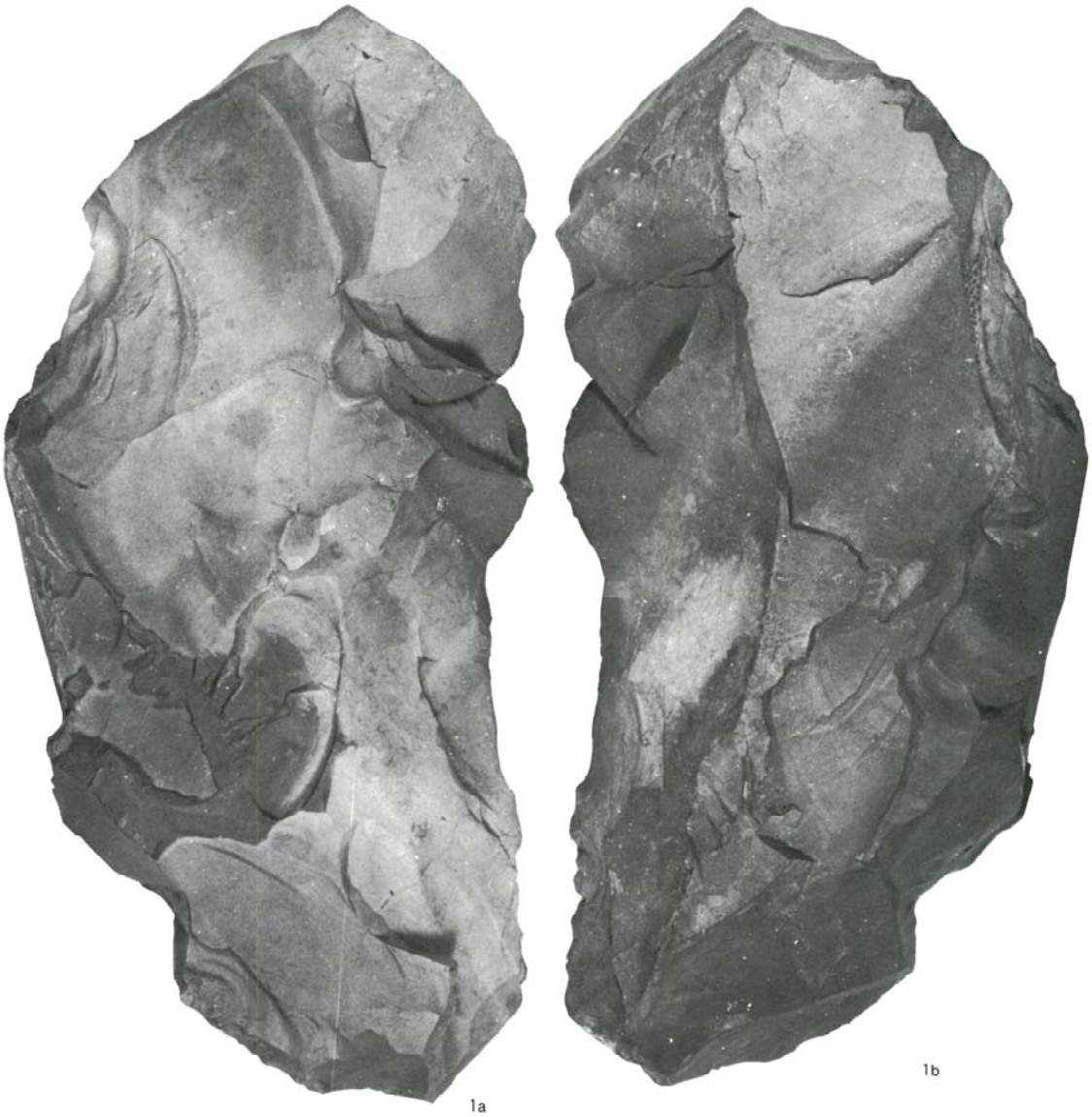


第百二十八図版八幡原No3第1次調査の石器（58）

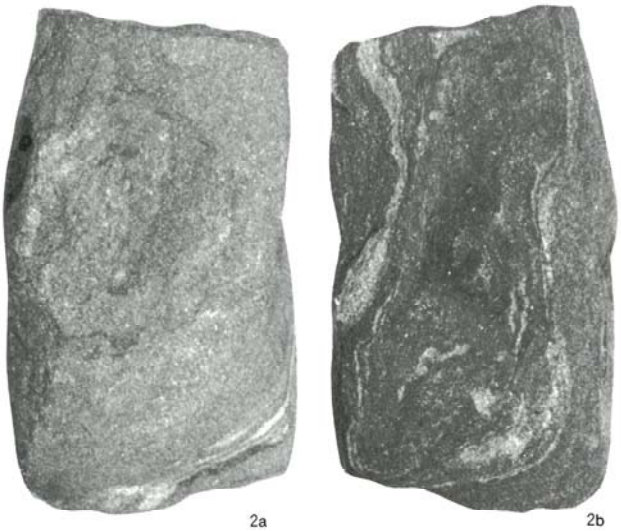



1a
1b
2a
2b
3a
3b
4a
4b
5a
5b

第百三十図版八幡原No 3第1次調査の石器（60）

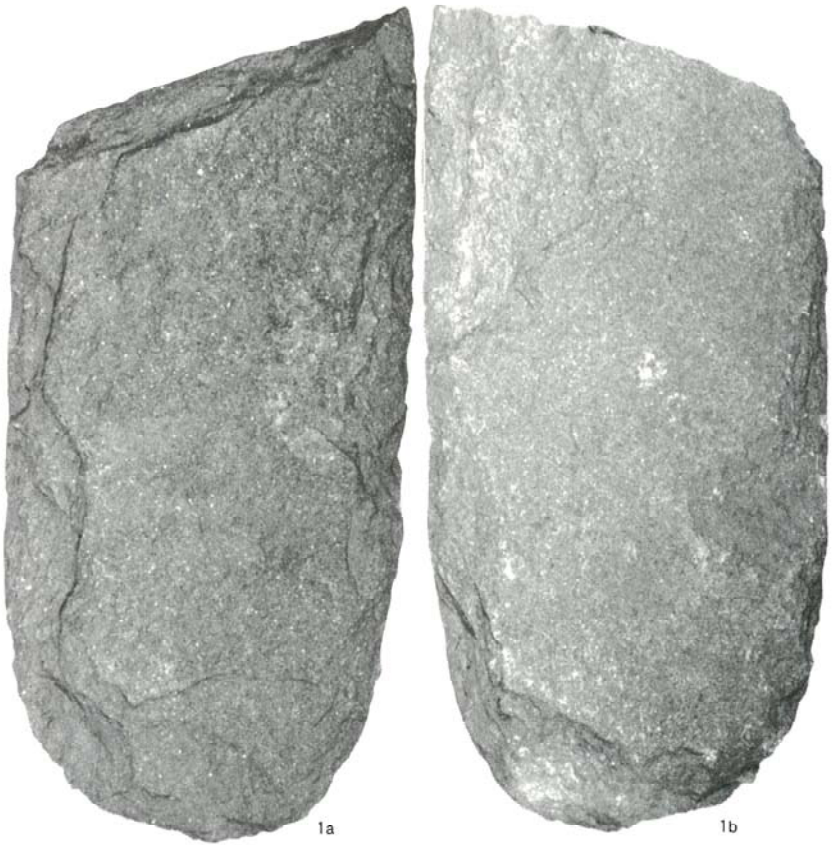


1a　1b

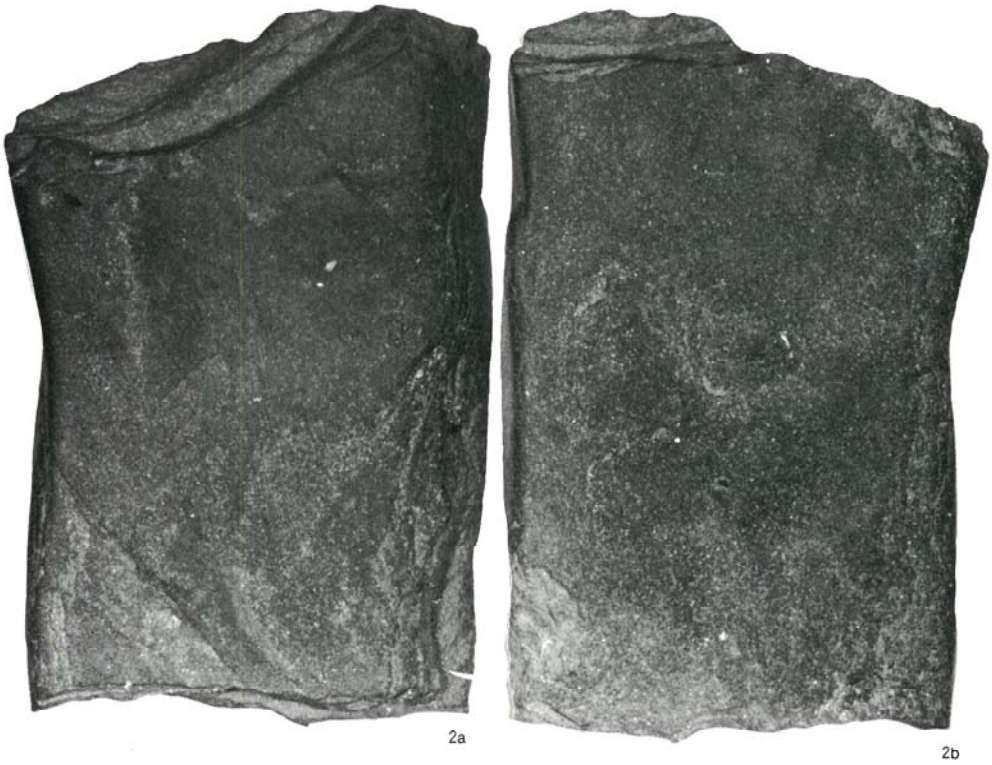


2a　2b

第百三十二図版八幡原No3第1次調査の石器（62）

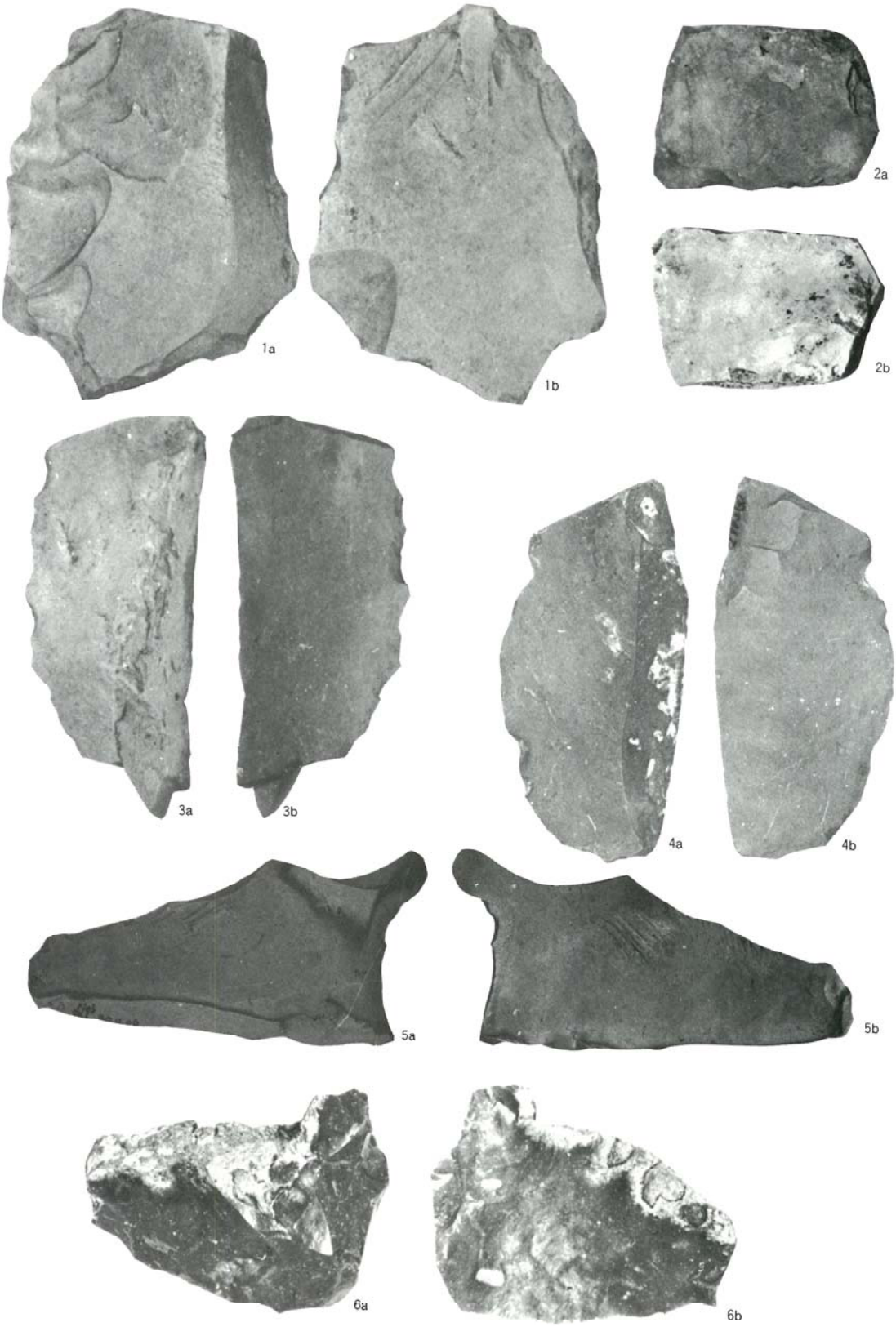


1a　1b

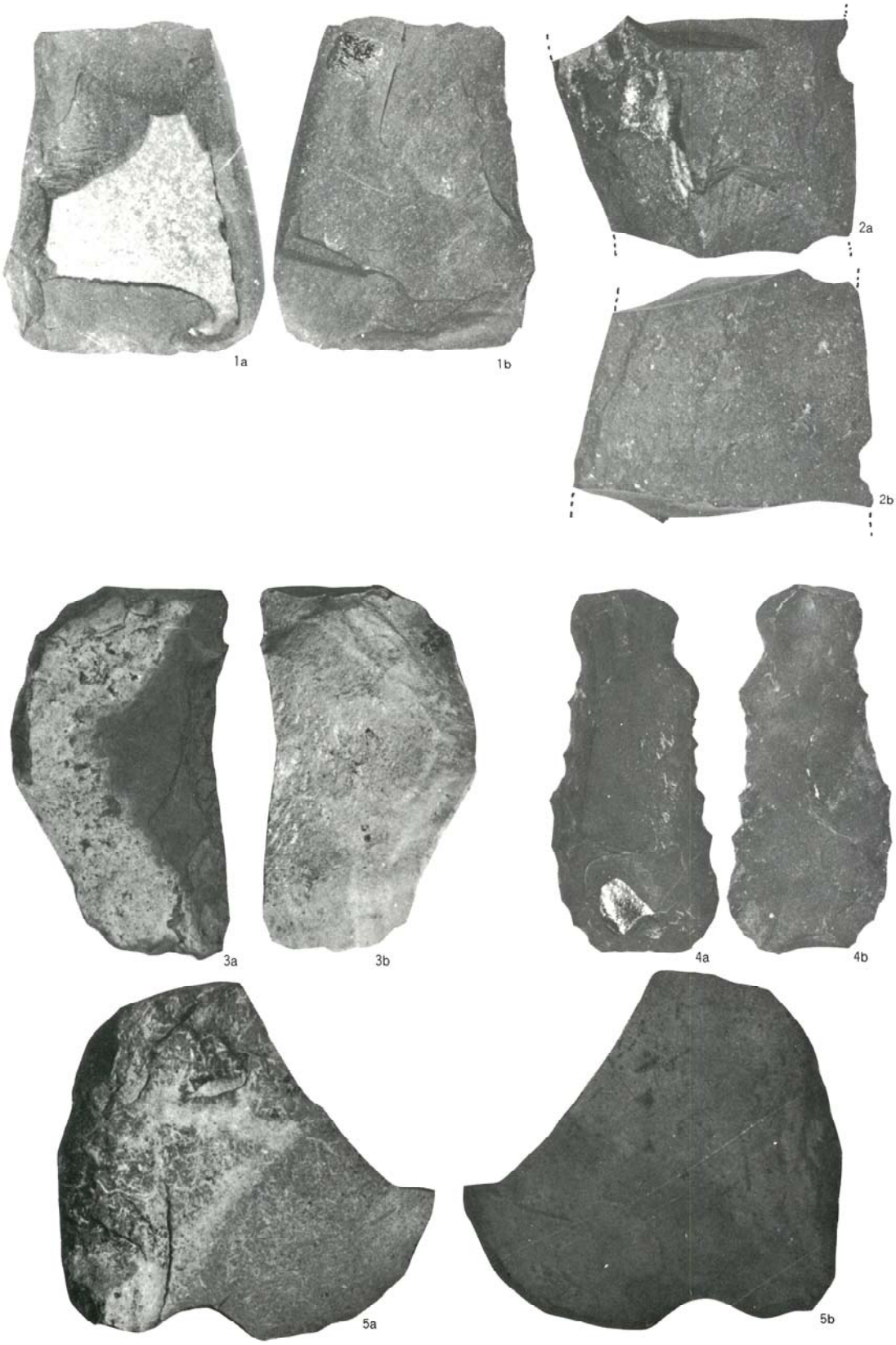


2a　2b

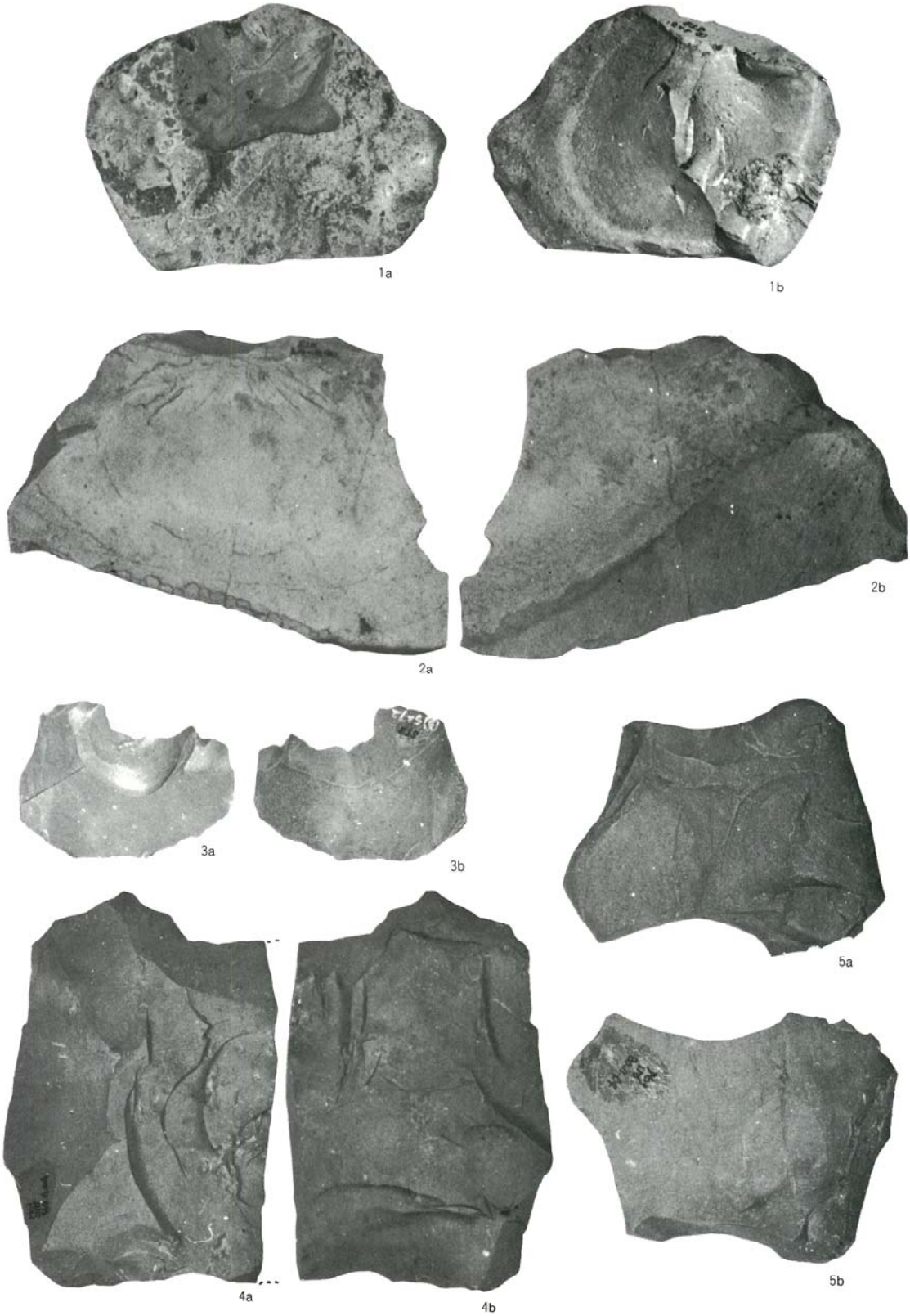
▲ＳＴ２出土２．３　ＳＴ３出土１



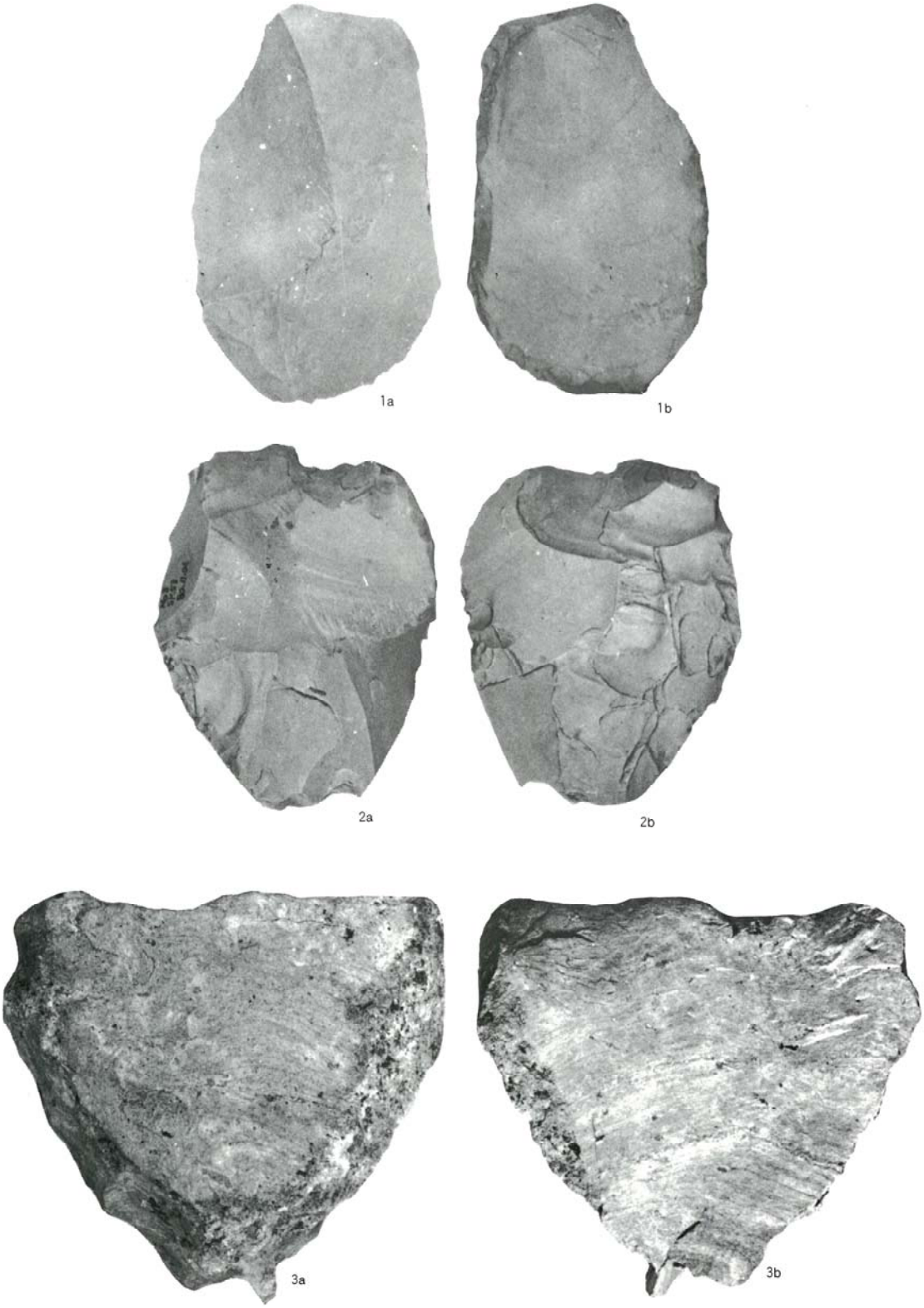
▲ＳＫ40出土１　ＳＤ４出土２．４．Ｓ　ＳＸ１出土３．６



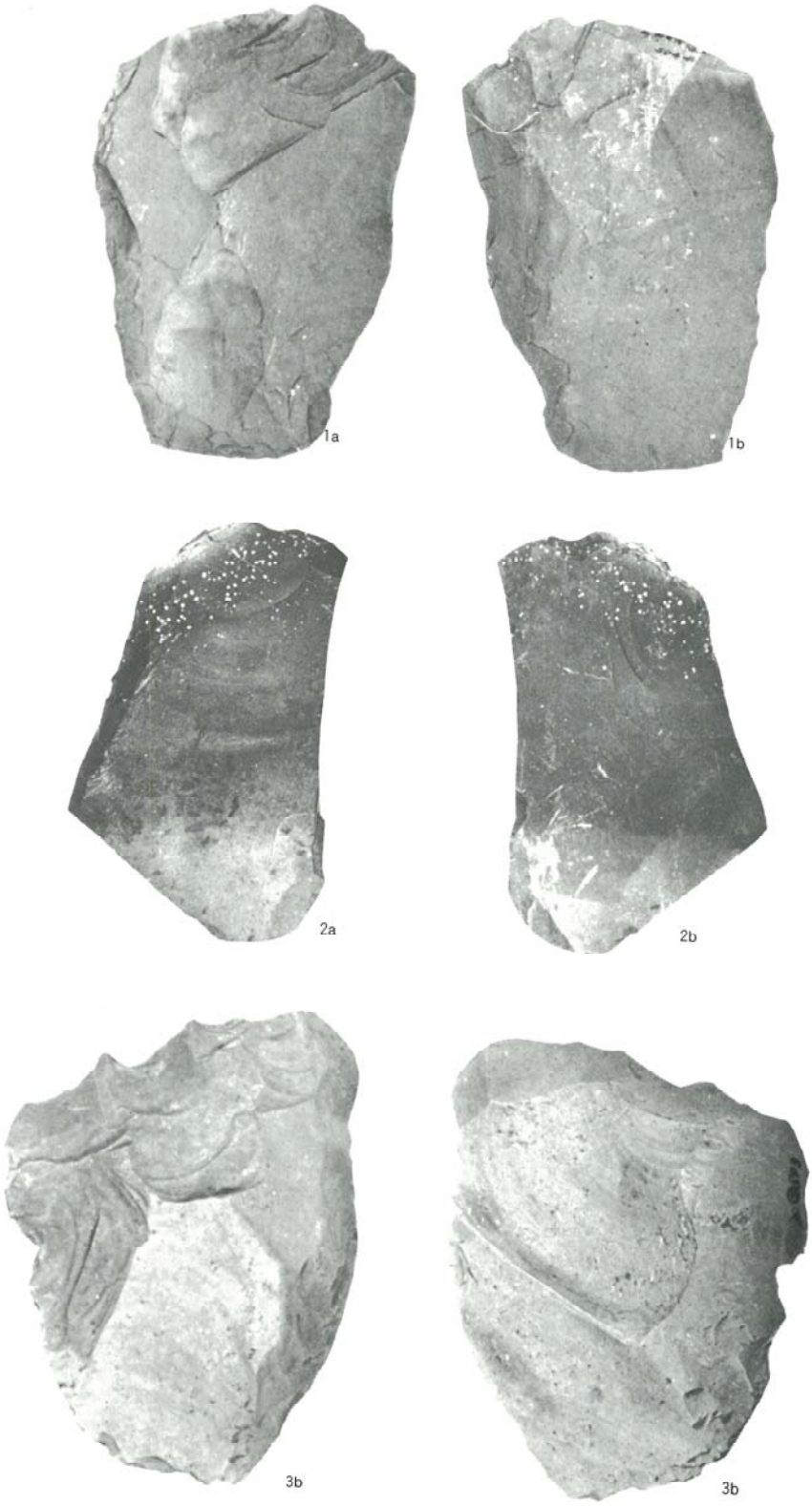
▲ＳＫ64出土１．３．５　ＳＹ１出土２　ＳＫ62出土４



▲ＳＴ３出土１～３　ＳＴ６出土４．５



▲ＳＴ８出土１　ＳＫ53出土２　ＳＫ36出土３



▲ＳＤ４出土１　ＳＹ２出土２　ＳＰ３出土３

1

2

3

4

5

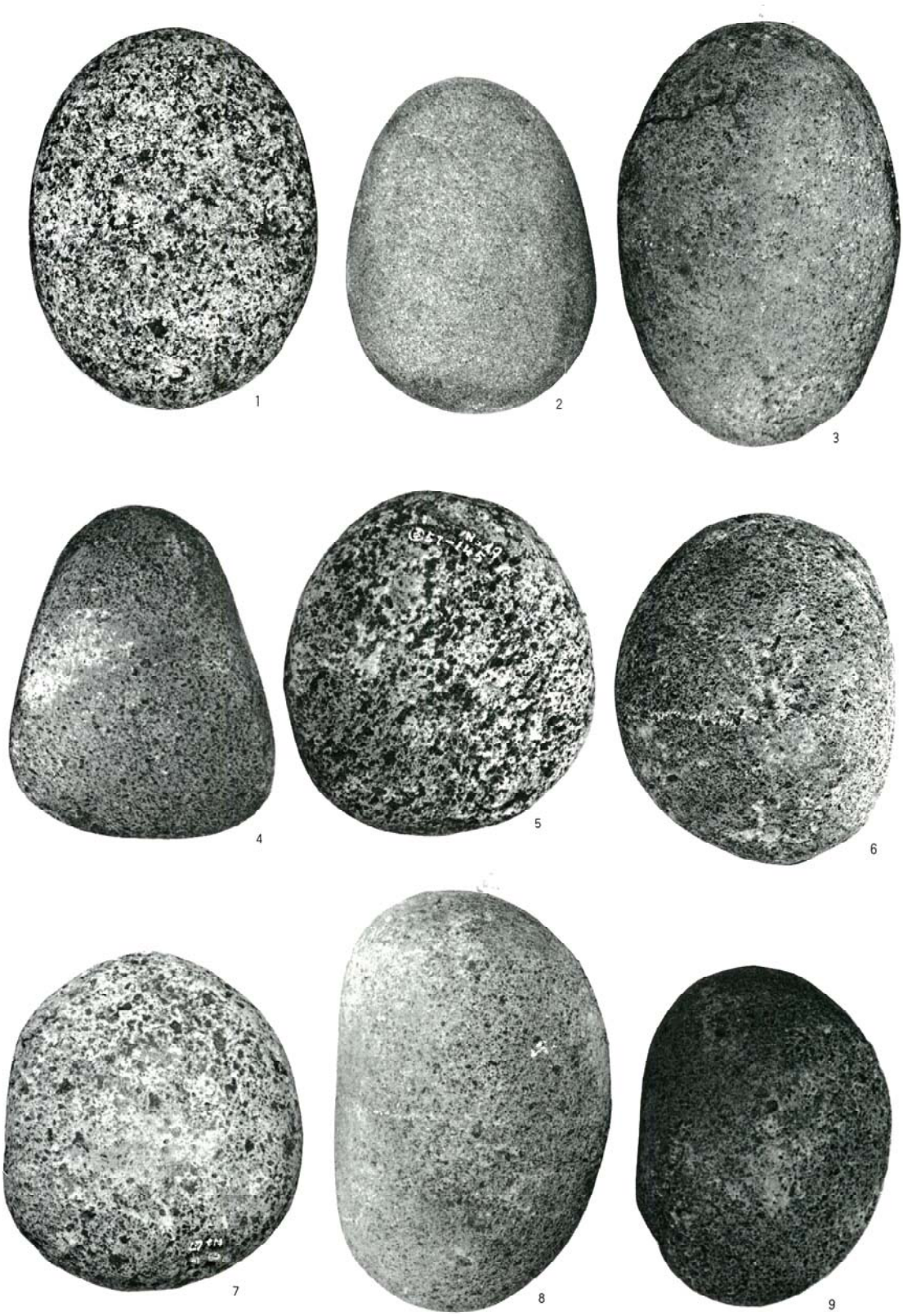
6

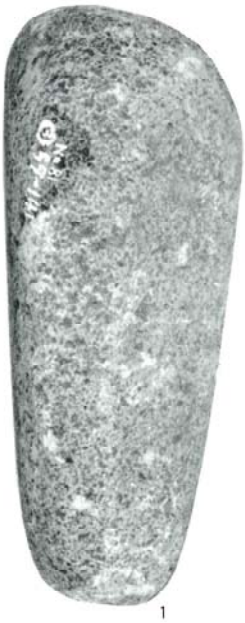
7

8

9

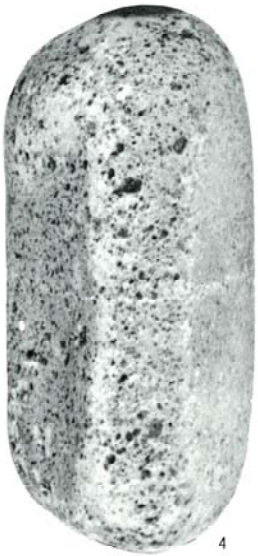
第百四十図版八幡原No 3第1次調査の石器（70）

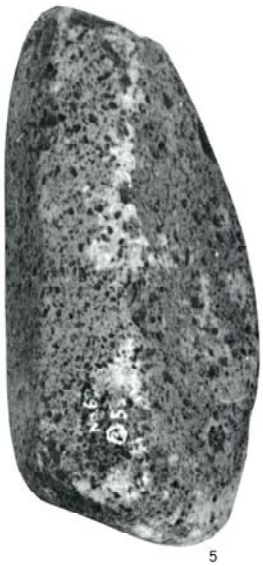



1

2

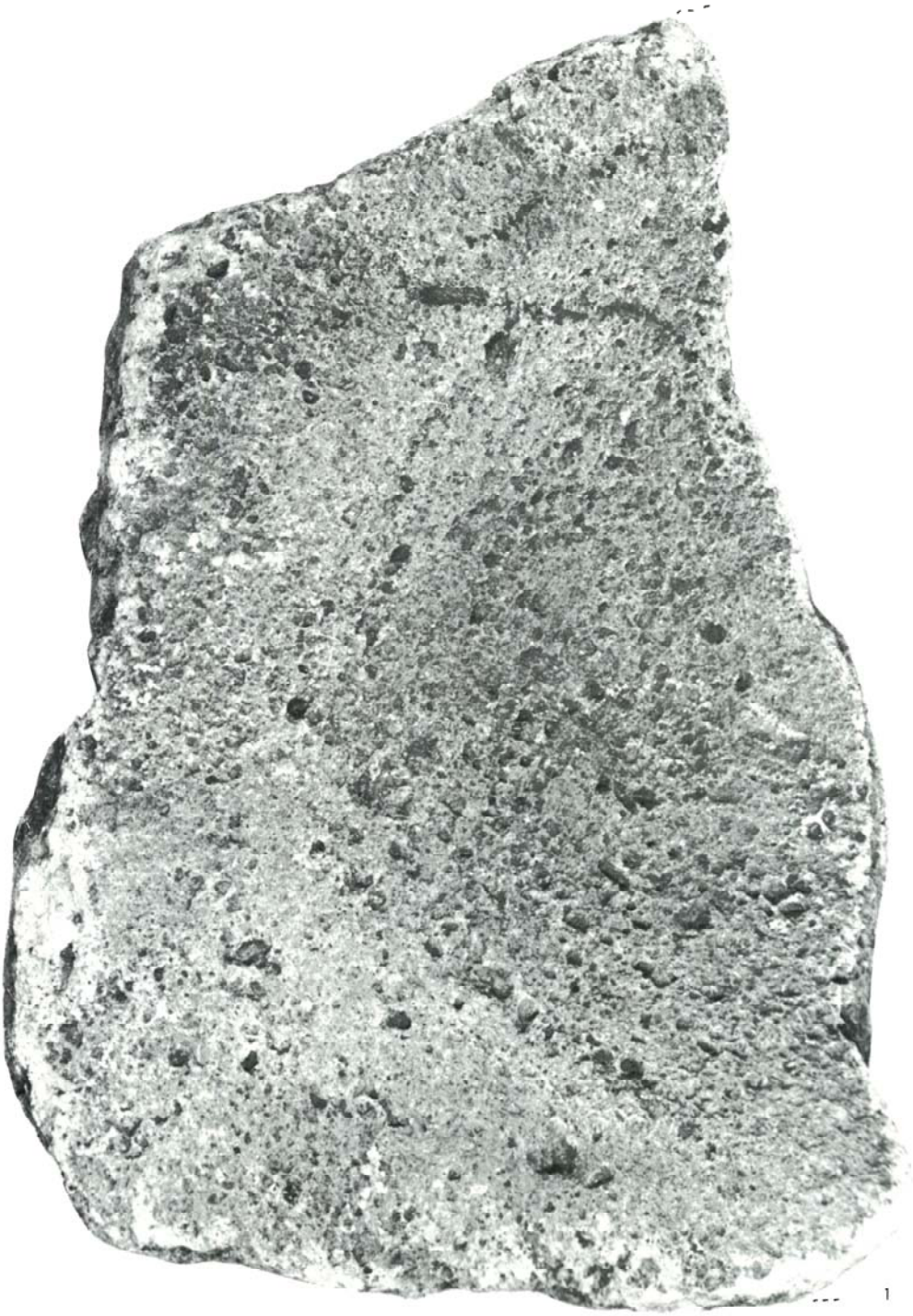
3


4

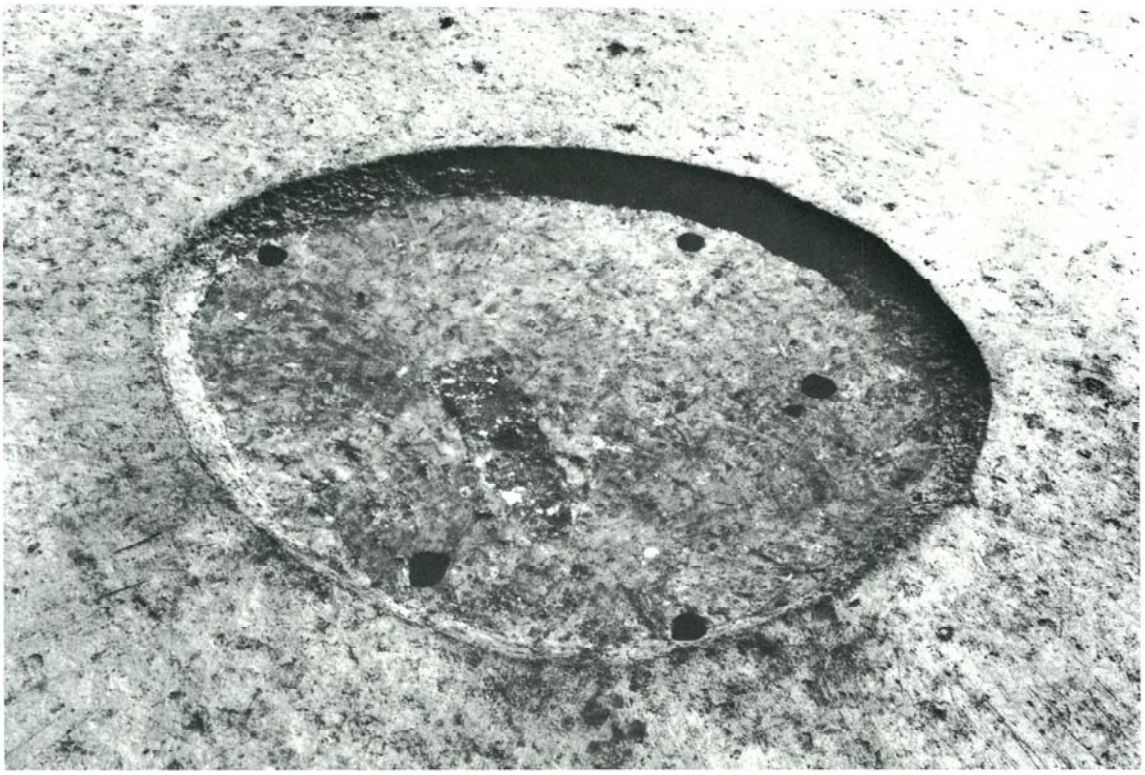

5

6

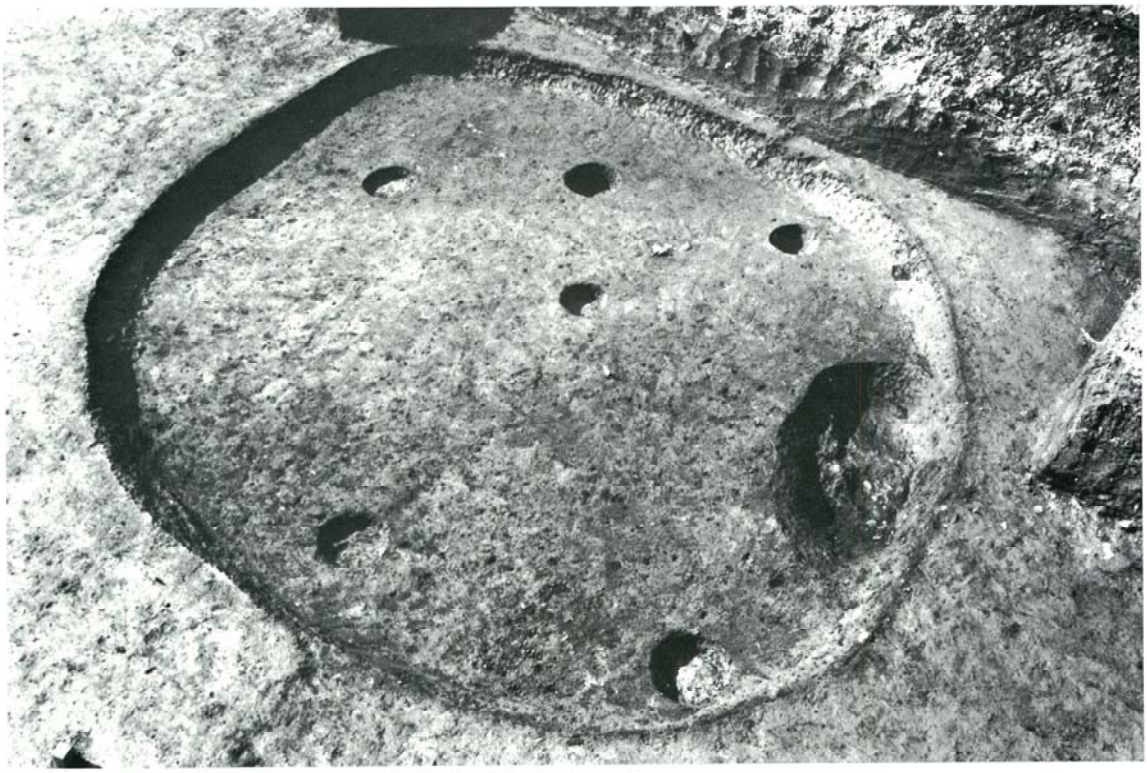
第百四十二図版八幡原No3第1次調査の石器（72）



第百四十三図版八幡原No3第2次調査の発掘（1）

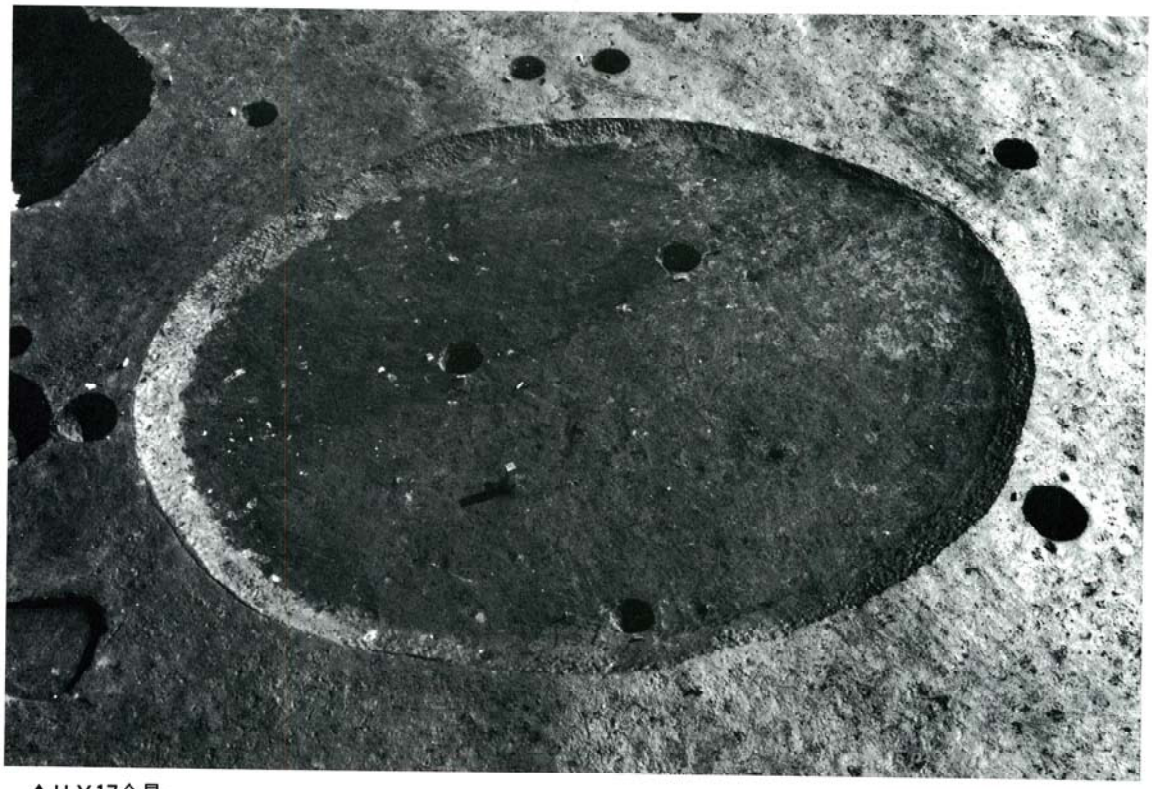


▲ＨＹ15全景

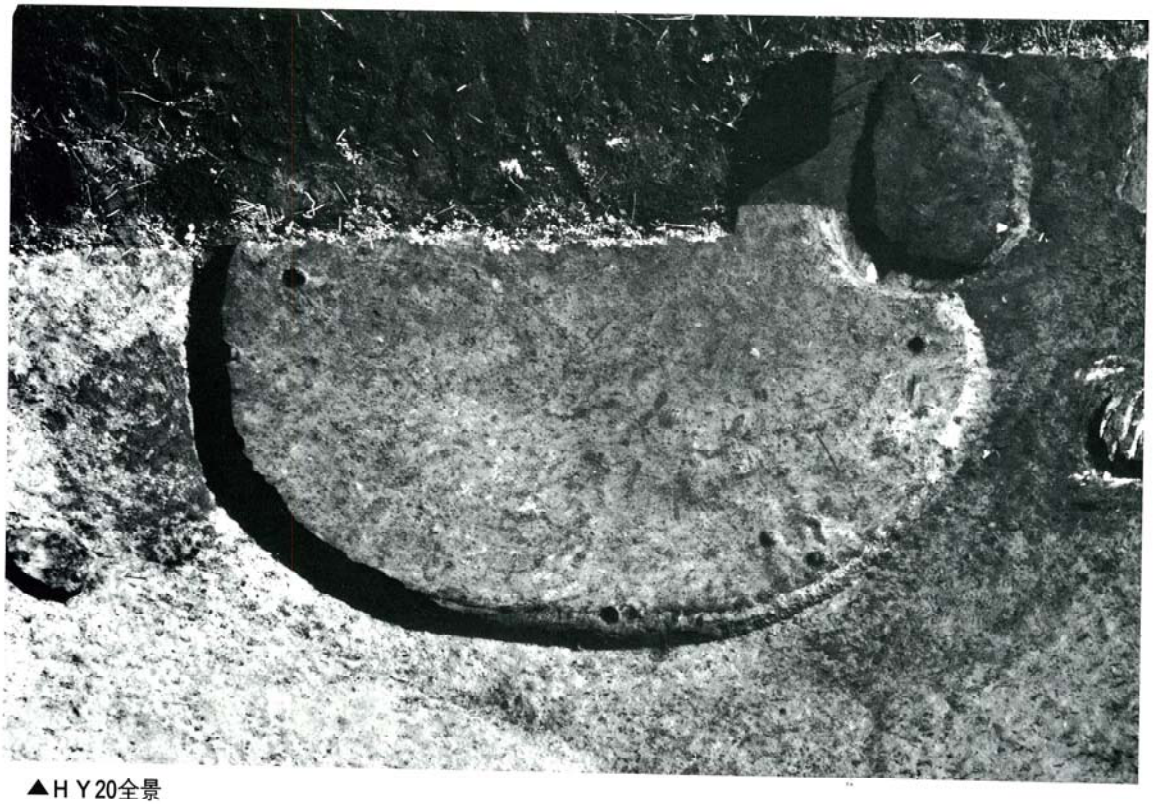


▲ＨＹ18全景

第百四十四図版八幡原No3第2次調査の発掘（2）

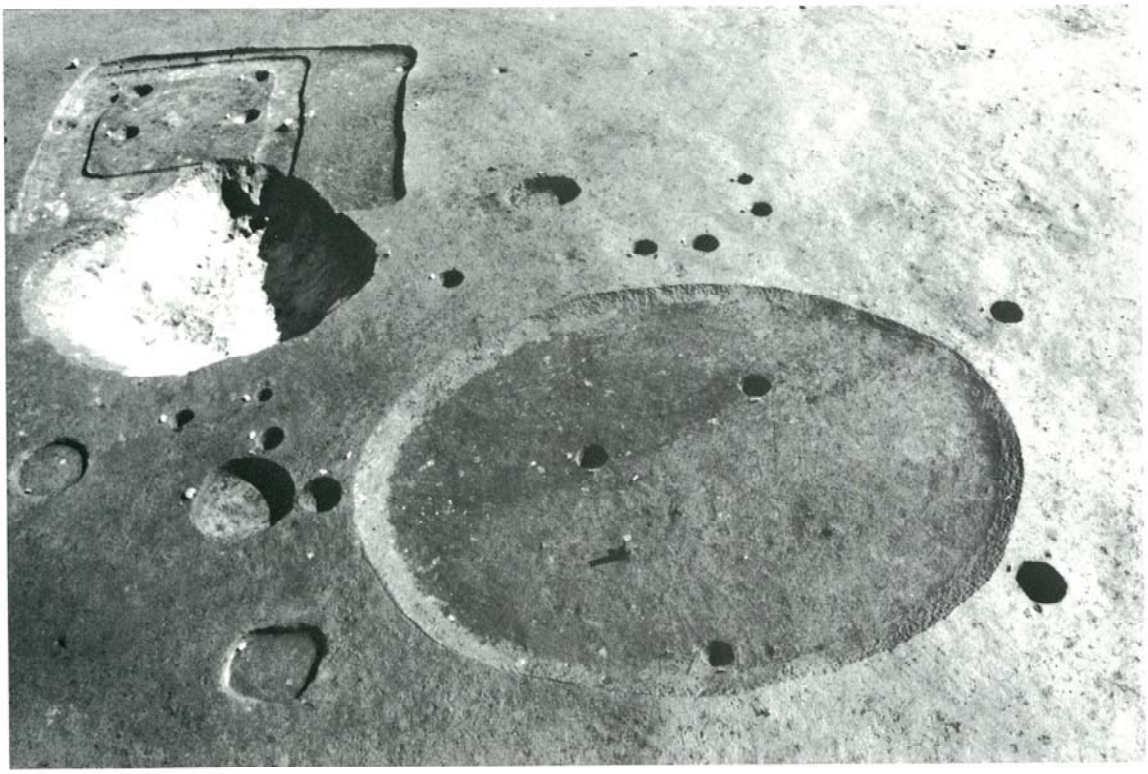


▲ＨＹ17全景



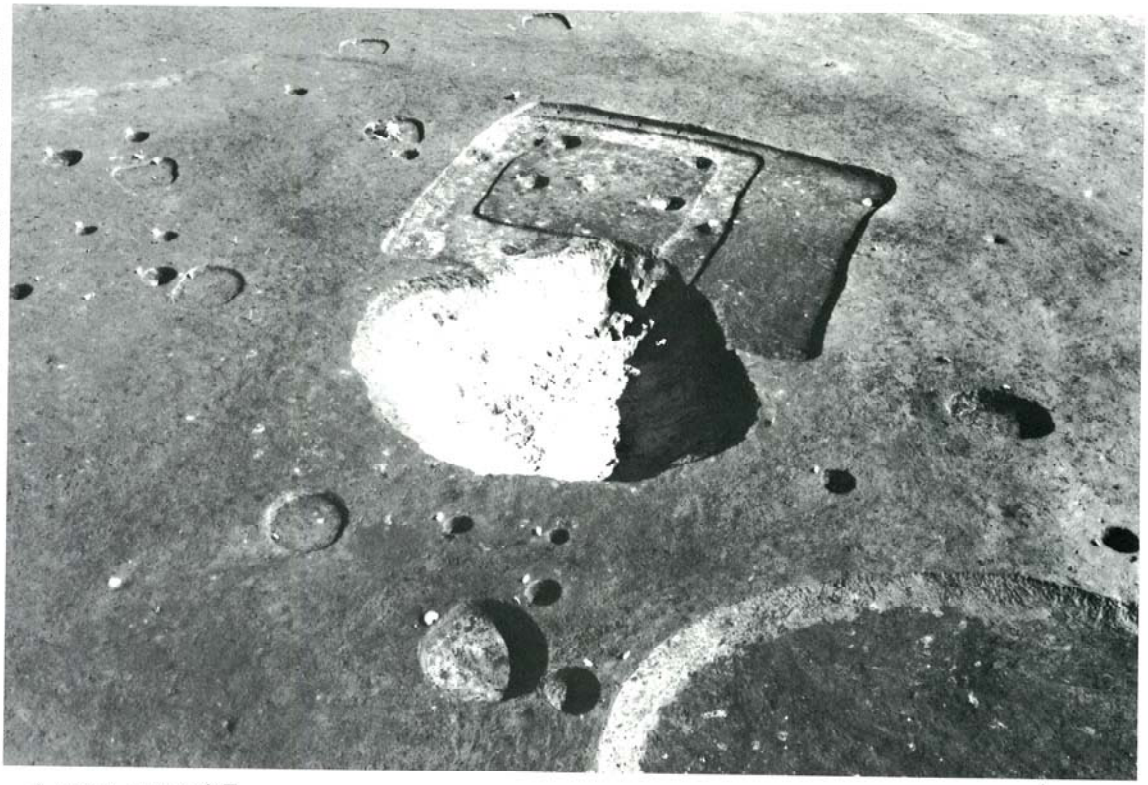
▲ＨＹ20全景

▲遺構全景

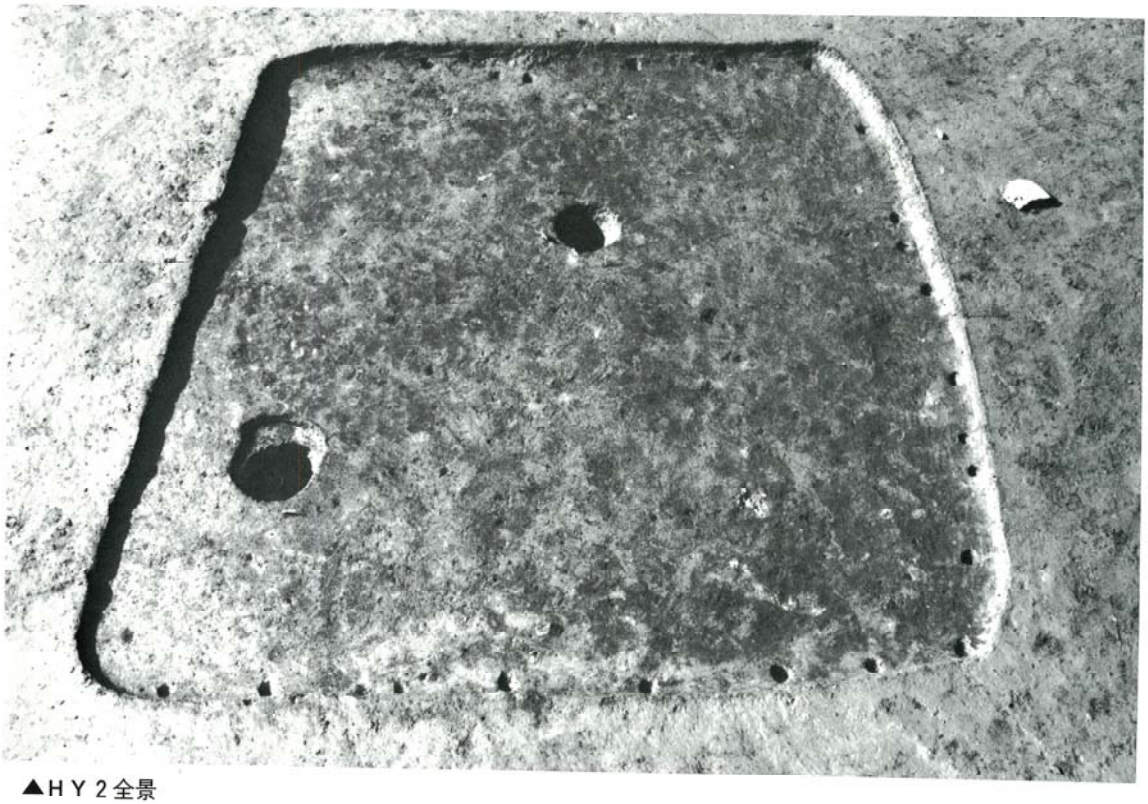


▲ＨＹ６，ＨＹ17全景

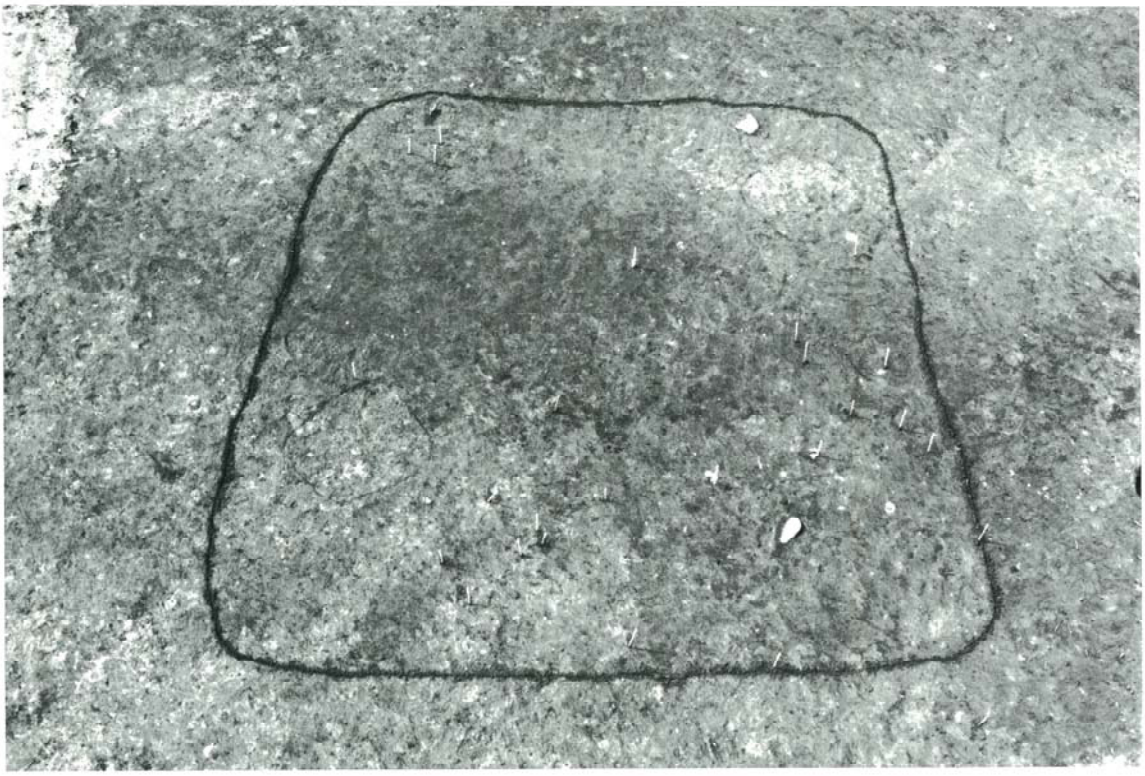
第百四十六図版八幡原No3第2次調査の発掘（4）



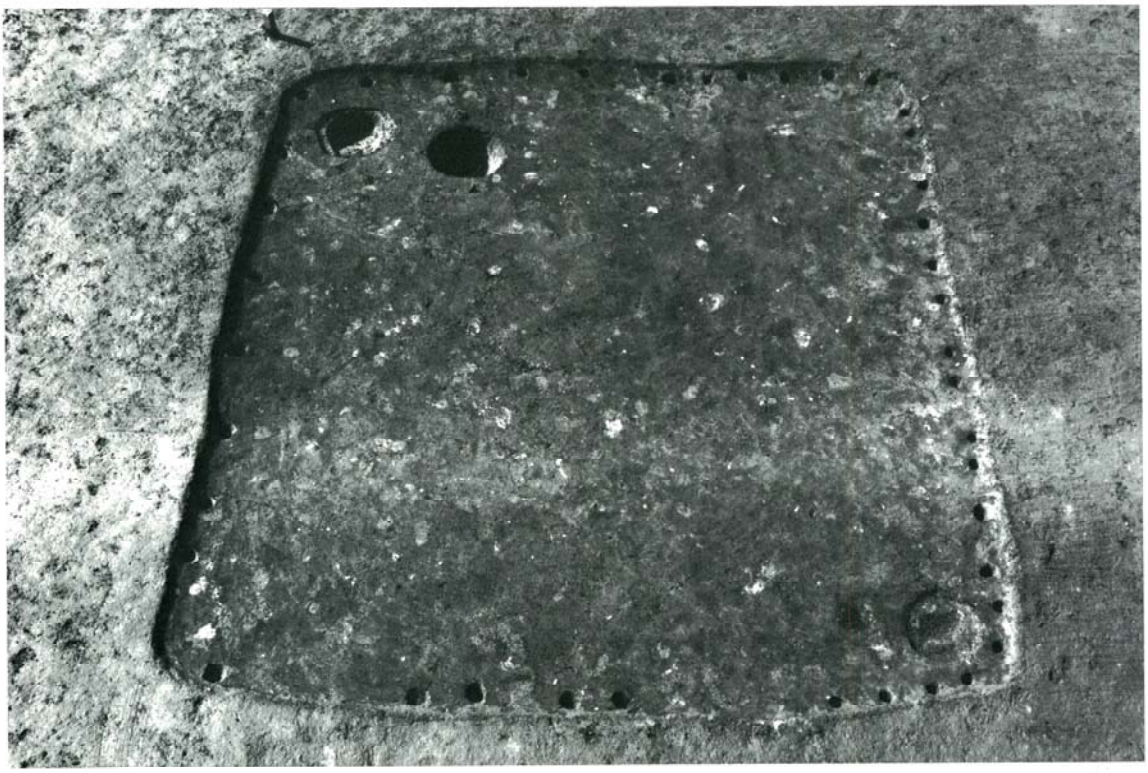
▲XY8，HY6全景



▲HY2全景



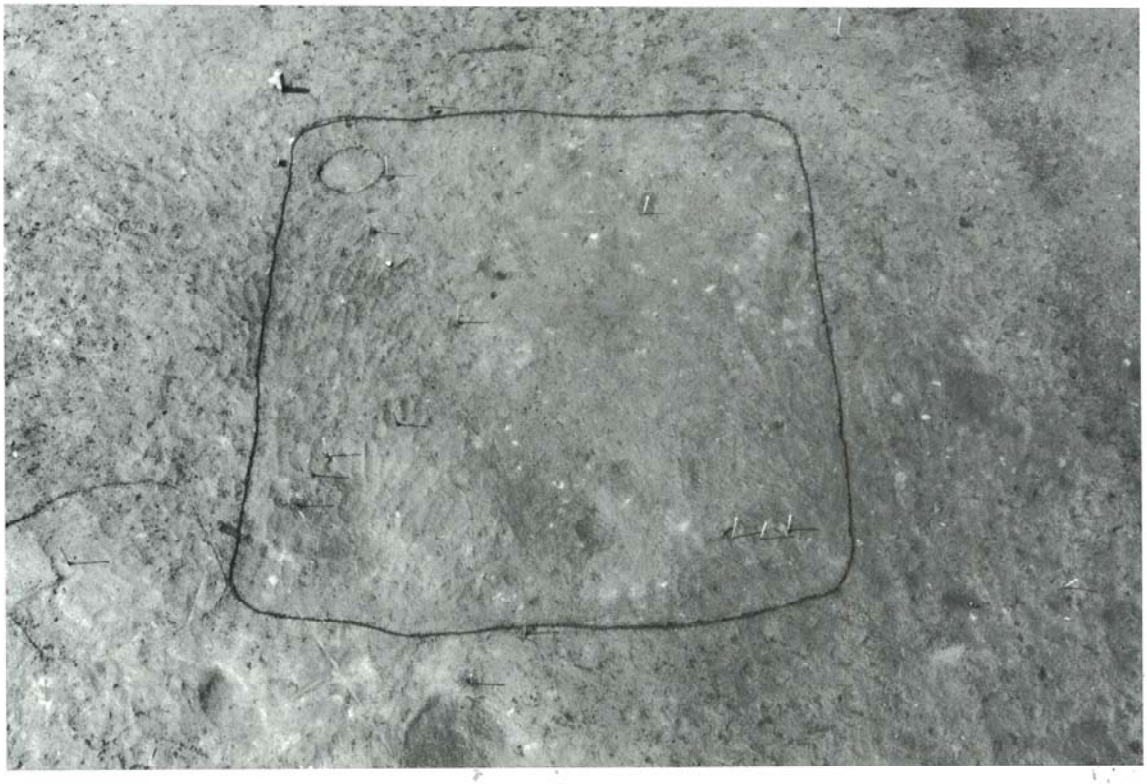
▲ＨＹ３プラン確認状況



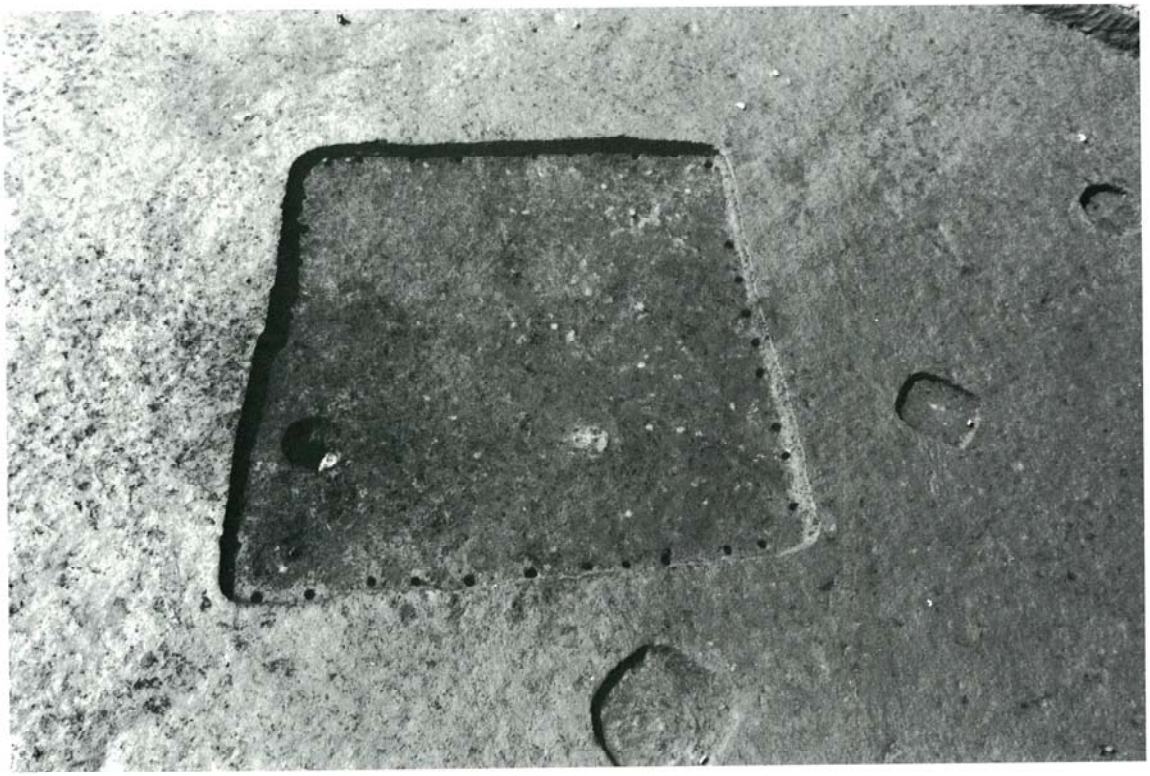
▲ＨＹ３全景

▲ＨＹ４プラン確認状況

▲ＨＹ４遺物出土状況

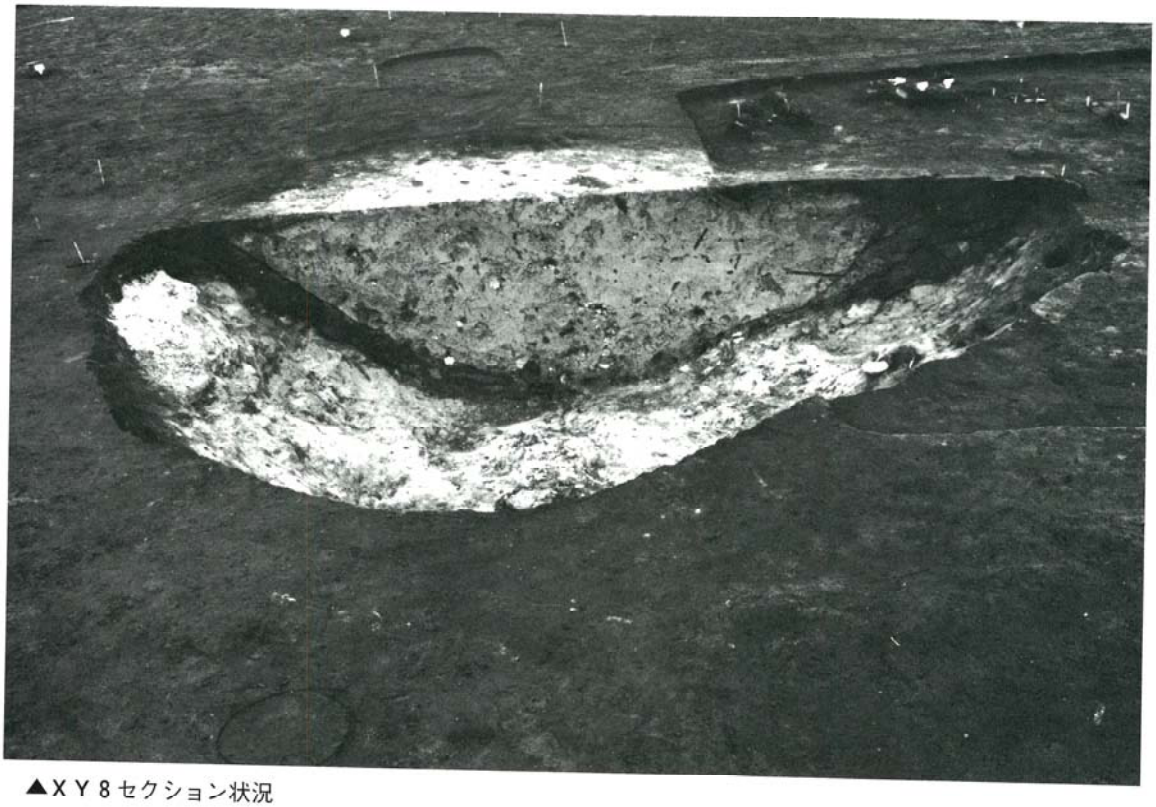


▲ＨＹ５プラン確認状況

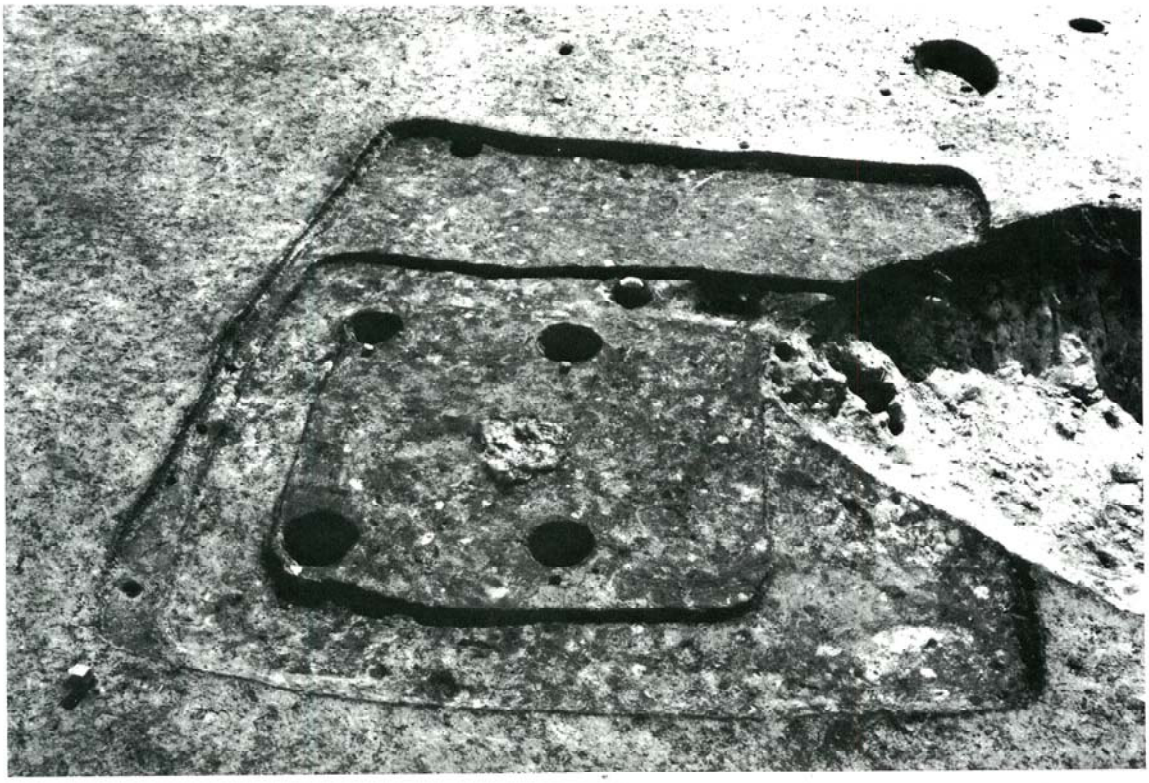


▲ＨＹ５全景

▲ＨＹ６遺物出土状況



▲ＸＹ８セクション状況

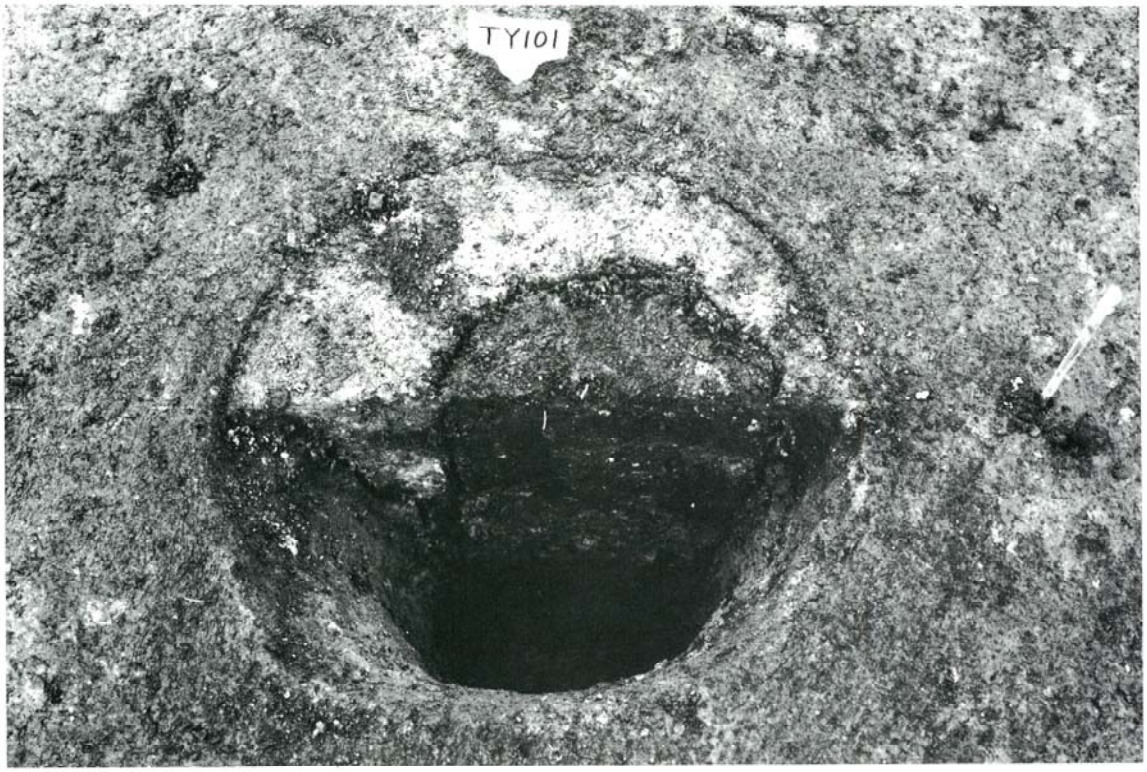


▲ＸＹ６全景

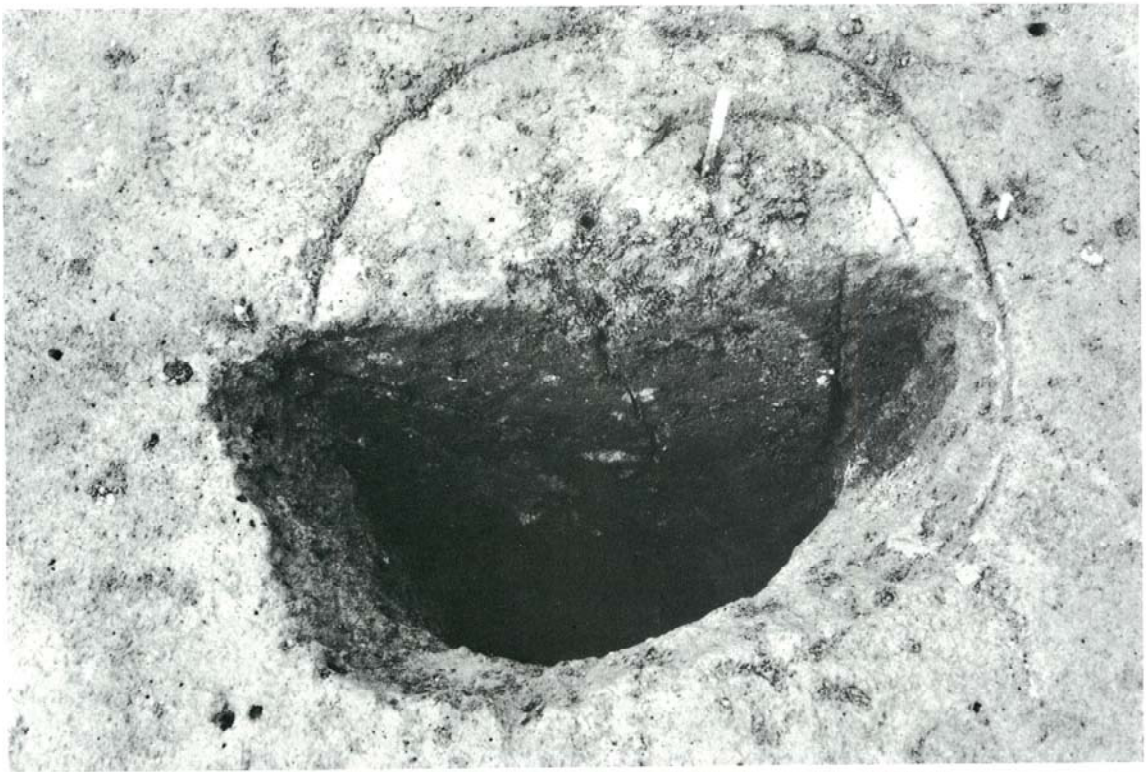
▲ＨＹ６炭化トチの実出状況

▲ＨＹ７全景

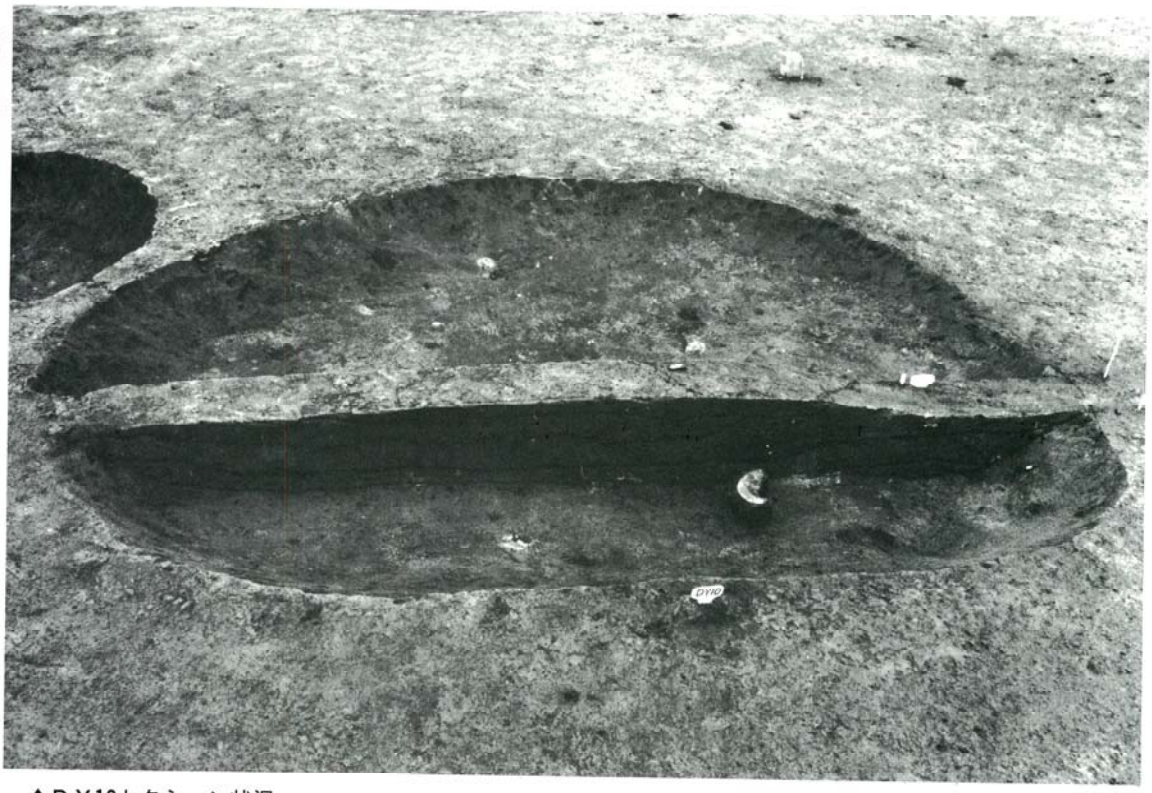
▲ＨＹ７遺物出土状況



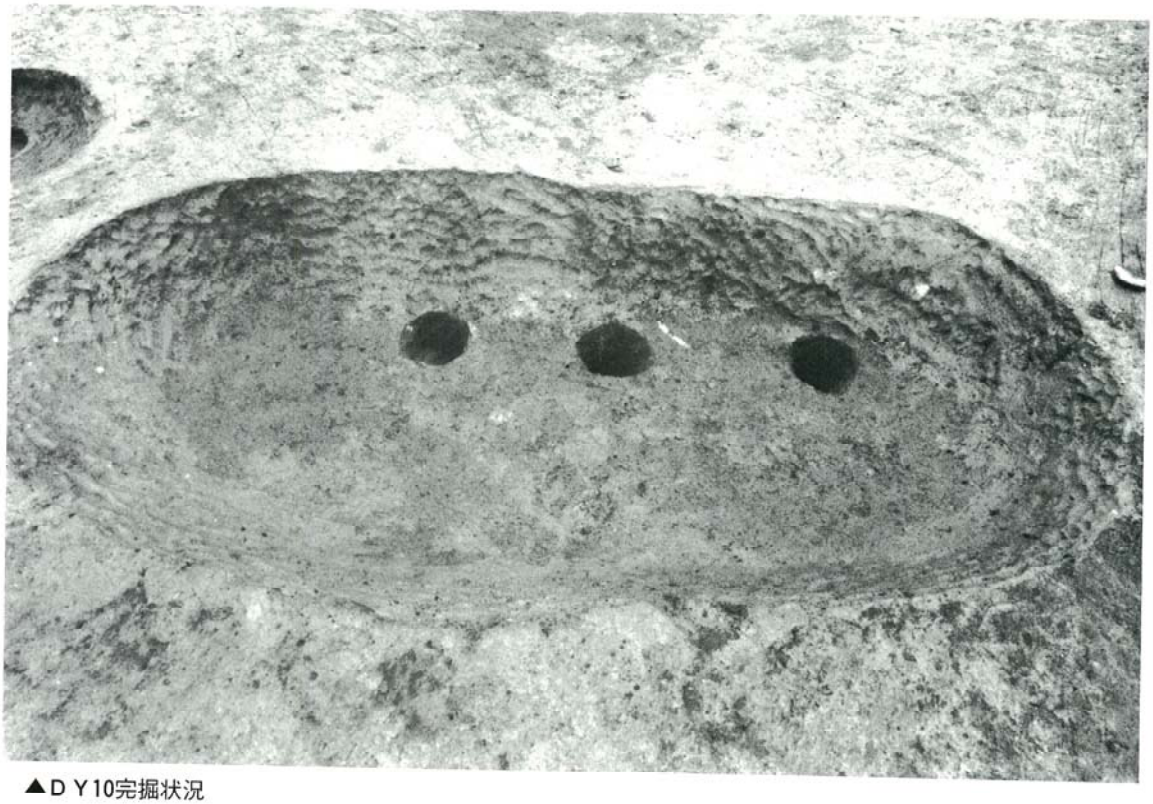
▲ＨＹ７柱穴セクション状況その１



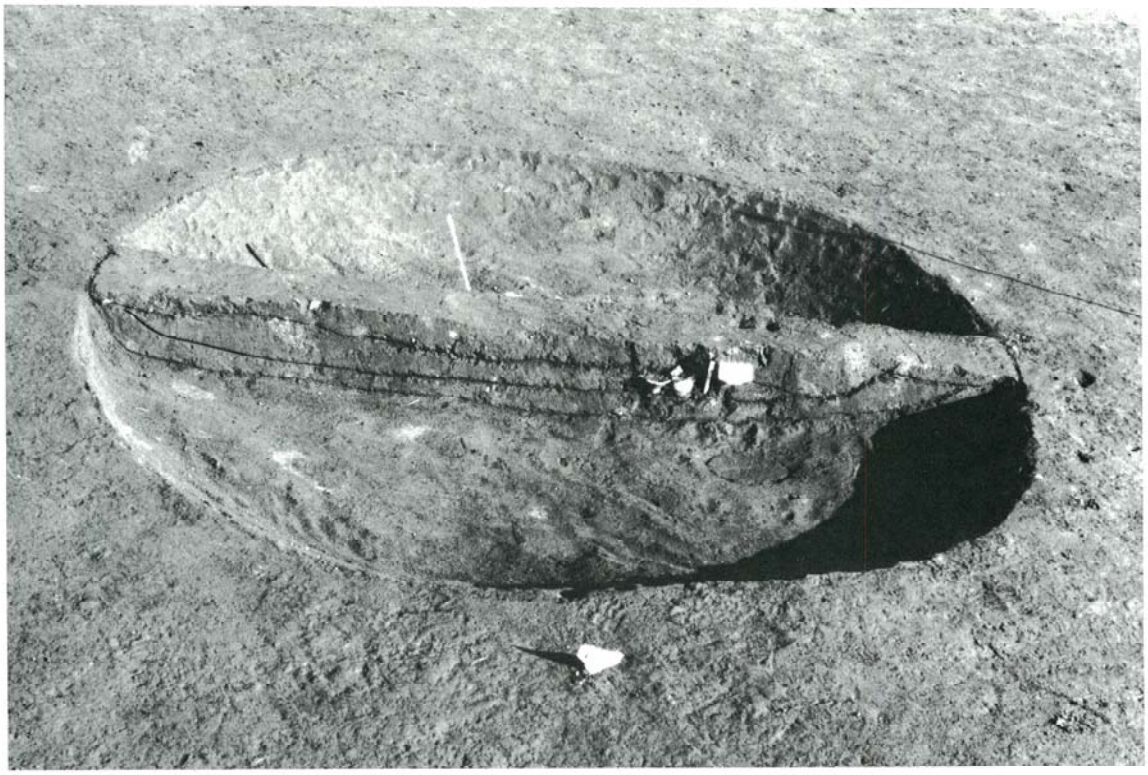
▲ＨＹ７柱穴セクション状況その２



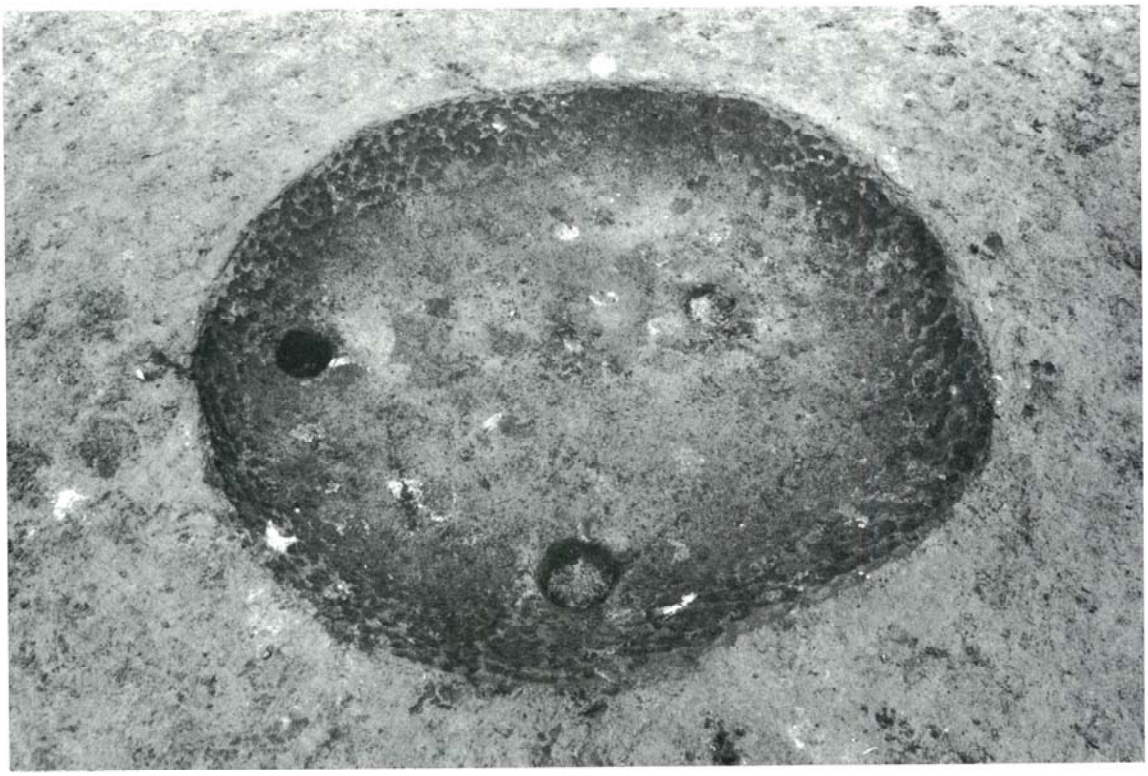
▲ＤＹ10セクション状況



▲ＤＹ10完掘状況



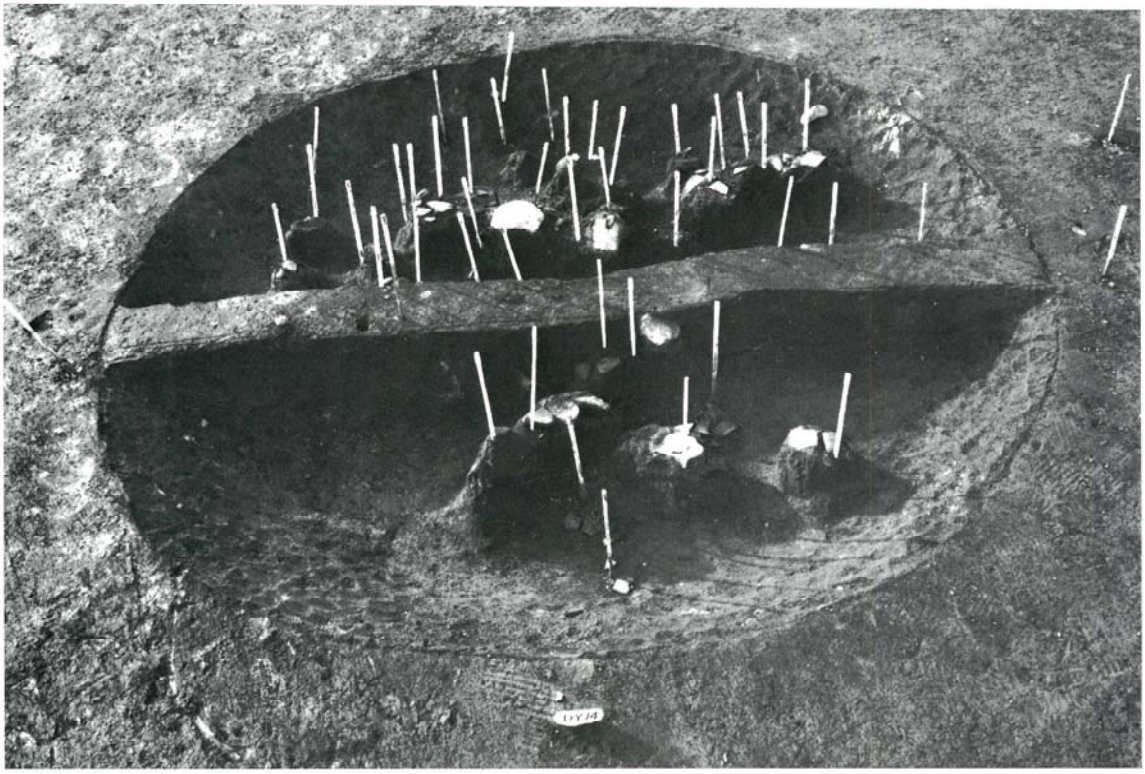
▲ＤＹ14セクション状況



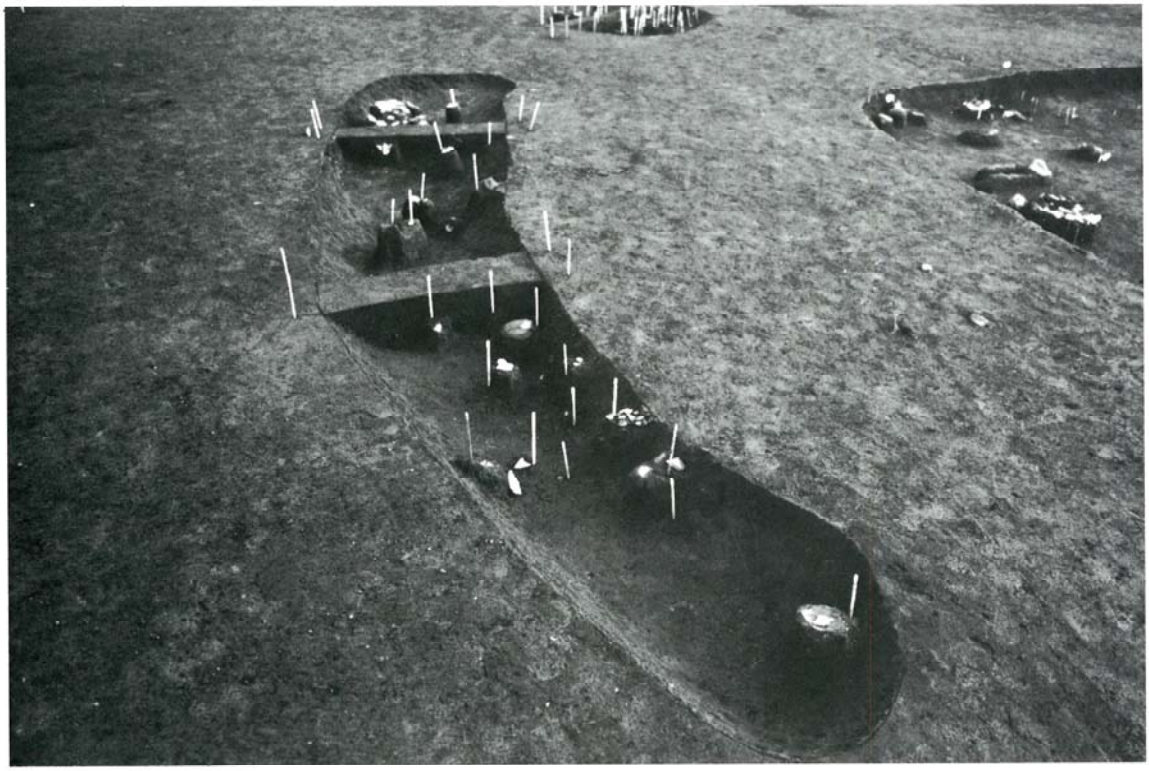
▲ＤＹ14完掘状況

▲ＤＹ21セクション状況

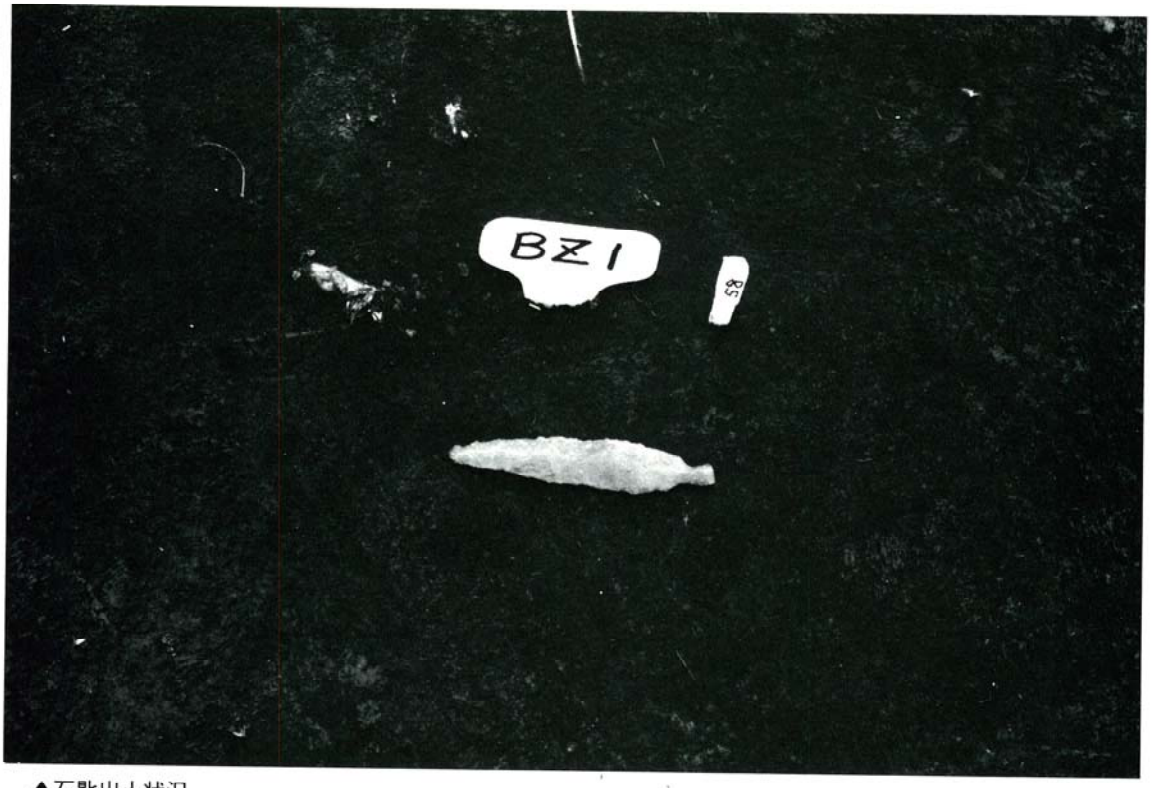
▲ＤＹ21完掘状況



▲ＤＹ14遺物出土状況

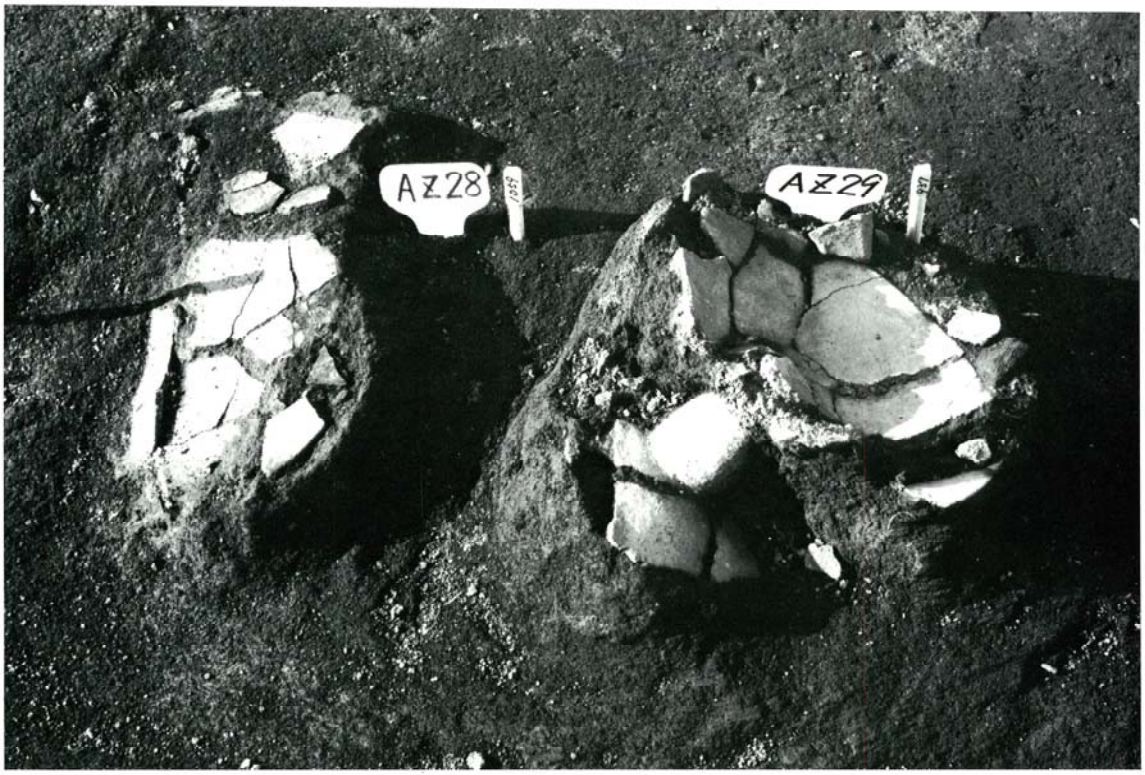


▲ＤＹ12遺物出土状況



▲石匙出土状況

▲石製釣針出土状況

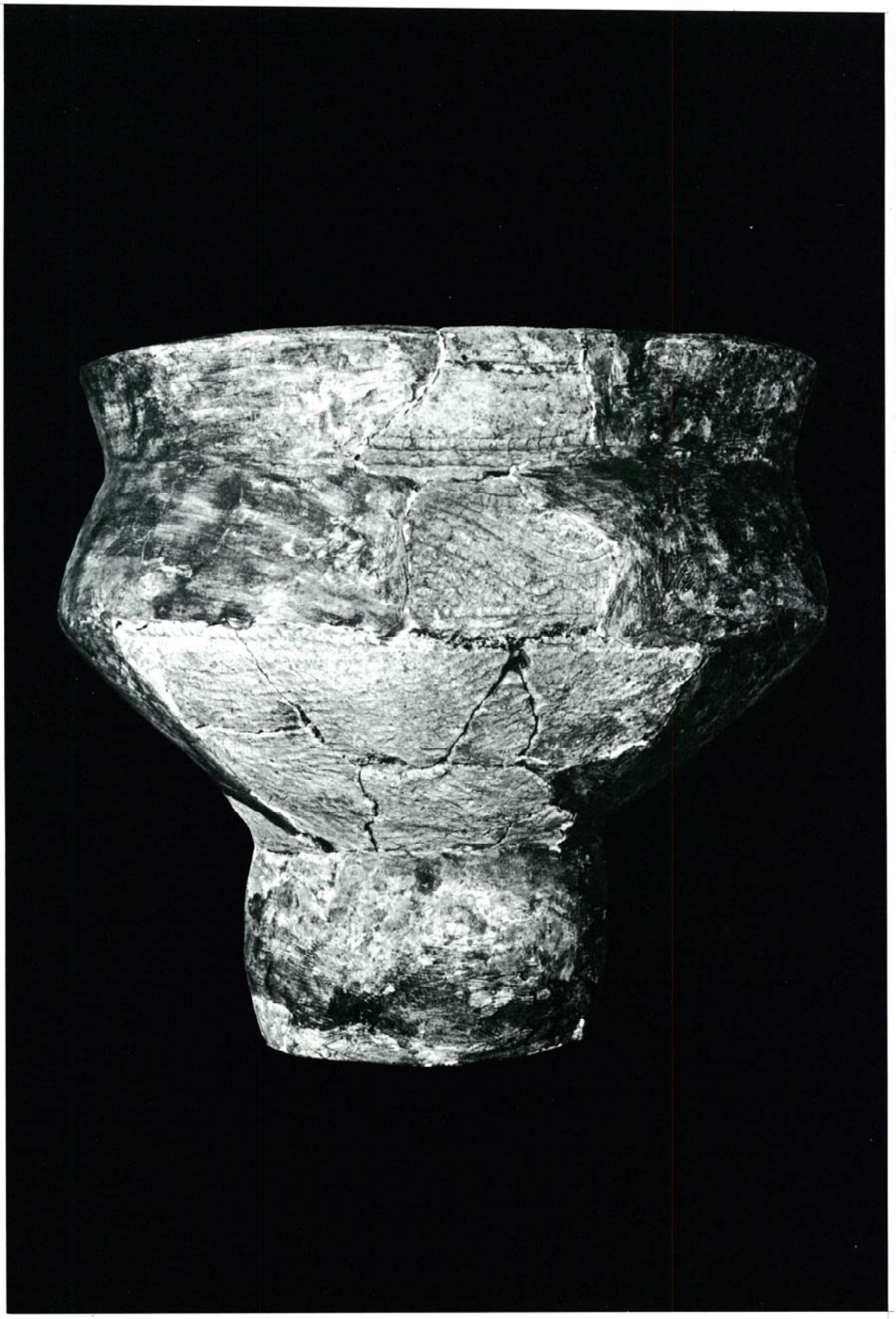


▲ＨＹ７遺物出土状況

▲ＨＹ５遺物出土状況

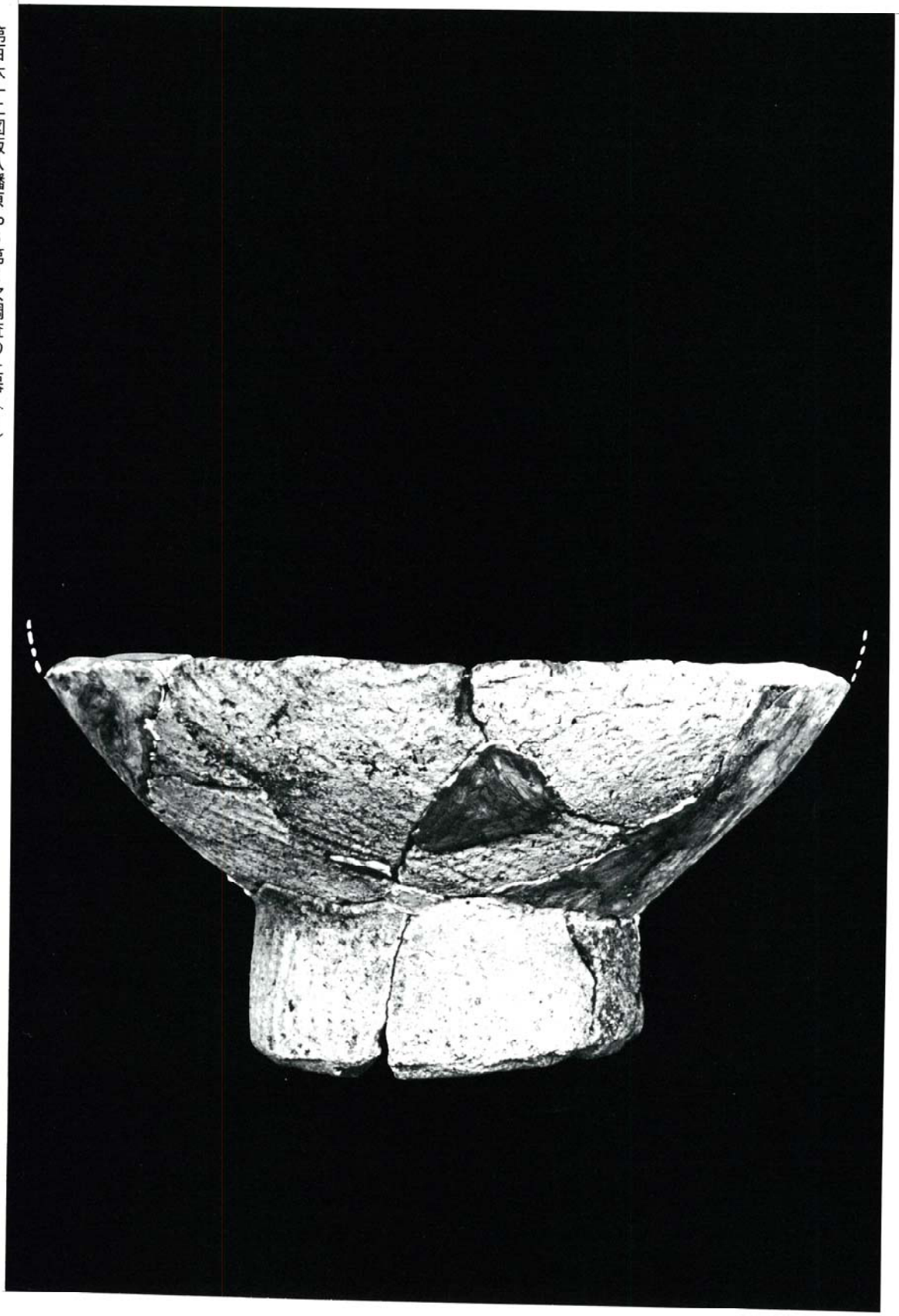
▲ＤＹ25遺物出土状況

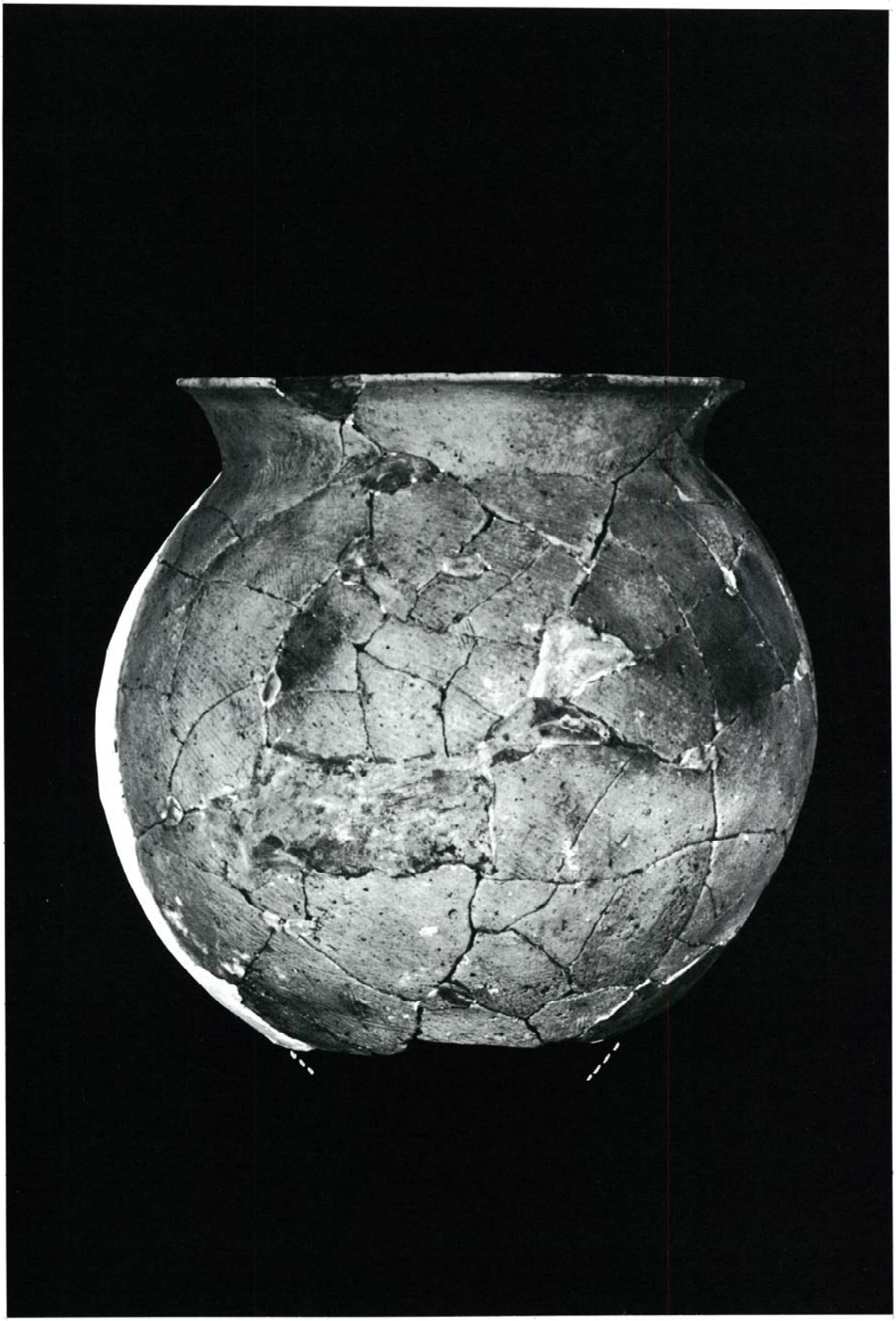
▲ＤＹ11遺物出土状況



第百六十一図版八幡原No3第2次調査の土器（1）

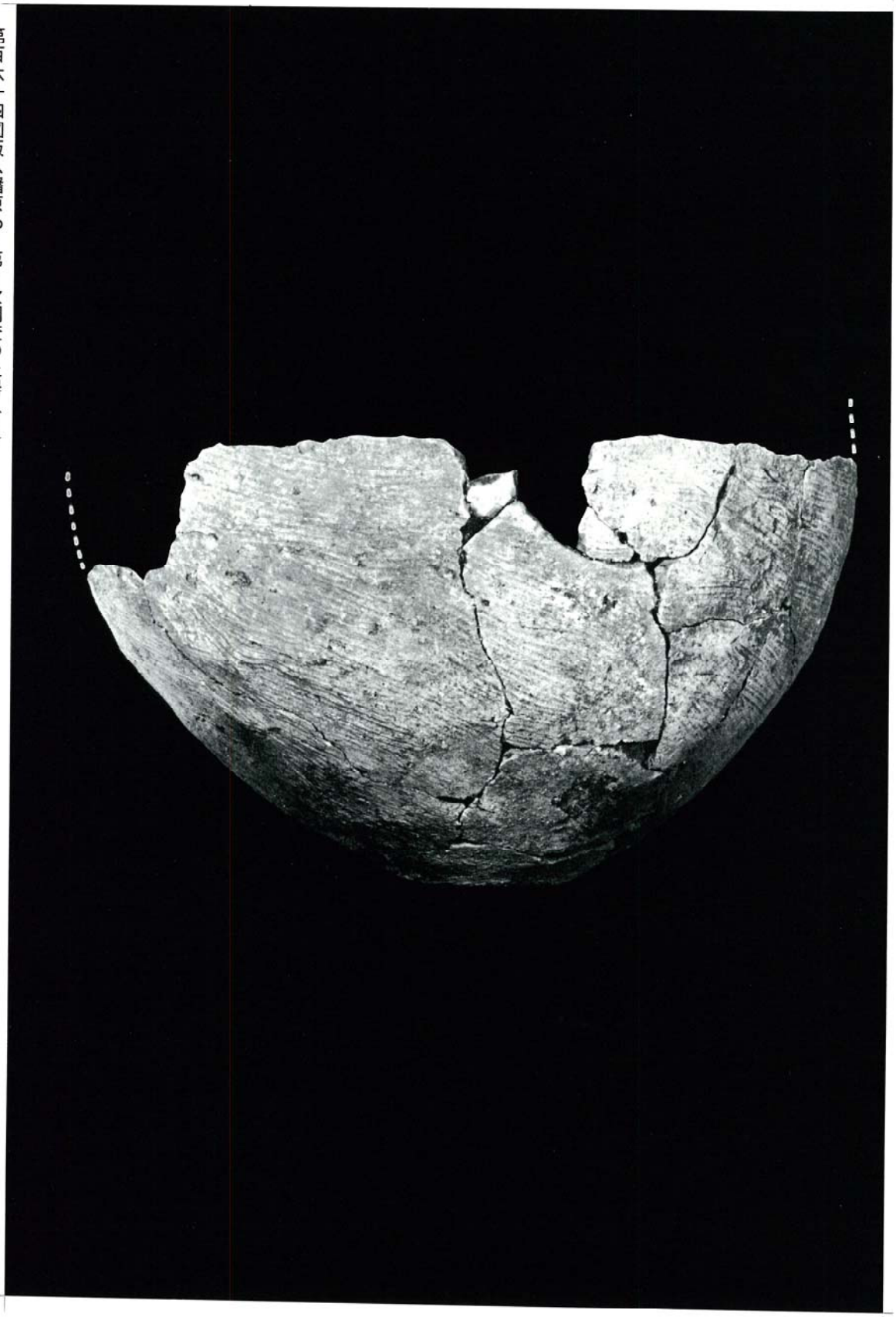
第百六十二図版八幡原No3第2次調査の土器（2）

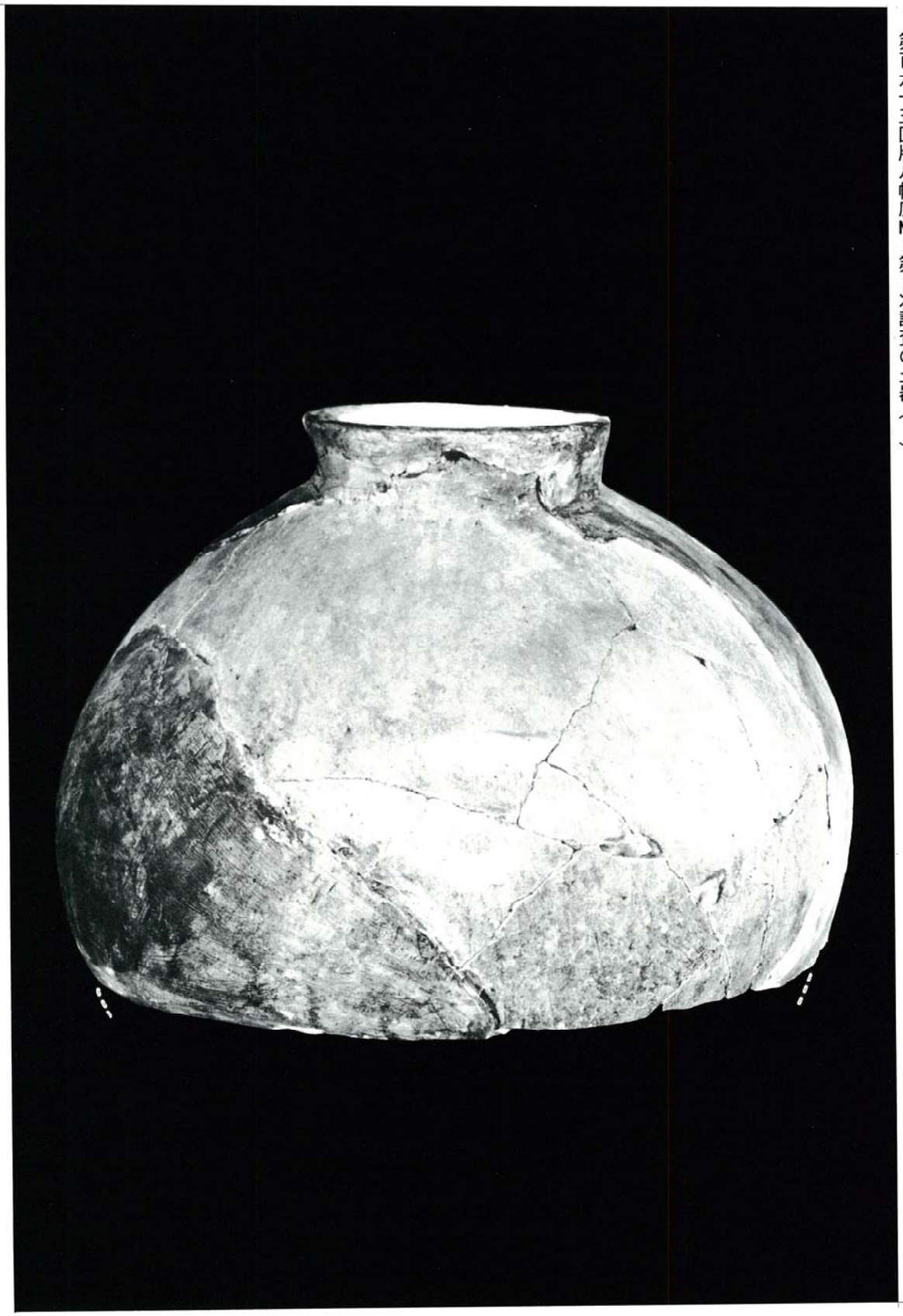




第百六十三図版八幡原No.3第2次調査の土器（3）

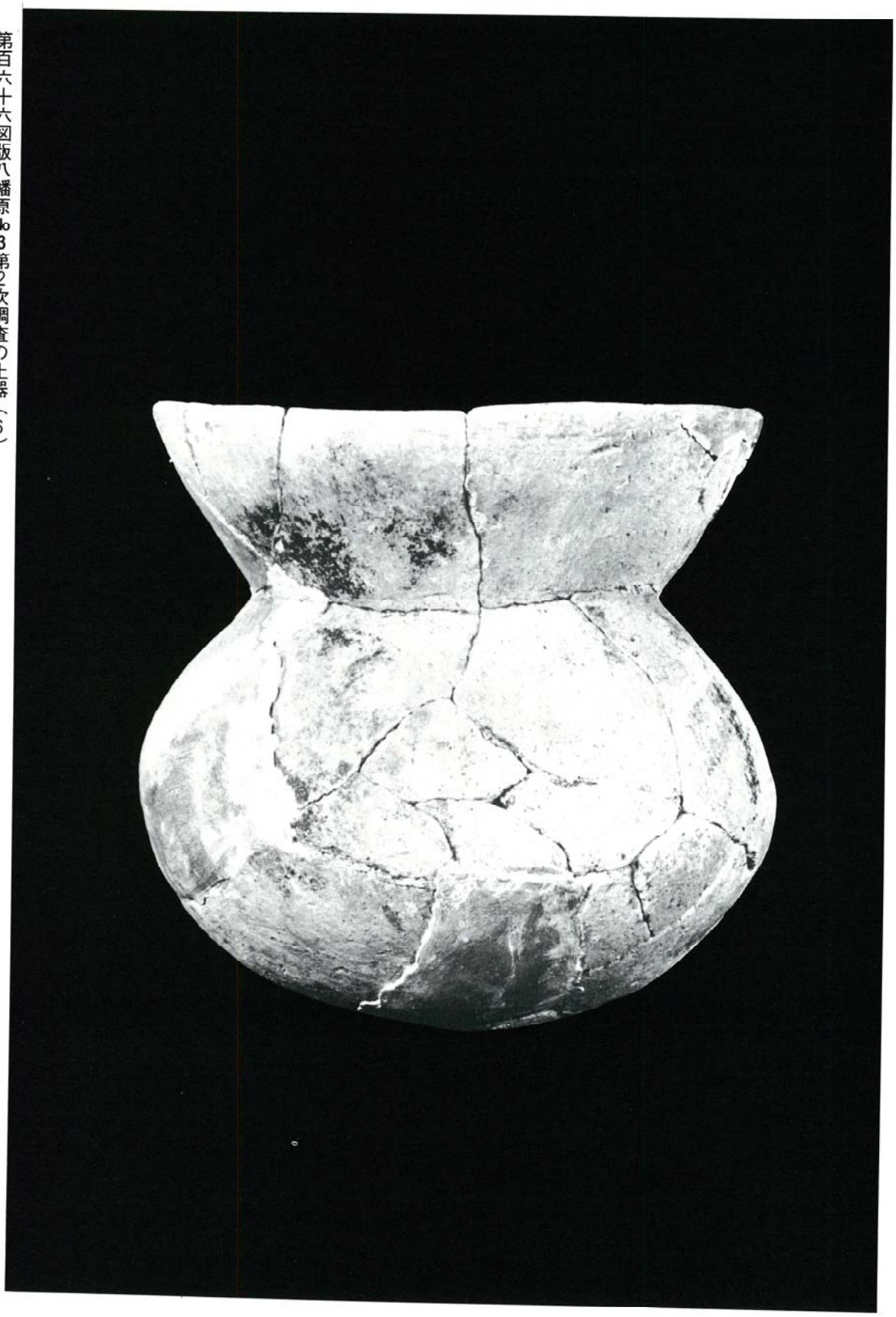
第百六十四図版八幡原No3第2次調査の土器（4）

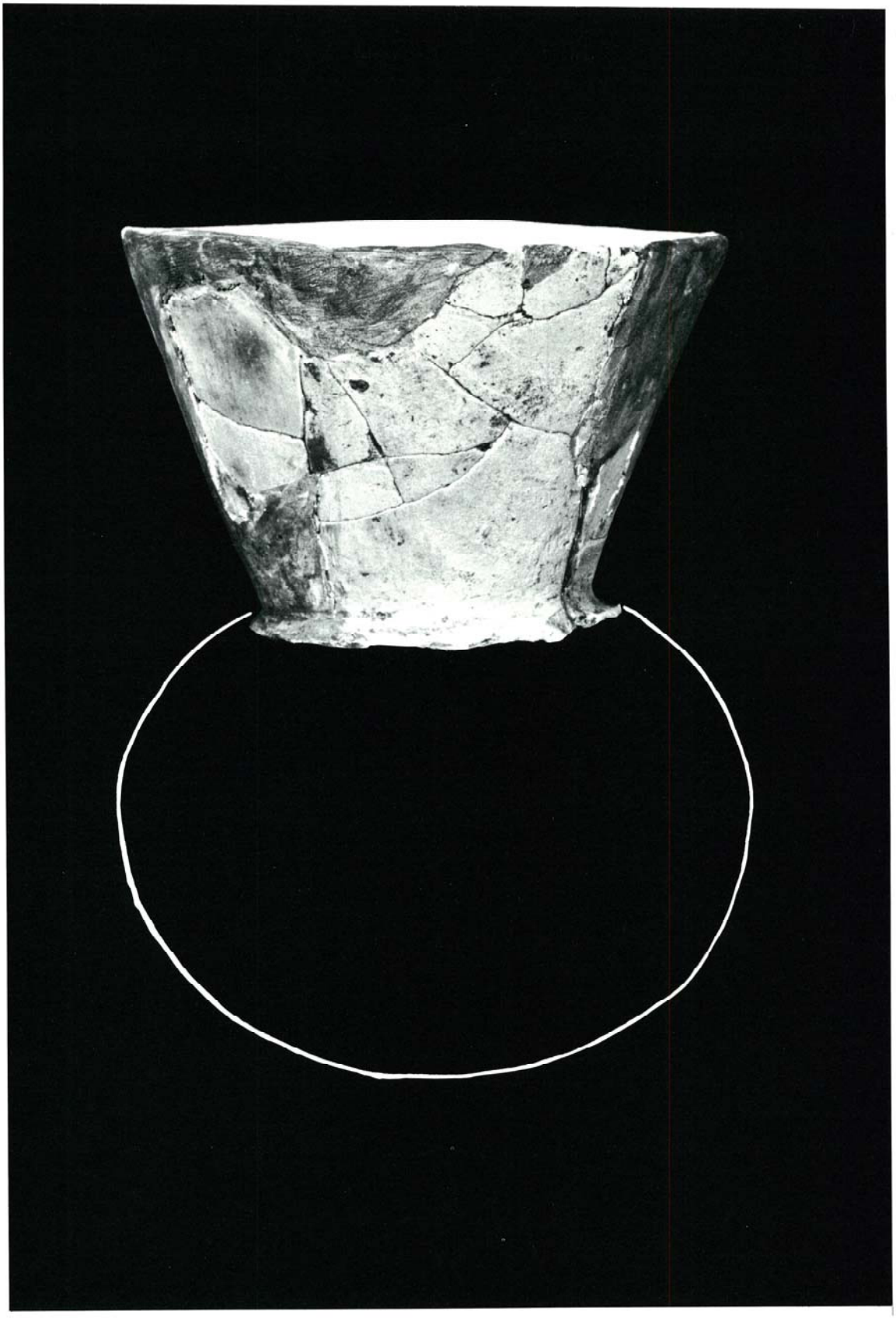




第百六十五図版八幡原No3第2次調査の土器（5）

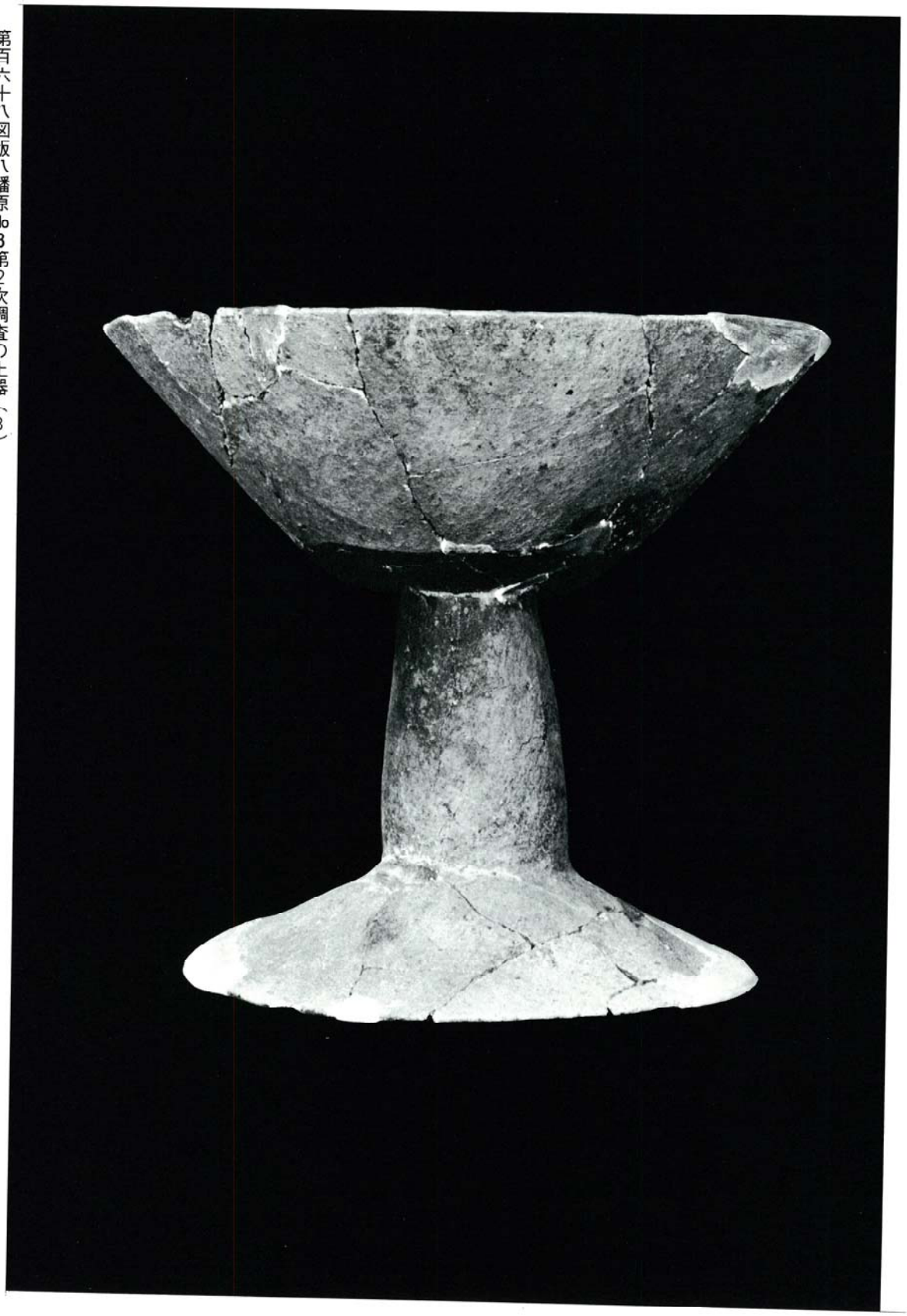
第百六十六図版八幡原No3第2次調査の土器（6）

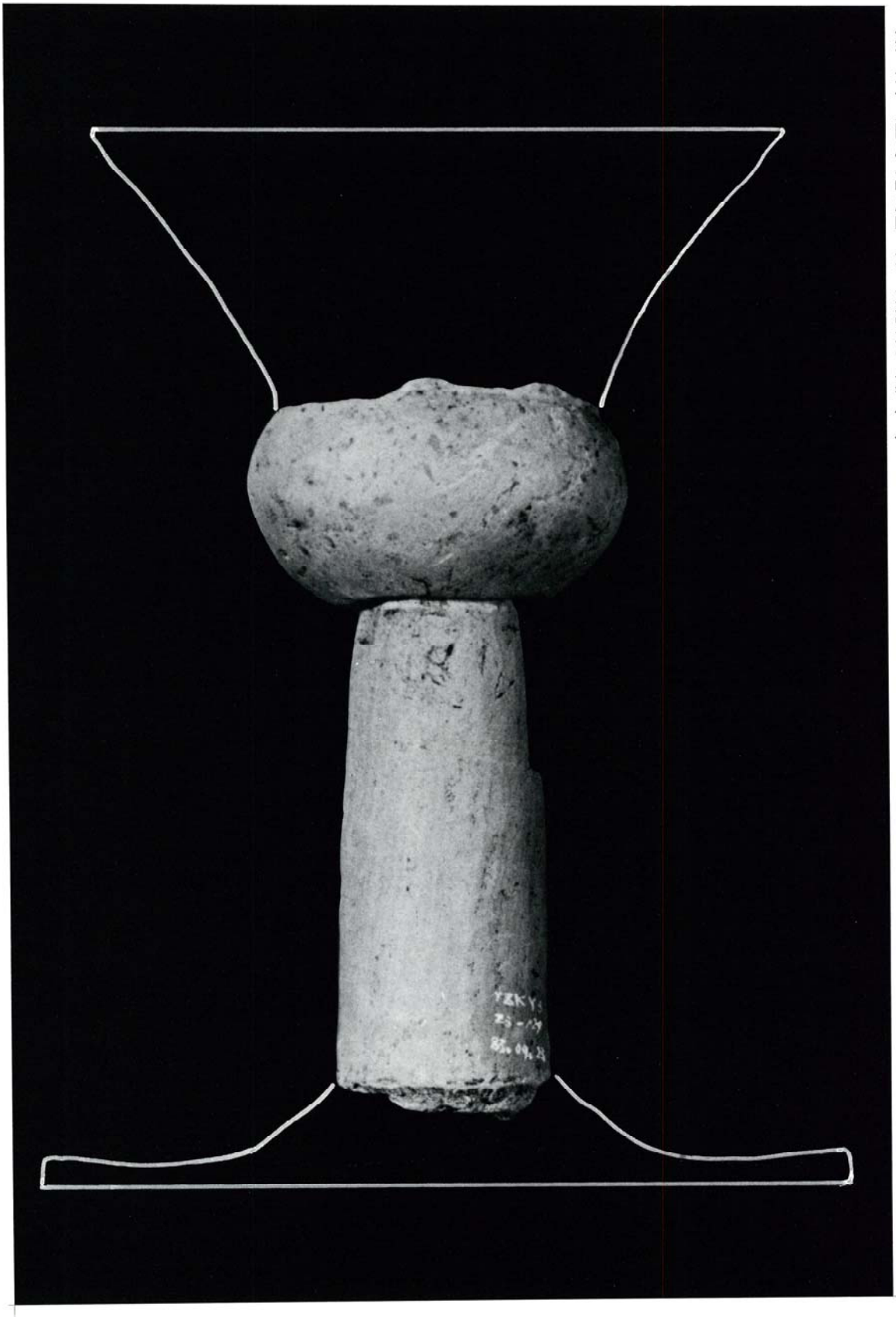




第百六十七図版八幡原No3第2次調査の土器（7）

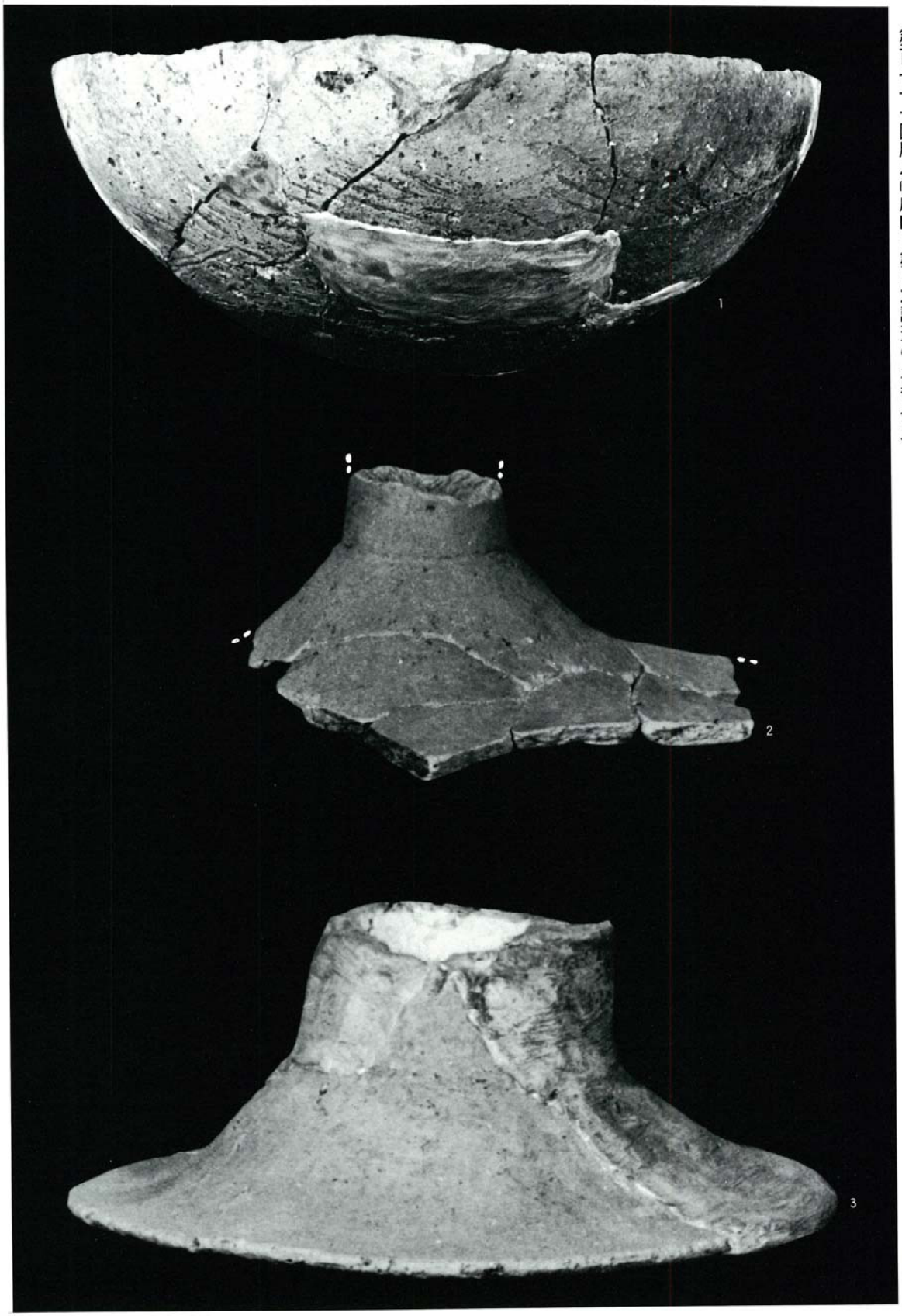
第百六十八図版八幡原No3第2次調査の土器（8）





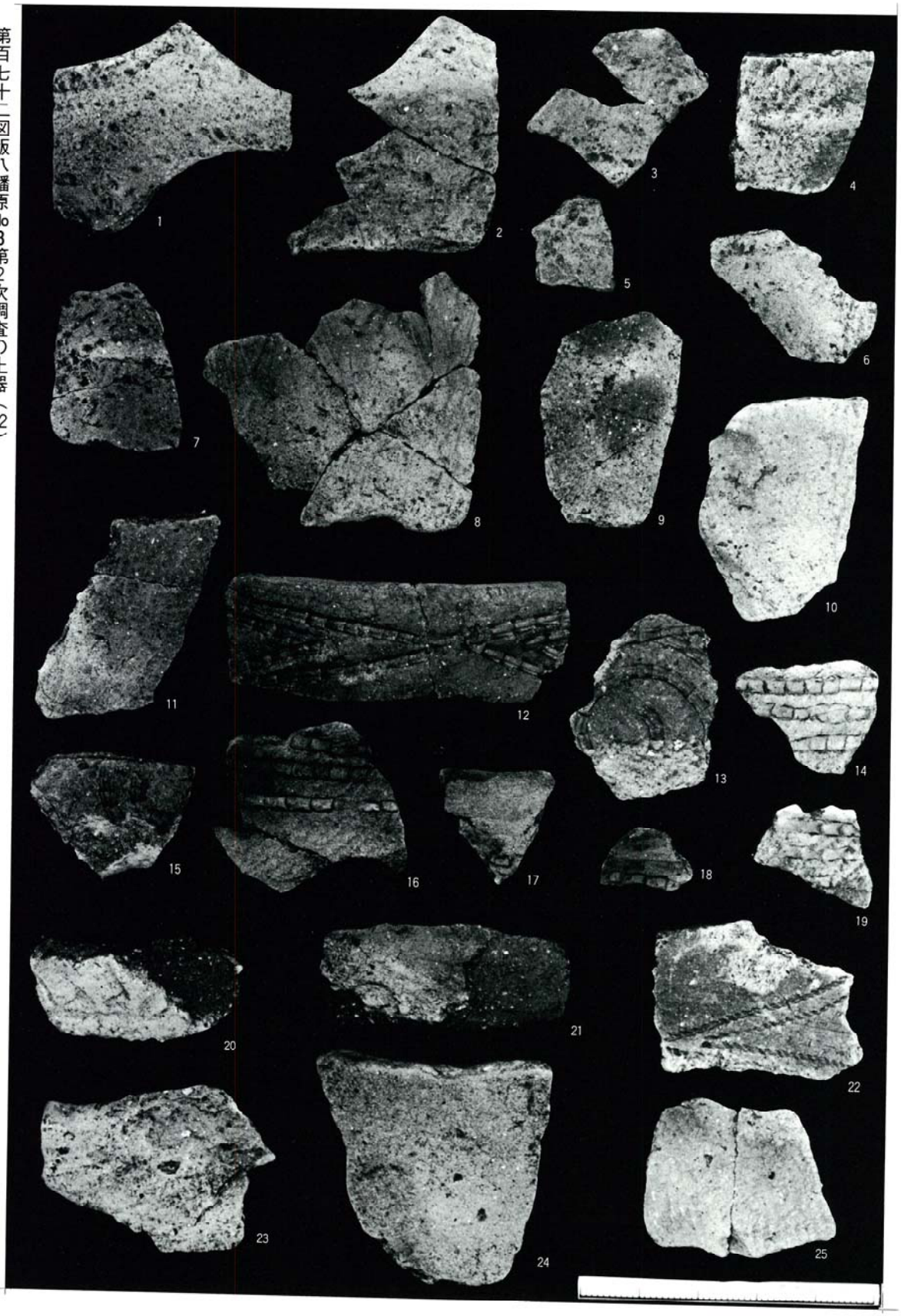
第百六十九図版八幡原No3第2次調査の土器（9）

第百七十図版八幡原No 3第2次調査の土器（10）



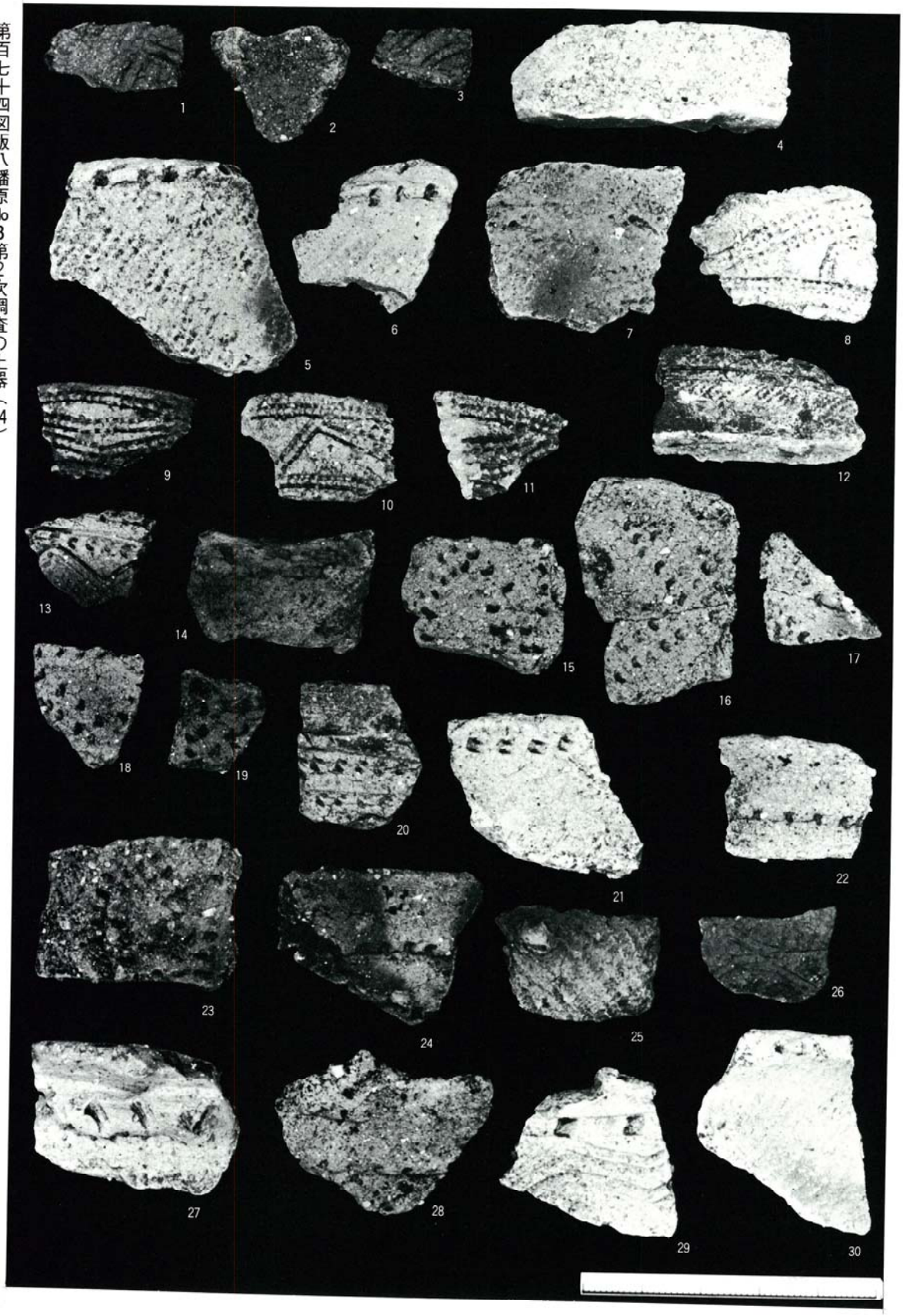
第百七十一図版八幡原No3第2次調査の土器（11）

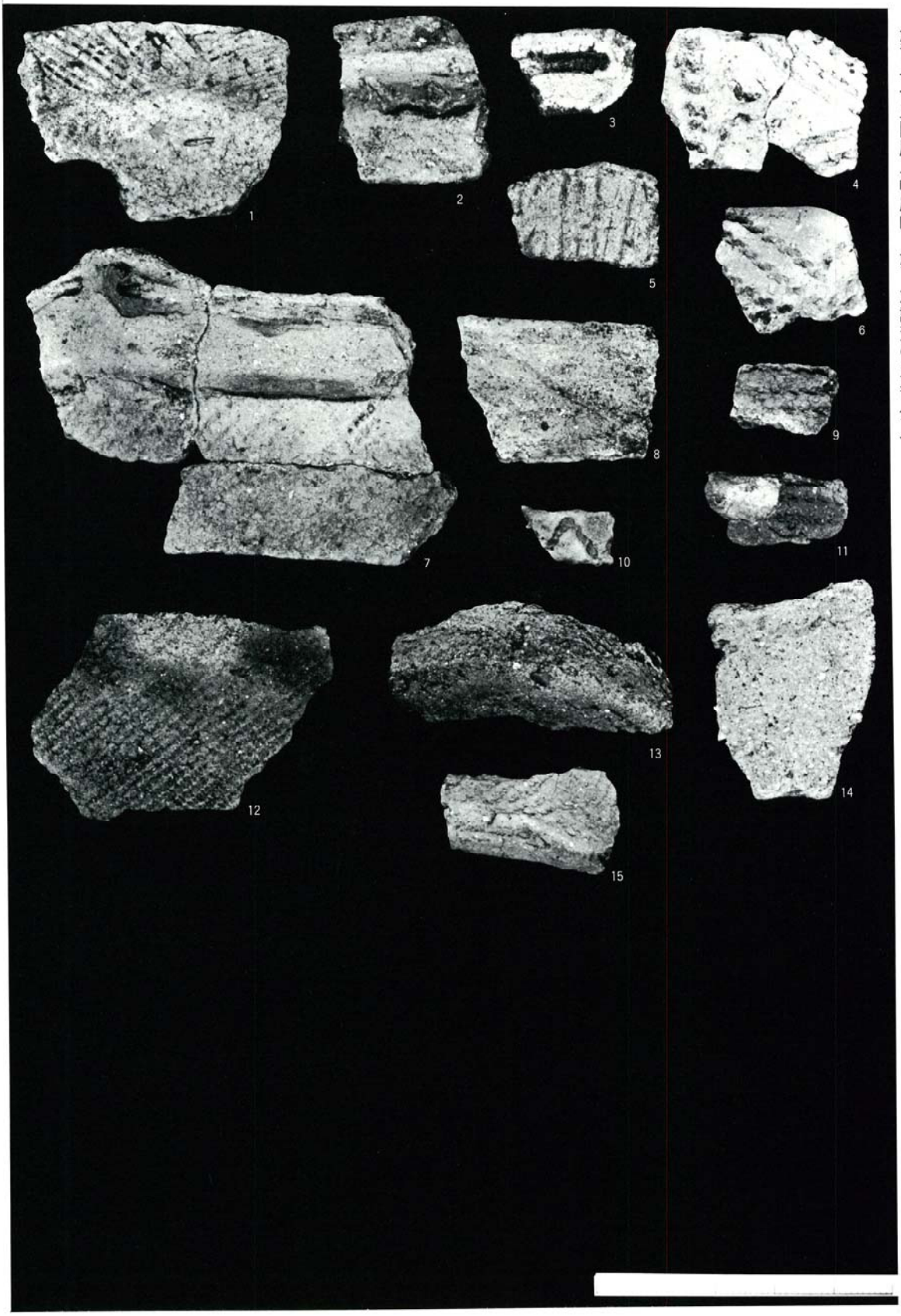
第百七十二図版八幡原No3第2次調査の土器（12）



第百七十三図版八幡原No 3第2次調査の土器（13）

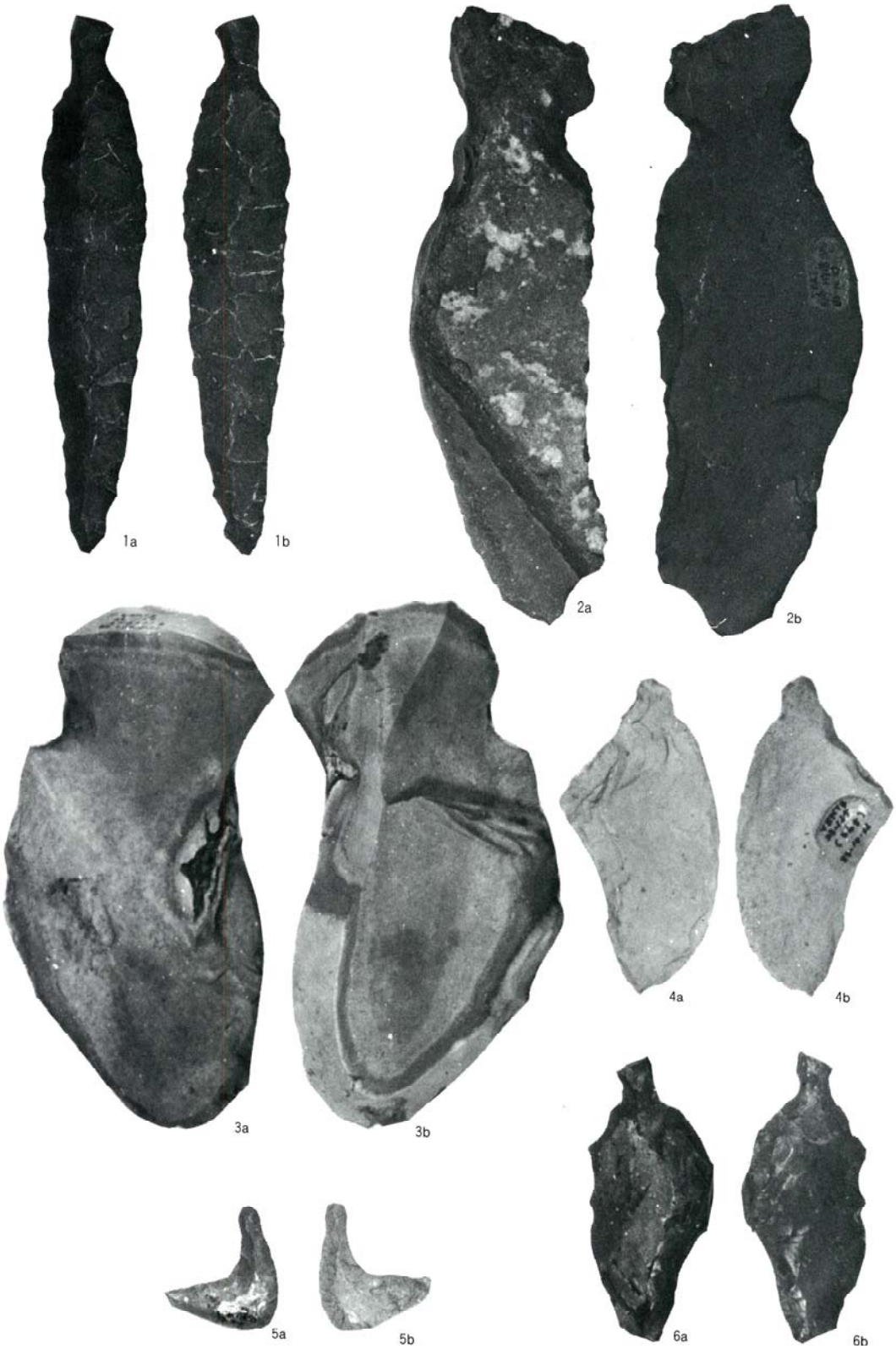
第百七十四図版八幡原No3第2次調査の土器（14）



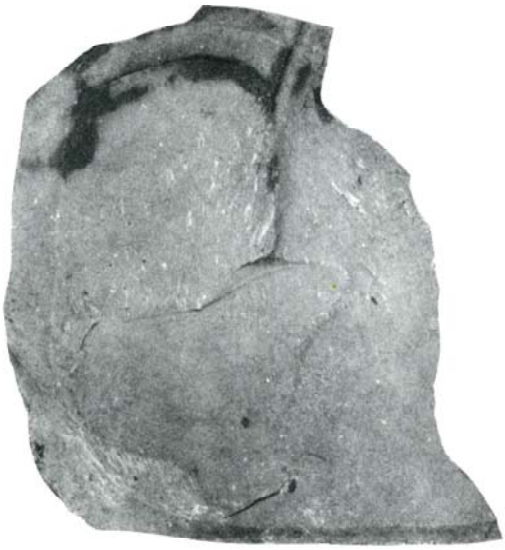


第百七十五図版八幡原No3第2次調査の土器（15）

第百七十六図版八幡原No3第2次調査の石器（1）



第百七十七図版八幡原No3第2次調査の石器（2）



1a

1b

2a

2b

3a

3b

第百七十八図版八幡原No3第2次調査の石器（3）

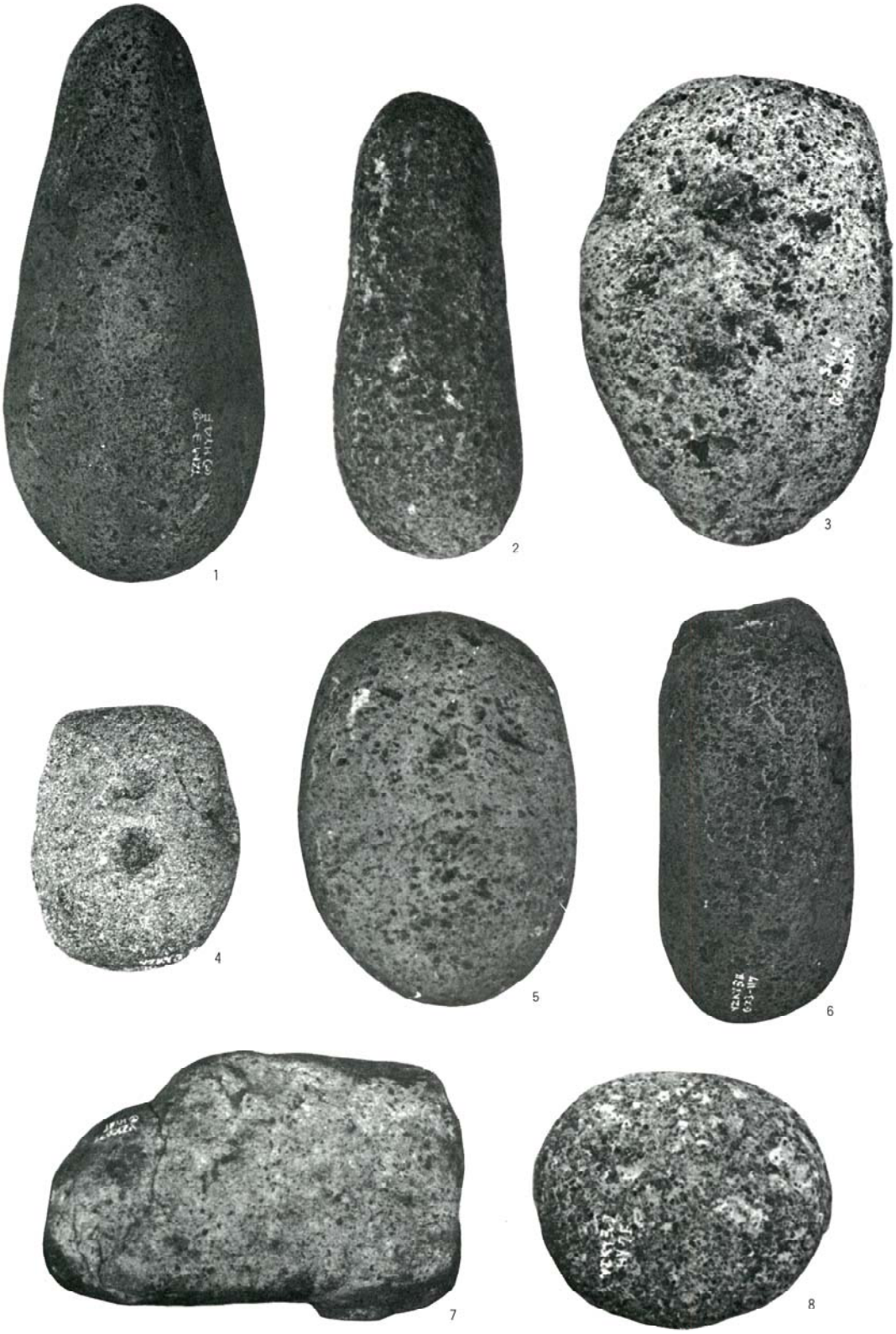
1a

2a

2b

3a

第百七十九図版八幡原No3第2次調査の石器（4）



米沢市万世町桑山団地造成地内

埋蔵文化財調査報告書　第Ⅲ集

大　清　水　遺　跡

昭和61年３月10日　印刷
昭和61年３月31日　発行

発行・編集　米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目１－14

印　　刷　サンユー企画
米沢市春日１丁目３－55
℡(0238)23－9439